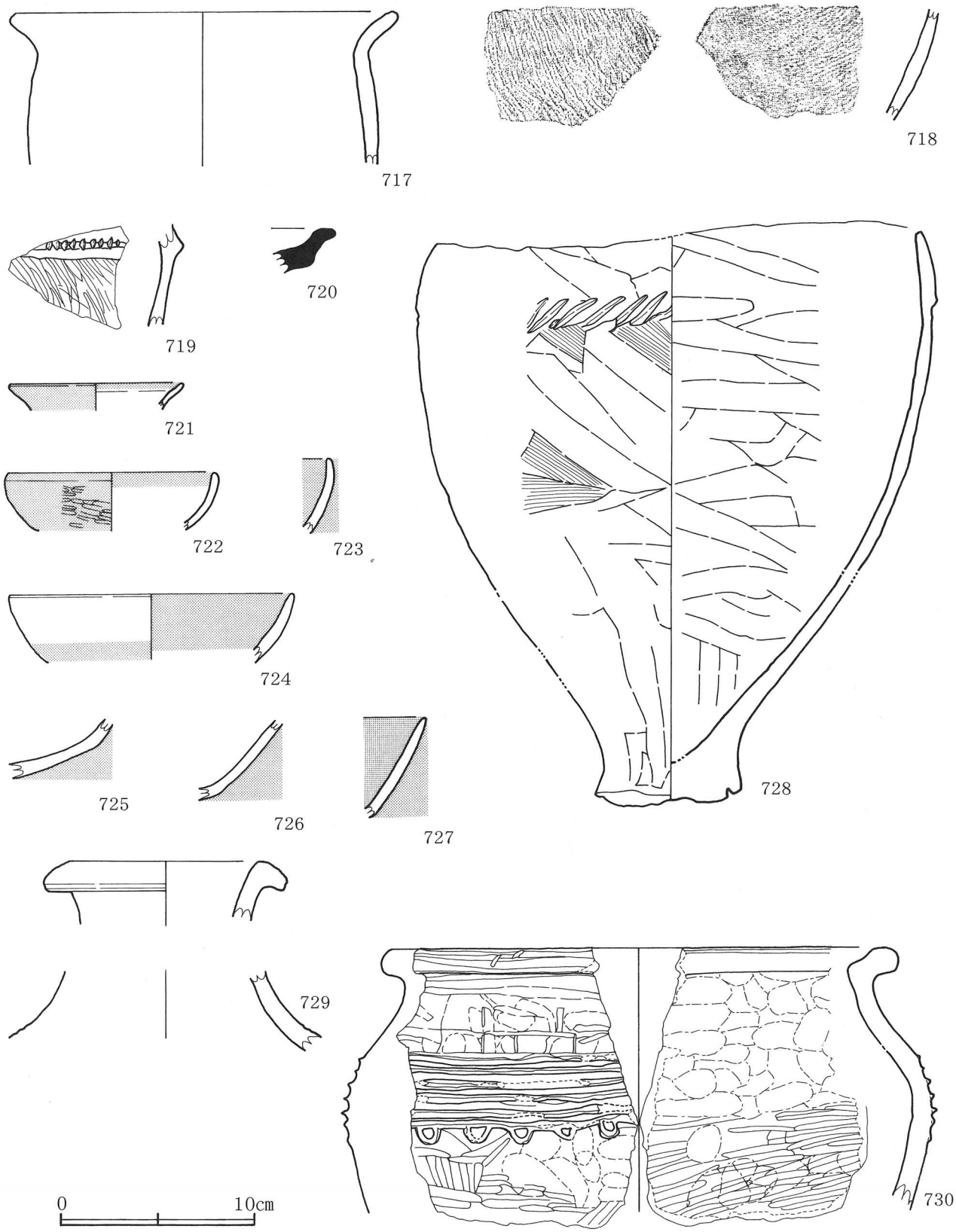
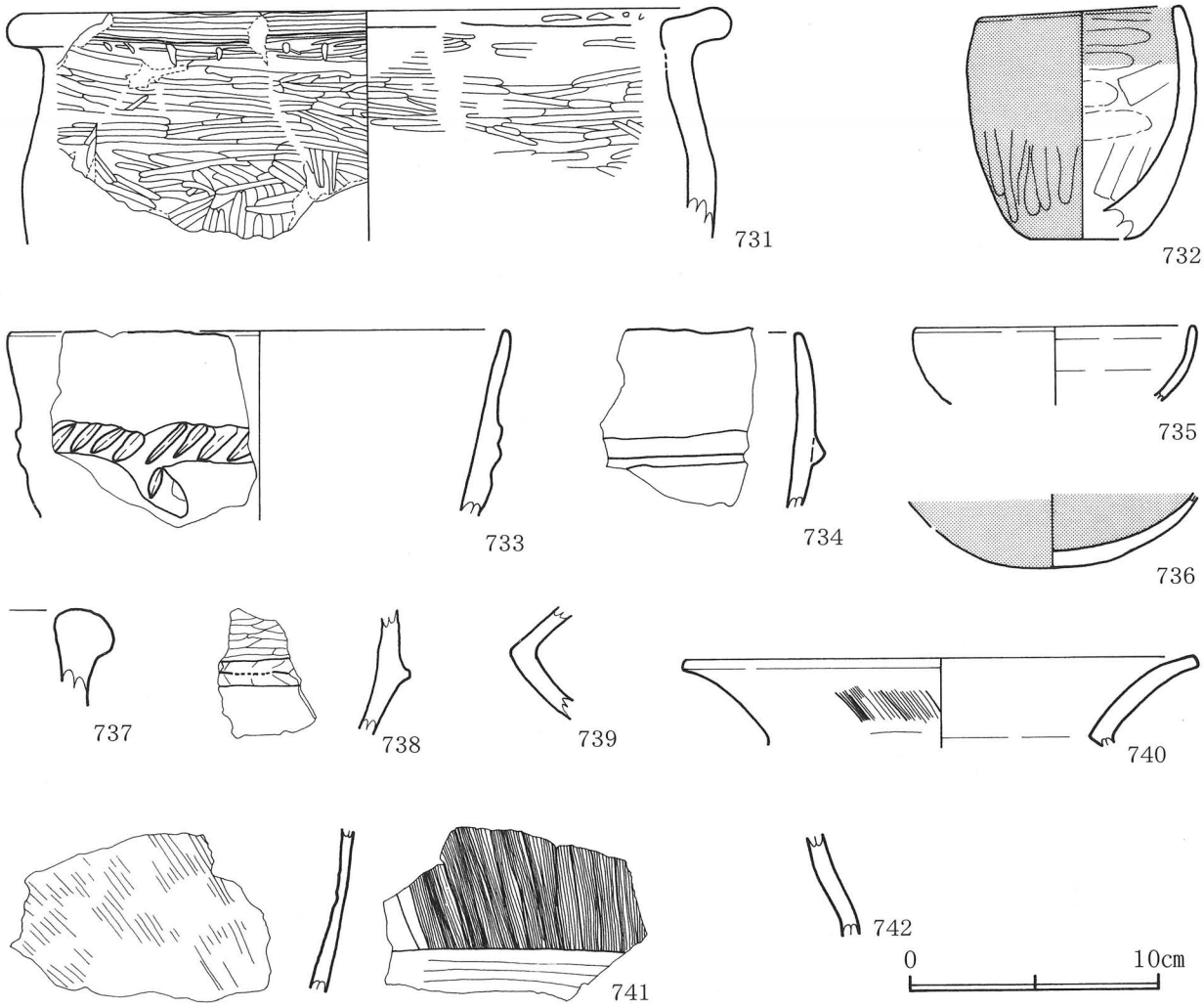
Ⅲ区の西部北側、Ⅱ区との境目にある、梁行２間4.30m、桁行３間6.45mを測る建物である。柱穴の規模は、径21～44cm、深さ25～40cmを測る。主軸方位はN12°Eである。



第88図　ＳＡ－25・26・28・30　出土遺物実測図　717～720:SA-25,721～722・724・726～728:SA-26,723・725:SA-26・ベルト内,729:SA-28,730:SA-30



第89図　ＳＡ－30・31・33　出土遺物実測図

731:SA-30・上層,**732～736**:SA-31,**737～742**:SA-33

ＳＢ－72（第102図）

Ⅲ区の西部北側、Ⅱ区との境目にある、梁行２間3.77～4.03m、桁行３間6.17～6.23mを測る建物である。柱穴の規模は、径26～65cm、深さ21～43cmを測る。主軸方位はＮ12°Ｅである。

ＳＢ－73（第102図）

Ⅲ区の西部中央、Ⅱ区との境目にある、梁行２間4.63～4.66m、桁行３間7.05mを測る建物である。柱穴の規模は、径26～63cm、深さ31～51cmを測る。主軸方位はＮ76°Ｗである。

ＳＢ－74（第102図）

Ⅲ区の西部中央、Ⅱ区との境目にある、梁行１間2.82～3.15m、桁行２間4.35～4.82mを測る建物である。柱穴の規模は、径27～54cm、深さ21～39cmを測る。主軸方位はＮ79°Ｗである。

ＳＢ－75（第103図）

Ⅲ区の西部中央付近、Ⅱ区との境目にある、梁行２間4.46～4.48m、桁行３間6.98～7.07mを測る建物である。柱穴の規模は、径27～41cm、深さ23～59cmを測る。主軸方位はＮ78°Ｗである。

ＳＢ－76（第103図）

Ⅲ区の西部中央付近、Ⅱ区との境目にある、梁行２間4.18～4.25m、桁行２間4.32～4.42mを測る

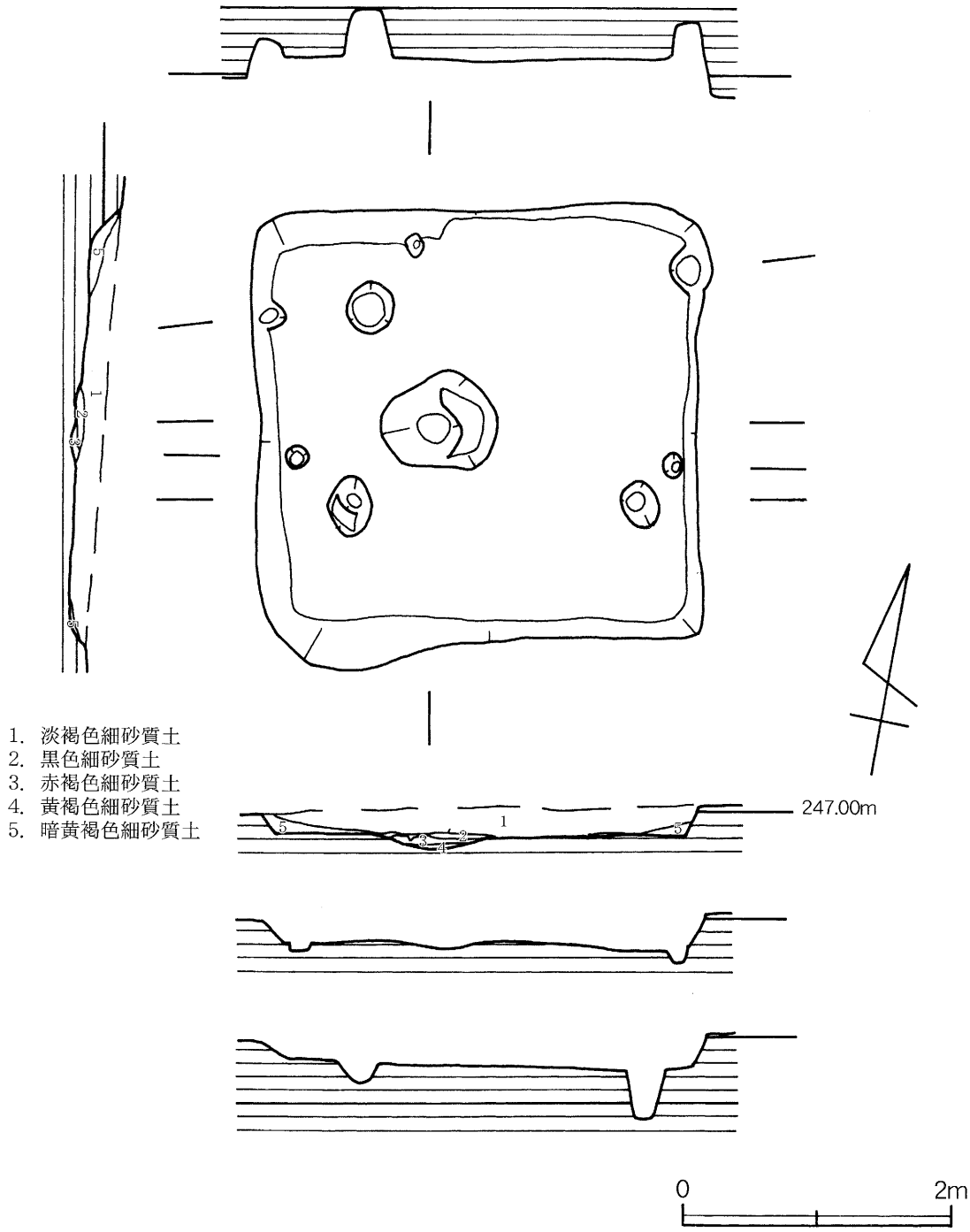
建物である。柱穴の規模は、径27～55cm、深さ28～52cmを測る。主軸方位はN78°Wである。

ＳＢ－77（第103図）

Ⅱ区の中央部にある、梁行２間3.40m、桁行３間6.53mを測る建物である。柱穴の規模は、径23～42cm、深さ10～43cmを測る。主軸方位はＮ１°Ｅである。

ＳＢ－78（第103図）

Ⅱ区の中央部やや東寄りにある、梁行２間4.09～4.44m、桁行３間8.36～8.40mを測る建物である。柱穴の規模は、径28～46cm、深さ25～53cmを測る。主軸方位はN71°Wである。

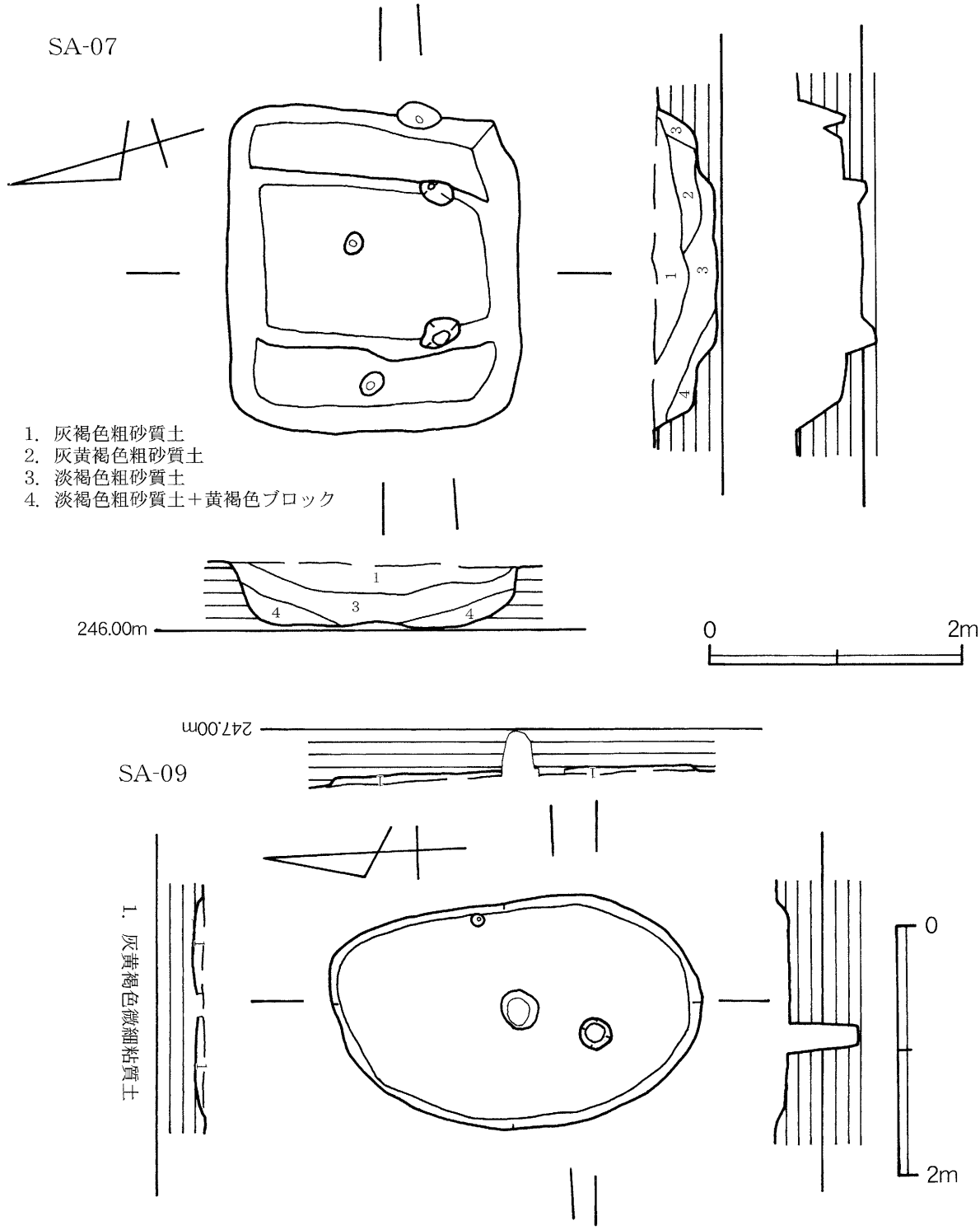


第90図　ＳＡ－06　遺構実測図

ＳＢ－79（第103図）

Ⅲ区の西部南端にある、梁行１間2.10m、桁行２間3.23mを測る建物である。柱穴の規模は、径11～15cm、深さ17～43cmを測る。主軸方位はＮ65°Ｗである。

ＳＢ－80（第103図）



第91図　ＳＡ－07・09　遺構実測図

Ⅲ区の西部南端にある、梁行１間2.80～3.04m、桁行２間3.50～3.65mを測る建物である。柱穴の規模は、径28～47cm、深さ25～45cmを測る。主軸方位はN73° Wである。

ＳＢ－81（第104図）

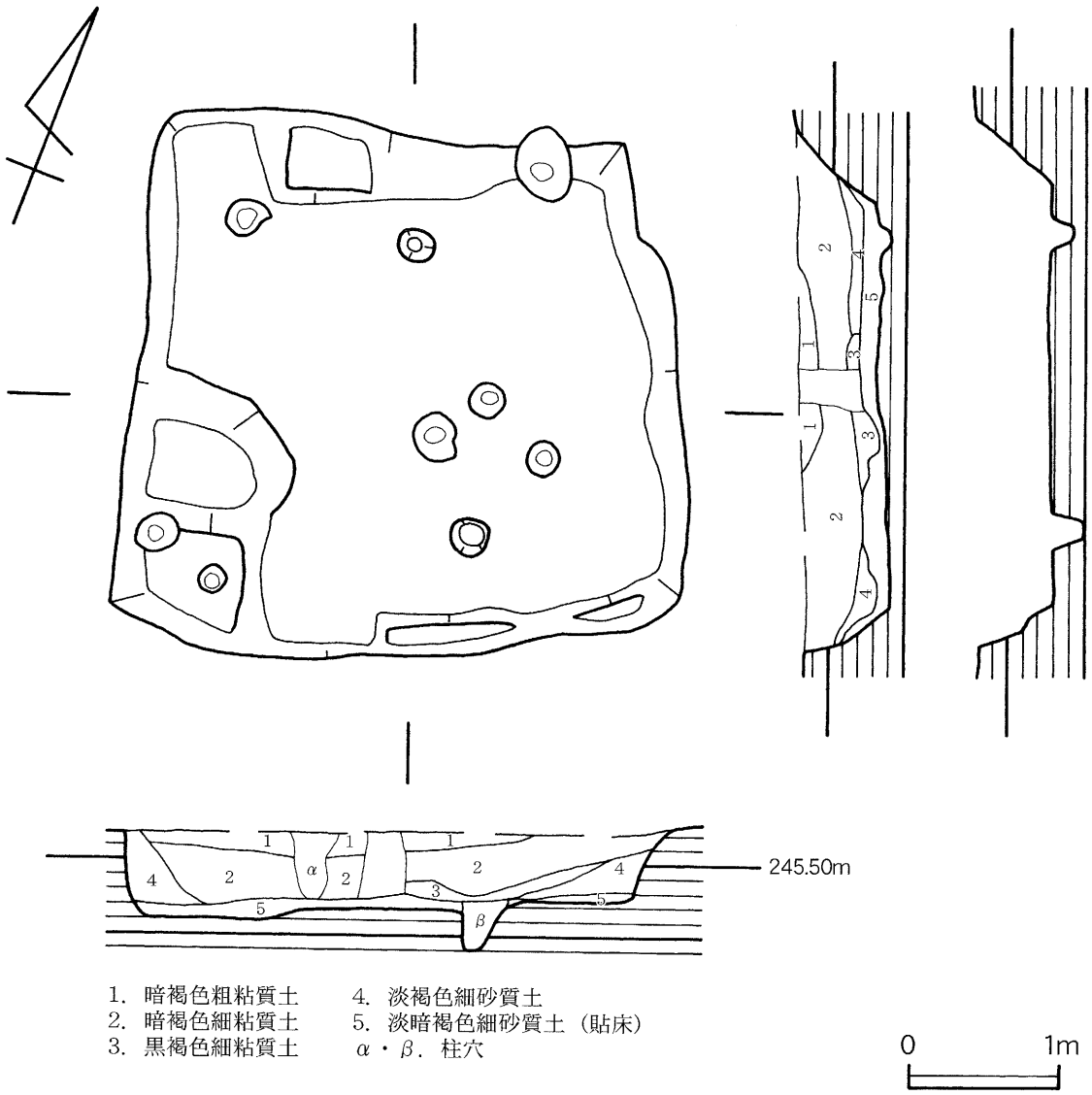
Ⅱ区の中央やや西寄りにある、梁行２間4.12m、桁行３間6.82mを測る建物である。柱穴の規模は、径27～55cm、深さ11～33cmを測る。主軸方位はN32° Eである。

ＳＢ－82（第104図）

Ⅱ区の中央部南側にある、梁行２間3.40～3.46m、桁行３間4.68～4.88mを測る建物である。柱穴の規模は、径25～53cm、深さ15～52cmを測る。主軸方位はN18° Eである。

ＳＢ－83（第104図）

Ⅱ区の中央やや東寄りにある、梁行２間3.95～4.09m、桁行３間7.52～7.62mを測る建物である。柱穴の規模は、径29～52cm、深さ18～42cmを測る。主軸方位はN85° Wである。



第92図　ＳＡ－14　遺構実測図

ＳＢ－84（第104図）

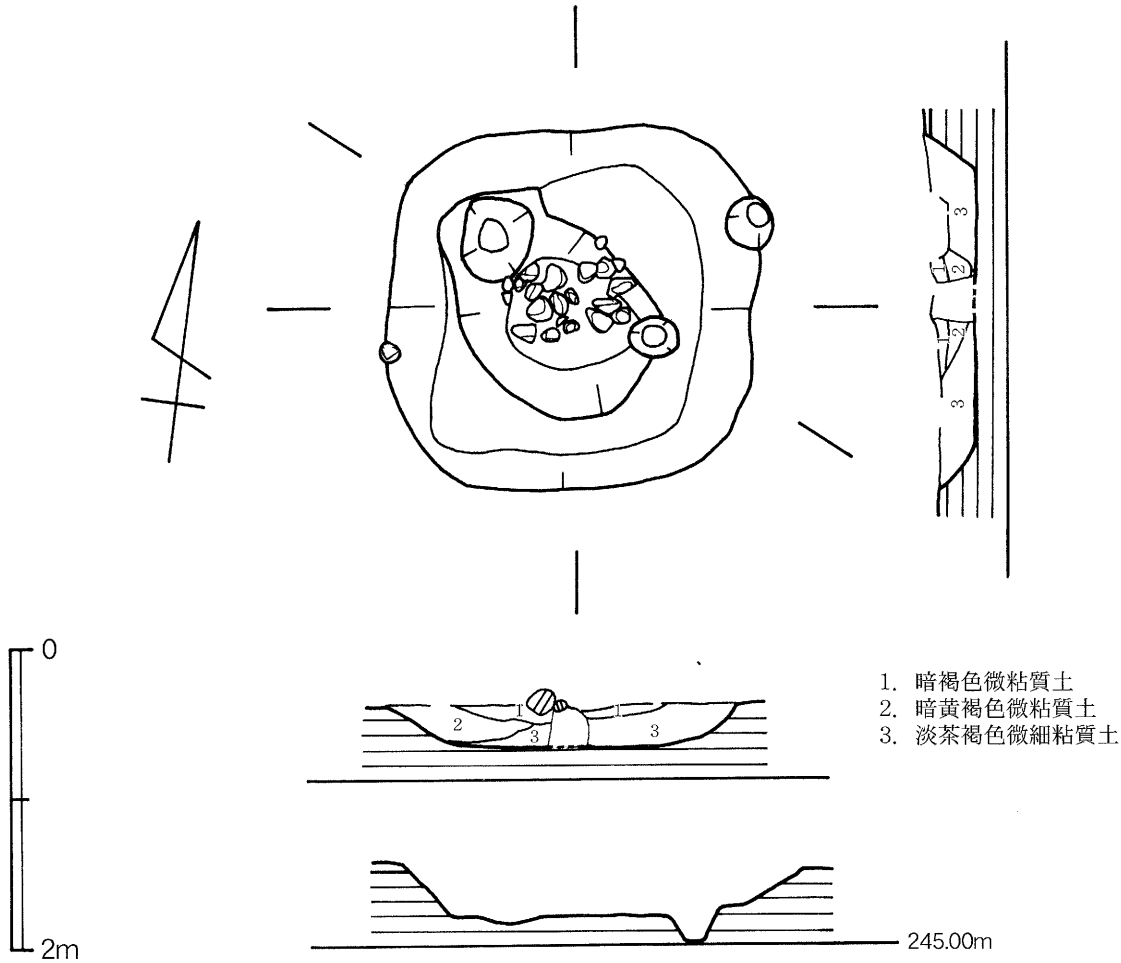
Ⅱ区の中央部南側やや東寄りにある、梁行２間5.74～6.25m、桁行３間9.28～9.86mを測る建物である。柱穴の規模は、径27～43cm、深さ16～43cmを測る。主軸方位はN83°Wである。

ＳＢ－85（第105図）

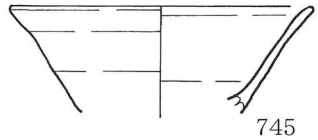
Ⅱ区の中央部東端にある建物で、東端が東壁に入っているため、詳細は不明であるが、現存で梁行２間4.30m、桁行３間7.92mを測る、北面に廂を持つ建物である。柱穴の規模は、径29～39cm、深さ29～59cmを測る。主軸方位はN78°Wである。この建物の廂部分の西から２番目の柱穴の底に近い部分から墨書土器の椀（682）で、体部外面に3文字あり、左の2文字は、「鷹」と正位で書かれており、右端のものは、はっきりとしないが、おそらく「鷹」と書かれたものと思われる。土器自体はそれほど割れておらず、廂の重みや土圧を受けていなかったことを物語っており、建物廃棄後に埋められたと思われる。時期は９世紀後半である。

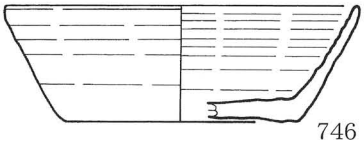
ＳＢ－86（第105図）

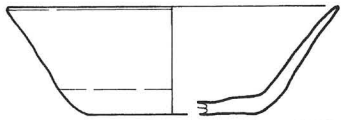
Ⅱ区の南部やや西寄りにある、梁行２間3.08～3.24m、桁行３間5.45～5.62mを測る建物である。柱穴の規模は、径21～39cm、深さ28～58cmを測る。主軸方位はN58°Wである。

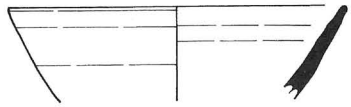


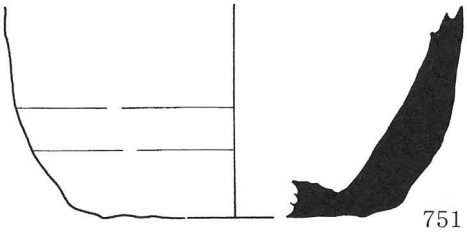
第93図　ＳＡ－29　遺構実測図

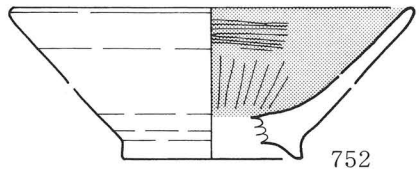


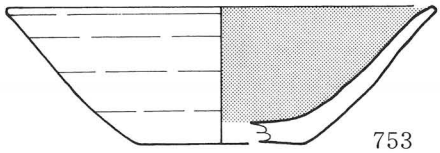


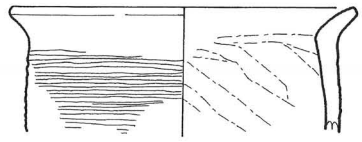


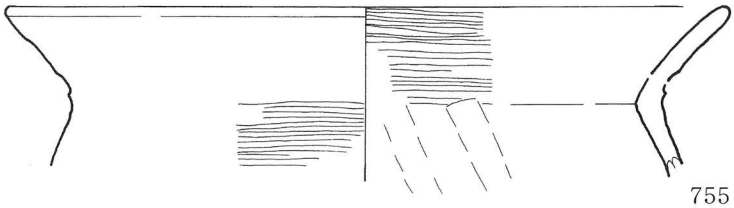


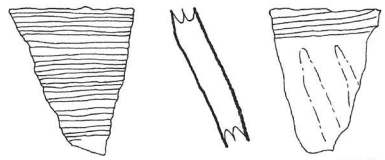


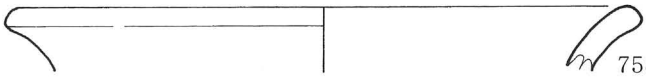






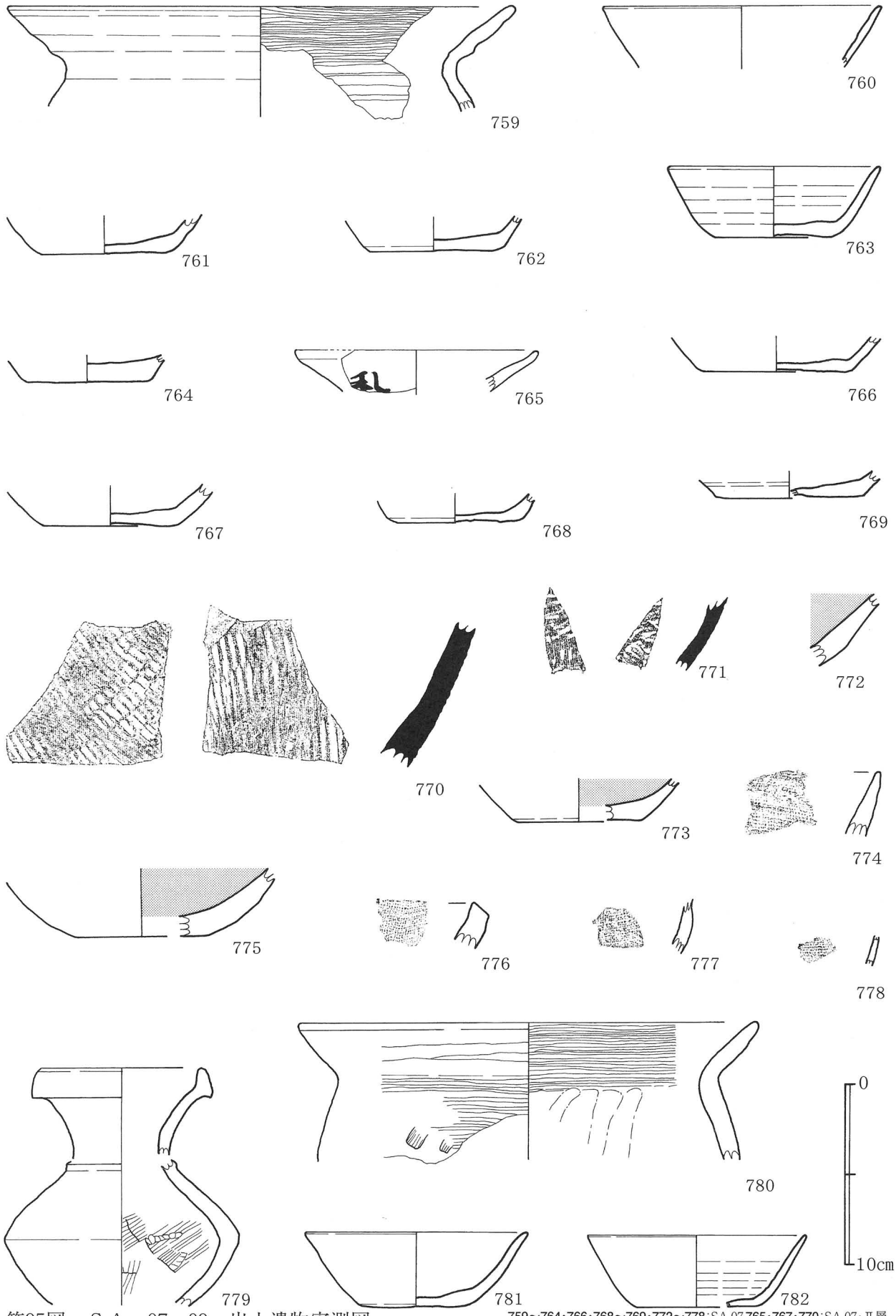






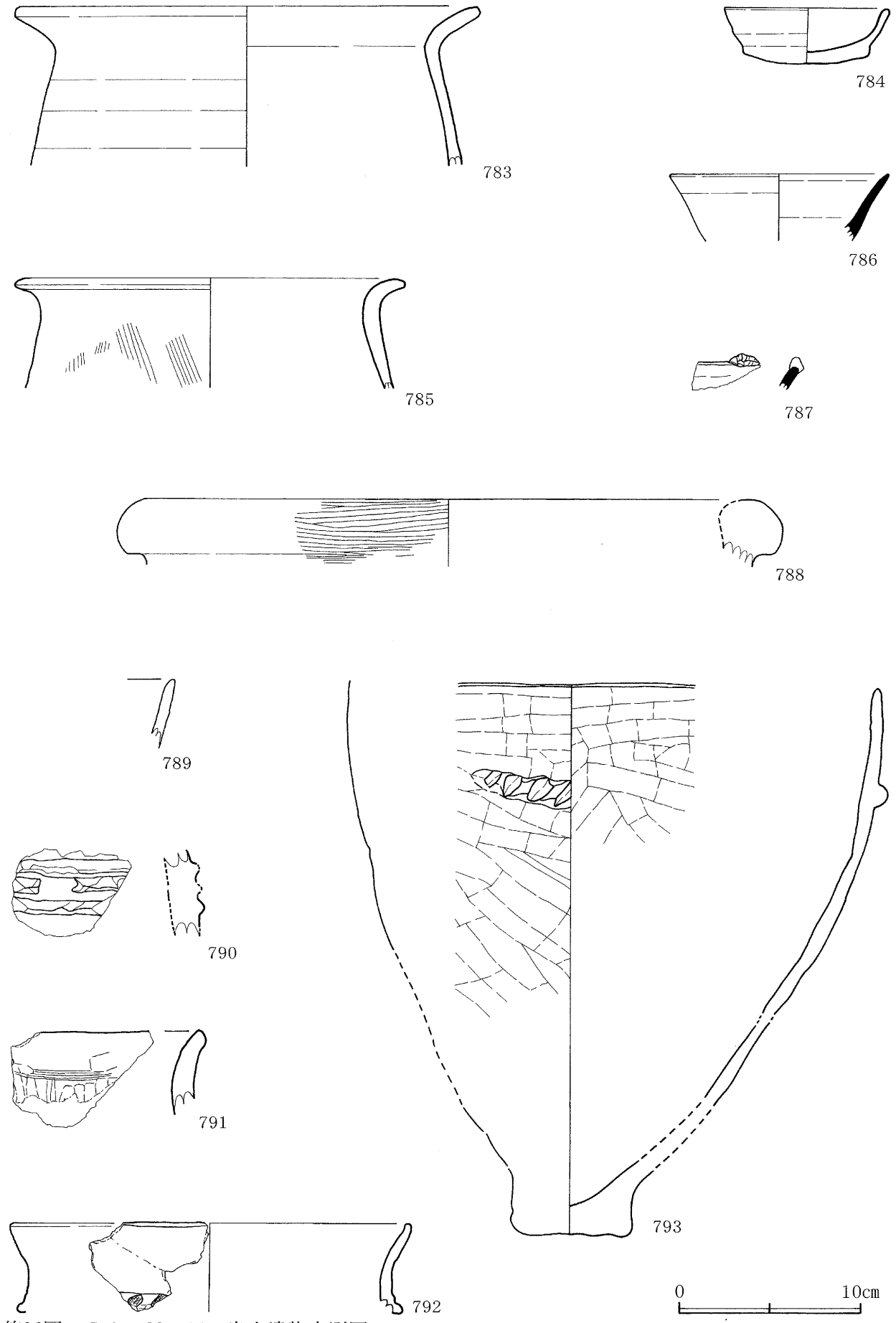
第94図　ＳＡ－06・07　出土遺物実測図

743～753:SA-06,754～755:SA-07・Ⅲ層,756～758:SA-07



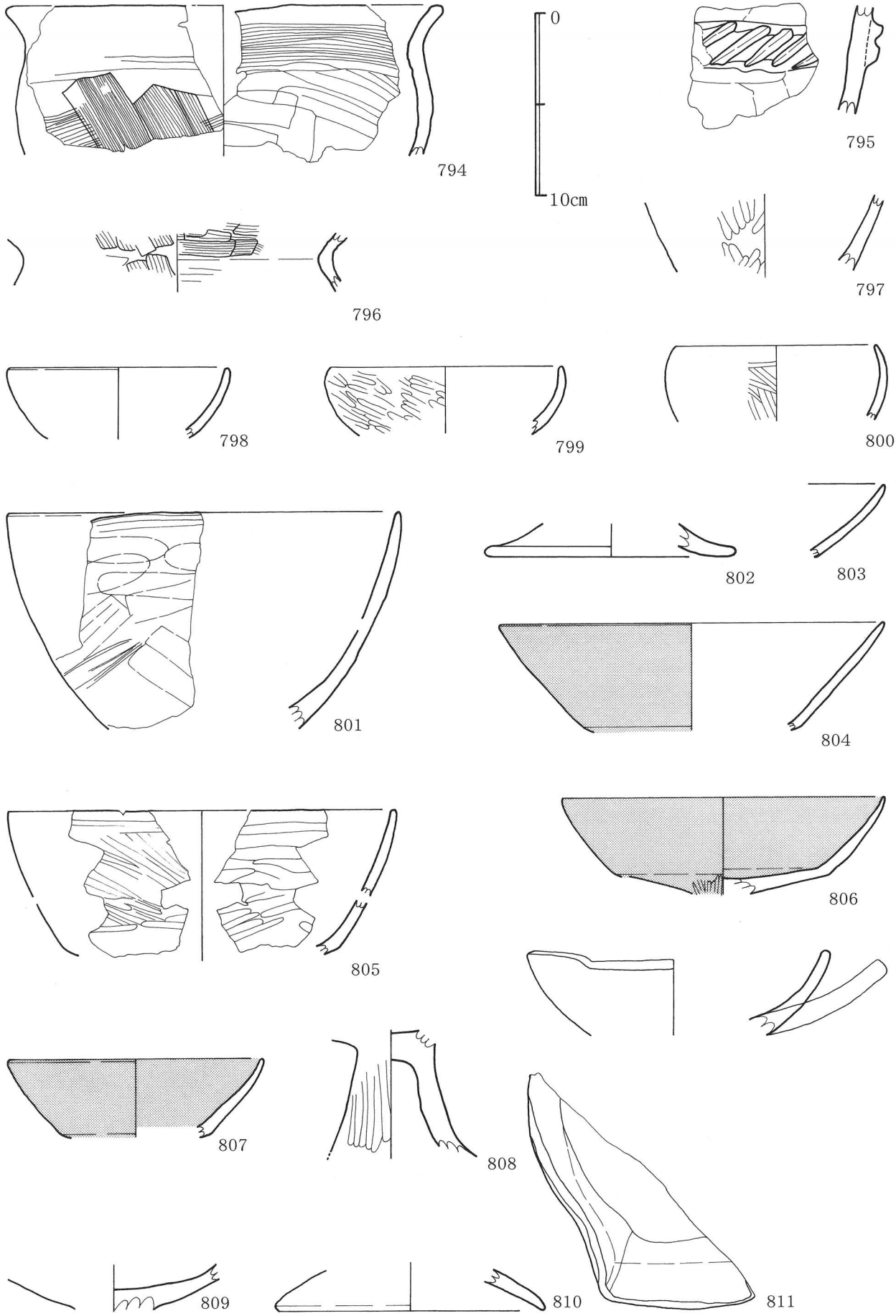
第95図　ＳＡ－07・09　出土遺物実測図

759～764・766・768～769・772～778：SA-07,765・767・770：SA-07・Ⅱ層,
771：SA-07・Ⅰ層,779～782：SA-09

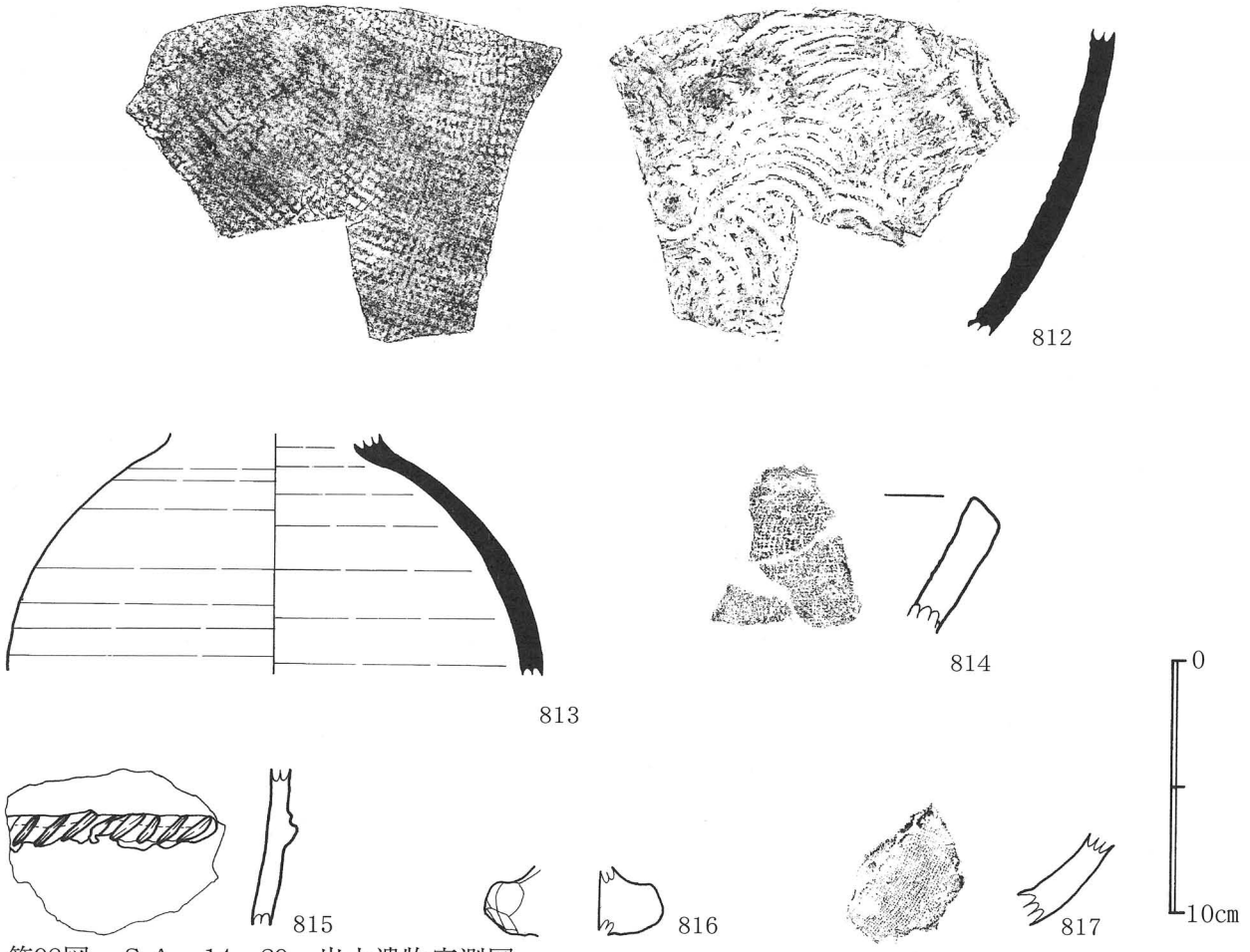


第96図　ＳＡ－09・14　出土遺物実測図

783～787:SA-09,788～793:SA-14



第97図　ＳＡ－14　出土遺物実測図



第98図　ＳＡ－14・29　出土遺物実測図

812～814:SA-14,815～817:SA-29

ＳＢ－87（第105図）

Ⅱ区の南部北側西端にある、梁行２間3.98m、桁行３間6.62～6.70mを測る建物である。柱穴の規模は、径28～35cm、深さ26～35cmを測る。主軸方位はN12°Ｅである。

ＳＢ－88（第105図）

Ⅱ区の南部西端にある、梁行２間2.90～3.10m、桁行２間4.29～4.57mを測る建物である。柱穴の規模は、径32～42cm、深さ26～32cmを測る。主軸方位はN76°Ｗである。

ＳＢ－89（第105図）

Ⅱ区の南部西端にある、梁行２間4.50～4.82m、桁行２間5.92～6.25mを測る建物である。柱穴の規模は、径19～56cm、深さ13～38cmを測る。主軸方位はN74°Ｗである。

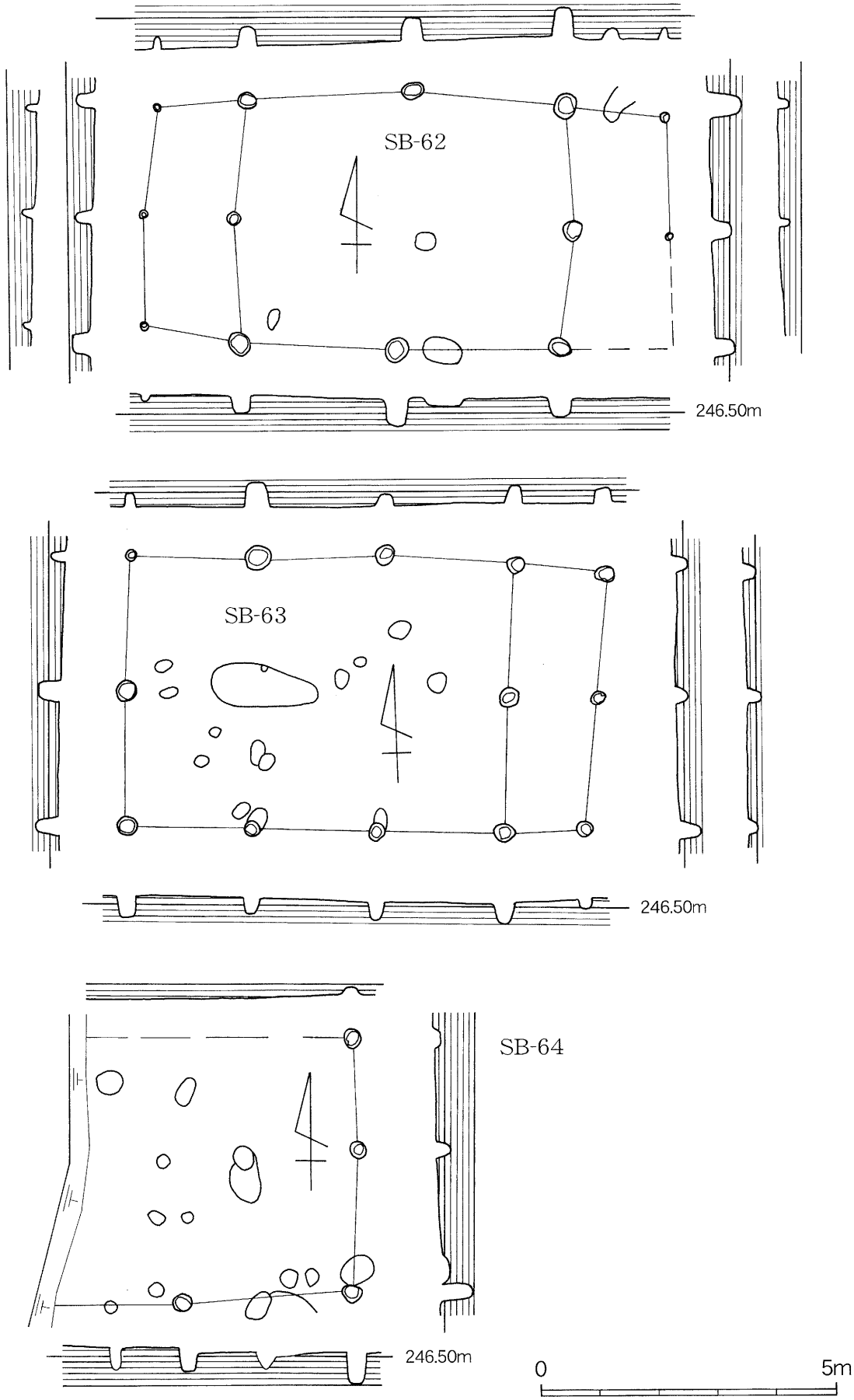
ＳＢ－90（第106図）

Ⅱ区の南部西端にある、梁行２間4.33～4.50m、桁行３間6.20～6.22mを測る建物である。柱穴の規模は、径26～42cm、深さ23～43cmを測る。主軸方位はN73°Ｗである。

ＳＢ－91（第106図）

Ⅱ区の南部中央にある、梁行２間4.10～4.27m、桁行３間6.55～6.64mを測る建物である。柱穴の規模は、径29～54cm、深さ19～45cmを測る。主軸方位はN84°Ｗである。

ＳＢ－92（第106図）

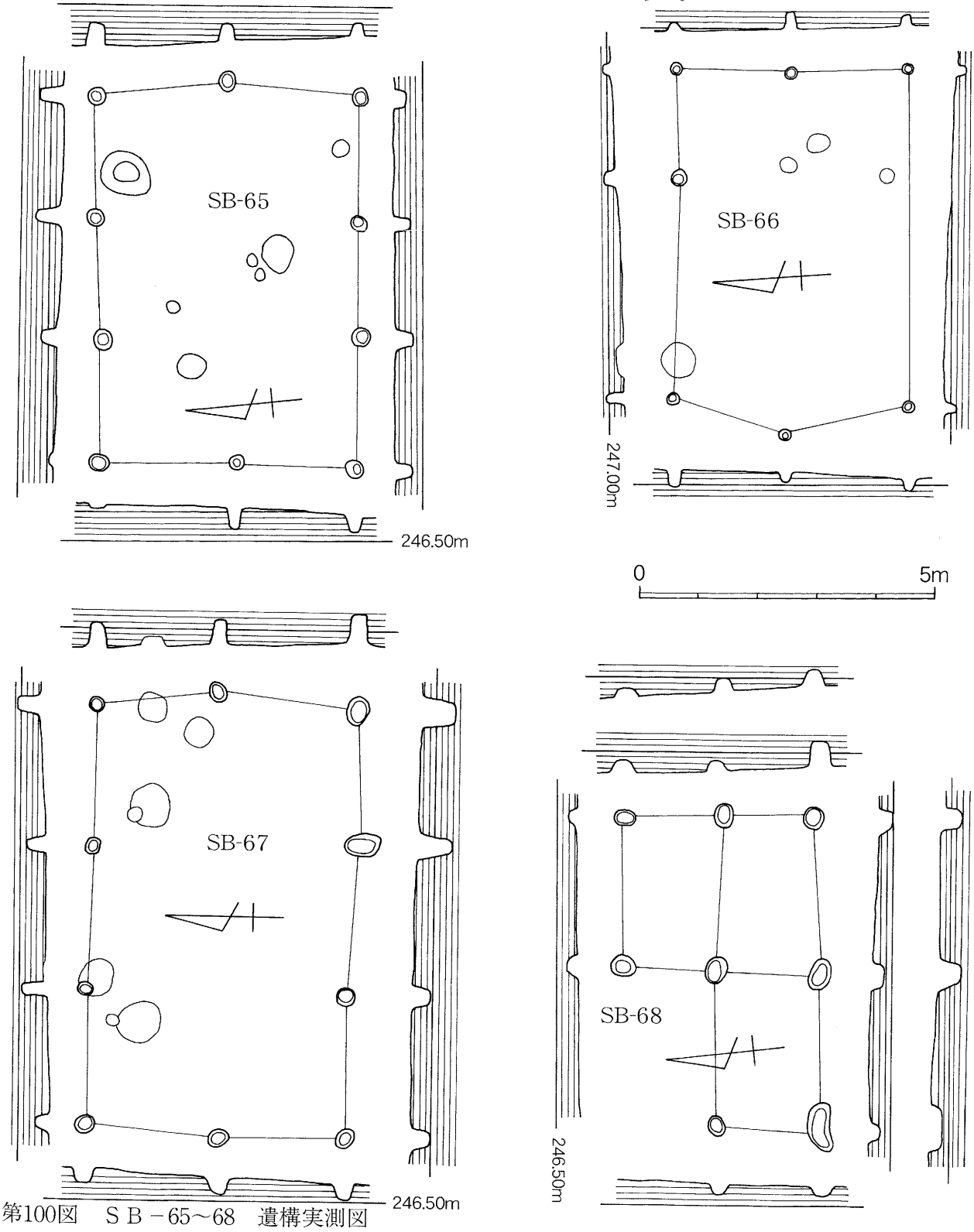


第99図　ＳＢ－62～64　遺構実測図

Ⅱ区の南部中央にある、梁行２間4.17～4.24m、桁行３間7.22～7.29mを測る建物である。柱穴の規模は、径32～70cm、深さ26～58cmを測る。主軸方位はN15°Eである。

ＳＢ－93（第106図）

Ⅱ区の南部中央にある、梁行２間4.27～4.29m、桁行３間9.48mを測る建物である。柱穴の規模は、径32～47cm、深さ33～58cmを測る。主軸方位はN77°Wである。



第100図　ＳＢ－65～68　遺構実測図

ＳＢ－94（第107図）

Ⅱ区の南部中央やや東よりにある、梁行２間4.00m、桁行３間9.22mを測る建物である。柱穴の規模は、径28～51cm、深さ21～70cmを測る。主軸方位はN80°Wである。

ＳＢ－95（第107図）

Ⅱ区の南部中央やや東よりにある、梁行２間3.84～3.90m、桁行３間7.54～7.56mを測る建物である。柱穴の規模は、径35～63cm、深さ27～46cmを測る。主軸方位はN76°Wである。

ＳＢ－96（第107図）

Ⅱ区の南部東端にある、現存で、梁行１間2.04m、桁行３間6.10mを測る建物である。柱穴の規模は、径41～72cm、深さ15～39cmを測る。主軸方位はN71°Wである。

ＳＢ－97（第107図）

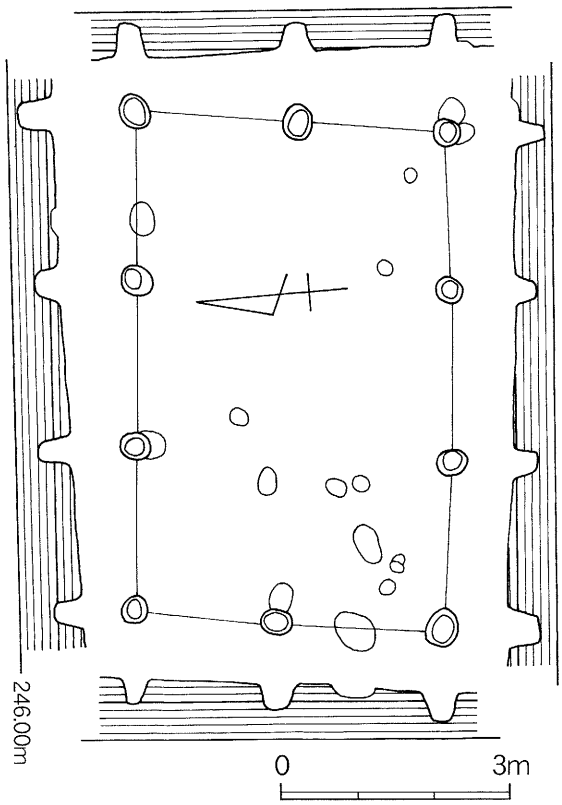
Ⅱ区の南部南壁際にある建物で、南側が南壁に入っているため、詳細は不明であるが、現存で、梁行１間1.96m、桁行３間7.66mを測る。柱穴の規模は、径32～48cm、深さ27～53cmを測る。主軸方位はN78°Wである。

ＳＢ－98（第108図）

Ⅱ区の南部東端にある、梁行２間4.16～4.30m、桁行３間8.20～8.50mを測る建物である。柱穴の規模は、径34～81cm、深さ25～69cmを測る。主軸方位はN75°Wである。

ＳＢ－153（第108図）

Ⅱ区の中央部西側にある、梁行２間6.80m、桁行３間10.78mを測る建物である。柱穴の規模は、径30～51cm、深さ13～47cmを測る。主軸方位はN70°Wである。



第101図　ＳＢ－69　遺構実測図

ＳＢ－154（第108図）

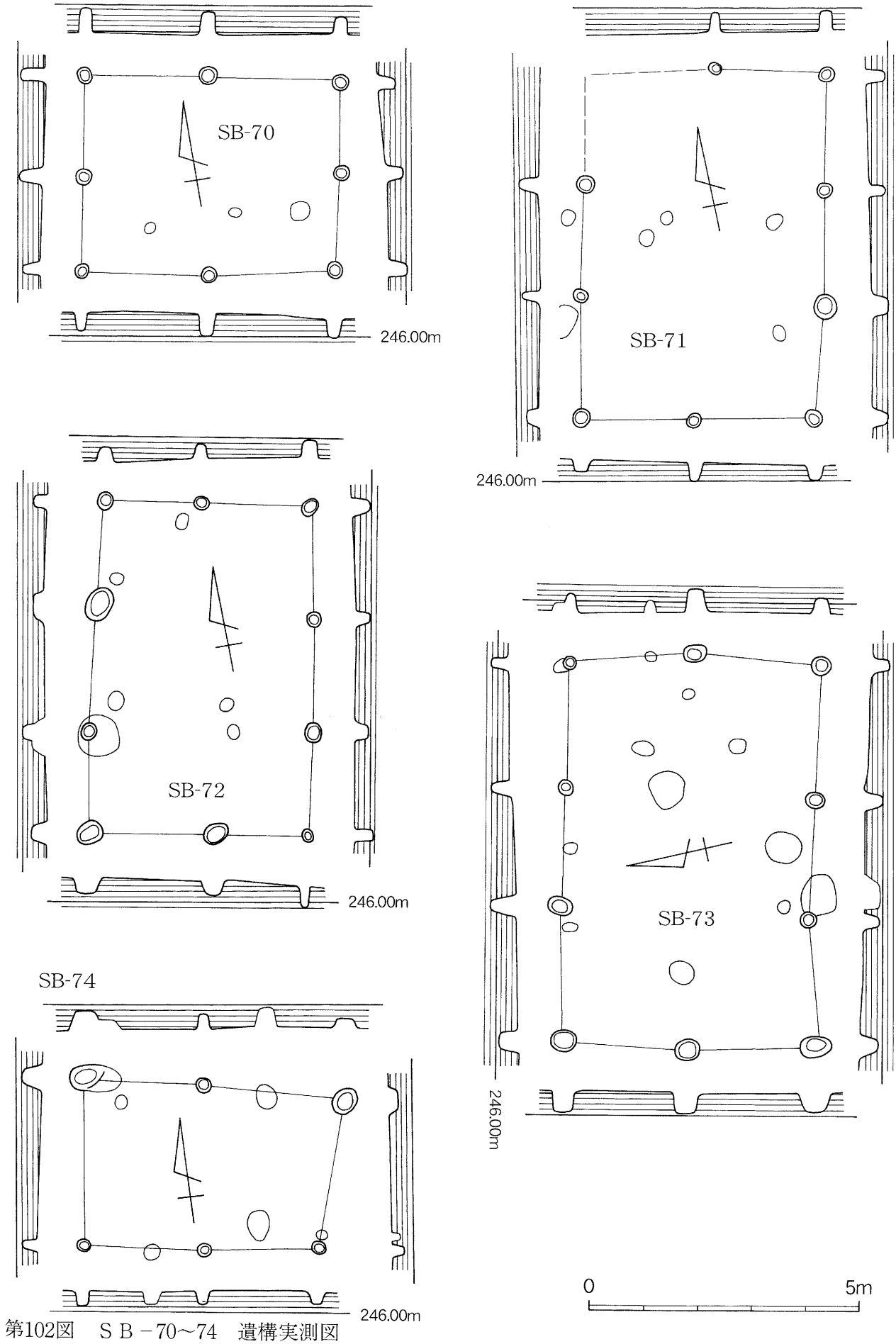
Ⅱ区の中央部西側にある、梁行１間3.00m、桁行３間8.34mを測る建物で、柱穴の規模は、径28～54cm、深さ26～52cmを測る。主軸方位はN65°Wである。

ＳＢ－155（第108図）

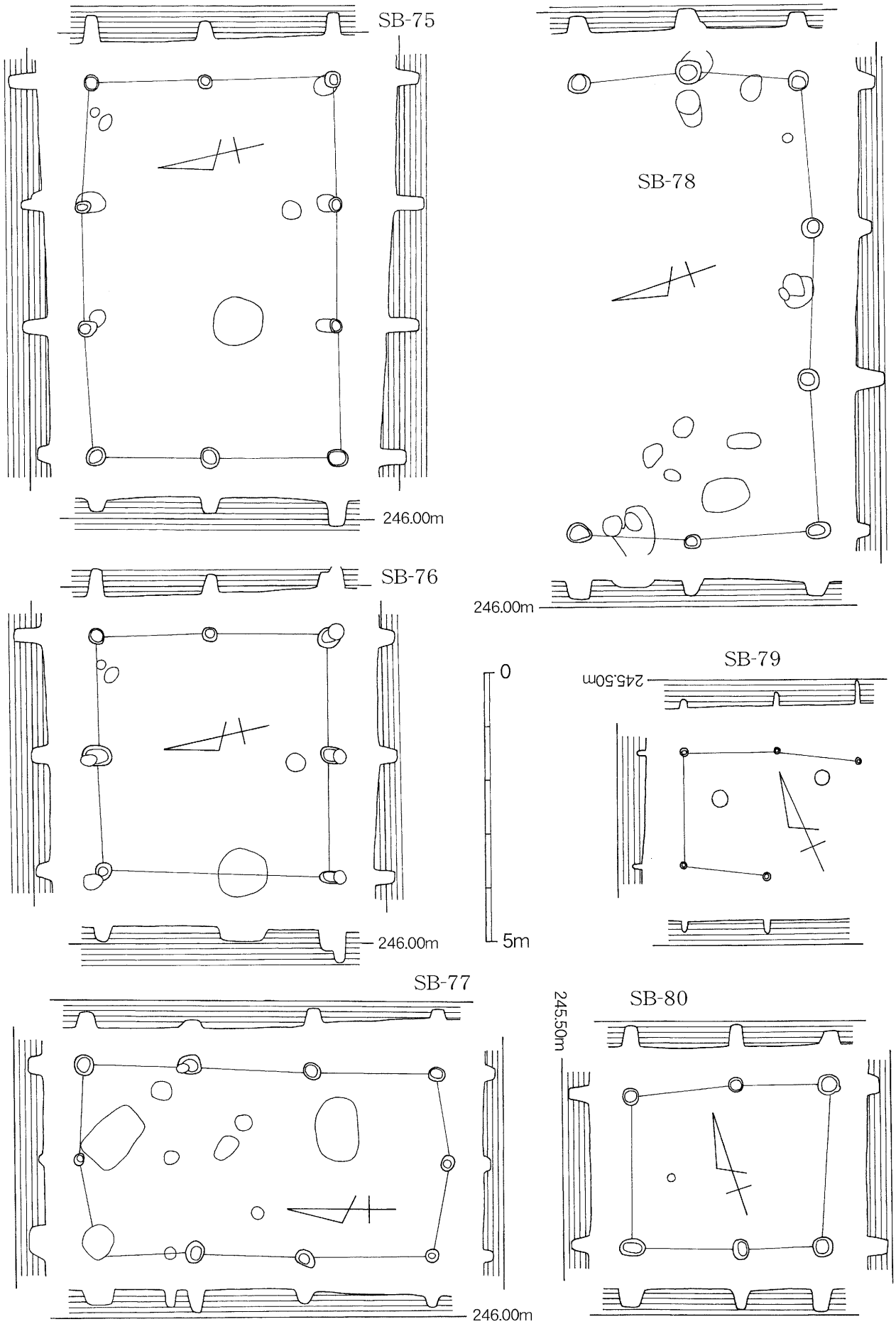
Ⅱ区の中央部西側にある、現存で、梁行２間6.56mの建物の可能性がある。柱穴の規模は、径32～39cm、深さ18～32cmを測る。主軸方位はN80°Wである。

ＳＫ－39

調査区の西部中央西壁際で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.34m、短径



第102図　ＳＢ－70～74　遺構実測図



第103図　ＳＢ－75～80　遺構実測図

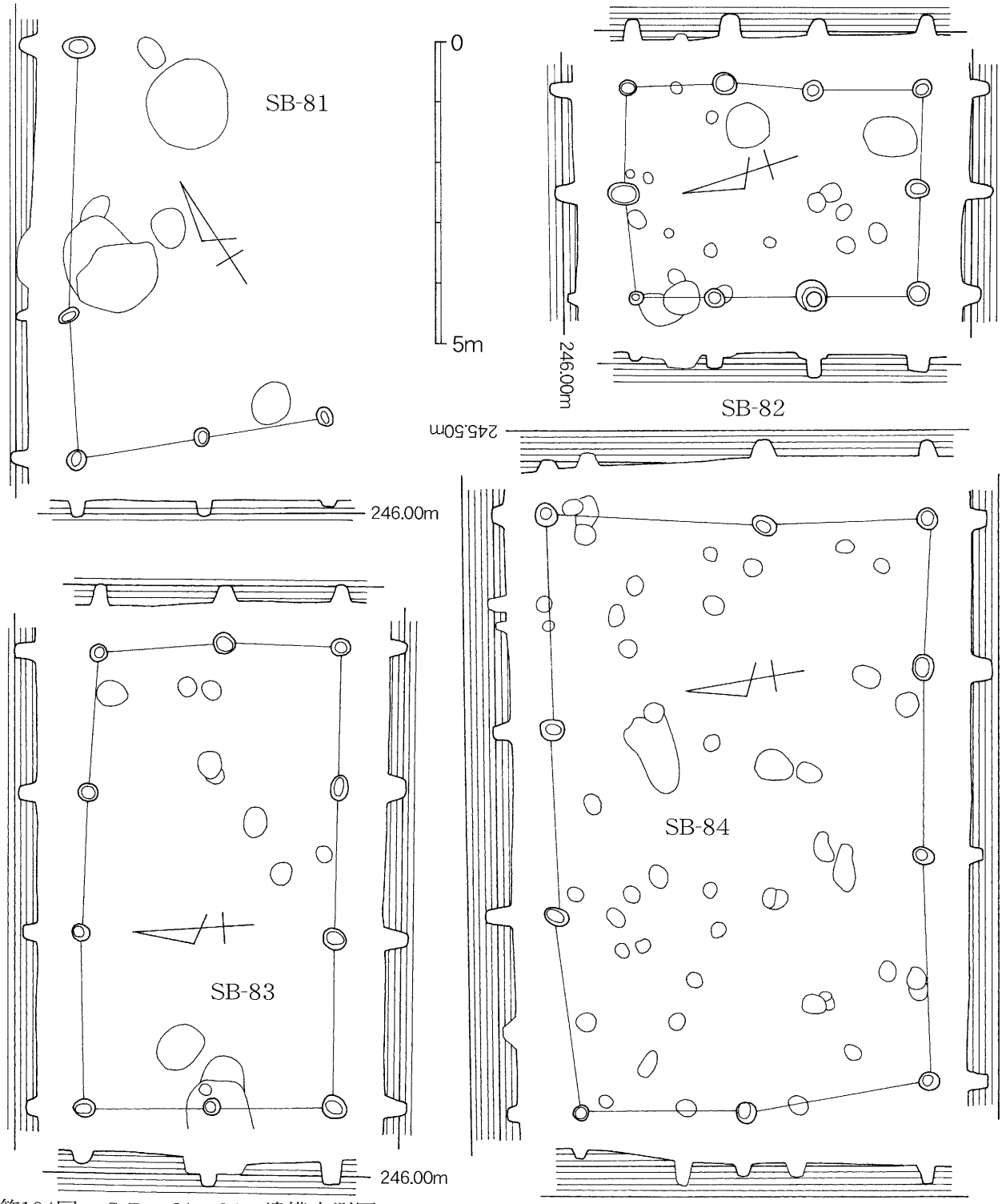
0.73m、検出面から床面までの深さ23cmを測る。遺物は土師器片、黒色土器片が出土した。

ＳＫ－50

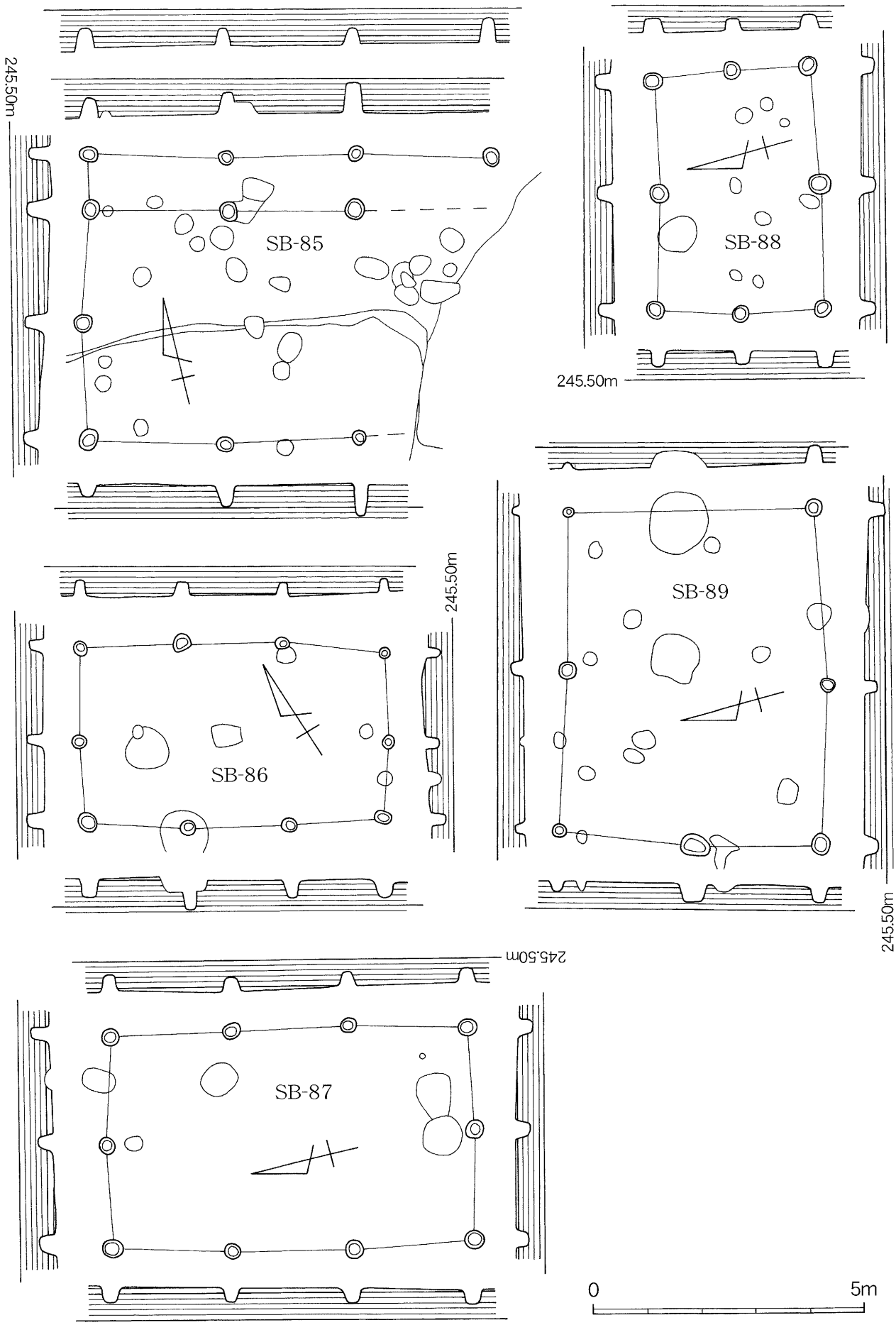
調査区の西部中央、ＳＫ－39の東４ｍで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.74m、短径0.65m、検出面から床面までの深さは17cmを測る。遺物は磨製石鏃が出土した。

ＳＫ－151（第109図）

Ⅱ区の西部やや北側で検出された、0.76×1.81mの方形で東側が細くなっていく形をした土壙墓



第104図　ＳＢ－81～84　遺構実測図



第105図　ＳＢ－85～89　遺構実測図

であり、検出面から床面までの深さは、20cmを測る。土壙内からは、中央から西へ40cm、南へ10cmのところで、皿の底部と鏡の鏡面を合わせて、立てた状態で出土した。床面からは10cmほど浮いた状態である。鏡の下方には木片が少量出土しており、鏡は木箱に入った状態で副葬されたと思われる。鏡は青銅製の唐草双鳳鏡で、直径20.6cmを測り、時期は平安時代末期から鎌倉時代初期にかけてである。土層断面で確認はできなかったが、副葬品と思われる皿と鏡が床面より浮いた状態で出土していることから木棺墓であった可能性も考えられる。

ＳＫ－160（第110図）

Ⅱ区の北部やや東側で検出された、方形を呈する土坑である。規模は、0.73×1.87m、検出面から床面までの深さは14cmを測る。遺物は出土していない。形や規模から考慮すると土壙墓である可能性がある。

ＳＫ－161

ＳＫ－160の東1.2mで検出された、円形を呈する土坑である。規模は、径1.14m、検出面から床面までの深さは24cmを測る。遺物は磨製石鏃が出土した。

ＳＫ－165

Ⅱ区の北部東側で検出された円形を呈する土坑である。規模は、径1.12m、検出面から床面までの深さは８cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

ＳＫ－170

Ⅱ区の北部中央で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.28m、短径0.88m、検出面から床面までの深さは21cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

ＳＫ－174

Ⅱ区の北部中央で検出された楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.88m、短径0.61m、検出面から床面までの深さは16cmを測る。遺物は土師器片、黒色土器片が出土した。

ＳＫ－179

Ⅱ区の北部中央で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.46m、短径0.82m、検出面から床面までの深さは18cmを測る。遺物は土師器片、須恵器片、黒色土器片が出土した。

ＳＫ－180

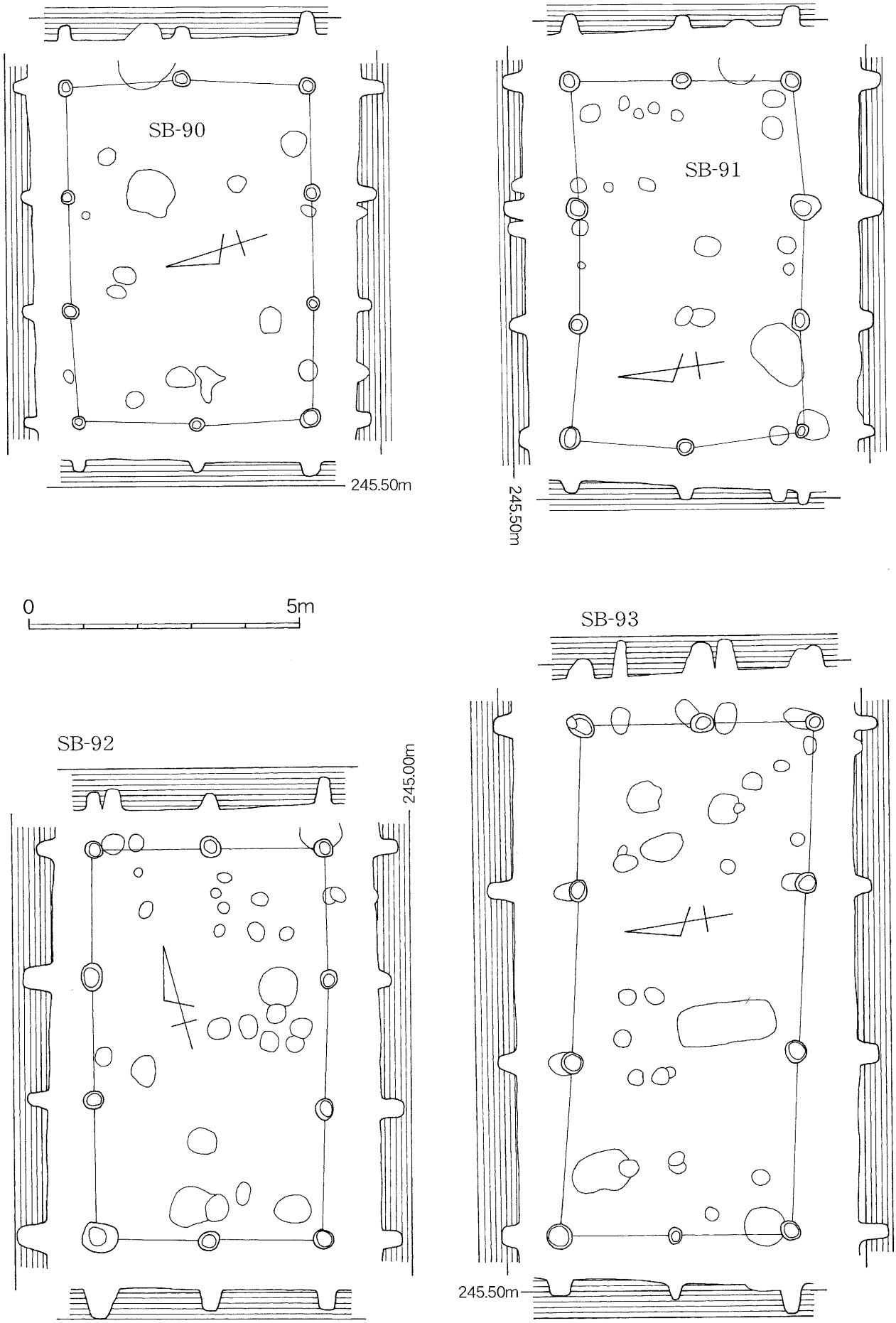
ＳＫ－179の東４mで検出された、円形を呈する土坑である。規模は、径1.02m、検出面から床面までの深さは14cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

ＳＫ－187

Ⅱ区の中央部やや西側で検出された、楕円形の土坑である。規模は、長径1.15m、短径0.92m、検出面から床面までの深さは20cmを測る。遺物は弥生土器片、土師器片が出土した。

ＳＫ－192

Ⅱ区の中央部で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.18m、短径0.92m、検出面から床面までの深さは18cmを測る。遺物は弥生土器の甕と黒色土器の埦が出土した。



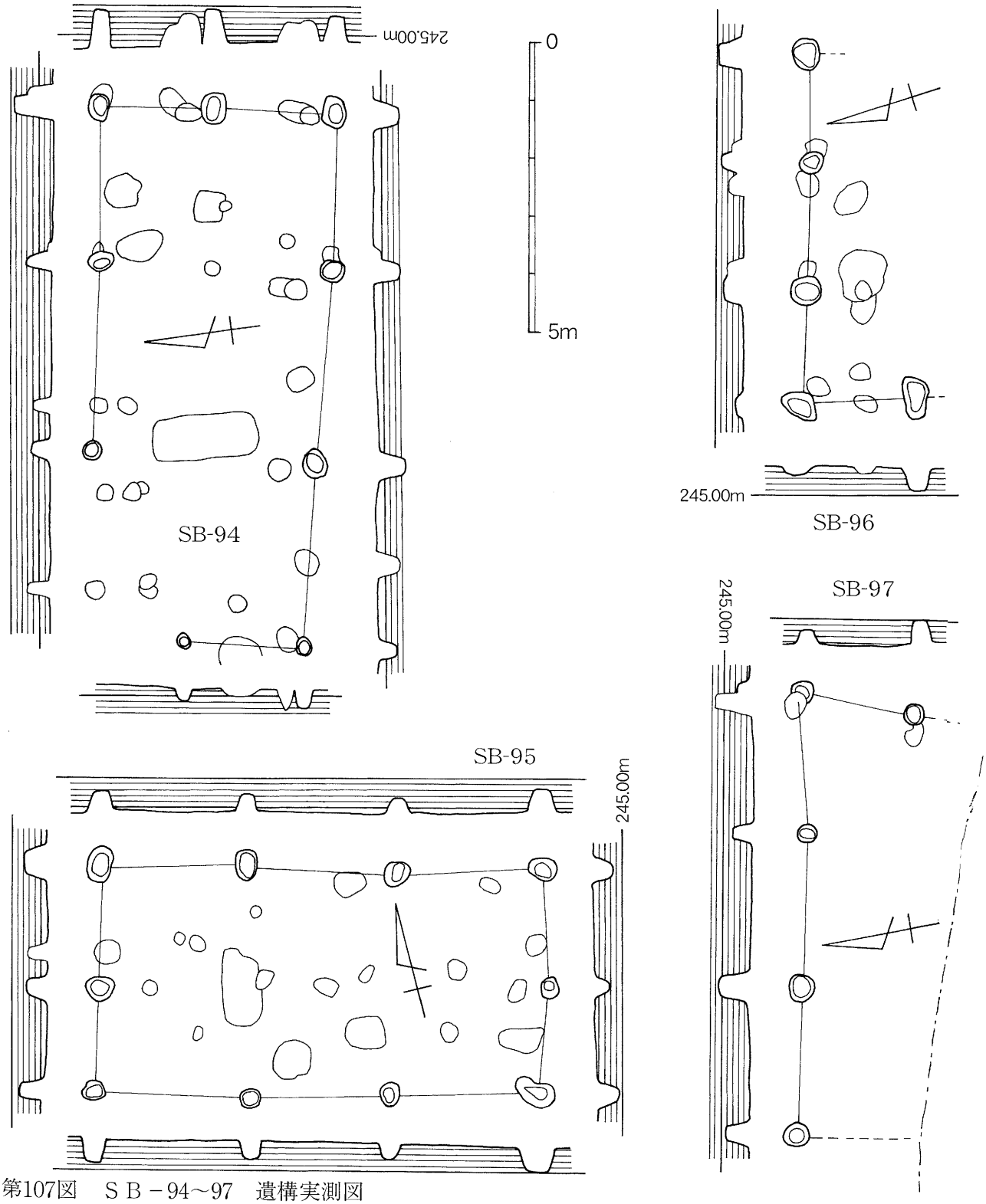
第106図　ＳＢ－90～93　遺構実測図

ＳＫ－194

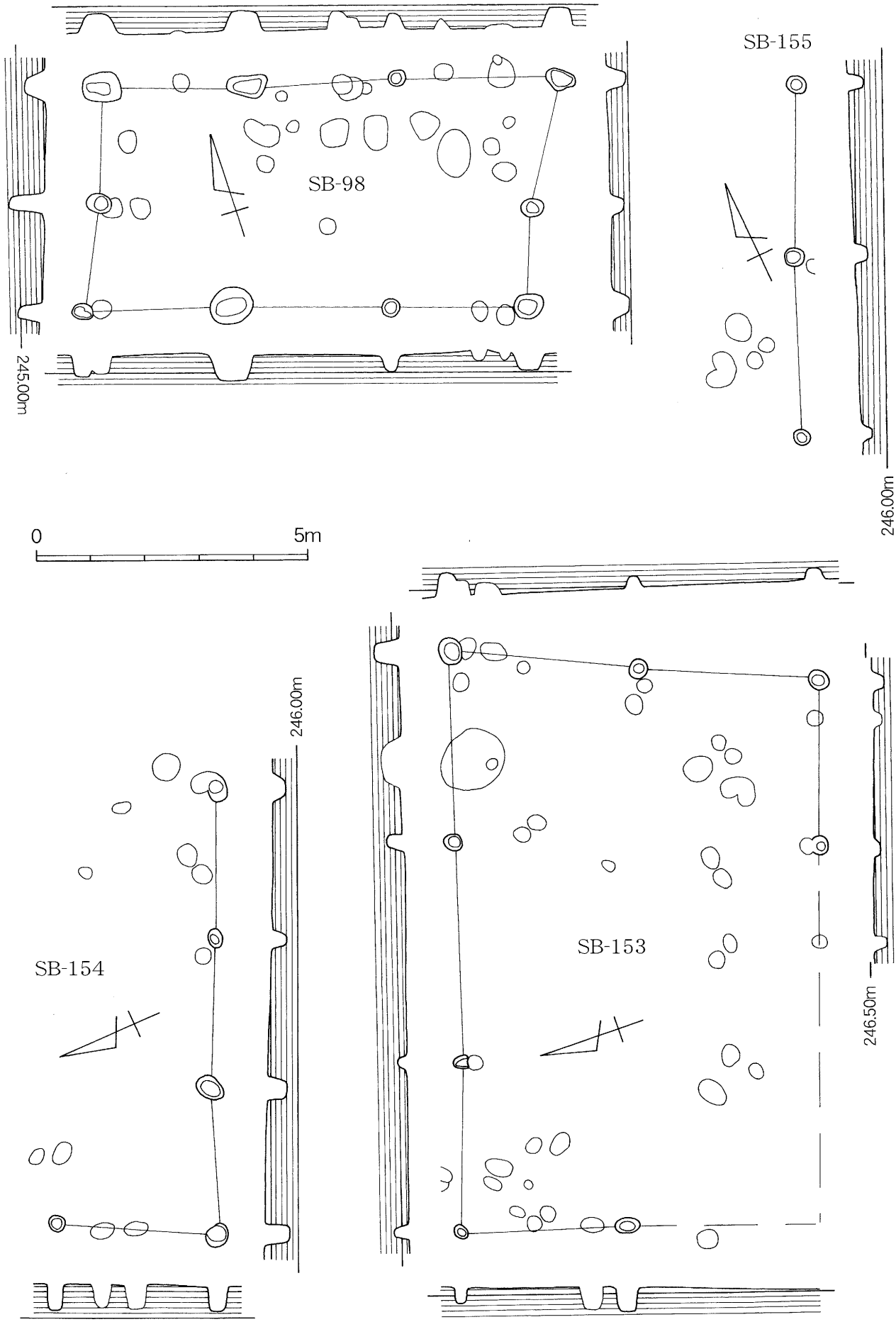
Ⅱ区の中央部やや西側で検出された、不整形を呈する土坑である。規模は、長径1.82m、短径1.21m、検出面から床面までの深さは34cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

ＳＫ－199

Ⅱ区の中央部南側で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.64m、短径1.12m、



第107図　ＳＢ－94～97　遺構実測図



第108図　ＳＢ－98・153～155　遺構実測図

検出面から床面までの深さは15cmを測る。遺物は土師器の甕が出土した。

ＳＫ－200

ＳＫ－194の南西5.5mで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.78m、短径0.67m、検出面から床面までの深さは19cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－201

ＳＫ－200の西３mで検出された、円形を呈する土坑である。規模は、径0.78m、検出面から床面までの深さは12cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－202（第110図）

Ⅱ区の南部西側で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.76m、短径0.68m、検出面から床面までの深さは28cmを測る。土坑内からは、20～30cm大の扁平な礫が重なって検出された。遺物は土師器片、黒色土器片が出土した。

ＳＫ－206

Ⅱ区の南部西側で検出された、円形を呈する土坑である。規模は、径0.86m、検出面から床面までの深さは16cmを測る。遺物は土師器片、黒色土器片が出土した。

ＳＫ－208

Ⅱ区の南部西側で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.16m、短径0.97m、検出面から床面までの深さは12cmを測る。遺物は縄文土器の口縁部片が出土した。

ＳＫ－210

Ⅱ区の南部西側で検出された、円形を呈する土坑である。規模は、径1.16m、検出面から床面までの深さは13cmを測る。遺物は土師器片、須恵器片、陶磁器片が出土した。

ＳＫ－213

ＳＫ－210の東１mで検出された、円形を呈する土坑である。規模は、径0.87m、検出面から床面までの深さは14cmを測る。遺物は布痕土器が出土した。

ＳＫ－214

ＳＫ－213の東0.7mで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.06m、短径0.87m、検出面から床面までの深さは12cmを測る。遺物は黒色土器の鉢と白磁の碗が出土した。時期は10～12世紀と思われる。

ＳＫ－216

ＳＫ－214の北東0.3mで検出された、円形を呈する土坑である。規模は、径0.89m、検出面から床面までの深さは16cmを測る。遺物は土師器の高坏が出土した。

ＳＫ－218

Ⅱ区の南部東側で検出された、円形を呈する土坑である。規模は、径0.74m、検出面から床面までの深さは18cmを測る。遺物は土師器の埦が出土した。

ＳＫ－219（第110図）

ＳＫ－217の南東５ｍで検出された、長方形を呈する土坑である。規模は、0.74×1.85ｍ、検出面から床面までの深さは15cmを測る。土坑内の中央から北へ50cm、東へ10cmのところで鉄製の小杯が、床直上で出土した。この小杯は、口径4.8cm、器高2.2cmを測る。その他の遺物は、弥生土器の甕の土器片と白磁の小皿が出土した。土壙墓であると思われる。時期は白磁の年代で９～12世紀である。

ＳＫ－220

Ⅱ区の南部西側、ＳＫ－211の南2.2ｍで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.03ｍ、短径0.82ｍ、検出面から床面までの深さは18cmを測る。遺物は黒色土器Ｂ類の鉢が出土した。

ＳＫ－221

ＳＫ－220の東１ｍで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.07ｍ、短径0.94ｍ、検出面から床面までの深さは19cmを測る。遺物は弥生土器片、土師器片が出土した。

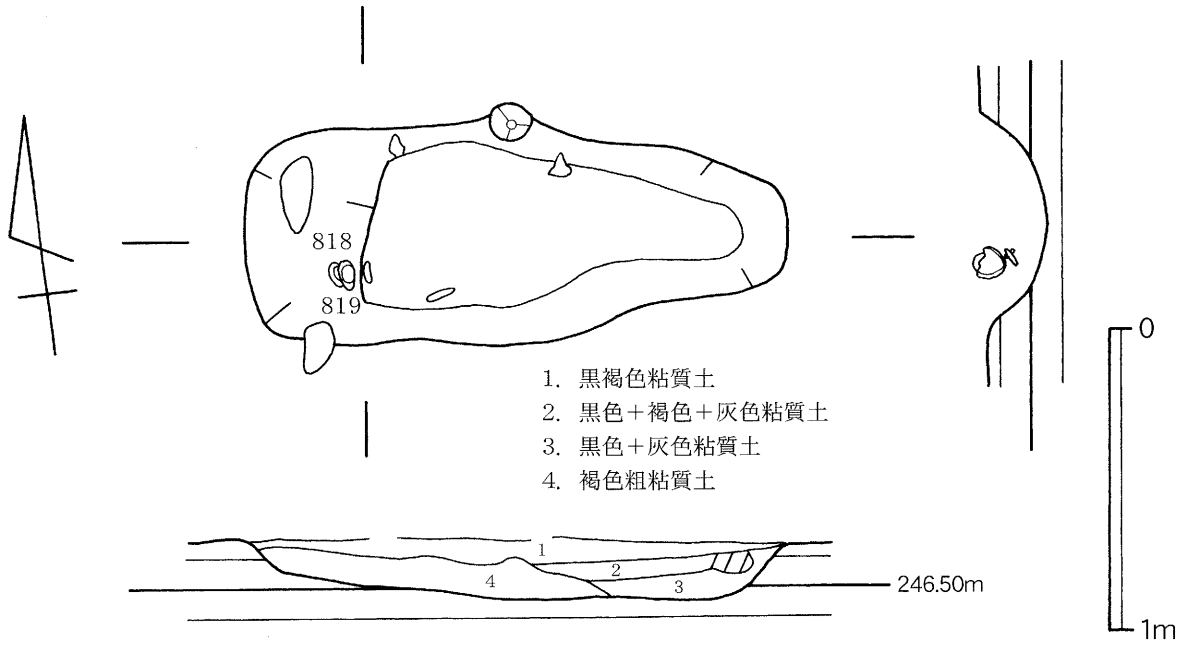
ＳＫ－222（第110図）

Ⅱ区の南部西側で検出された、不整形を呈する土坑である。規模は、長径1.07ｍ、短径0.88ｍ、検出面から床面までの深さは30cmを測る。土坑内からは、５～40cm大の礫が重なって検出された。遺物は土師器片、黒色土器片が出土した。

ＳＫ－225

Ⅱ区の南部中央南壁よりで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.87ｍ、短径0.72ｍ、検出面から床面までの深さは23cmを測る。遺物は須恵器の埦が出土した。

ＳＫ－228



第109図　ＳＫ－151　遺構実測図

ＳＫ－227の西１ｍで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.34ｍ、短径1.12ｍ、検出面から床面までの深さは23cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

ＳＫ－229

ＳＫ－228に南西接する、円形を呈する土坑である。規模は、径0.76ｍ、検出面から床面までの深さは22cmを測る。遺物は土師器片、黒色土器片が出土した。

ＳＫ－230

ＳＫ－229の南0.1ｍで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.15ｍ、短径0.97ｍ、検出面から床面までの深さは24cmを測る。遺物は黒色土器の皿が出土した。

ＳＫ－231

ＳＫ－230の南0.4ｍで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.28ｍ、短径1.02ｍ、検出面から床面までの深さは28cmを測る。遺物は土師器片、黒色土器片が出土した。

ＳＫ－232

ＳＫ－225の南西0.4ｍで検出された、円形を呈する土坑である。規模は、径0.98ｍ、検出面から床面までの深さは25cmを測る。遺物は土師器片、陶磁器片が出土した。

ＳＫ－234

ＳＫ－219の南３ｍで検出された、不整形を呈する土坑である。規模は、長径1.23ｍ、短径0.63ｍ、検出面から床面までの深さは24cmを測る。遺物は黒色土器の皿が出土した。

ＳＫ－235

Ⅱ区の南東隅で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.08ｍ、短径0.68ｍ、検出面から床面までの深さは23cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－238

ＳＫ－218の東1.4ｍで検出された、円形を呈する土坑である。規模は、径1.06ｍ、検出面から床面までの深さは16cmを測る。遺物は土師器片、黒色土器片が出土した。

ＳＫ－249

Ⅱ区の南部東壁際、ＳＫ－238の北7.3ｍで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.26ｍ、短径1.06ｍ、検出面から床面までの深さは15cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

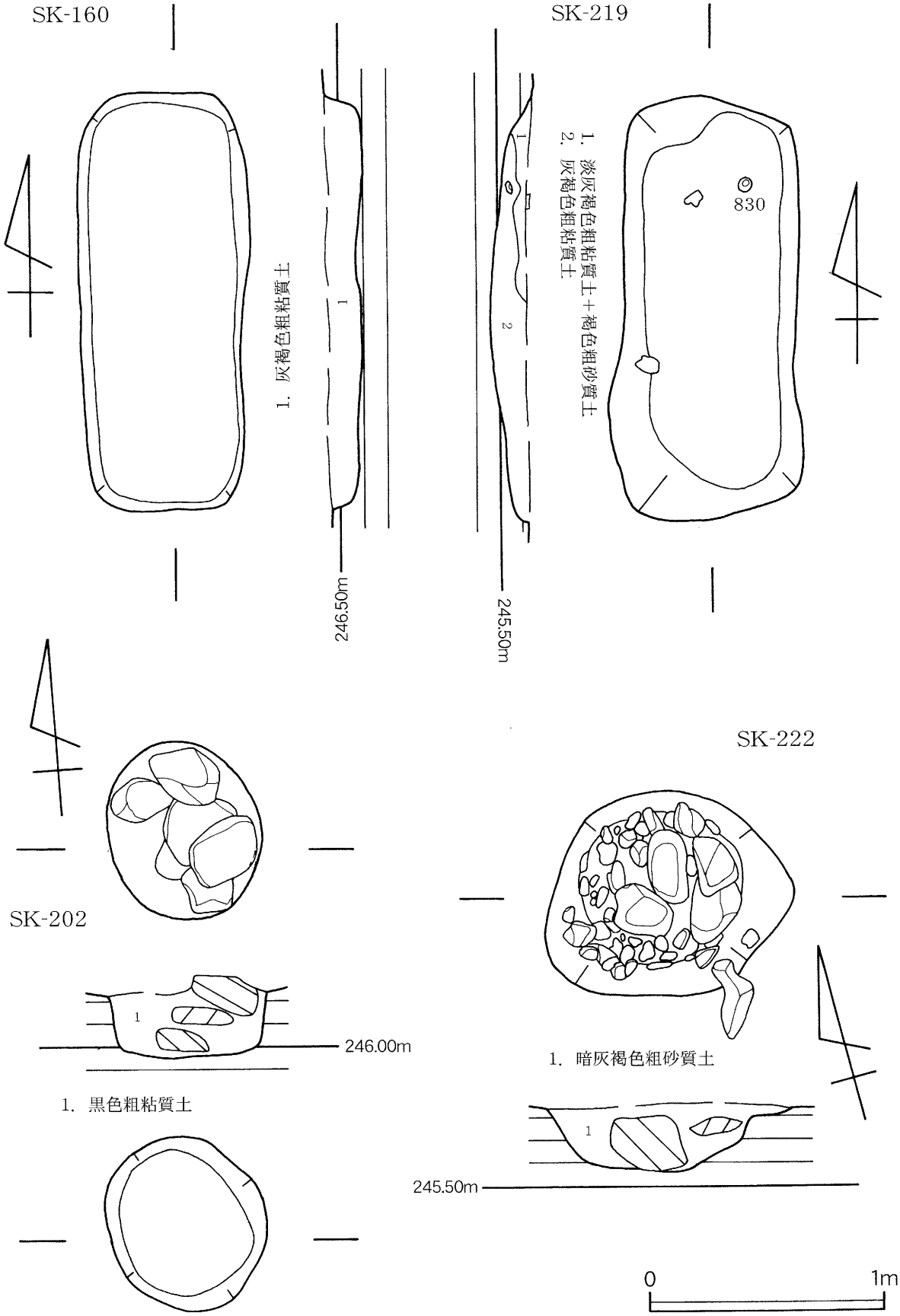
ＳＫ－254（第111図）

Ⅱ区の中央部やや西側で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.23ｍ、短径1.04ｍ、検出面から床面までの深さは28cmを測る。土坑内からは、５～20cmほどの礫とともに、土師器の甕・壷・埦、須恵器の甕、黒色土器の埦などの土器片が出土し、時期は10世紀と思われる。

ＳＫ－256

Ⅱ区の中央部で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.05ｍ、短径0.78ｍ、検出面から床面までの深さは16cmを測る。遺物は、土師器の坏と皿が出土した。

ＳＫ－258



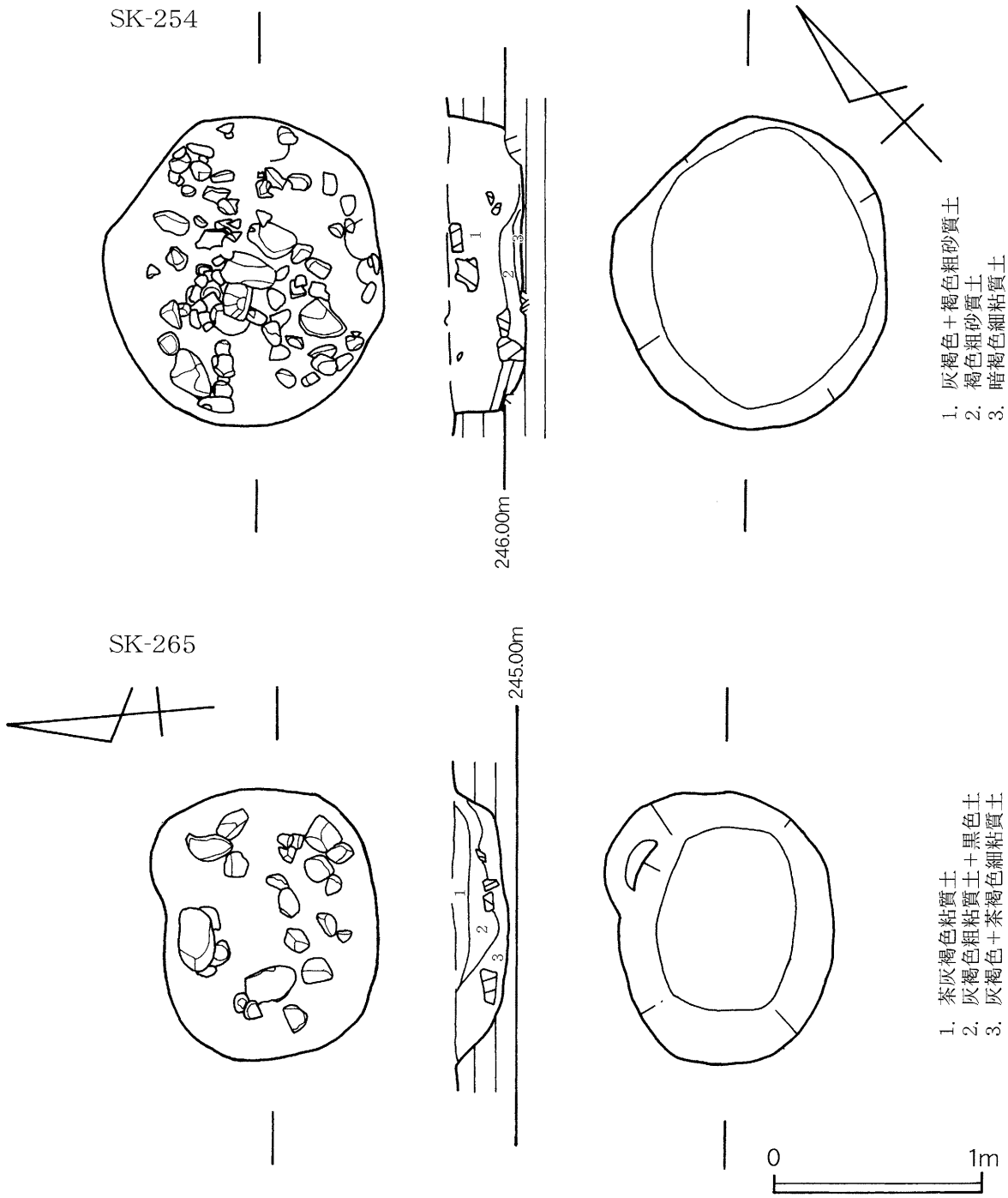
第110図　ＳＫ－160・202・219・222　遺構実測図

Ⅲ区の西部中央で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.38m、短径1.24m、検出面から床面までの深さは14cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－259

Ⅲ区の西部やや南側、Ⅱ区との境で検出された、円形を呈する土坑である。規模は、径0.82m、検出面から床面までの深さは18cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－265（第111図）



第111図　ＳＫ－254・265　遺構実測図

Ⅲ区の北部中央北壁際で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.04m、短径0.83m、検出面から床面までの深さは22cmを測る。土坑内から５～20cmほどの礫とともに、土師器の皿と黒色土器の埦が出土した。

ＳＫ－272（第112図）

Ⅱ区の北部中央やや北側で検出された、方形を呈する土坑である。規模は、1.08×1.34m、検出面から床面までの深さは57cmを測る。遺物は須恵器の坏の口縁部片が出土した。

ＳＫ－273

Ⅱ区の北部、ＳＫ－253の南西３ｍで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.9m、短径0.78m、検出面から床面までの深さは23cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－274

Ⅱ区の北部中央、ＳＫ－272の南１ｍで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.4m、短径1.21m、検出面から床面までの深さは24cmを測る。遺物は、弥生土器の甕と土師器の甕・壷・高坏、須恵器の高坏が出土した。

ＳＫ－275

ＳＫ－274の東隣で検出された、ＳＫ－274に切られている土坑である。詳細は不明であるが、南北長1.23m、検出面から床面までの深さは20cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

ＳＫ－276

ＳＫ－275の東隣で検出された、ＳＫ－275に切られている土坑である。詳細は不明であるが、南北長0.8m、検出面から床面までの深さは16cmを測る。遺物は弥生土器片、土師器片が出土した。

ＳＫ－277

ＳＫ－274の西隣で検出された、不整形を呈する土坑である。規模は、長径0.82m、短径0.78m、検出面から床面までの深さは14cmを測る。遺物は弥生土器片、土師器片が出土した。

ＳＫ－278

ＳＫ－277の西0.4mで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.62m、短径0.39m、検出面から床面までの深さは14cmを測る。遺物は弥生土器片、土師器片が出土した。

ＳＫ－281

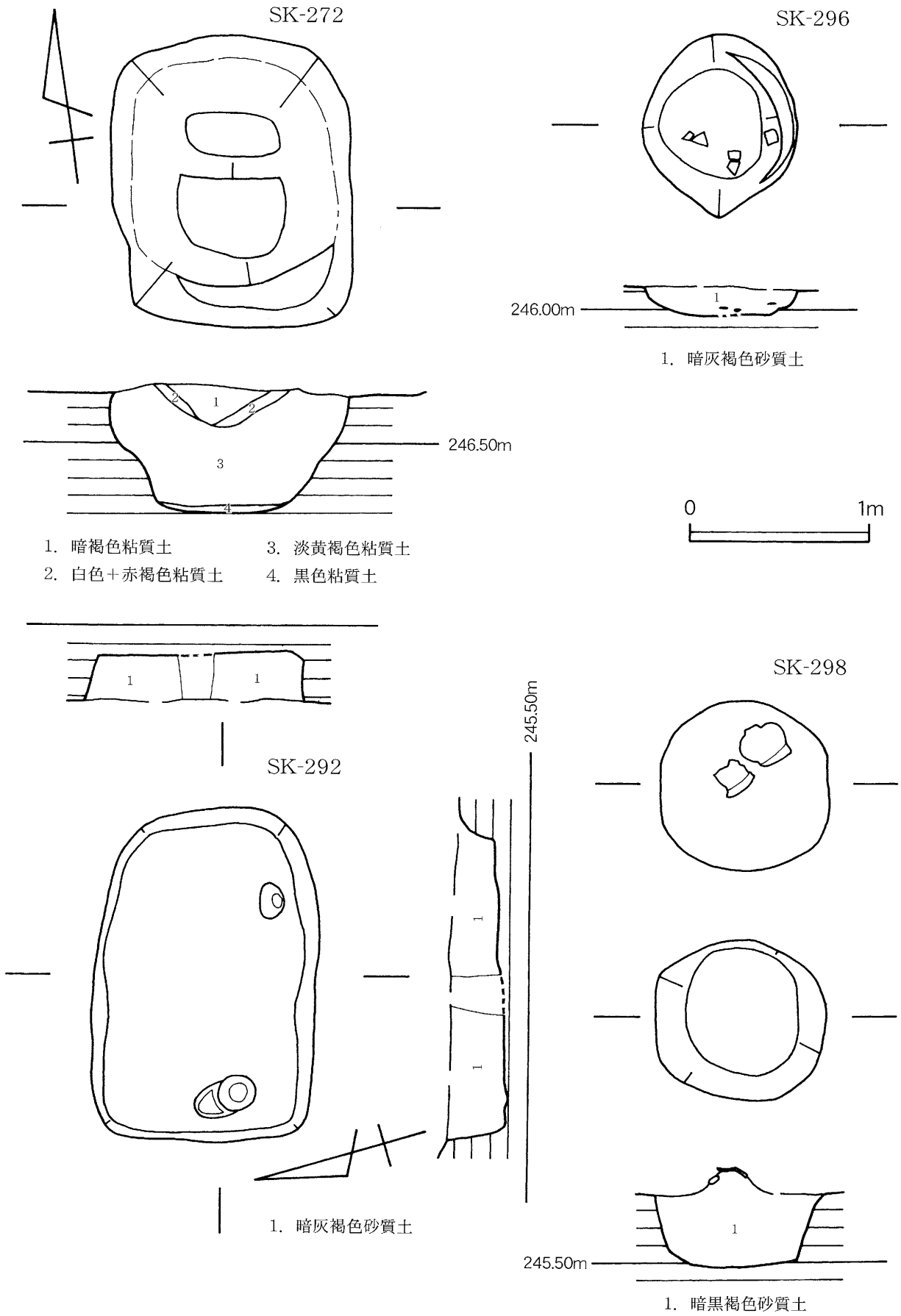
Ⅱ区の北部で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.24m、短径0.82m、検出面から床面までの深さは18cmを測る。遺物は弥生土器片、土師器片が出土した。

ＳＫ－288

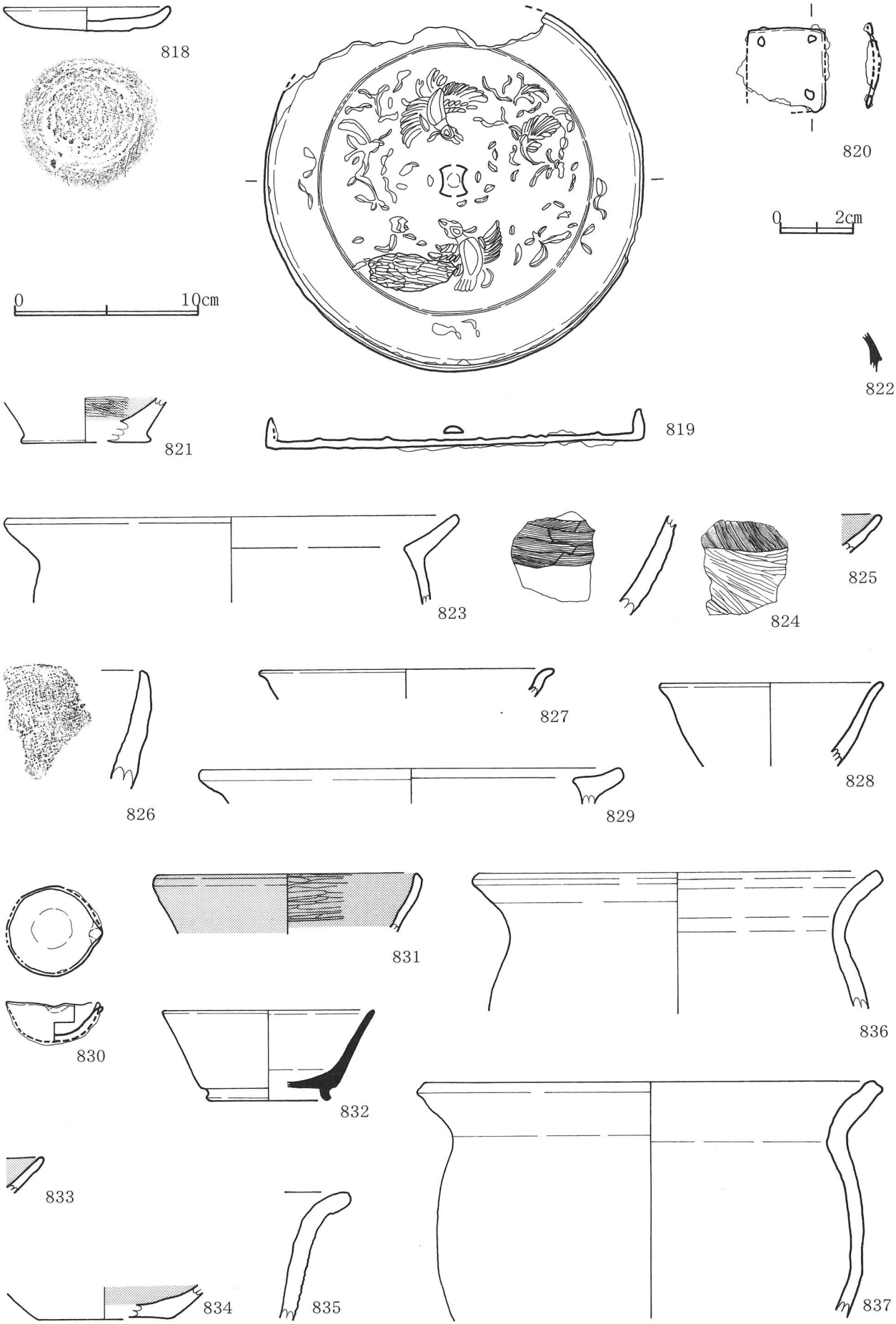
Ⅱ区の中央部東側、ＳＫ－160の南4.4mで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径2.58m、短径1.36m、検出面から床面までの深さは16cmを測る。遺物は弥生土器片、土師器片が出土した。

ＳＫ－291

Ⅲ区の南部西側、Ⅱ区との境で検出された、方形を呈する土坑である。規模は、1.32×1.97m、

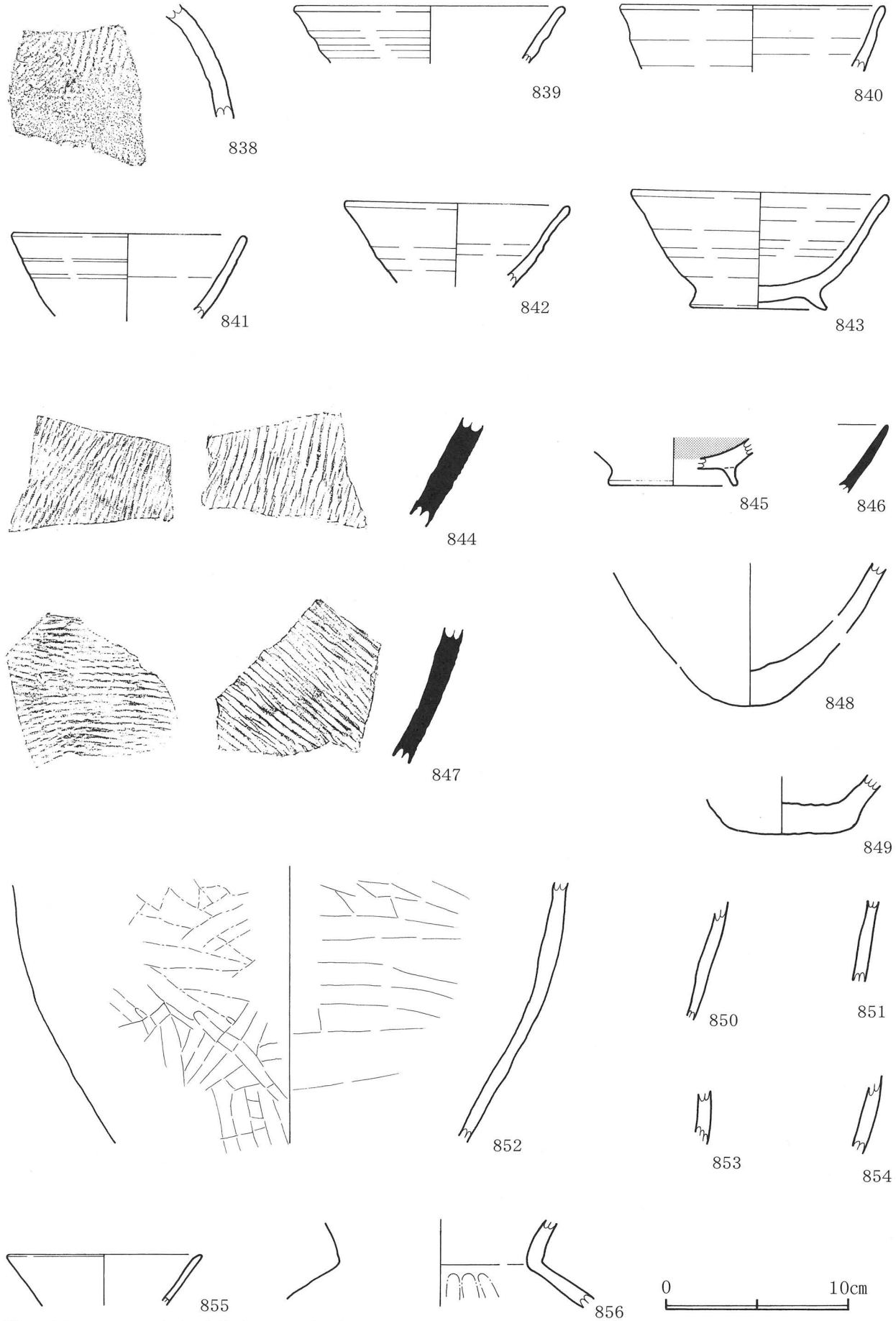


第112図　ＳＫ－272・292・296・298　遺構実測図



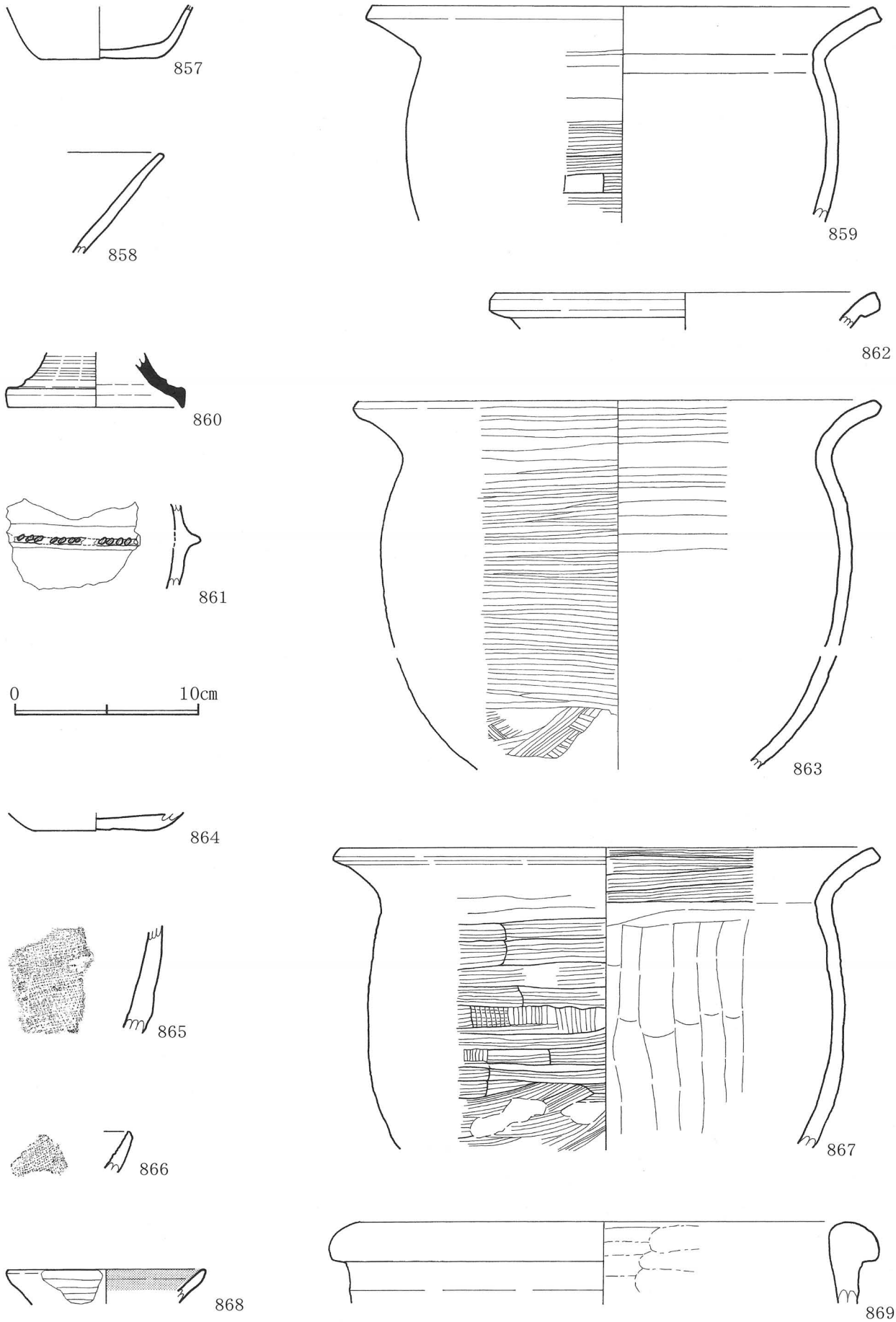
第113図　ＳＫ　出土遺物実測図（１）

818～819：SK-151,**820**：SK-179,**821・823**：SK-192,**822**：SK-196,**824**：SK-199,
825：SK-214,**826**：SK-213,**827**：SK-216,**828**：SK-218,**829～830**：SK-219,**831**：SK-220,
832：SK-225,**833**：SK-230,**834**：SK-234,**835～837**：SK-254



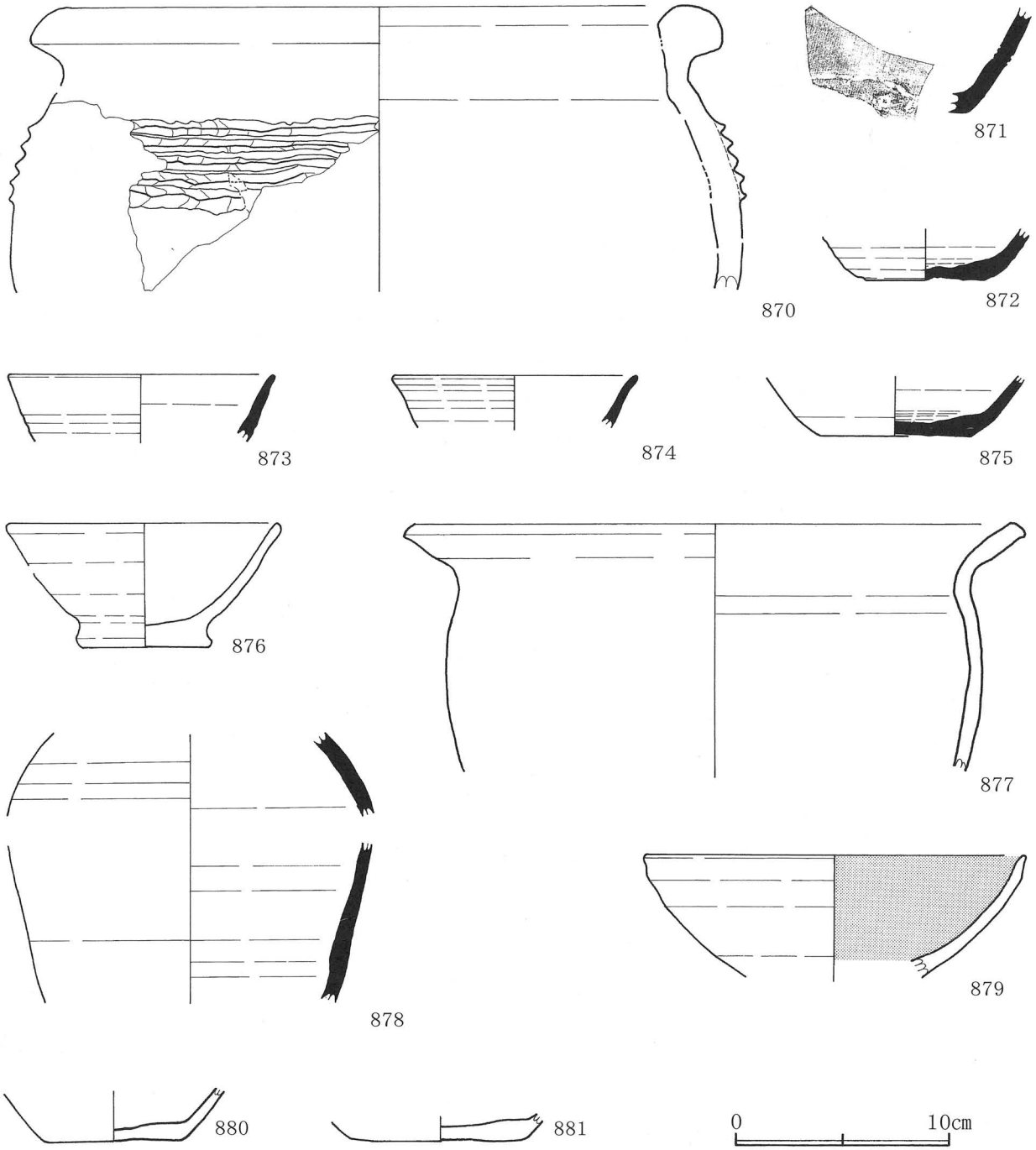
第114図　ＳＫ　出土遺物実測図（２）

838～845・847：SK-254,846：SK-272・ベルト内,848～856：SK-274



第115図　ＳＫ　出土遺物実測図（３）

857～858：SK-274,**859・861**：SK-294,**860**：SK-272,**862～863**：SK-298,**864～865**：SK-296,
866～868：SK-299,**869**：SK-302



第116図　ＳＫ　出土遺物実測図（４）　870:SK-302,871～875:SZ-01,876～879:SZ-02,880～881:SS-01

検出面から床面までの深さは23cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－292（第112図）

Ⅲ区の南部西端、Ⅱ区との境で検出された、方形を呈する土坑である。規模は、0.97×1.50m、検出面から床面までの深さは22cmを測る。遺物は弥生土器片、土師器片が出土した。用途は形や規模を考慮すると土壙墓の可能性がある。

ＳＫ－294

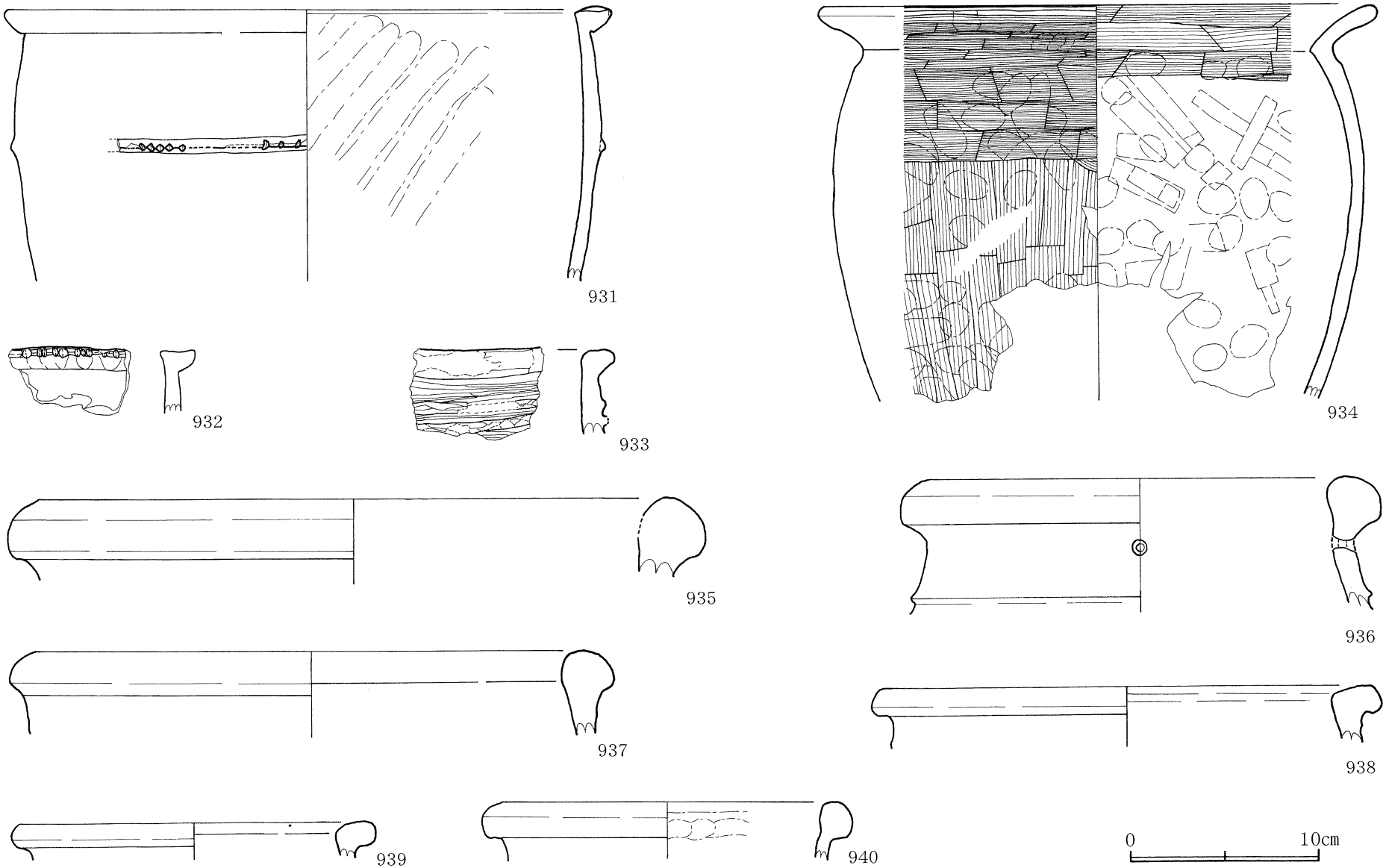
ＳＫ－292の南５ｍで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.75m、短径0.67m、検出面から床面までの深さは14cmを測る。遺物は、弥生土器の壷、土師器の甕の口縁部片が出土し

第117図　Ⅱ区　出土遺物実測図（1）

884:326,885:391,886・893:SA-10,887・901:SA-12,890:SA-28,891:SA-21
892・895・900・905:Ⅳ層,894:SA-20

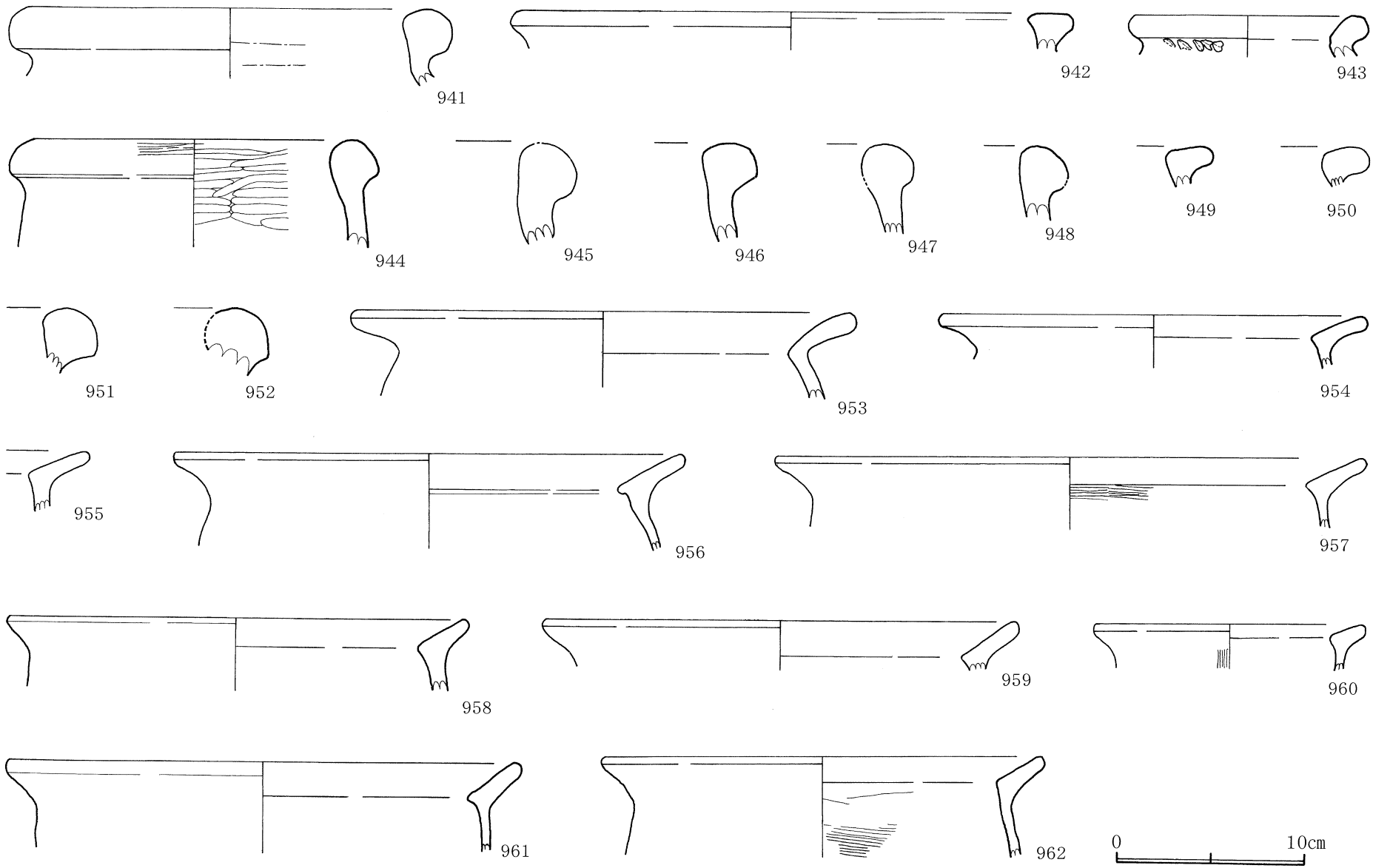
第118図　Ⅱ区　出土遺物実測図（2）

907：SK-208,908・913：SA-14,909：SA-28,915～916：SA-10,917：SS-01,921・926・929～930：Ⅳ層,923：SA-25,927：SA-20・ベルト内



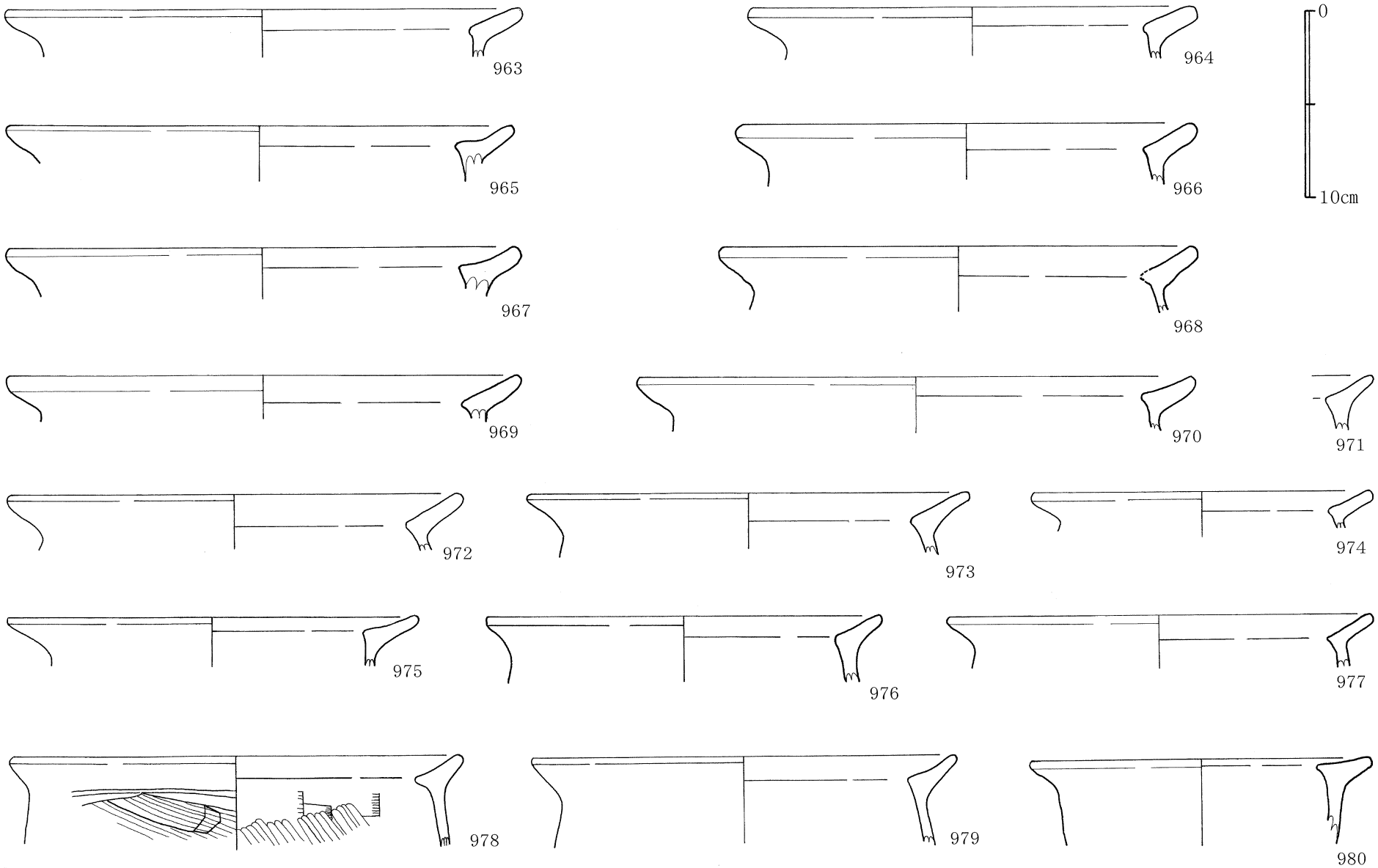
第119図　Ⅱ区　出土遺物実測図（3）

931：Ⅳ層

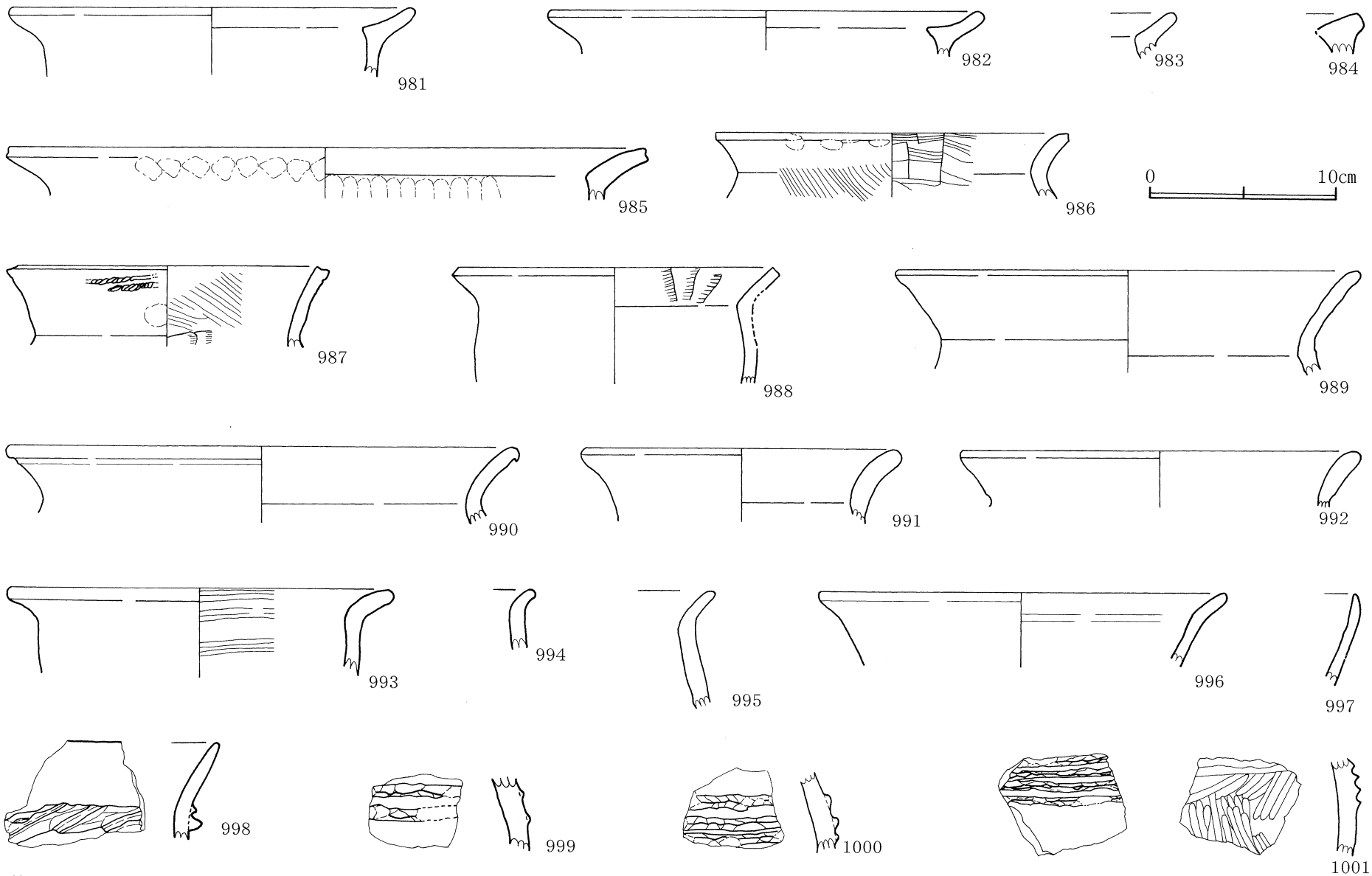


第120図　Ⅱ区　出土遺物実測図（4）

942:82

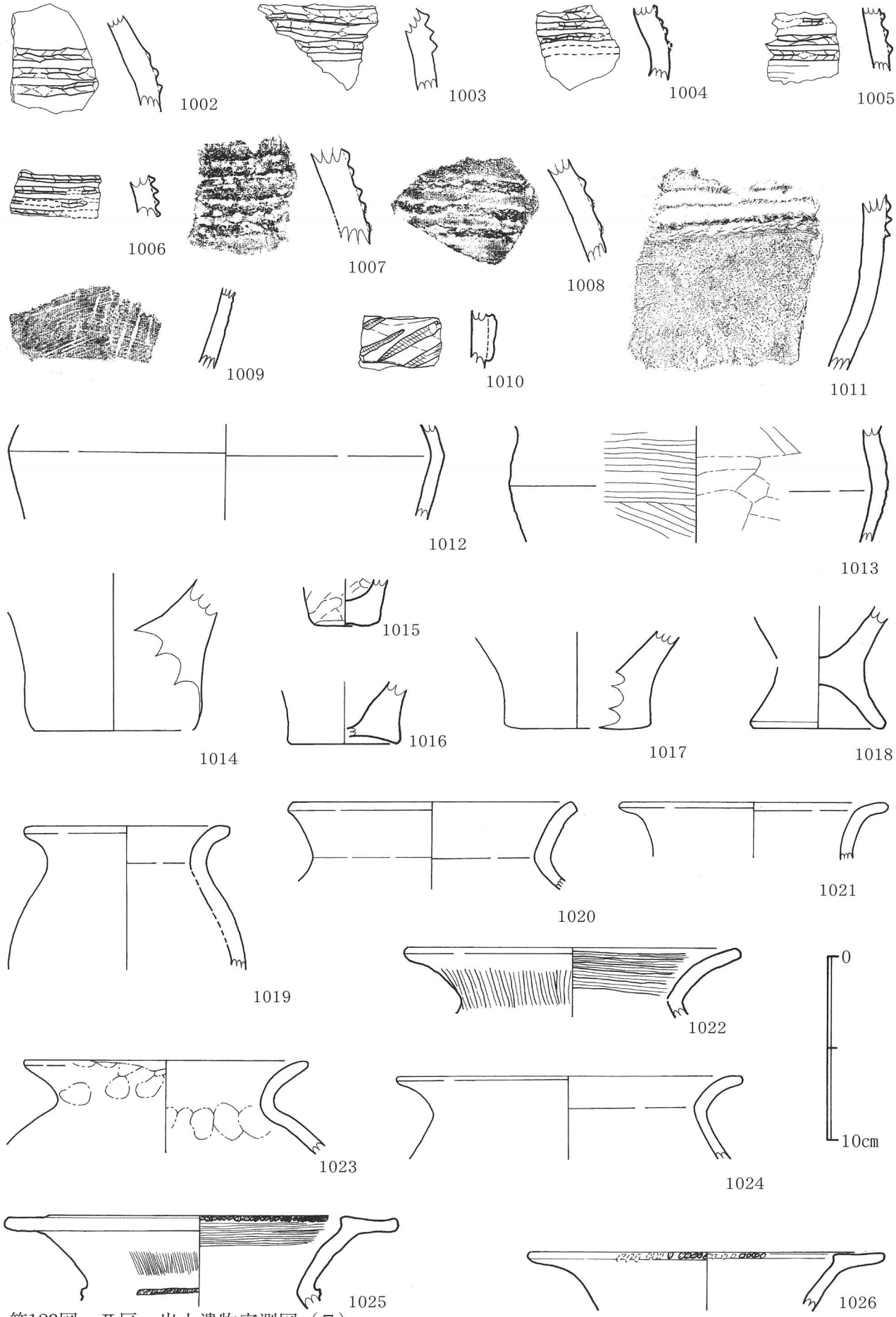


第121図　Ⅱ区　出土遺物実測図（5）



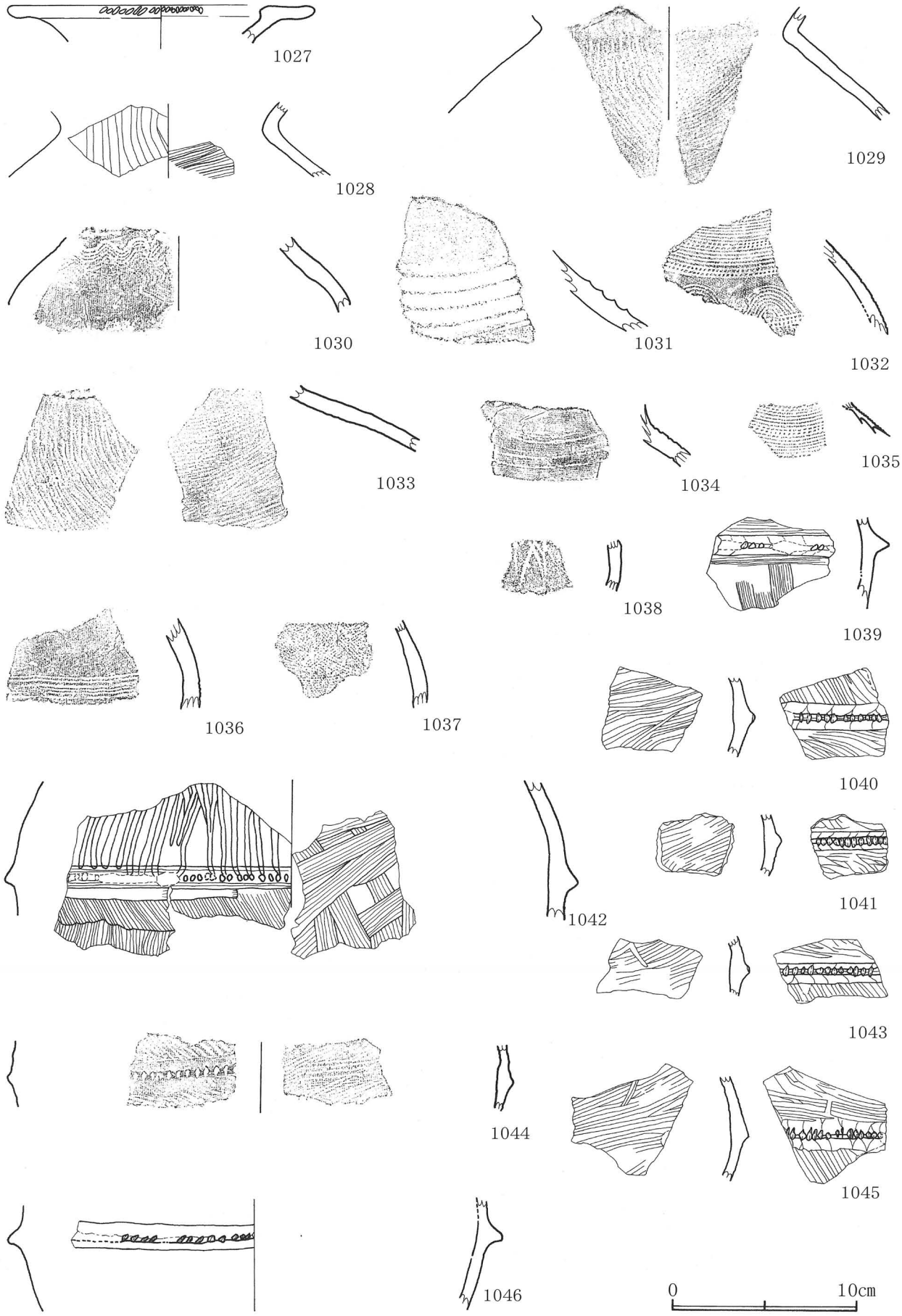
第122図　Ⅱ区　出土遺物実測図（6）

993：Ⅳa層

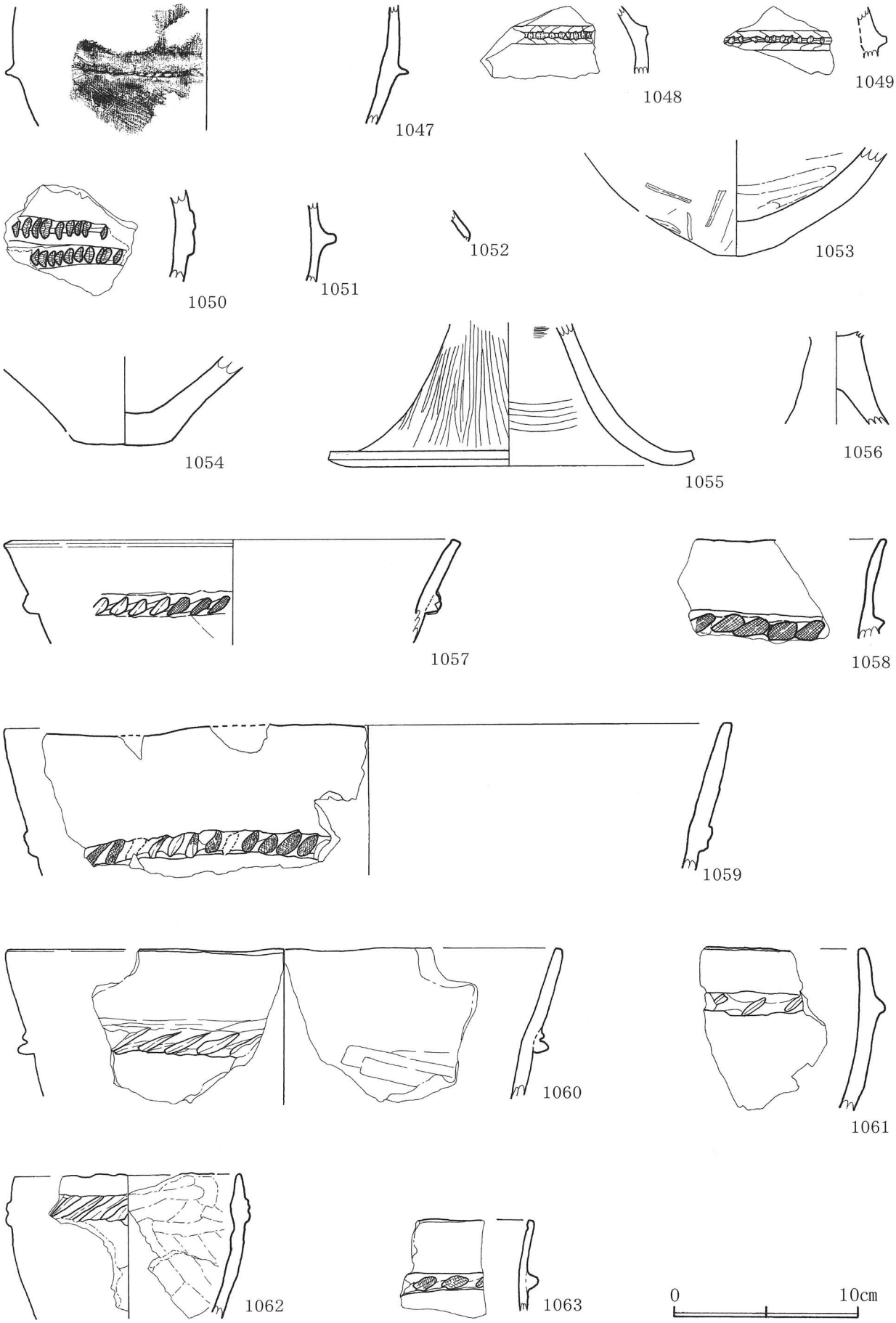


第123図　Ⅱ区　出土遺物実測図（7）

1005:162

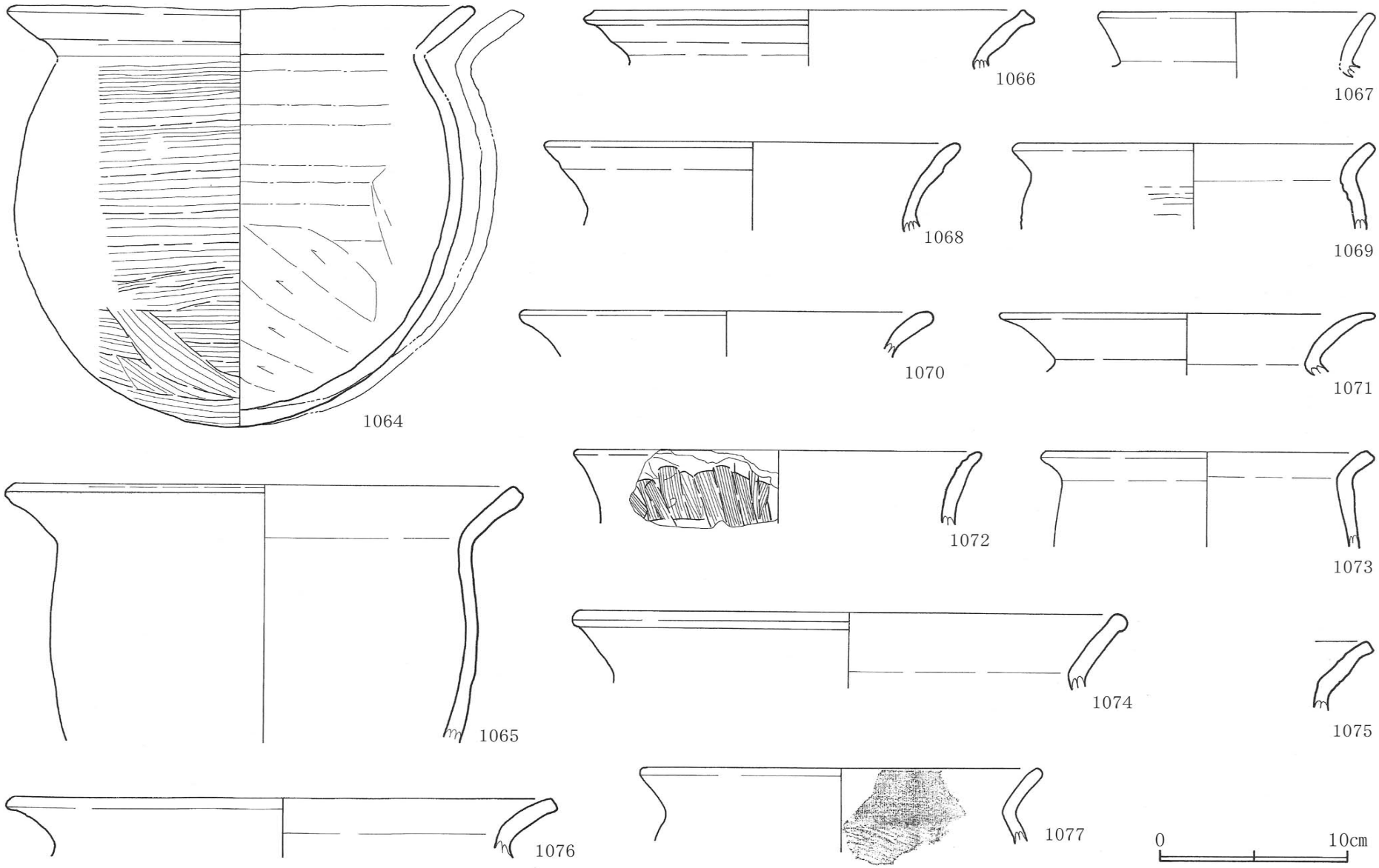


第124図　Ⅱ区　出土遺物実測図（8）

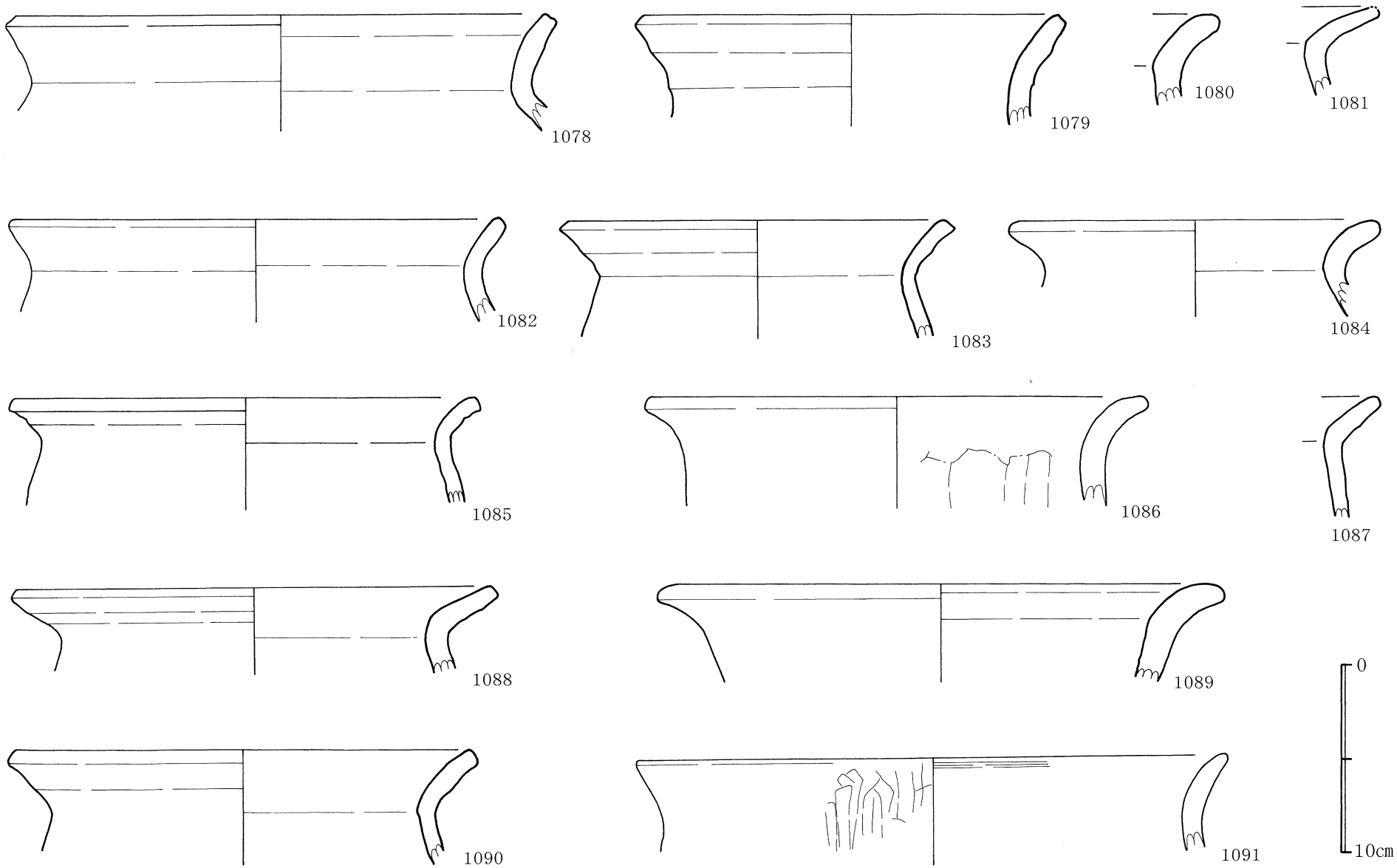


第125図　Ⅱ区　出土遺物実測図（9）

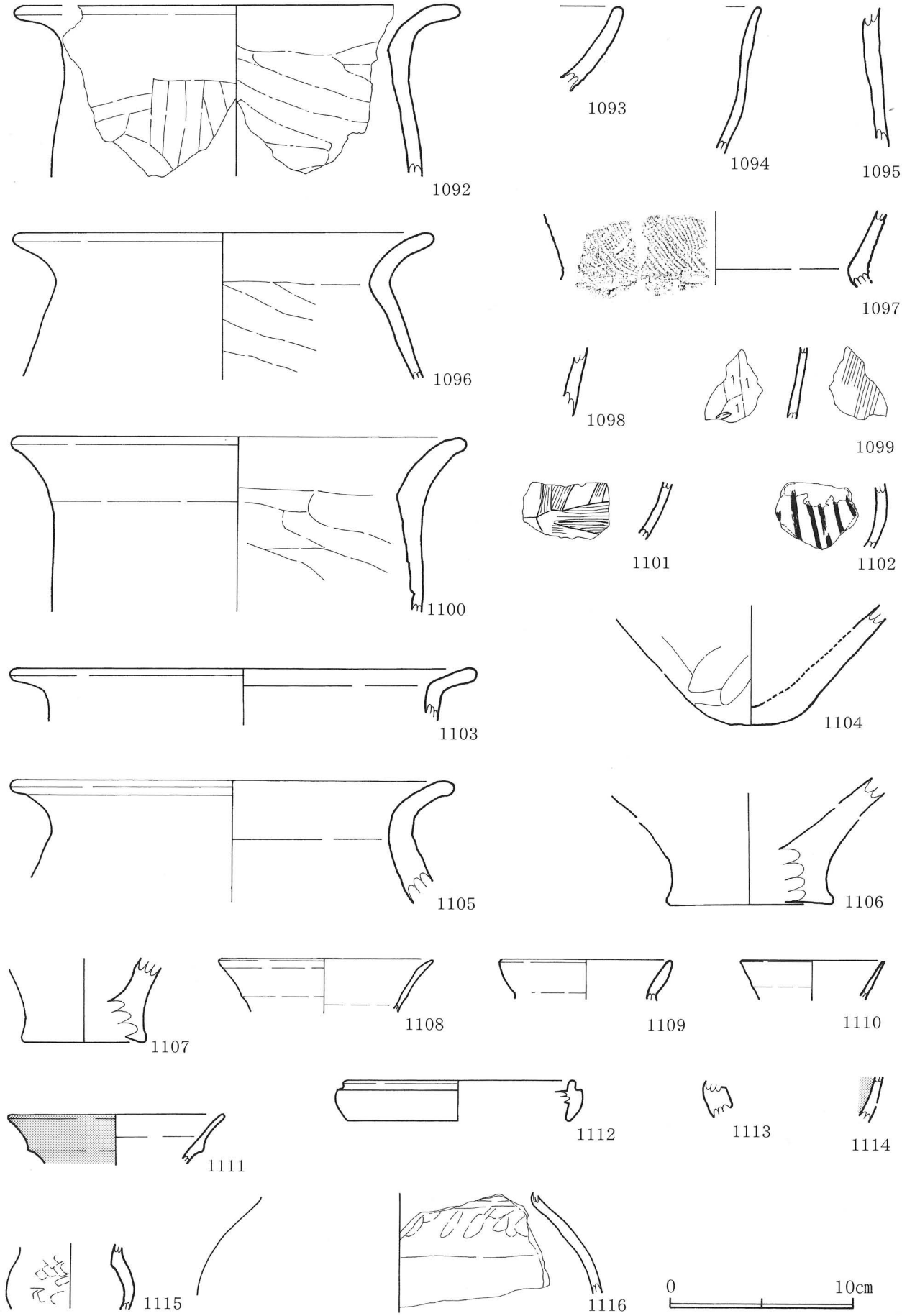
1056:477,1059:484,1062:257



第126図　Ⅱ区　出土遺物実測図（10）

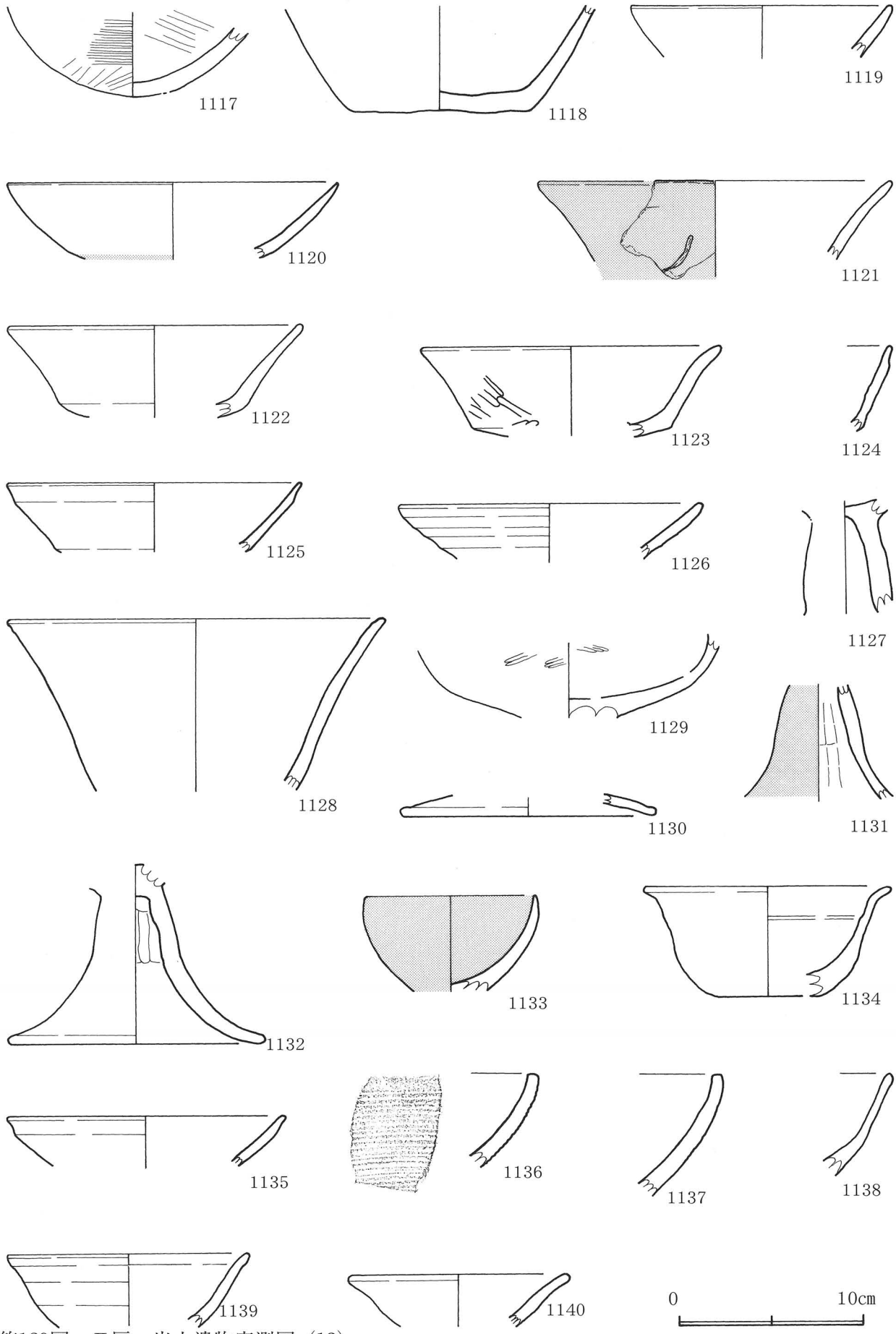


第127図　Ⅱ区　出土遺物実測図（11）



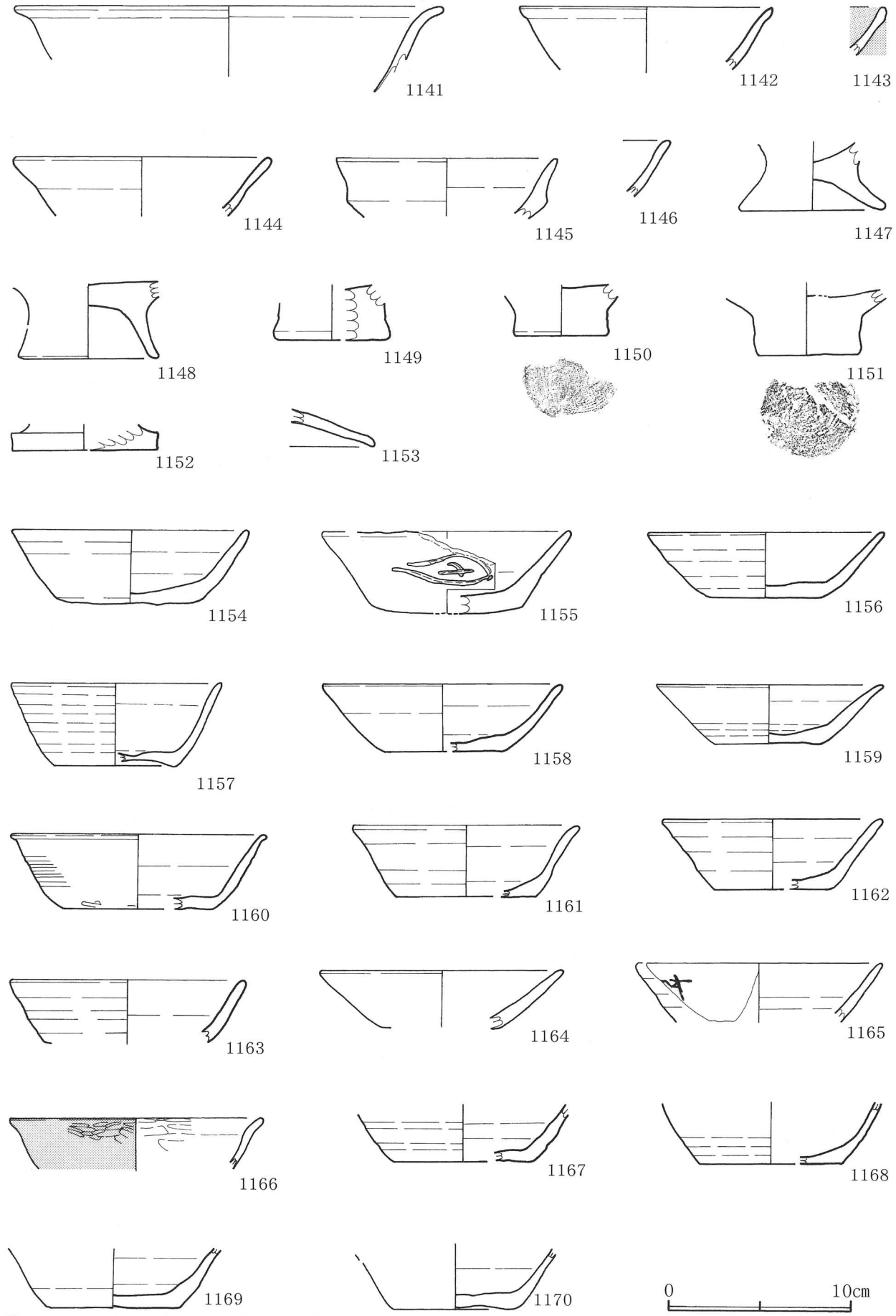
第128図　Ⅱ区　出土遺物実測図（12）

1098・1113：Ⅳ層



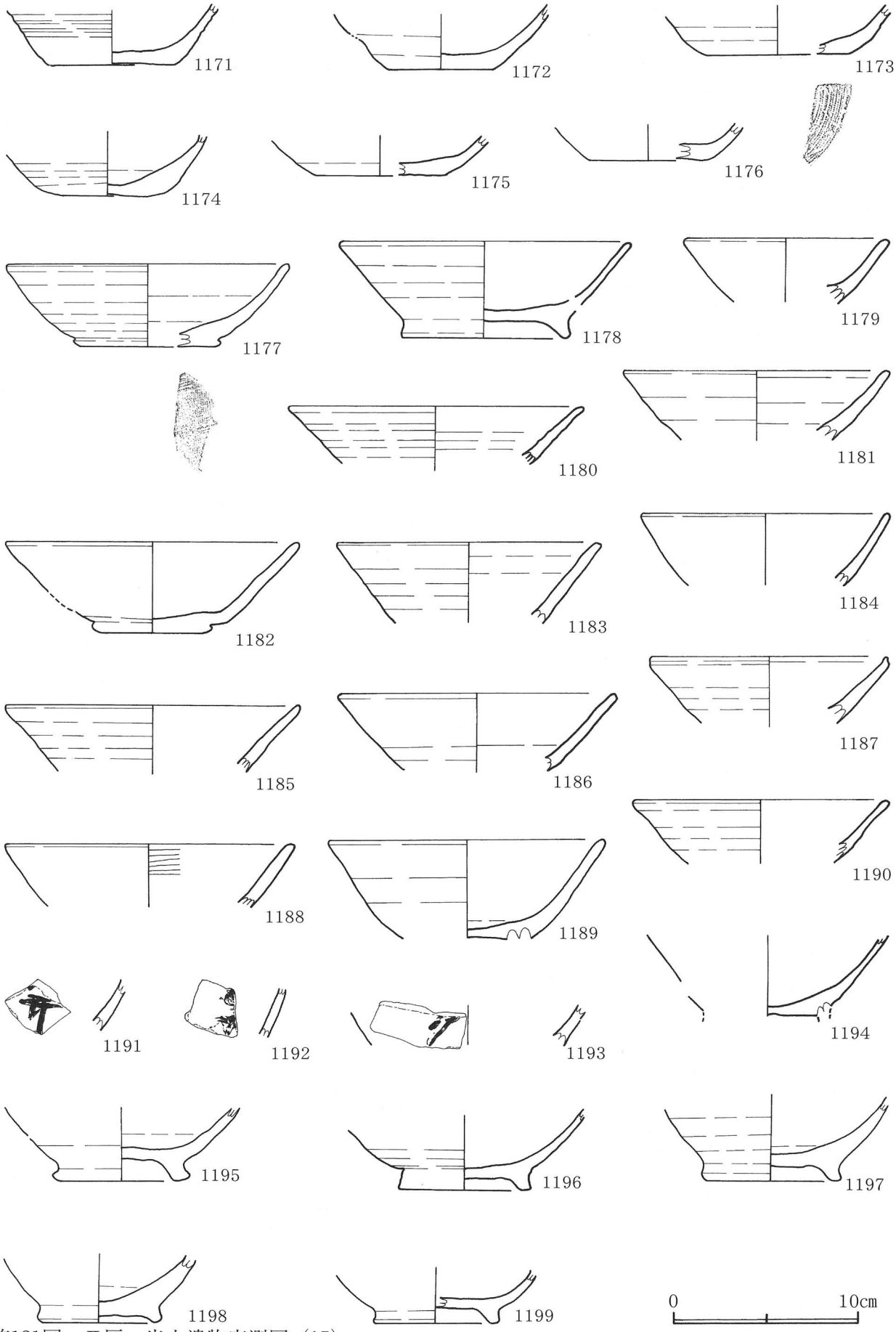
第129図　Ⅱ区　出土遺物実測図（13）

1132：Ⅳ層,1133：Ⅳa層



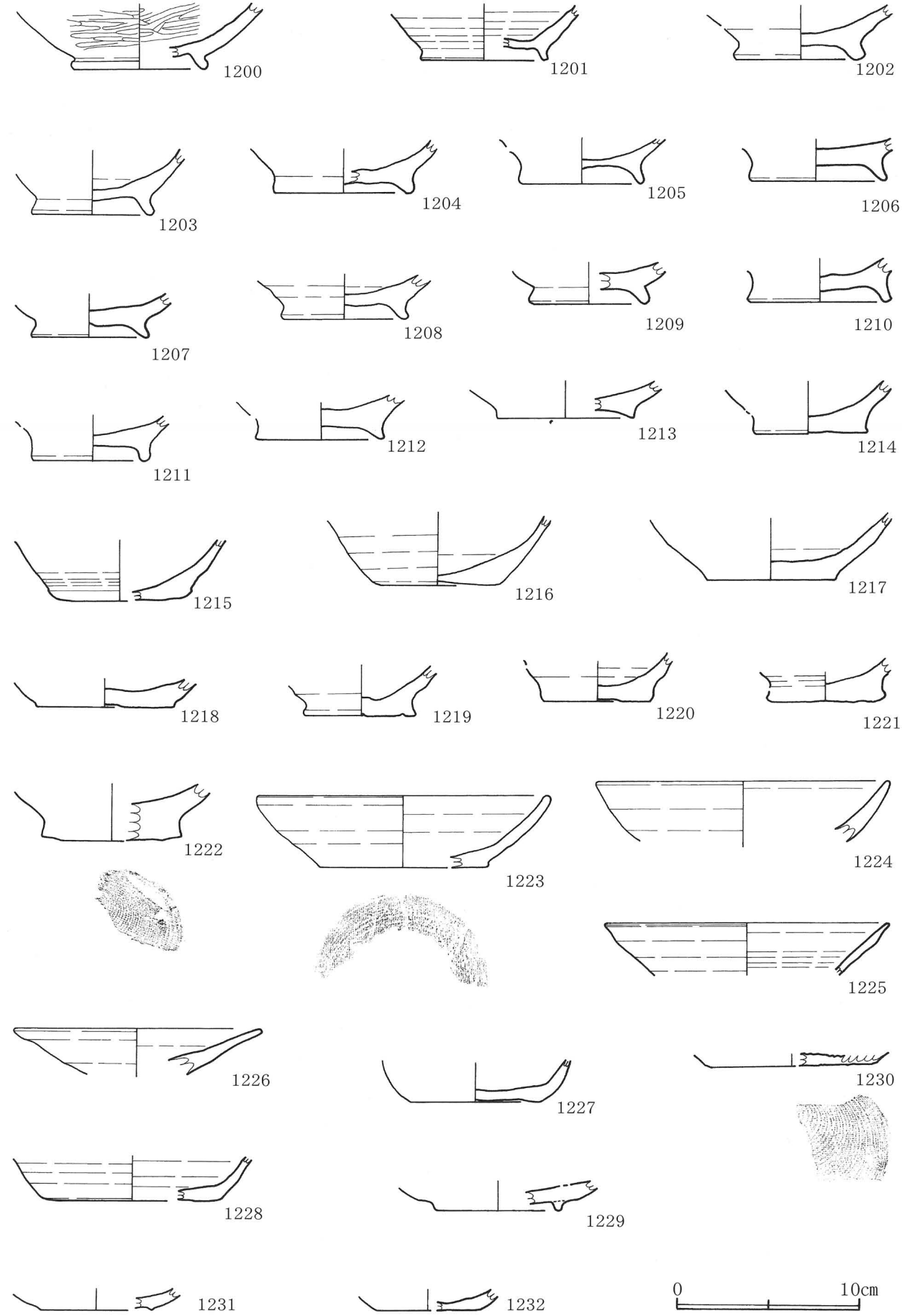
第130図　Ⅱ区　出土遺物実測図（14）

1145:200,1151:449,1162:470,1163:489



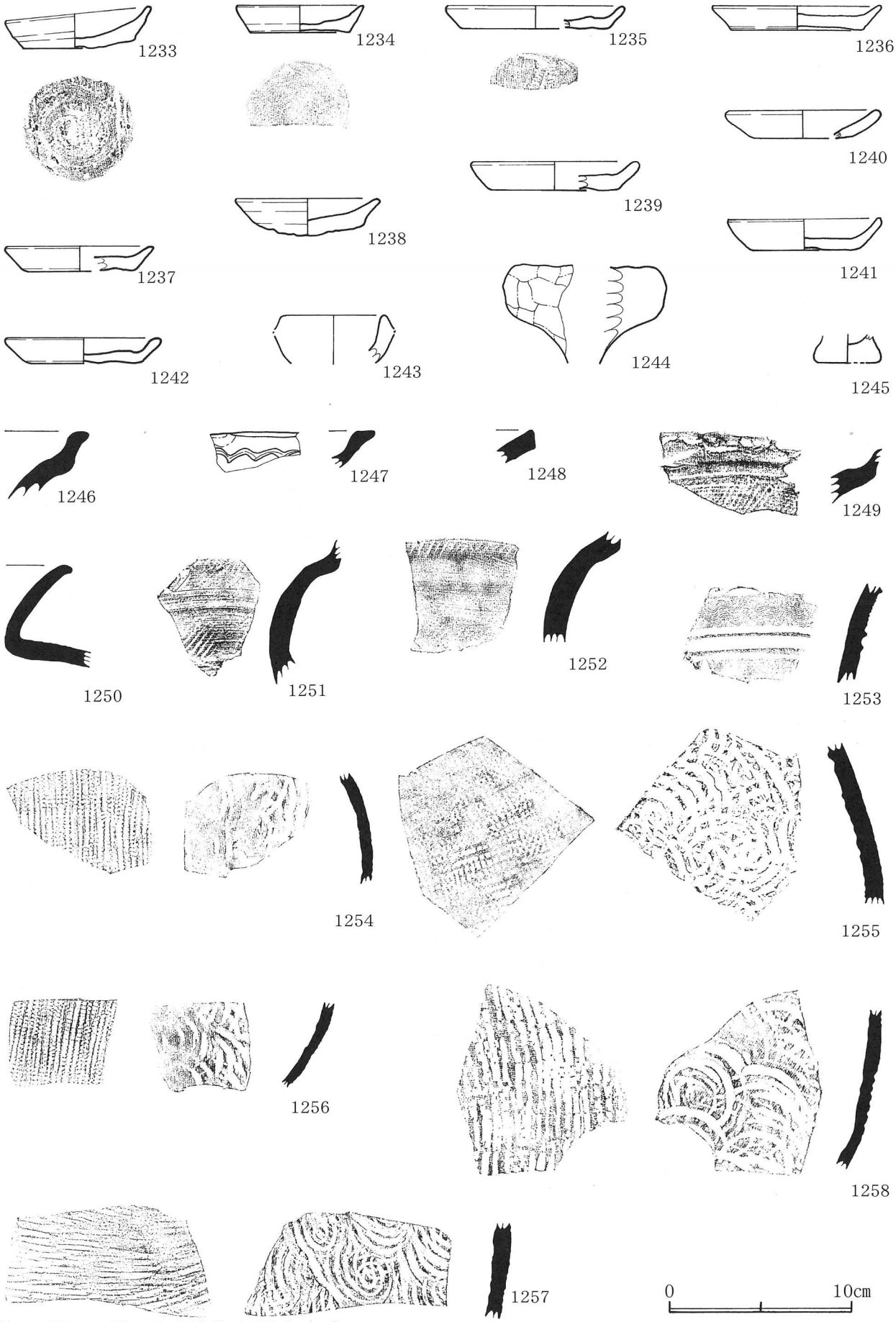
第131図　Ⅱ区　出土遺物実測図（15）

1171:130,1181:415,1186:16



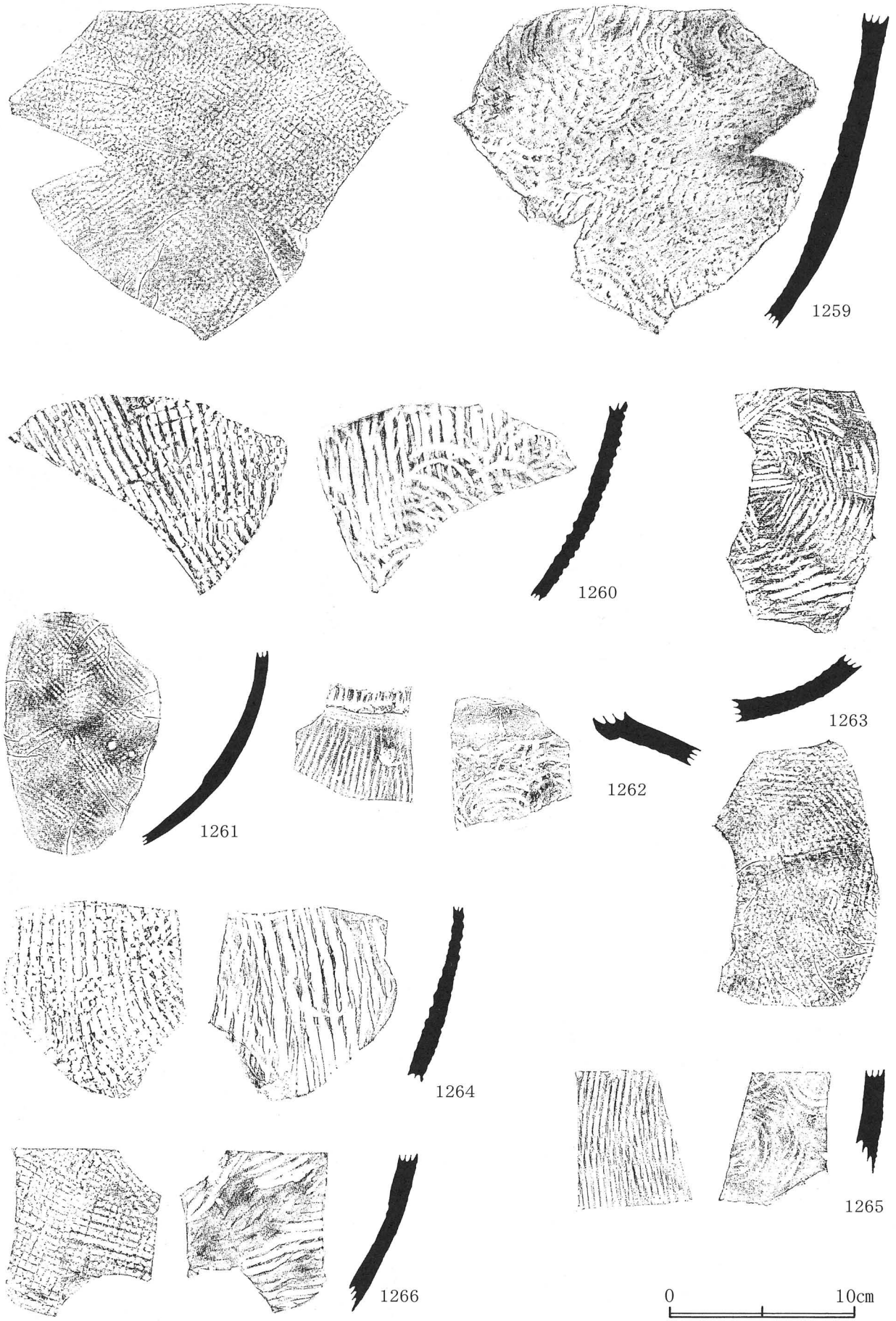
第132図　Ⅱ区　出土遺物実測図（16）

1217:415



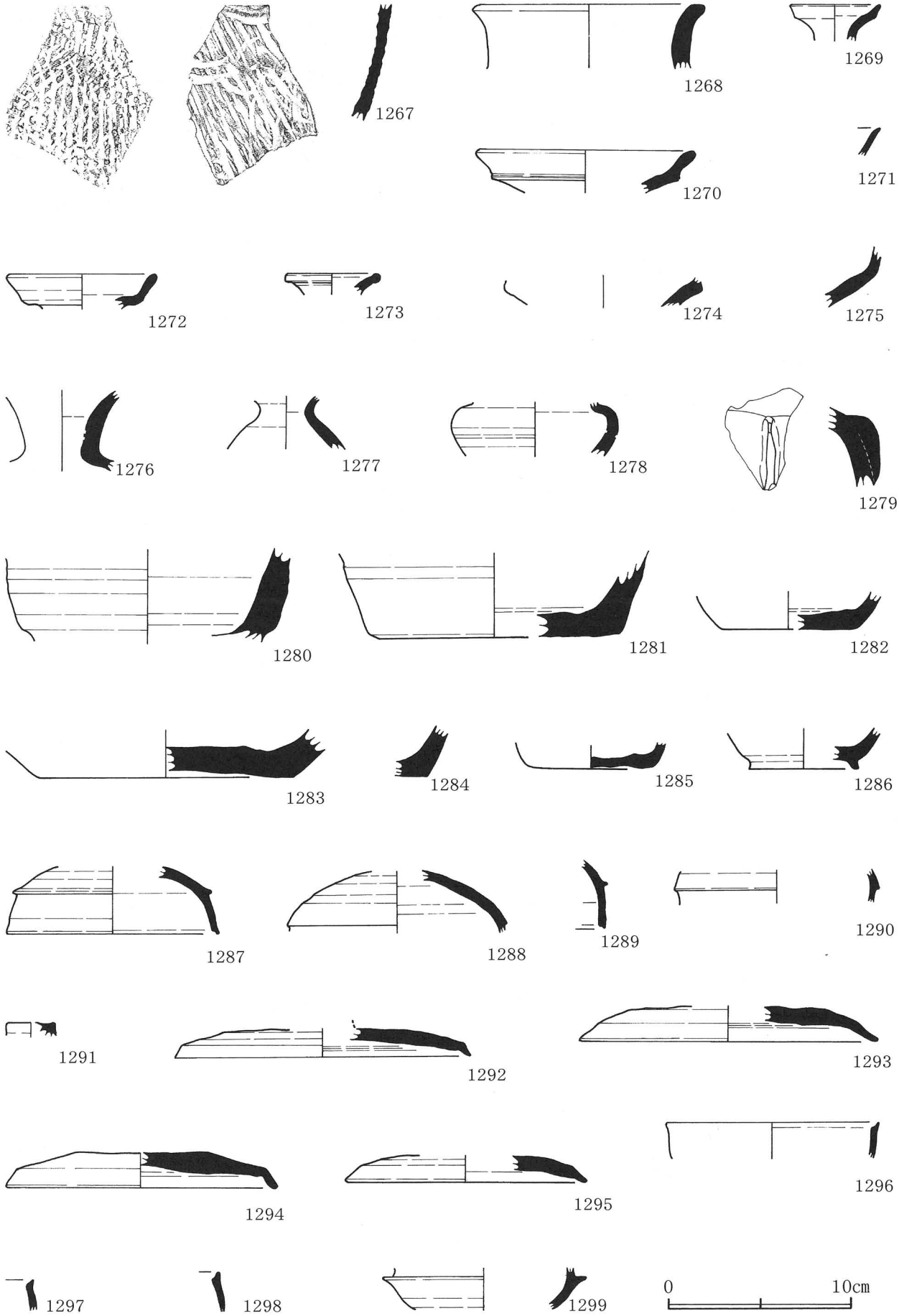
第133図　Ⅱ区　出土遺物実測図（17）

1233:65,1238:422,1239:440



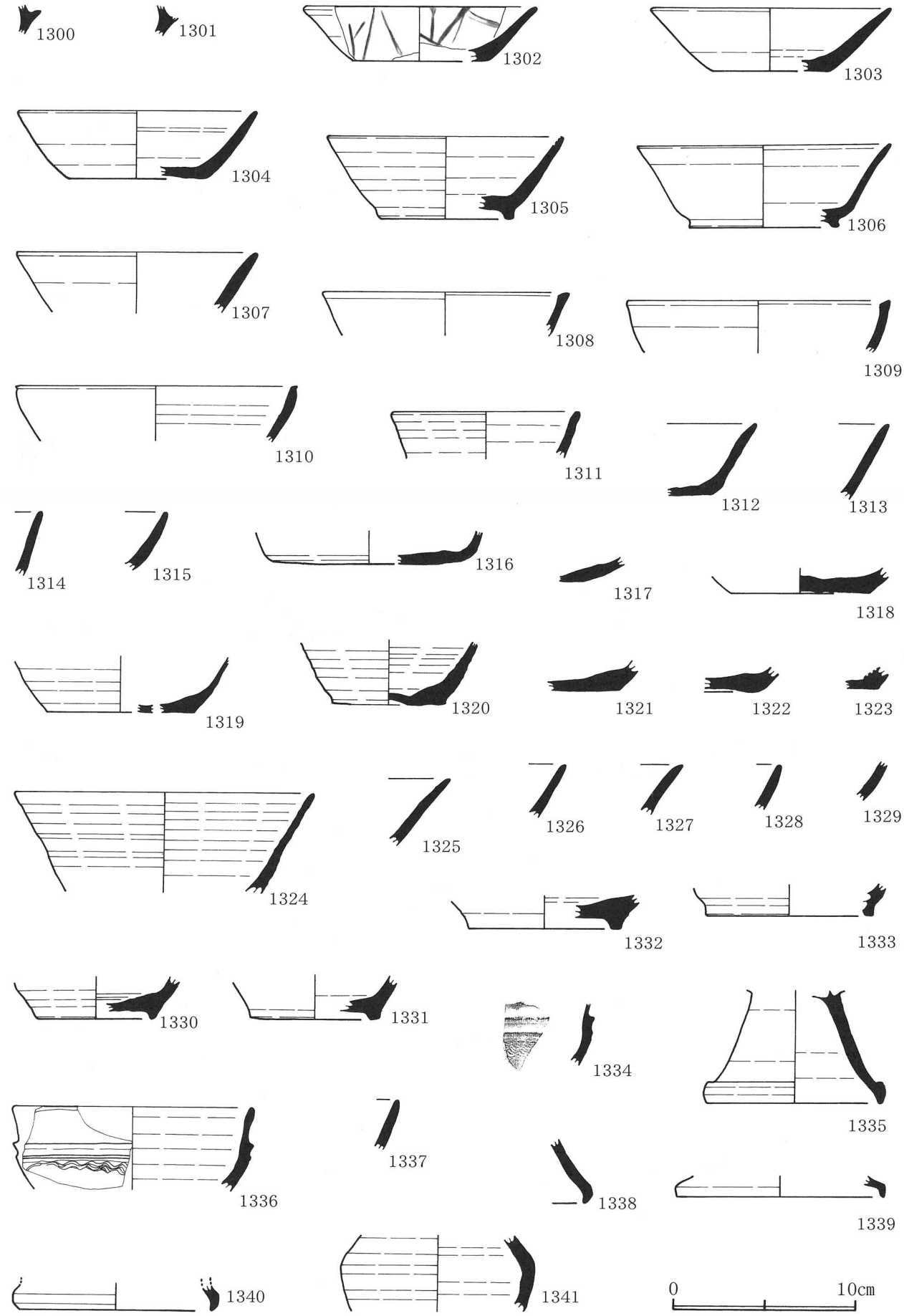
第134図　Ⅱ区　出土遺物実測図（18）

1261：157



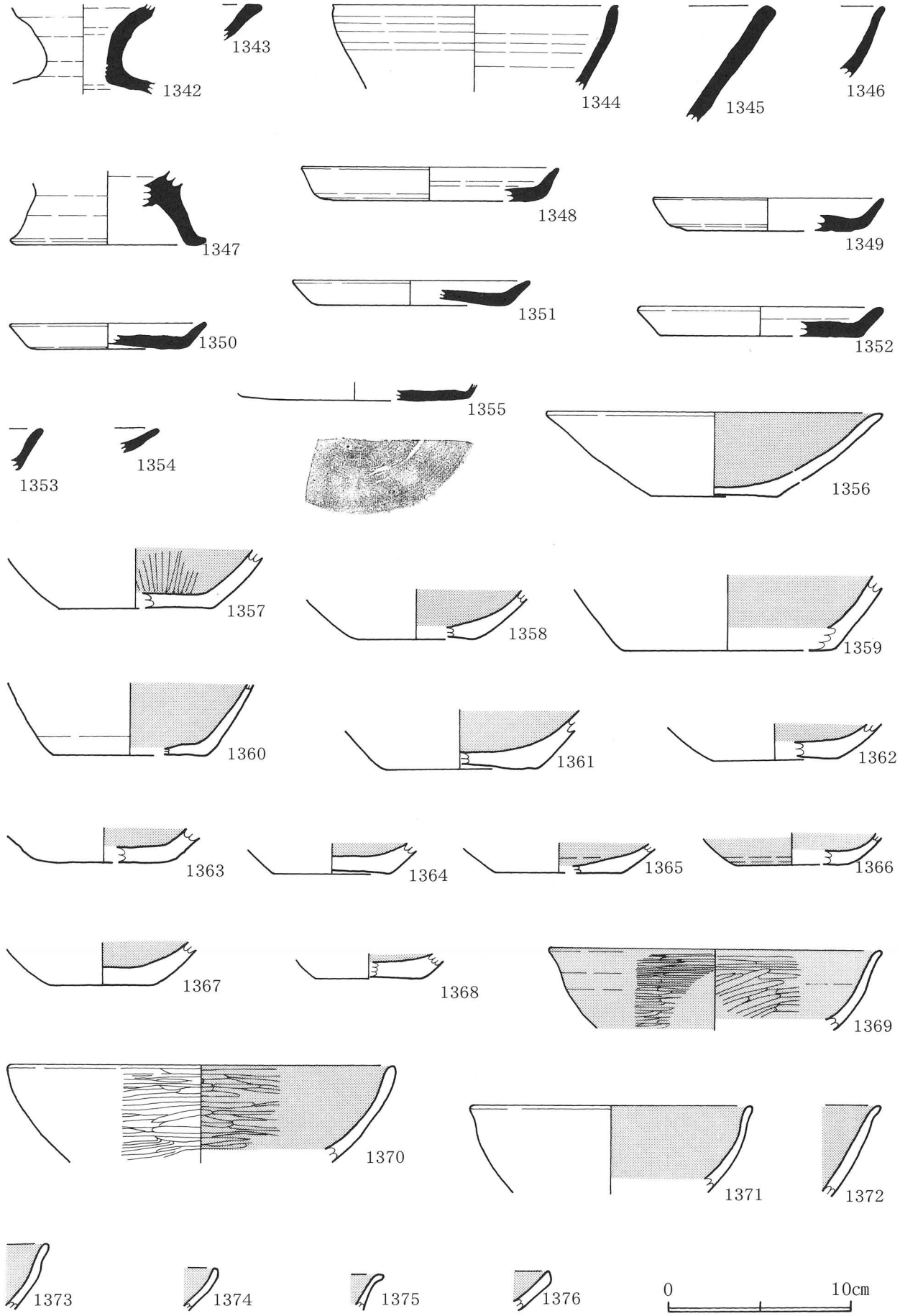
第135図　Ⅱ区　出土遺物実測図（19）

1287：127,1289：Ⅳ層



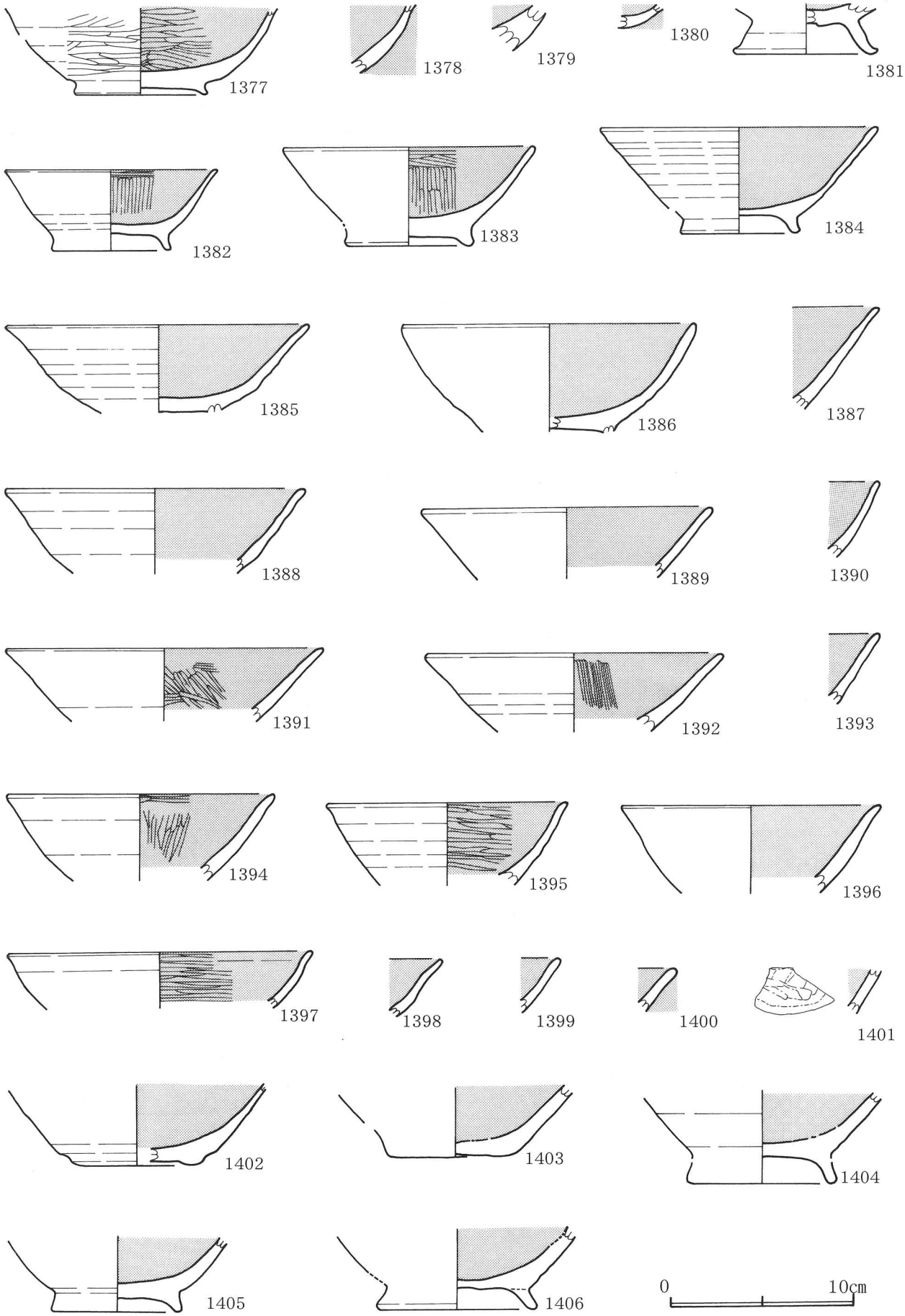
第136図　Ⅱ区　出土遺物実測図（20）

1315～1316：Ⅳ層,1325：49,1341：485



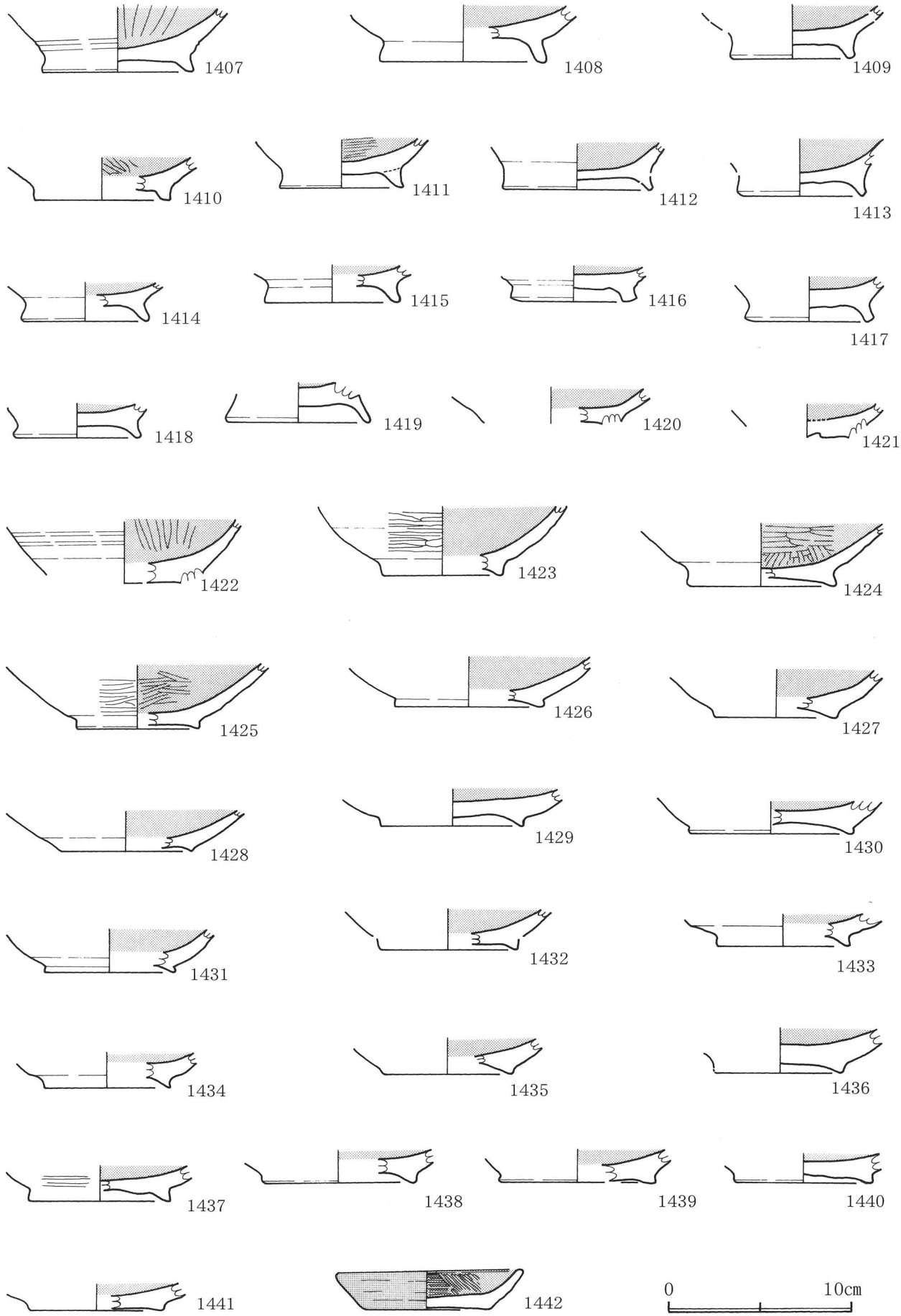
第137図　Ⅱ区　出土遺物実測図（21）

1354：Ⅳ層，1369：448，1376：141



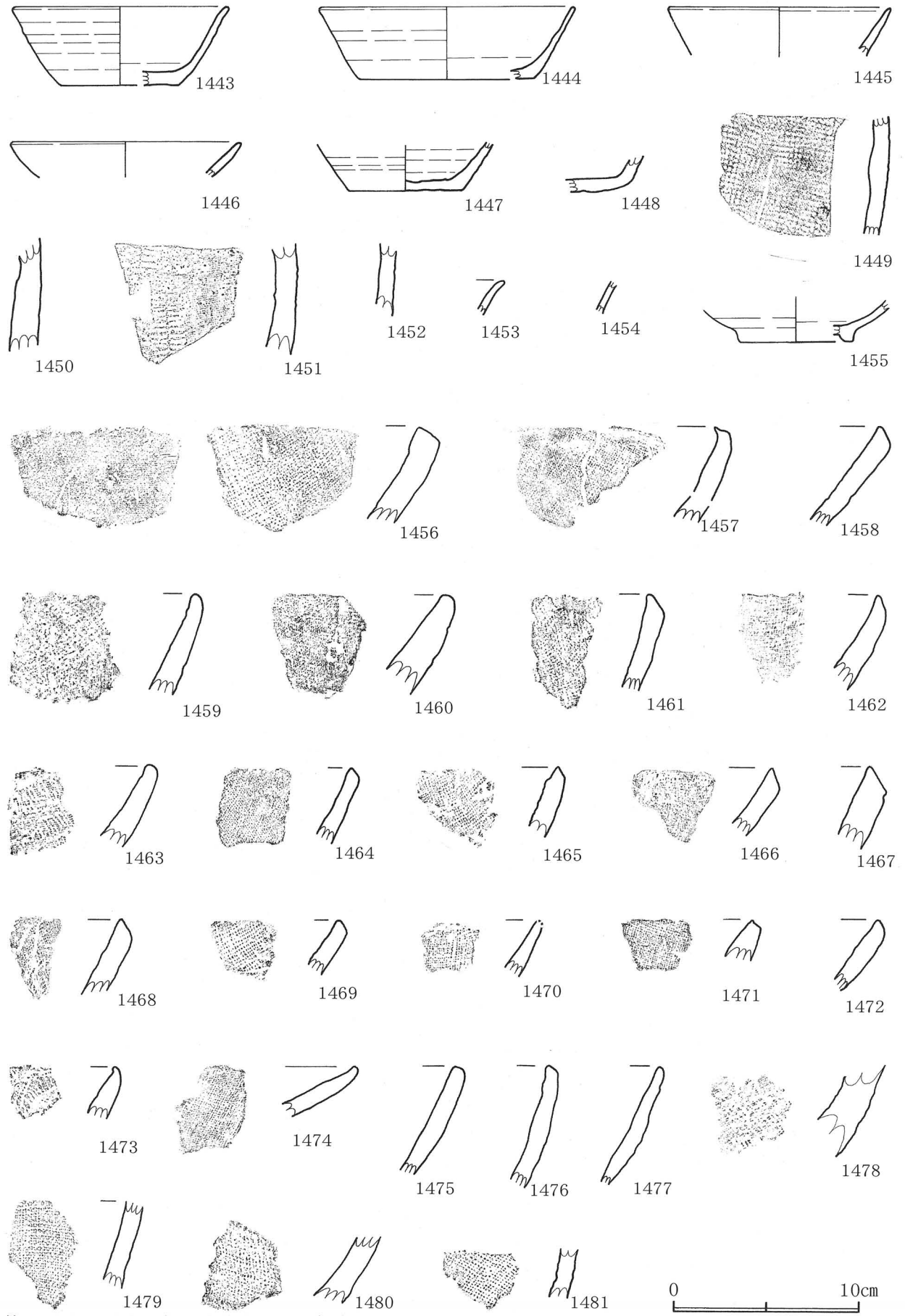
第138図　Ⅱ区　出土遺物実測図（22）

1383：83,1387：525,1402：Ⅳ層



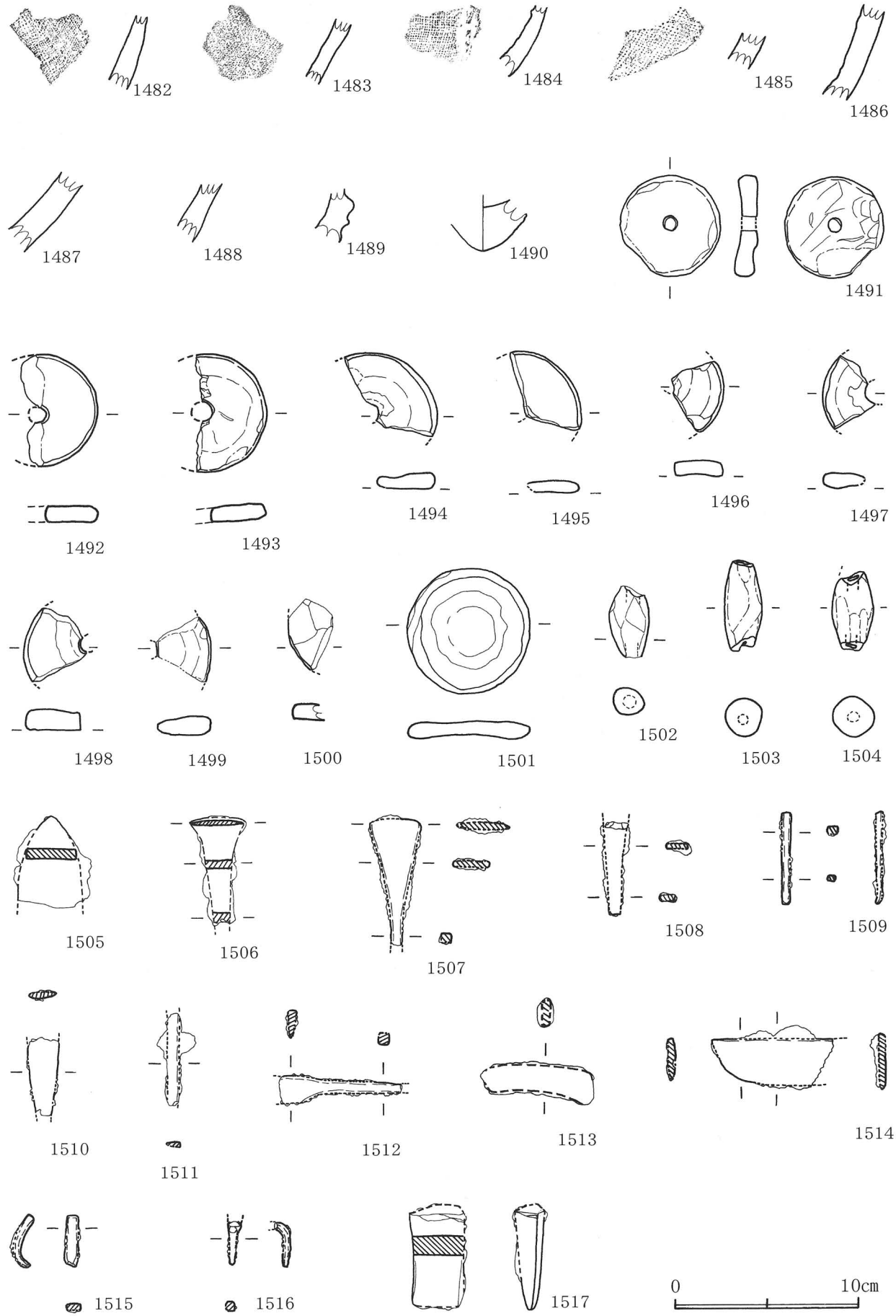
第139図　Ⅱ区　出土遺物実測図（23）

1417:484,1420:303,1422:244,1425:479



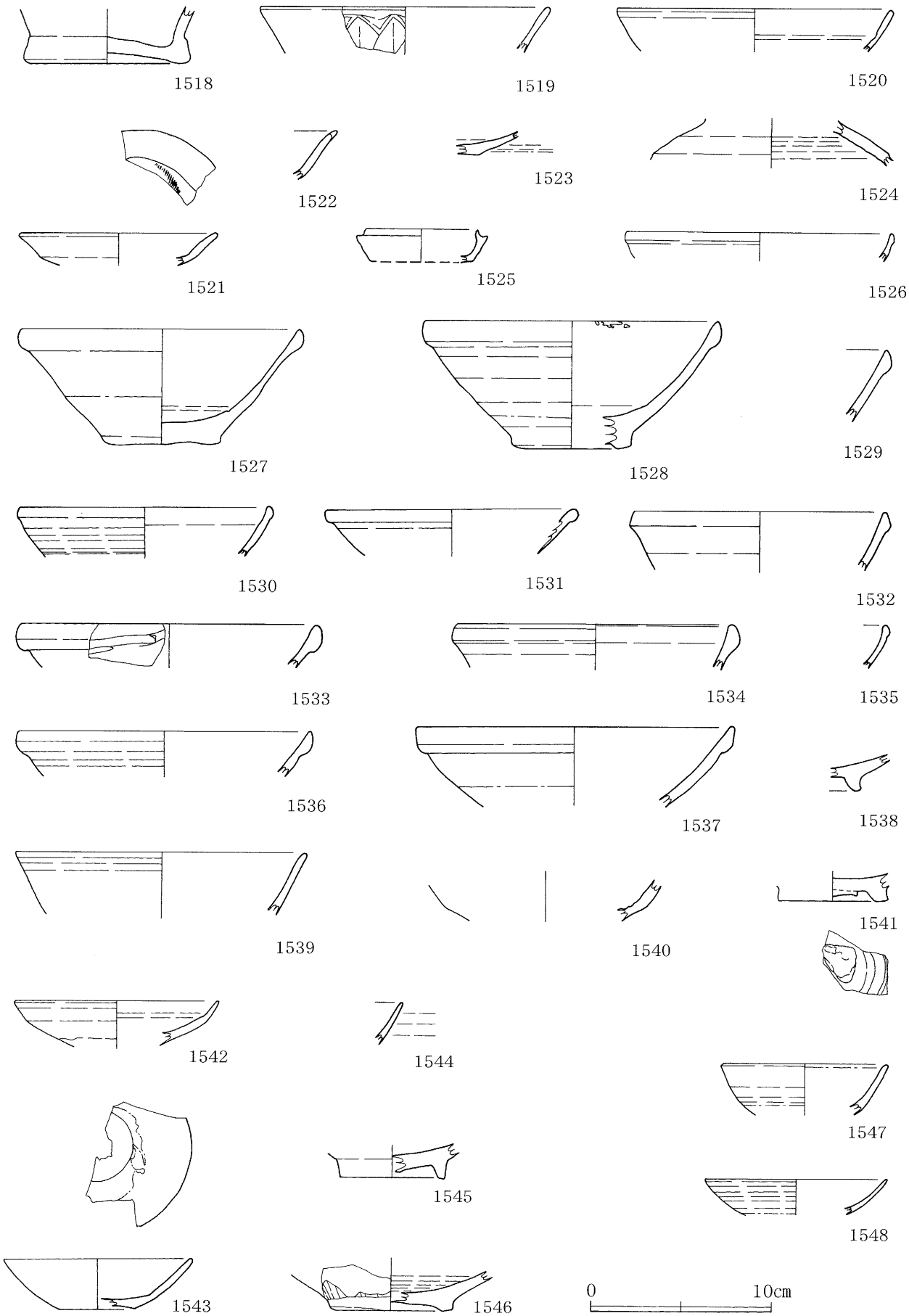
第140図　Ⅱ区　出土遺物実測図（24）

1468:460



第141図　Ⅱ区　出土遺物実測図（25）

1507:154,1509:326,1512:397



第142図　Ⅱ区　出土遺物実測図（26）

1518:SZ-02,1522:143,1527～1528:SZ-01,1540:SK-214,1548:SK-219

第143図　Ⅱ区　出土遺物実測図（27）

た。

ＳＫ－296（第112図）

Ⅱ区の中央部東側で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.83m、短径0.72m、検出面から床面までの深さは12cmを測る。遺物は、土師器の鉢と布痕土器が出土し、時期は12世紀と思われる。

ＳＫ－297

Ⅱ区の中央部東側、ＳＫ－296の西0.6mで検出された、円形を呈する土坑である。規模は、径0.68m、検出面から床面までの深さは15cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

ＳＫ－298（第112図）

Ⅱ区の中央部やや東側ＳＫ－192の南3.5mで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.77m、短径0.71m、検出面から床面までの深さは30cmを測る。遺物は、弥生土器の甕の口縁部片、土師器の甕、磨製石鏃未製品が出土した。

ＳＫ－299

ＳＫ－298の南1.1mで検出された、円形を呈する土坑である。規模は、径0.98m、検出面から床面までの深さは12cmを測る。遺物は、土師器の甕と黒色土器の椀、布痕土器が出土した。

ＳＫ－301

Ⅱ区の南部東側の拡張部で検出された、円形を呈する土坑である。規模は、径0.92m、検出面から床面までの深さは16cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

ＳＫ－302

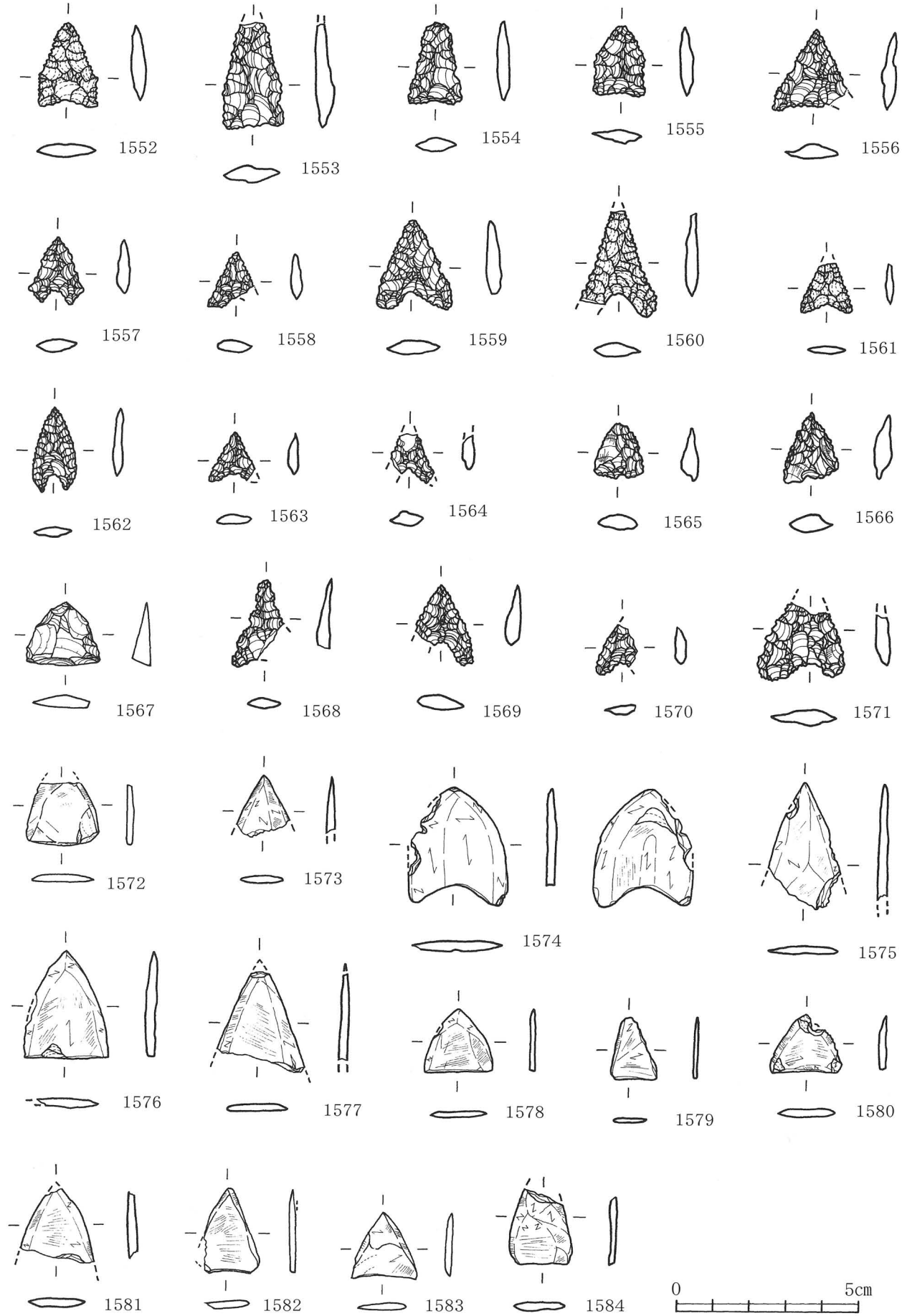
Ⅱ区の中央部やや西側、ＳＫ－283の北東２mで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.38m、短径1.18m、検出面から床面までの深さは28cmを測る。遺物は、弥生土器の甕の口縁部片が出土した。

ＳＫ－307

Ⅱ区の南部中央、ＳＫ－232の北1.1mで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.92m、短径0.67m、検出面から床面までの深さは24cmを測る。遺物は、土師器の壷の口縁部片が出土した。

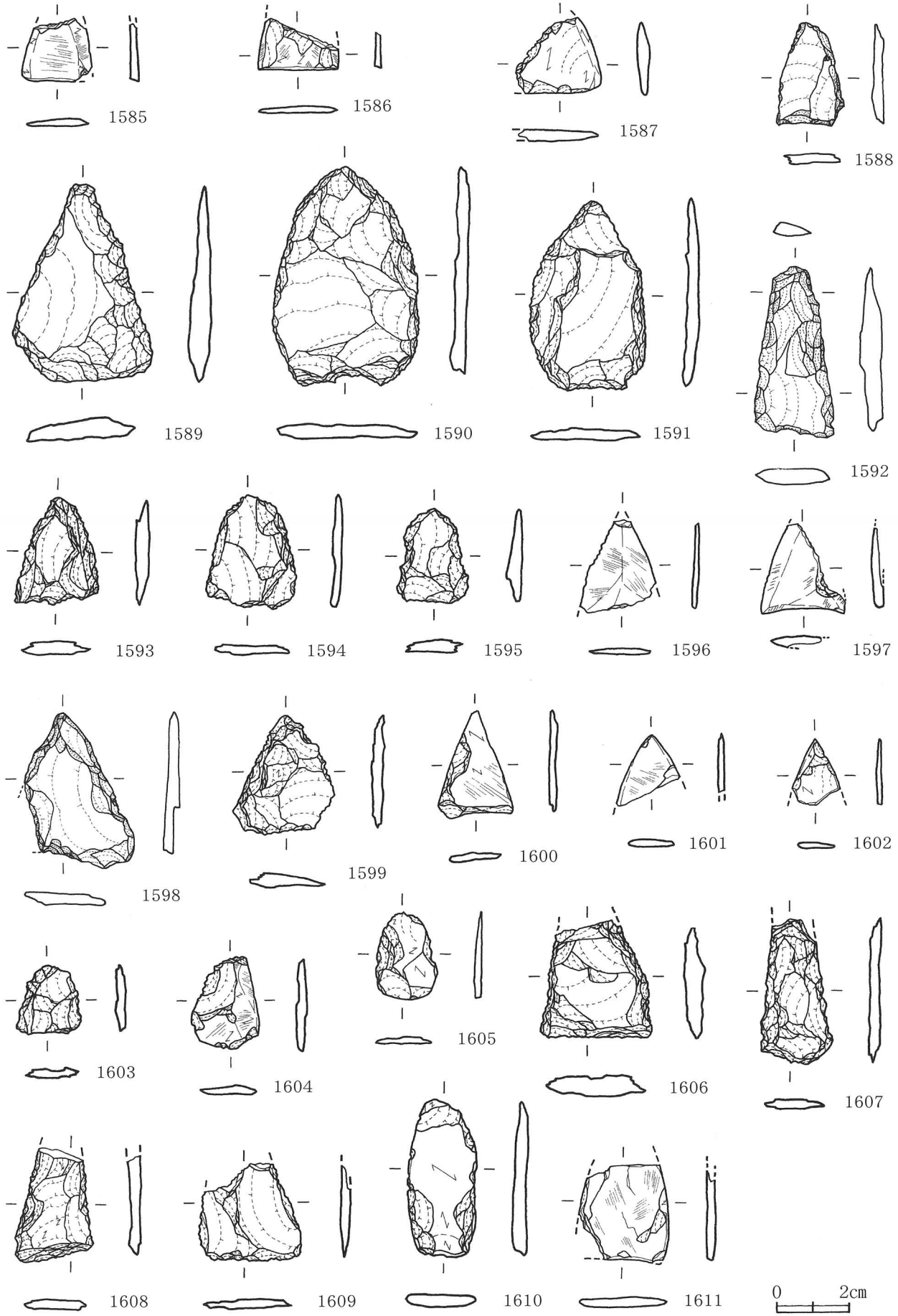
ＳＤ－10

Ⅲ区の西部で検出された、東西にのびる溝状遺構で、現存で、長さ約９m、幅１m、深さは45～



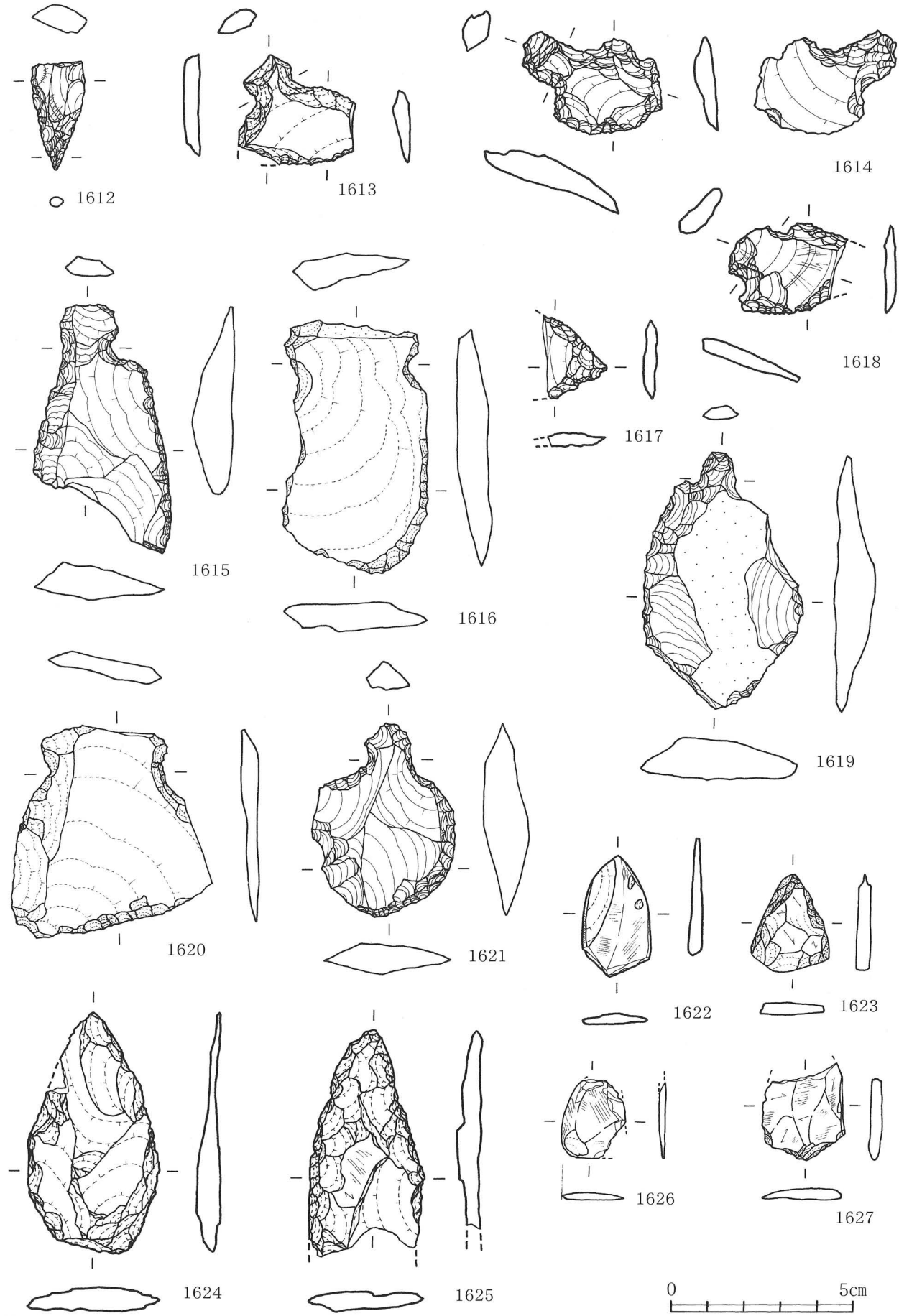
第144図　Ⅱ区　出土遺物実測図（28）

1552：SZ-01，1559・1582～1583：Ⅳ層，1564：風倒木，1565：SA-10，1566・1573：SA-23下層，1572：SA-16，1574：SK-50，1575：SK-161



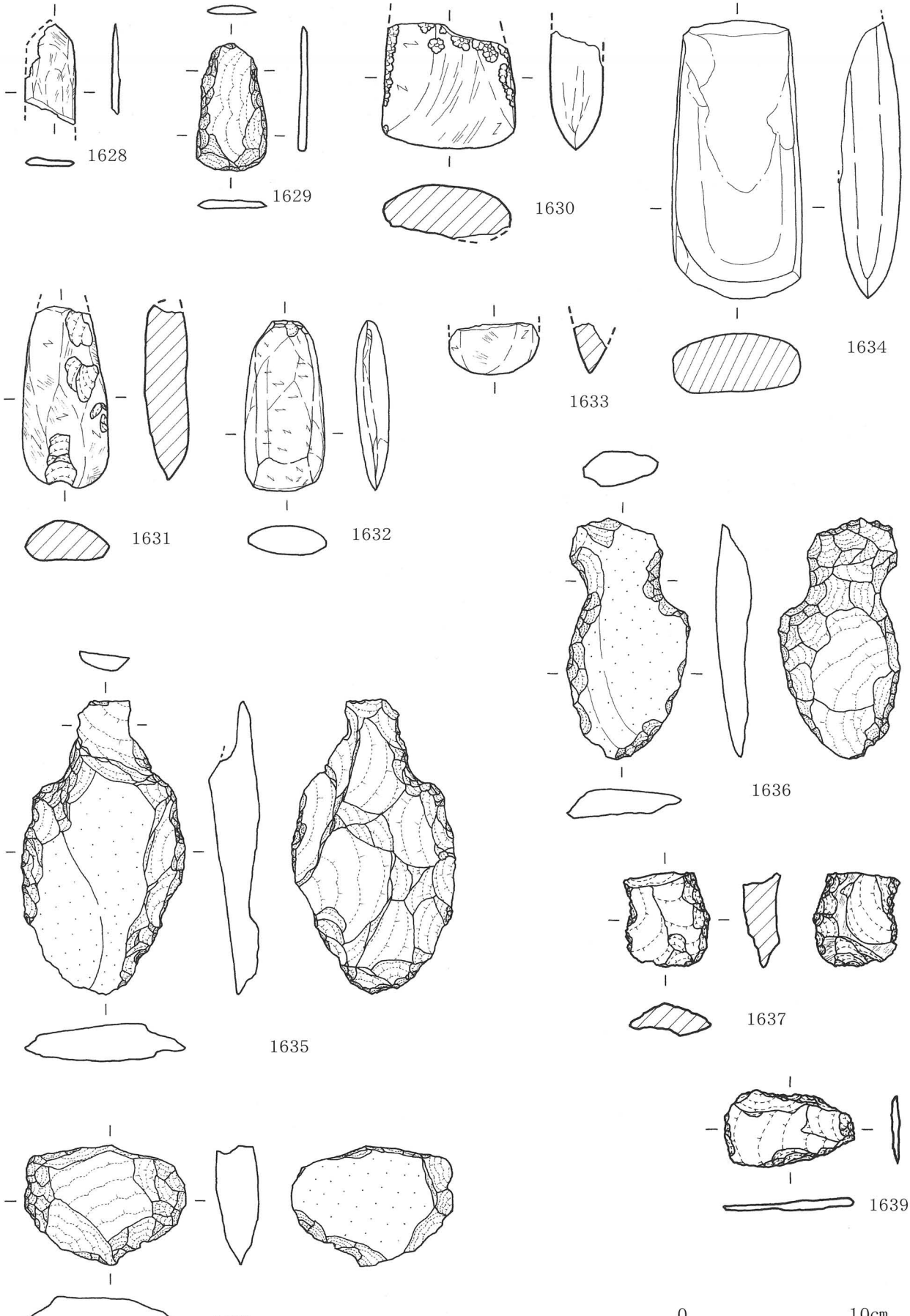
第145図　Ⅱ区　出土遺物実測図（29）

1588:SA-14,1589:SK-298,1600:500



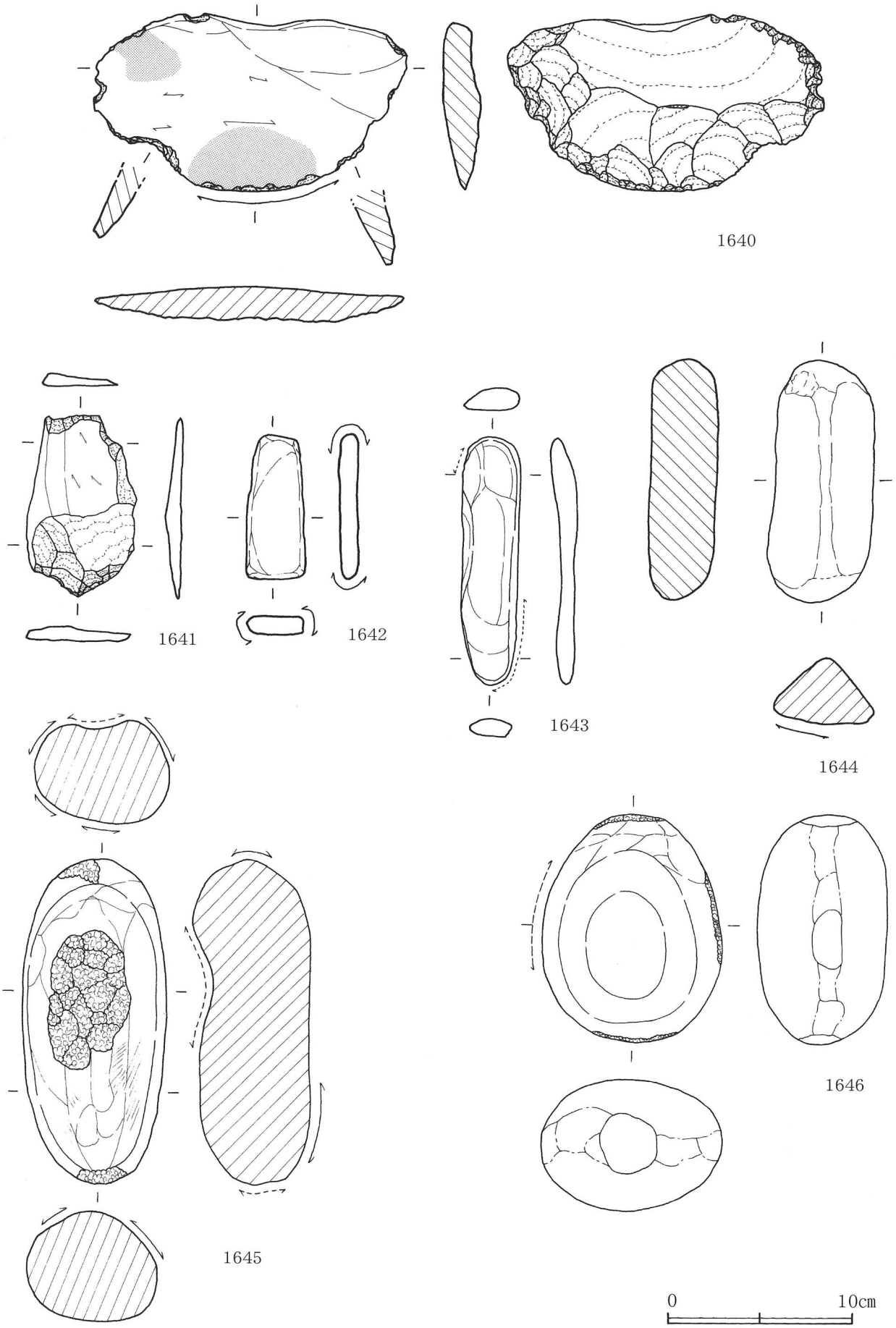
第146図　Ⅱ区　出土遺物実測図（30）

1623：SA-22,1624～1625：SA-33,1626：Ⅳa層,1627：SA-16中層



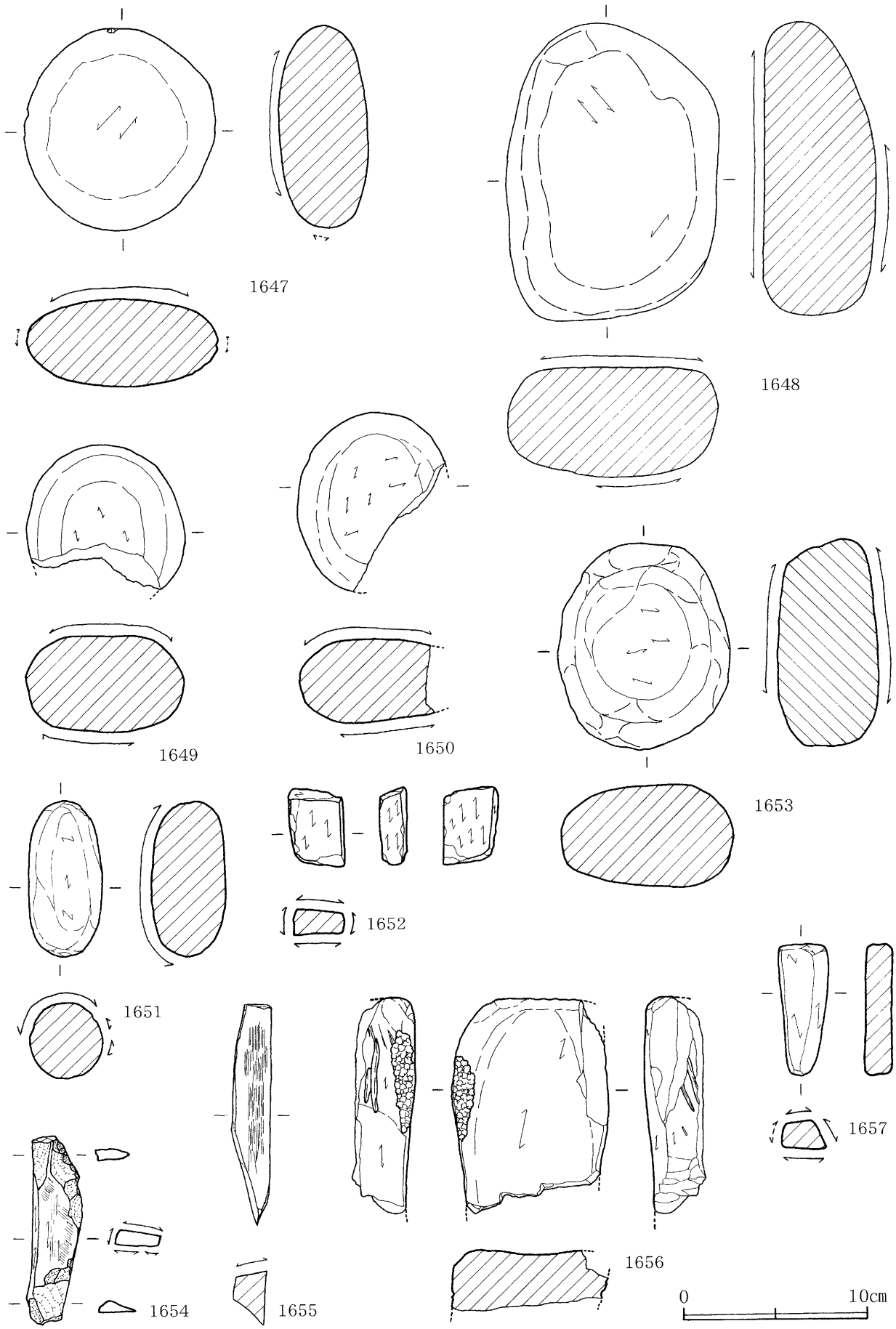
第147図　Ⅱ区　出土遺物実測図（31）

1628：SA-24,**1630**：SA-09,**1631**：SA-29,**1633**：SA-14,**1634**：Ⅳ（Ⅷ）層,
1635：Ⅳ層,**1637**：SA-24上層,**1639**：SA-20



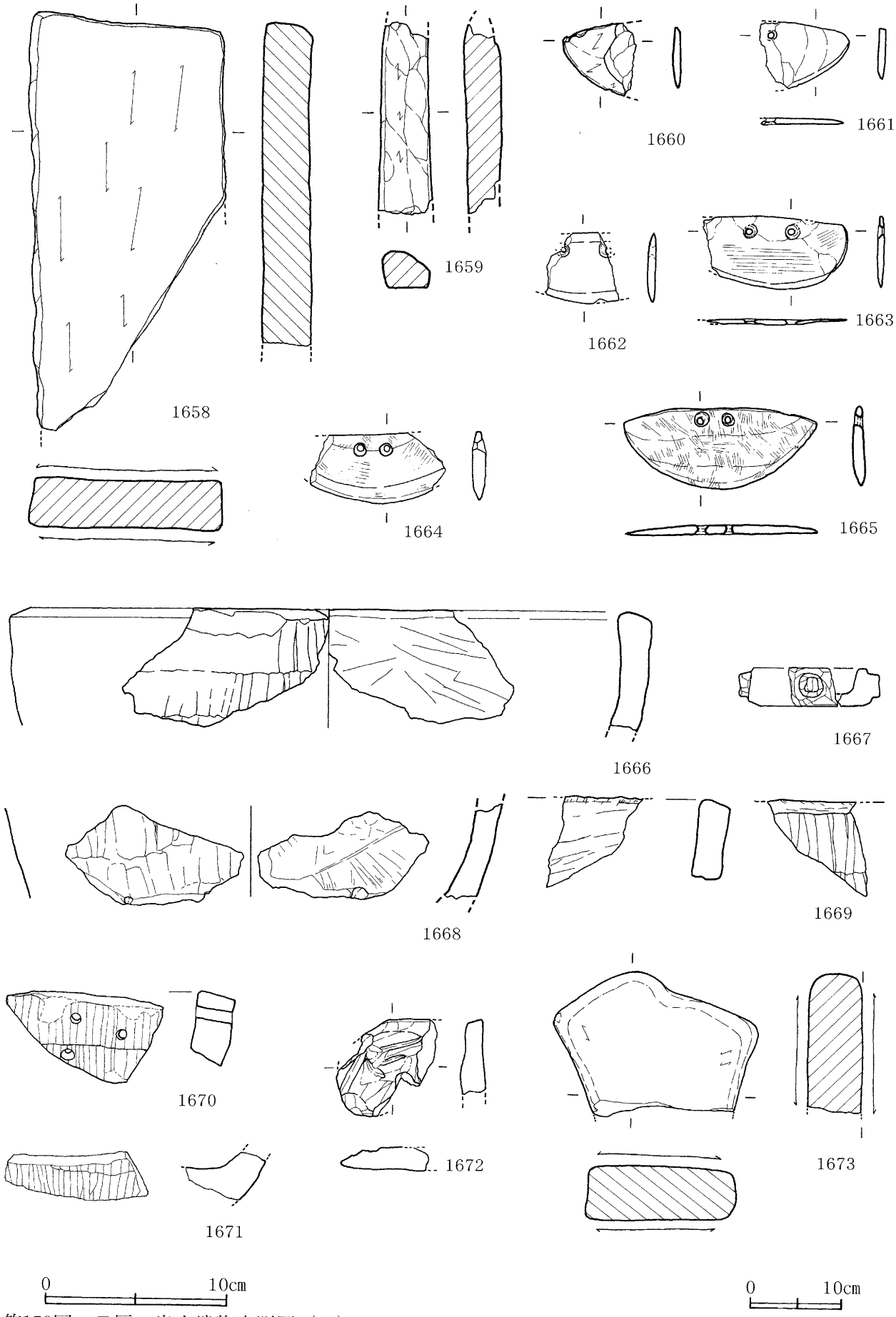
第148図　Ⅱ区　出土遺物実測図（32）

1642：Ⅳ層，**1644**：SA-10，**1645**：SA-15，**1646**：SK-179



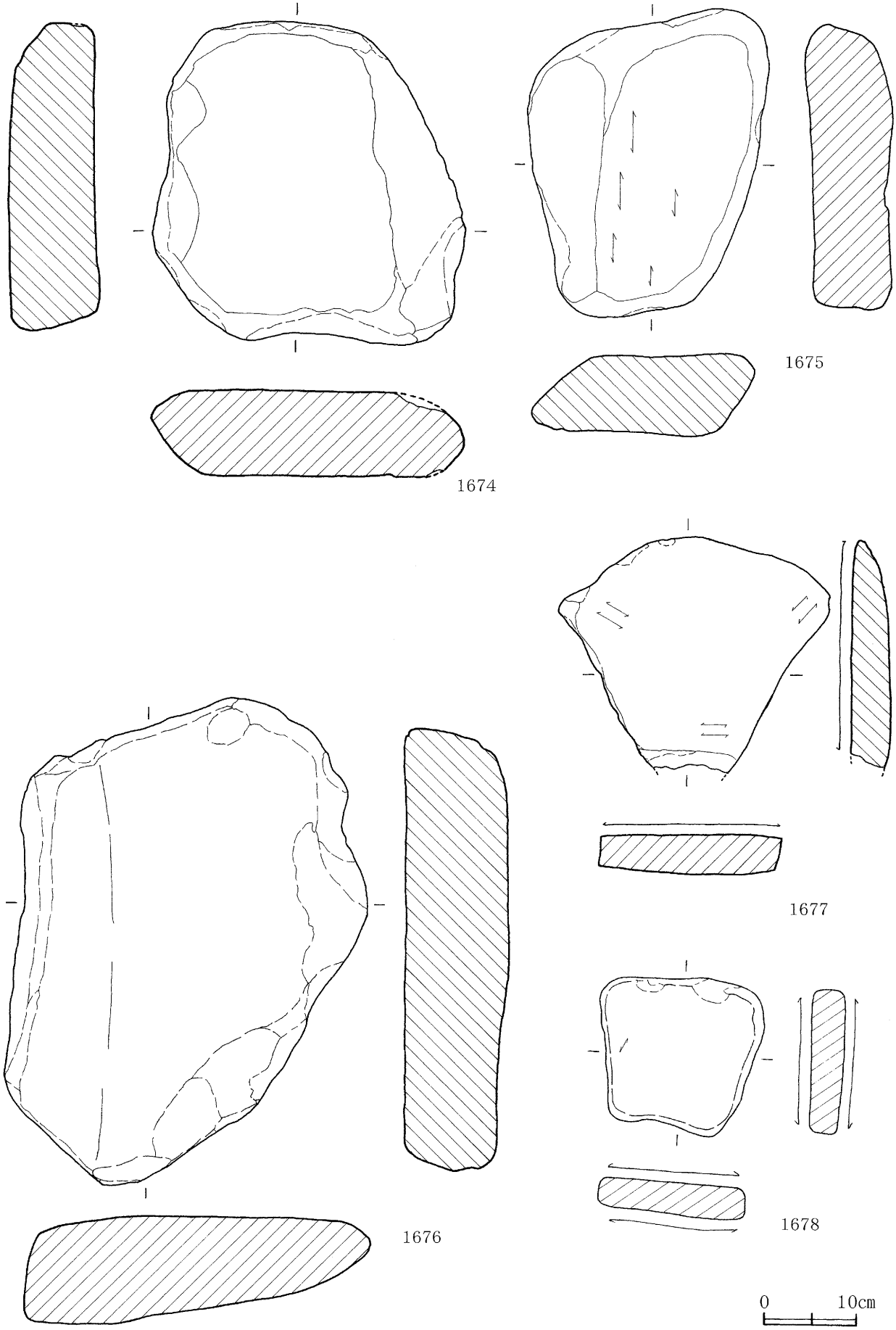
第149図　Ⅱ区　出土遺物実測図（33）

1647：Ⅳ層，1648：SA-30，1651：SA-15，1652：SK-272，1655：SA-10



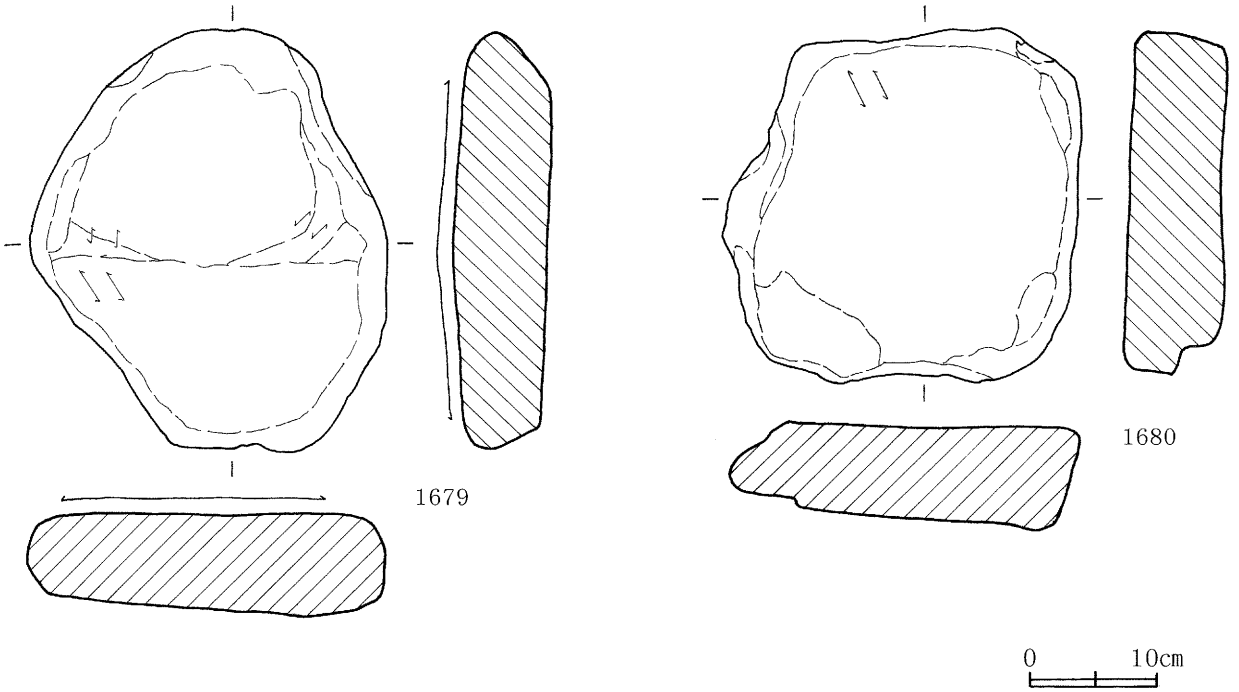
第150図　Ⅱ区　出土遺物実測図（34）

1663:174,1665:SA-25,1673:SA-14



第151図　Ⅱ区　出土遺物実測図（35）

1674:SA-08,1675:SA-23,1676:SA-25,1677:SA-19,1678:SA-20



第152図　Ⅱ区　出土遺物実測図（36）　1679:SA-24,1680:SA-10

56cmを測る。遺物は縄文後期の土器片が２点出土した。

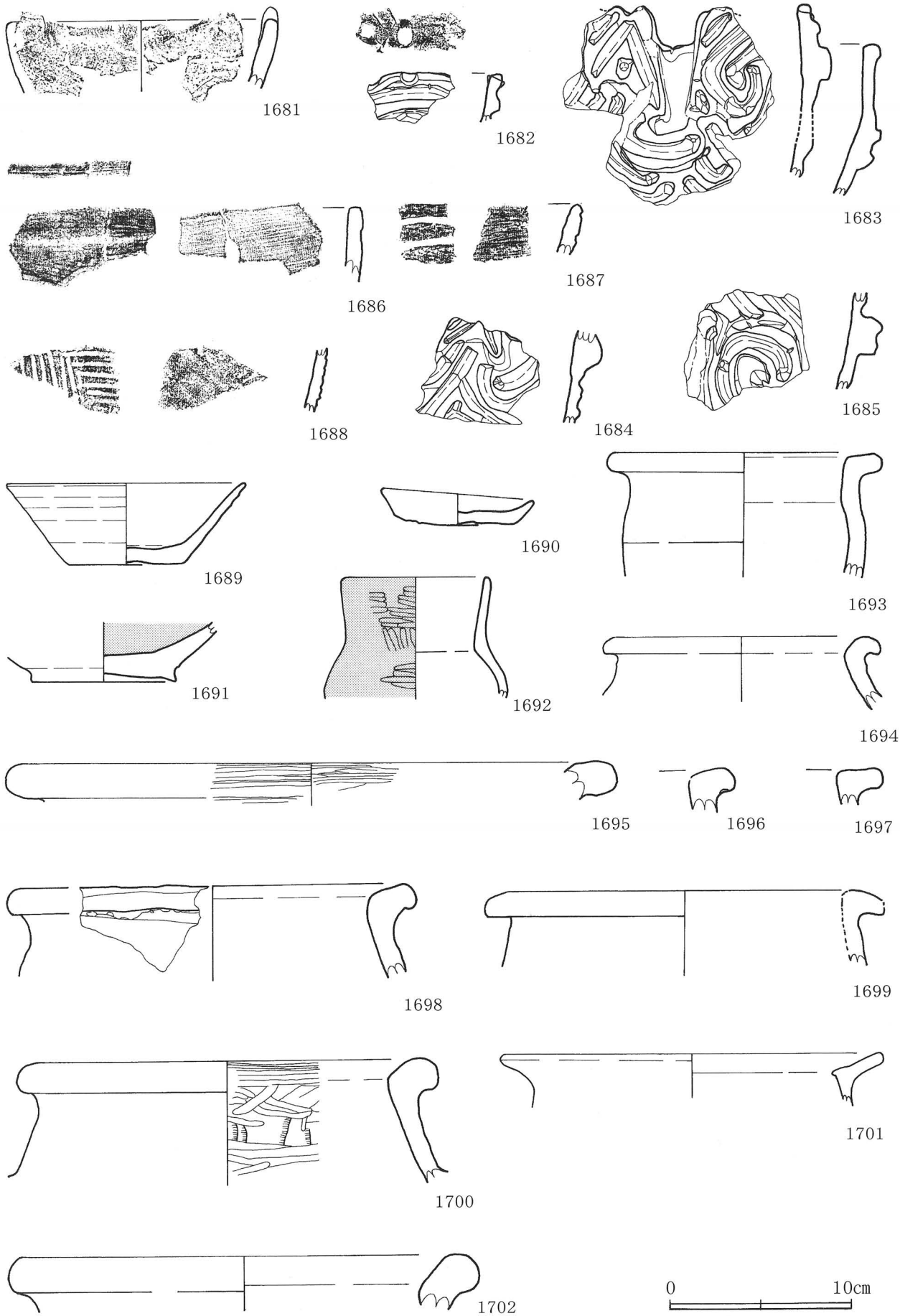
ＳＤ－11

Ⅲ区の西部で検出された、南北にのびる溝状遺構で、現存で、長さ約10m、幅0.8～１m、深さ45～50cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

出土遺物

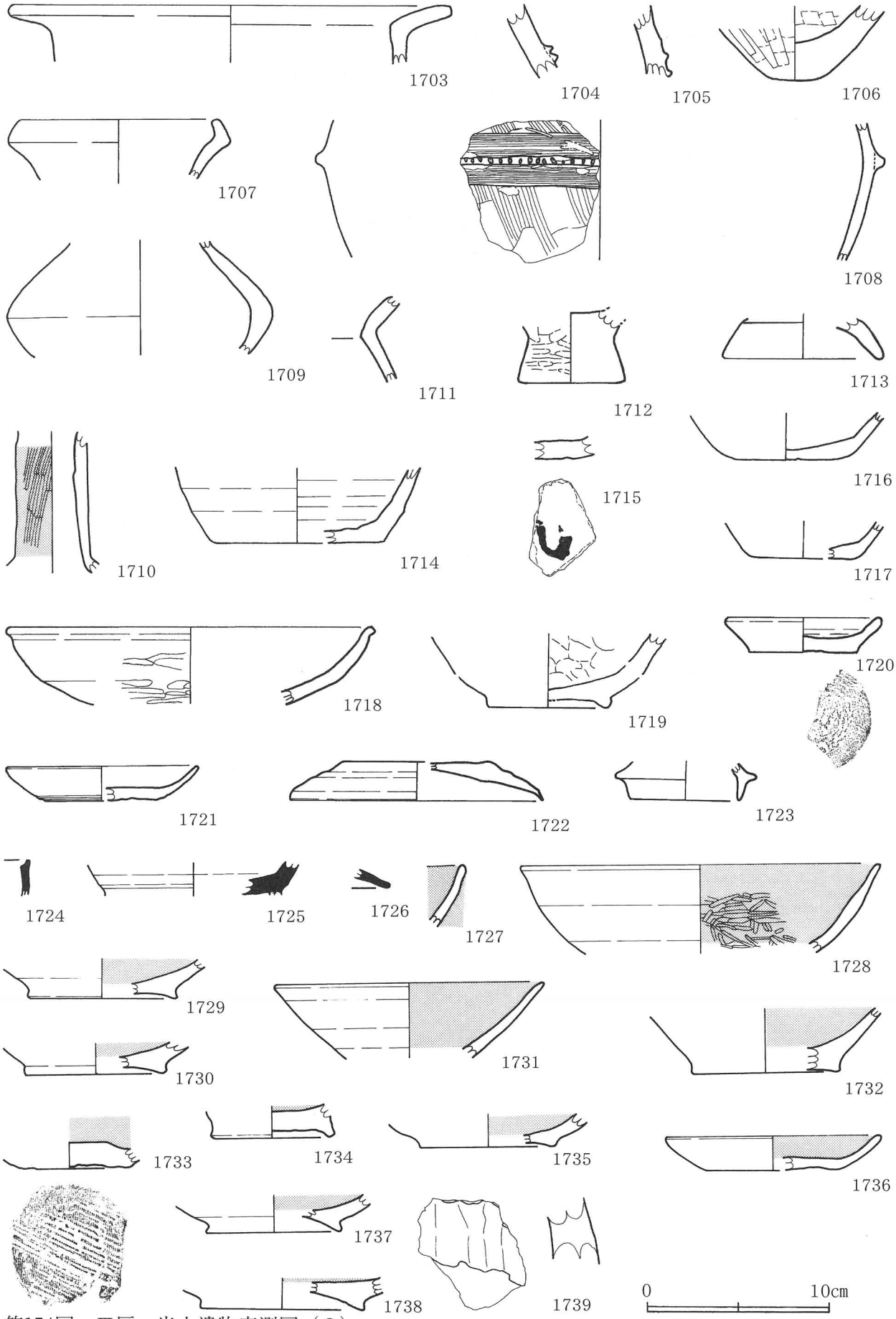
Ⅱ～Ⅲ区では、Ⅲｃ層上面での遺構検出、同層の掘り下げ、Ⅳ層上面での遺構検出の際、縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・土師質土器・黒色土器・瓦器・国産陶器・輸入陶磁器や鉄器、石器などが大量に出土した。

縄文土器は、出土量は少量であるが、沈線文によって施文される曽畑式土器に先行する早期の土器や後期から晩期の土器片が出土した。弥生土器は、出土量は多く、甕・壷・高坏などの土器片が出土しており、特に甕の口縁部が多く出土した。黒髪式土器や免田式土器がみられる。土師器は、甕・壷・高坏・鉢・埦・蓋・皿などの土器片が多く出土しており、甑の把手が１点出土した。甕の胴部に彩文を施したものが１点出土しており、丹塗りの壷・高坏・鉢などもみられる。また、墨書土器が５点出土した。坏や埦の体部外面に墨書は書かれているが、破片で墨書全体が残っていないため、釈文は不明である。須恵器は、甕・壷・蓋坏・高坏・埦・瓶・皿などの土器片が出土した。甕の胴部の叩きは、外面は、格子叩きと並行叩きで、格子叩きは目の細かいものと粗いものがみられる。内面は、同心円文・平行文の当て具痕の２種類がみられる。土師質土器は鉢と皿の土器片が少量出土しただけである。黒色土器Ａ類・黒色土器Ｂ類は鉢や坏・埦の土器片が出土した。瓦質土器は甕・埦・皿の土器片が８点出土しただけである。国産陶器は甕・壷の破片が２点出土しただけ

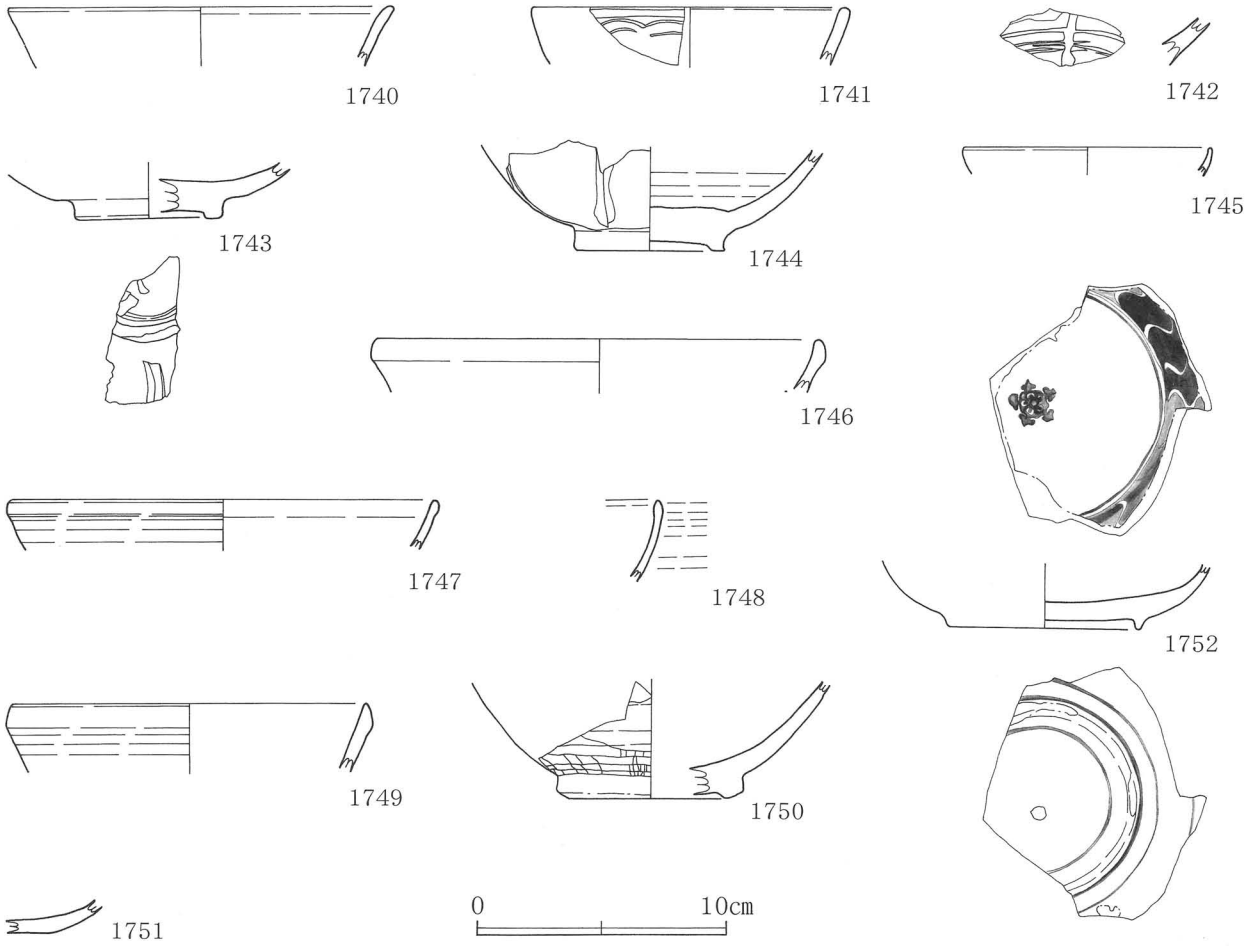


第153図　Ⅲ区　出土遺物実測図（1）

1681・1686：SD-09,**1687**：Ⅳ層,**1689**：SK-256,**1690・1691**：SK-265,
1692：SK-307・ベルト内



第154図　Ⅲ区　出土遺物実測図（2）



第155図　Ⅲ区　出土遺物実測図（３）

である。また、緑釉陶器の埦の破片が３点出土した。布痕土器や紡錘車、土盤、土錘などの土製品も出土した。輸入陶磁器は、青磁の瓶壷類・碗・束口碗・皿・小皿、白磁の瓶壷類・碗・皿・口禿小皿、青白磁の合子、青花の皿が出土した。

石器は、打製石鏃・磨製石鏃・石鏃未製品・磨製石鏃未製品、石匙・石匙未製品、石錐、扁平打製石斧、磨製石斧、刃器・大型刃器、石包丁、磨石、敲き石、砥石、剣型垂飾品と思われるもの、器面調整具と思われるもの、石製模造品と思われるもの、礫器未製品、用途不明未製品、石鍋・石鍋片再加工品、温石が出土した。

第６節　Ⅳ区の調査

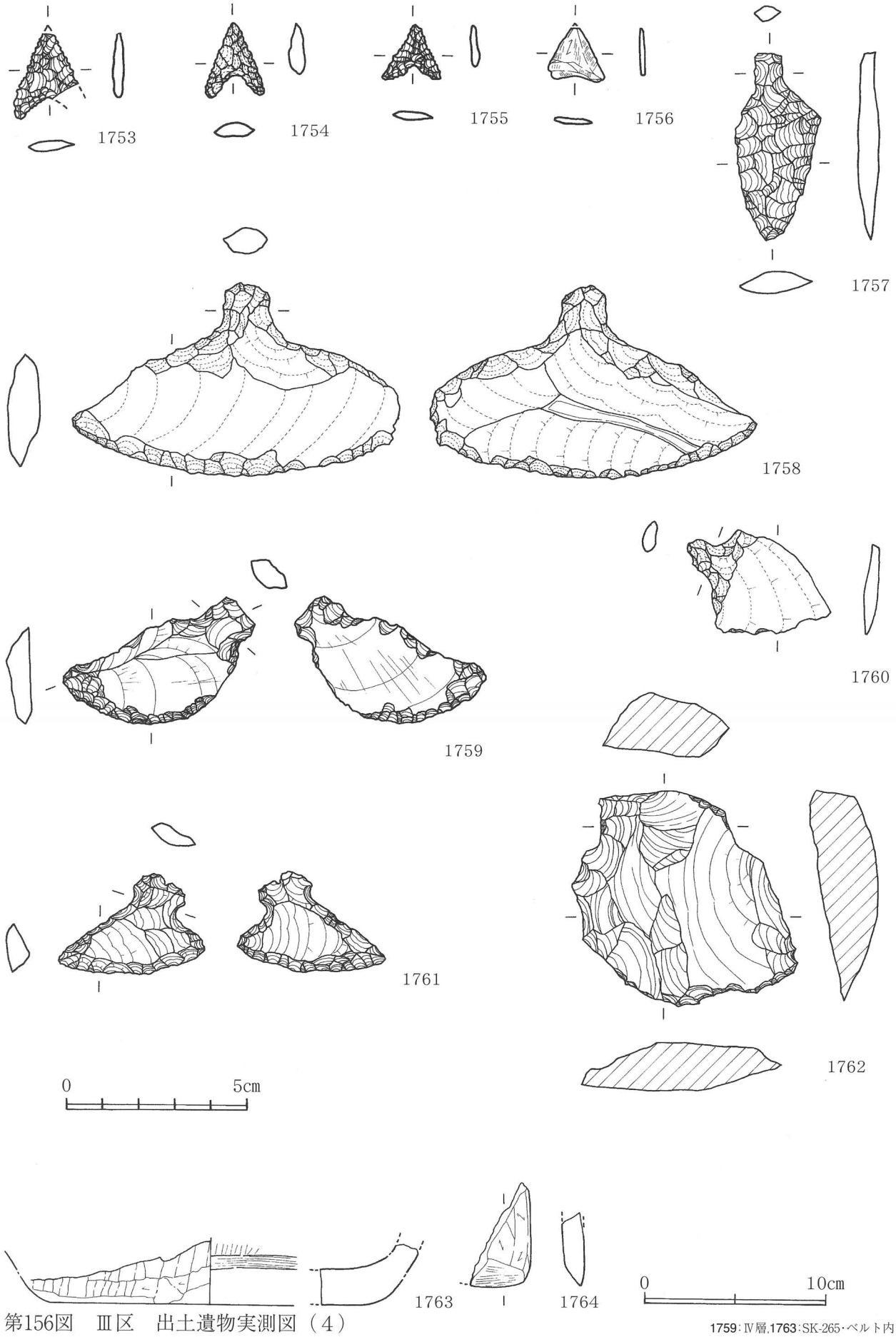
調査は、重機でⅢｂ層まで剥いで、遺構検出は、Ⅲｃ層上面とⅣ層上面で行った。その結果、竪穴住居13基、土坑・土壙墓18基、掘立柱建物24棟、溝状遺構６条、柱穴などを検出した。

古墳時代

Ⅳ層上面で遺構検出を行った結果、竪穴住居が13基検出された。

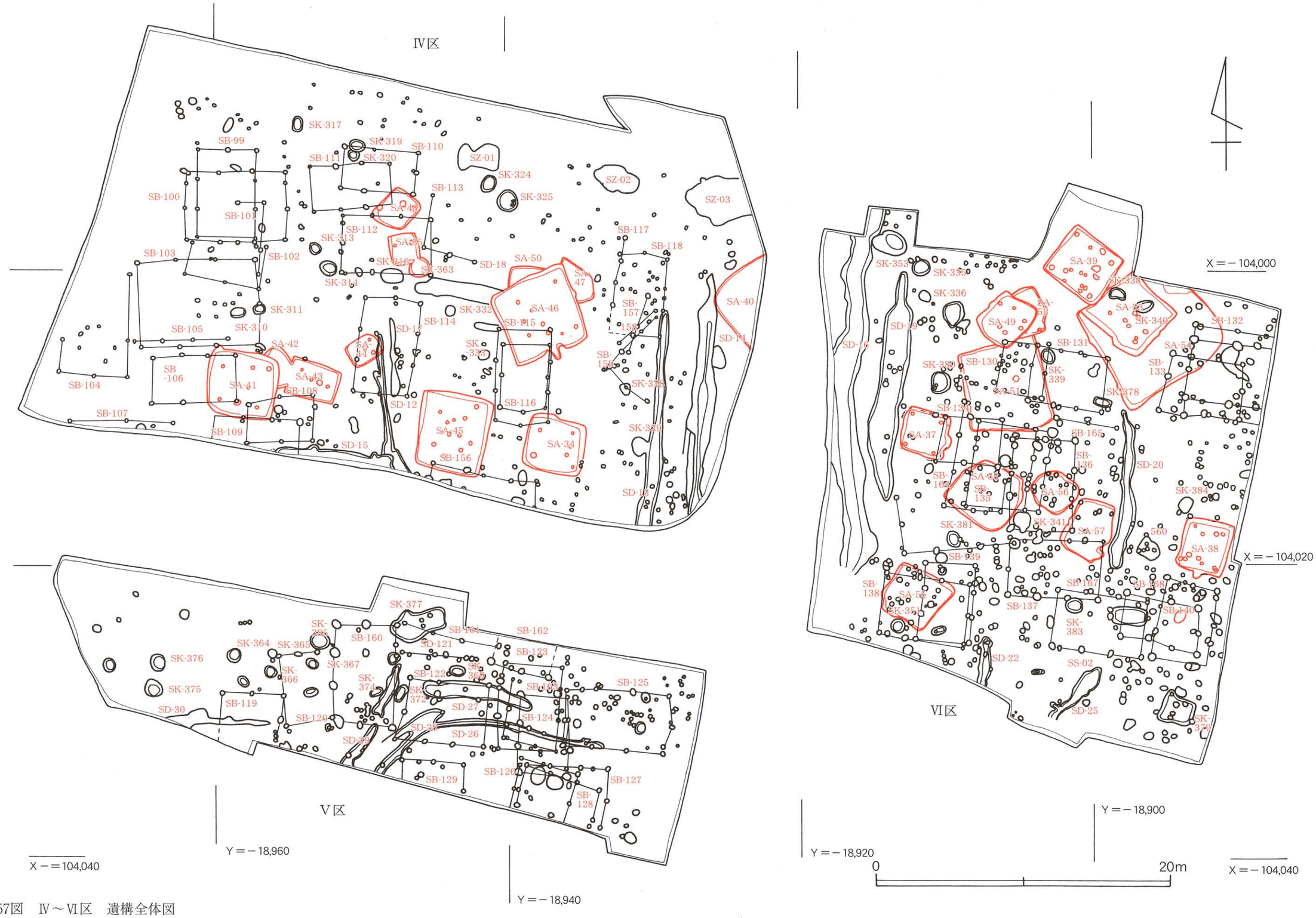
ＳＡ－34（第161・164図）

調査区の南部東側で検出された、方形を呈する住居である。規模は、3.42×3.62m、検出面から床面までの深さは18～30cmを測る。柱穴は４個で、径20～32cm、深さ14～28cmを測る。住居の中央

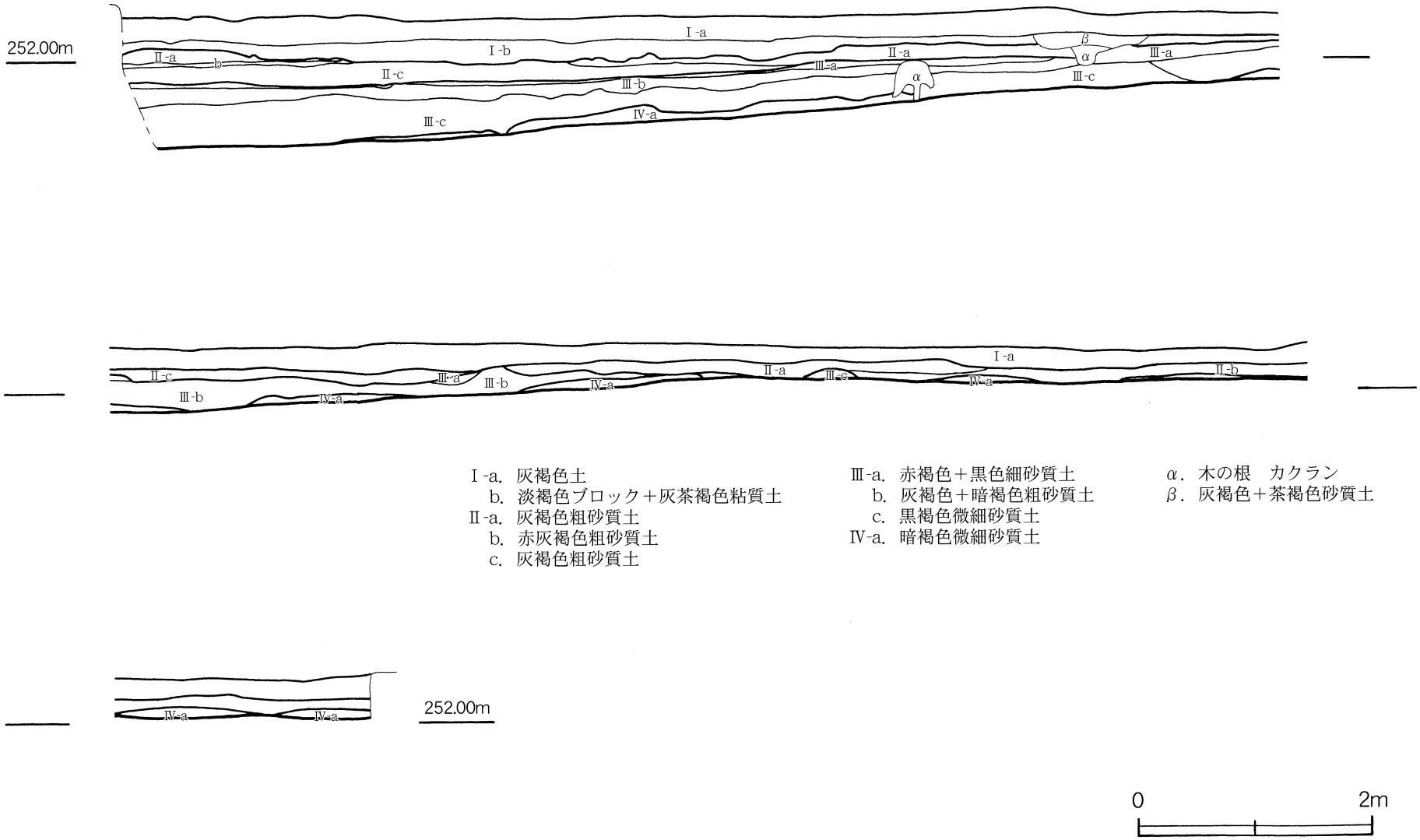


第156図　Ⅲ区　出土遺物実測図（4）

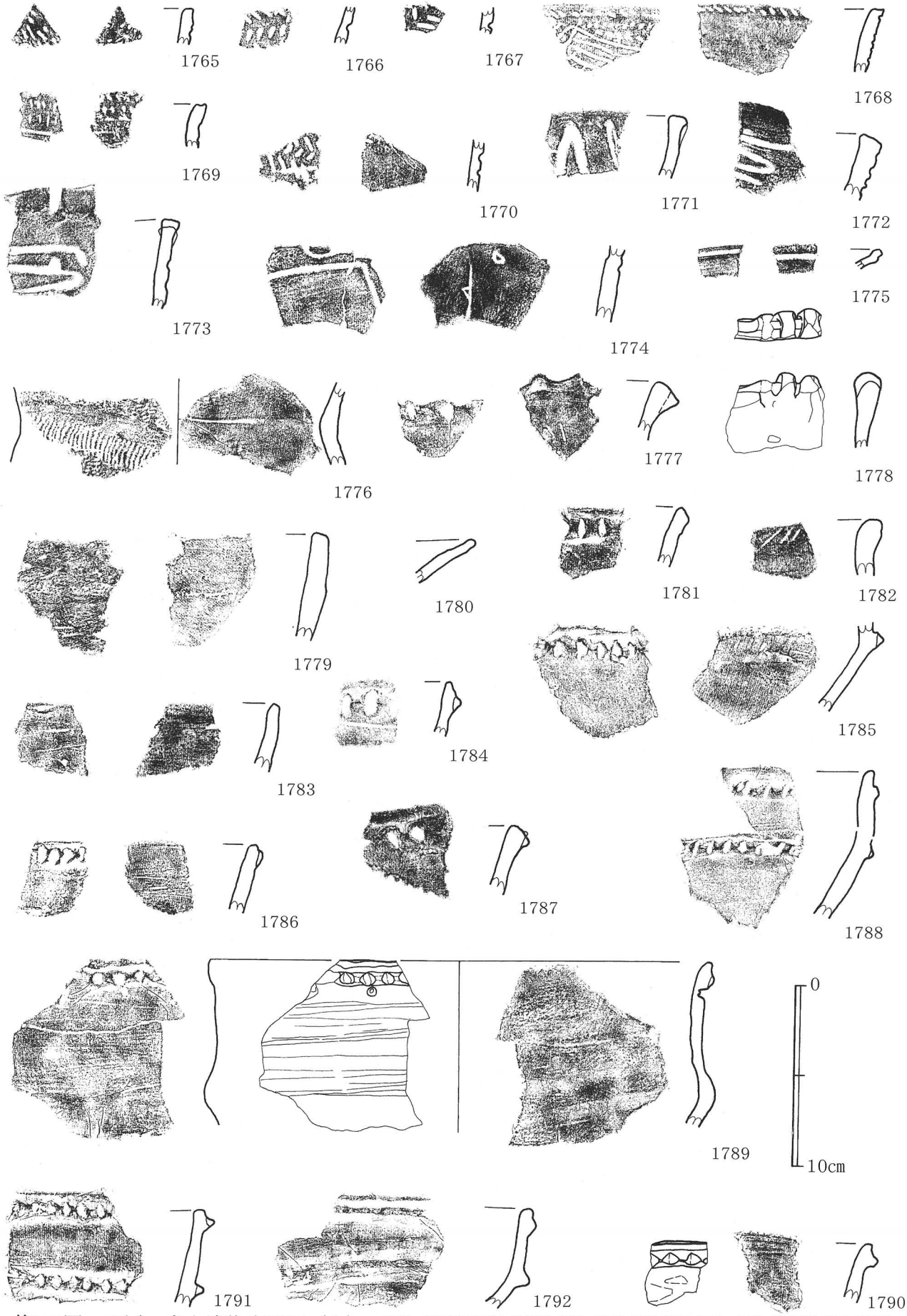
1759：Ⅳ層,1763：SK-265・ベルト内



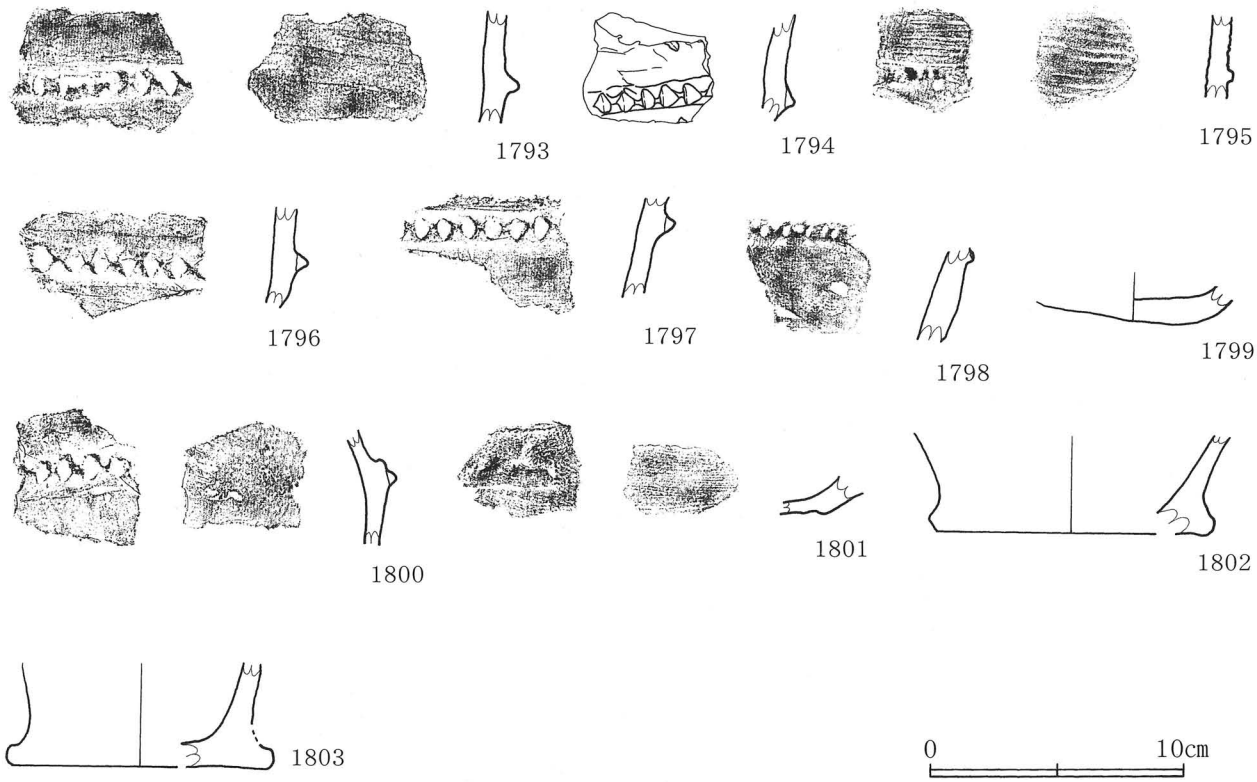
第157図　Ⅳ～Ⅵ区　遺構全体図



第158図　Ⅳ区　中央壁層序図



第159図　Ⅳ区　出土遺物実測図（1）　1766～1767・1787：SA-45,1775・1779～1781・1783・1786・1789～1792：491,1777・1782：SK-354,1784～1785：SA-46,1788：327



第160図　Ⅳ区　出土遺物実測図（２）

やや南側には、長径1.44m、短径1.18m、深さ９cmの楕円形を呈する掘り込みが検出され、埋土に炭化物を含んだ黒褐色土が確認されたことから、この掘り込みは炉跡と思われる。貼床は検出されなかった。

遺物は少なく、土師器の甕の口縁部と底部片、高坏の坏部片と、石器では、紫褐色を呈する凝灰質頁岩製の石包丁の計６点が出土したのみである。

ＳＡ－35（第162・164図）

調査区の中央やや北側で検出された、住居の南壁半分をＳＫ－363によって切られている、方形を呈する住居である。規模は、1.95×2.08m、検出面から床面までの深さは19cmを測る。柱穴は２個で、径19～25cm、深さ28～67cmを測る。貼床や炉跡は検出されなかった。

遺物は少なく、土師器の甕の口縁部片が２点出土したのみである。

ＳＡ－40（第163・164図）

調査区の東壁中央部で検出された、住居である。東壁にかかっているため詳細は不明である。検出面から床面までの深さは13cmを測る。柱穴は３個で、径19～25cm、深さ20～30cmを測る。東西に設定した土層断面用のベルトで、住居の中央と思われる部分に炭化物を含んだ黒褐色土が確認された。この部分に炉があったと思われる。貼床は検出されなかった。

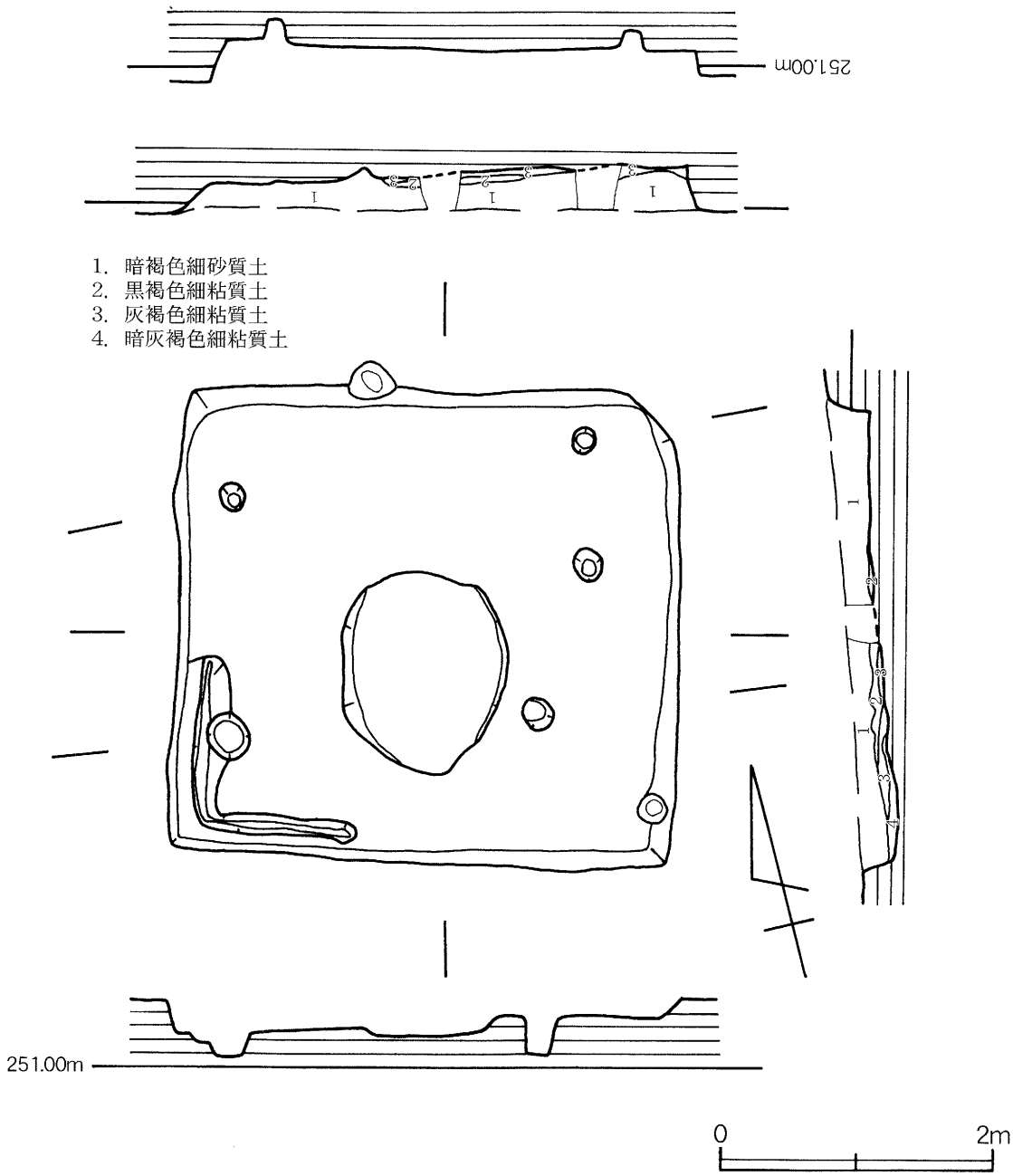
遺物は少なく、土師器の甕の底部片、高坏の口縁部と脚部片、高坏の脚部を転用した鞴の羽口が出土した。石器では、チャート製のナイフ形石器、打製石鏃・磨製石鏃、磨石、砥石が出土した。

ＳＡ－41（第165・169・170・171・172・173図）

調査区の南部西側で検出された、ＳＡ－42と切りあっている、方形を呈する住居である。規模

は、4.36×4.96m、検出面から床面までの深さ34cmを測る。柱穴は４個で、径25～39cm、深さ13～22cmを測る。貼床が施してあり、厚さ７～24cmを測る。住居中央やや南側に、貼床から掘り込んだ長径89cm、短径80cm、深さ８cmを測る、楕円形を呈する掘り込みが検出された。埋土は、炭化物を含んだ黒褐色土が確認されたことから、この掘り込みは炉跡と思われる。

遺物は、土師器が大量に出土しており、弥生土器の甕の口縁部が１点出土した。土師器は、甕の口縁部・胴部・底部片、壷の口縁部・胴部・底部片、高坏の口縁部・脚部片・鉢の口縁部片が出土した。甕の底部で、上底になっているものが出土した。丹塗りの壷・高坏・鉢も出土した。また、高坏の脚部を転用した鞴の羽口の破片も数点出土した。石器では、砥石が出土した。



第161図　ＳＡ－34　遺構実測図

ＳＡ－42（第166図）

調査区の南部西側で検出された住居である。ＳＡ－41・43と切りあっているため、規模などの詳細は不明である。検出面から床面までの深さは15cmを測る。柱穴や炉跡、貼床は検出されなかった。

遺物は出土していない。

ＳＡ－43（第166・173図）

調査区の南部西側で検出された、ＳＡ－42と切りあっている、方形を呈する住居である。規模は、2.51×3.39m、検出面から床面までの深さは33cmを測る。柱穴は２個で、径20～38cm、深さ11～42cmを測る。住居の中央東側に長径45cm、短径36cm、深さ９cmの不整形を呈する掘り込みがみられるが、焼土や炭化物などは検出されなかった。

遺物は、土師器の甕の底部と高坏の脚部の土器片が２点と、溶結安山岩製の台石が１点出土した。

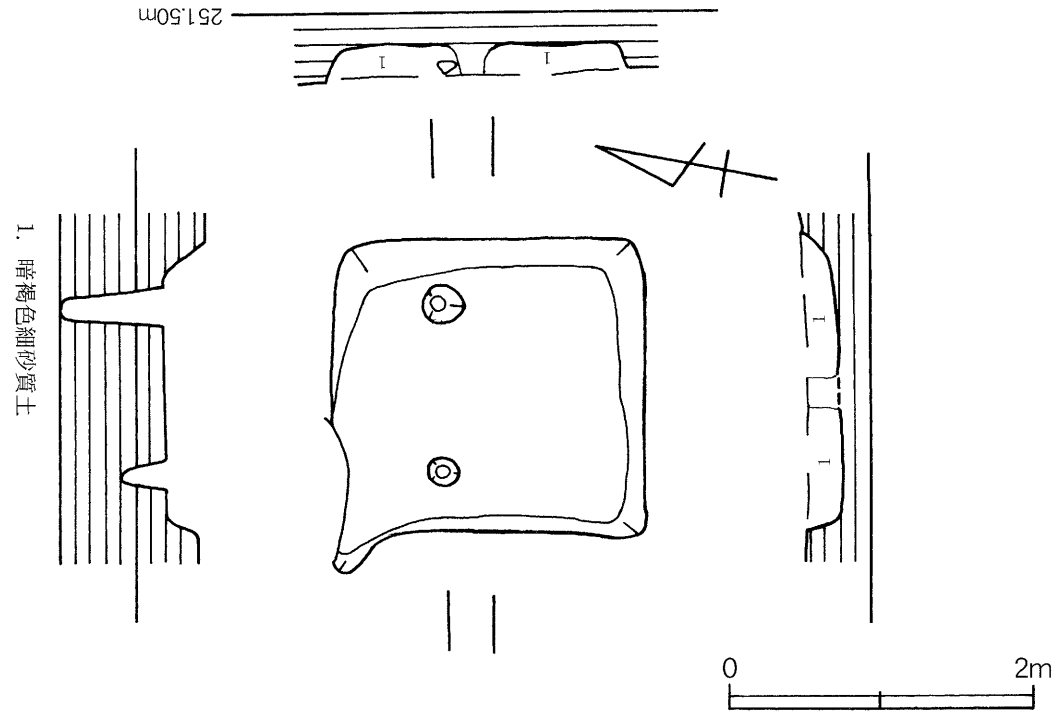
ＳＡ－44（第167図）

調査区の中央部やや西側で検出された、方形を呈する住居である。規模は、1.31×2.31m、検出面から床面までの深さは13cmを測る。柱穴、炉跡、貼床などは検出されなかった。遺物も出土していない。

ＳＡ－45（第168・173・174図）

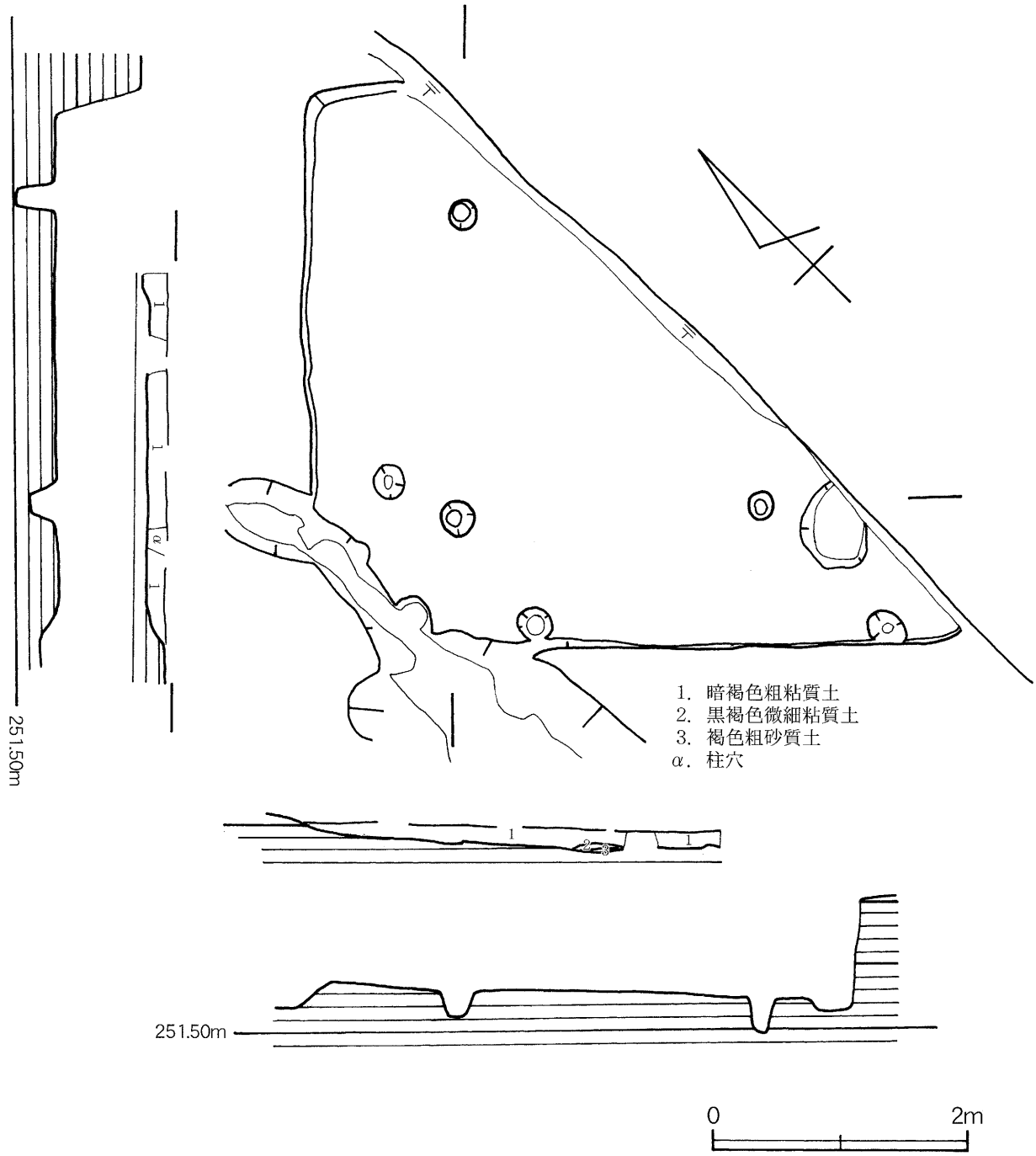
調査区の南部やや東側で検出された、方形を呈する住居である。規模は、4.67×5.45m、検出面から床面までの深さは55cmを測る。柱穴は４個で、径28～49cm、深さ８～29cmを測る。精査中に、検出面から約20cmで硬化面と中央部に、南北1.9m、東西1.4mの範囲で黒褐色土が認められた。

そこで、貼床と炉跡であるかを確認するために、土層断面用のベルトにサブトレンチを入れたと

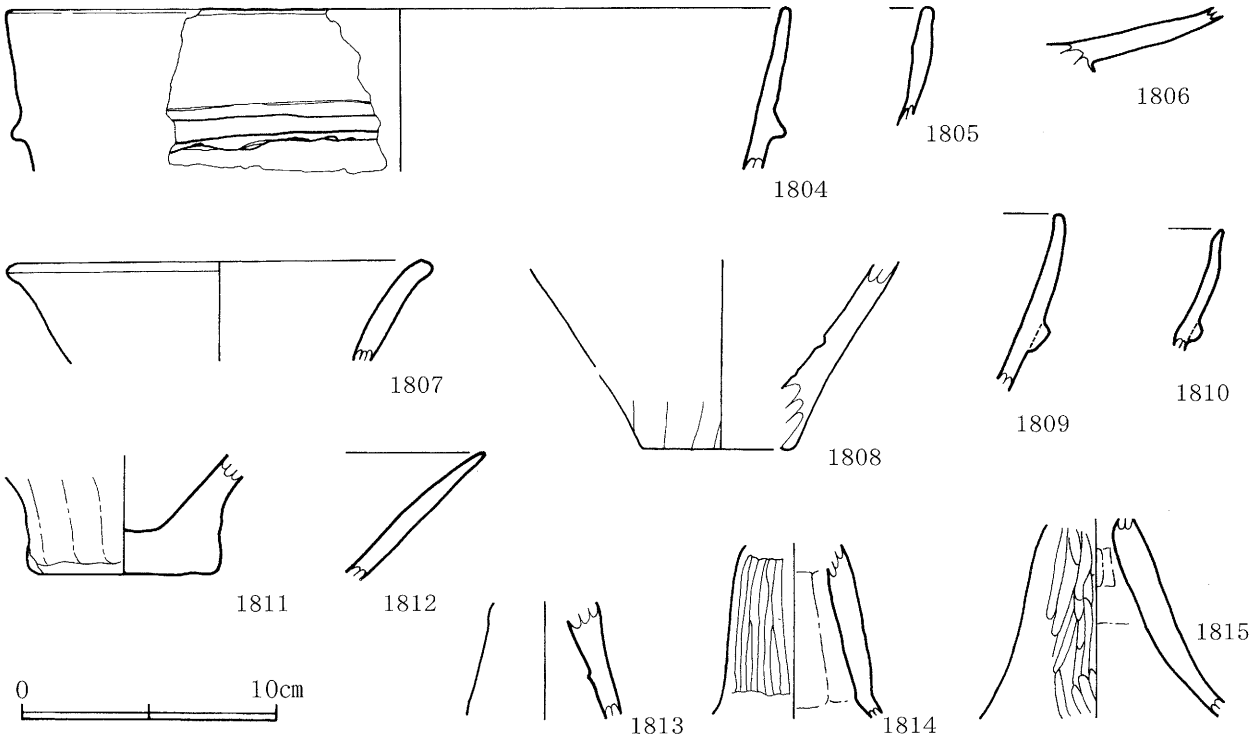


第162図　ＳＡ－35　遺構実測図

ころ、貼床は厚さ８～12cm、黒褐色土は掘り込んだ形で厚さ４～５cmを測った。しかし、その貼床の直下から２枚目の硬化面と中央部に南北1.25m、東西1.18mの範囲で黒褐色土が確認された。さらにサブトレンチを掘り下げたところ、２枚目の貼床は厚さ８～18cm、黒褐色土は、掘り込んだ形で、厚さ４～５cmを測った。このことから、この住居では、まず、貼床を８～18cm施し、住居中央に炉を設け生活していたが、その面にさらに貼床を８～12cm施して床面を上げ、住居中央に炉を設けて再び生活していたことが伺える。



第163図　ＳＡ－40　遺構実測図



第164図　ＳＡ－34・35・40　出土遺物実測図　　1804～1808:SA-34,1809～1810:SA-35,1811～1815:SA-40

遺物は、土師器の甕の口縁部・胴部・底部片、壷の口縁部片・高坏の口縁部・脚部片・鉢の口縁部片が出土しており、高坏の脚部を転用した鞴の羽口が２点と、石器では、砂岩製の礫器、溶結安山岩製の台石が１点ずつ出土した。

ＳＡ－46（第175・176・177・178図）

調査区の中央東側で検出された、ＳＡ－47・50を切っている、方形を呈する住居である。規模は、5.32×5.65m、検出面から床面までの深さは18cmを測る。柱穴は４個で、径17～32cmを測り、深さは13～43cmを測る。貼床が施されており、厚さ10～13cmを測る。住居中央部には、南北1.32m、東西1.35m、深さ８～10cmの掘り込みが土層断面用のベルトで確認され、埋土は、炭化物を含んだ黒褐色土であるため、炉跡であると思われる。

遺物は、土師器の土器片が多く出土した。甕の口縁部・胴部・底部片、壷の口縁部・胴部片、高坏の口縁部・脚部片・鉢の口縁部・底部片、コップ型土器が出土した。また、丹塗りの壷・高坏・鉢もみられる。高坏の脚部を転用した鞴の羽口片も数点出土した。石器では、打製石鏃、石鏃未製品、磨石兼敲き石、砥石のほか、台石が４点出土した。

ＳＡ－47（第167図）

調査区の中央部東側で検出された、ＳＡ－46に切られている、不整形を呈する住居である。住居の大半をＳＡ－46に切られているため、規模などの詳細は不明である。検出面から床面までの深さは15cmを測る。柱穴、炉跡、貼床などは検出されなかった。遺物は出土していない。

ＳＡ－48（第167・178図）

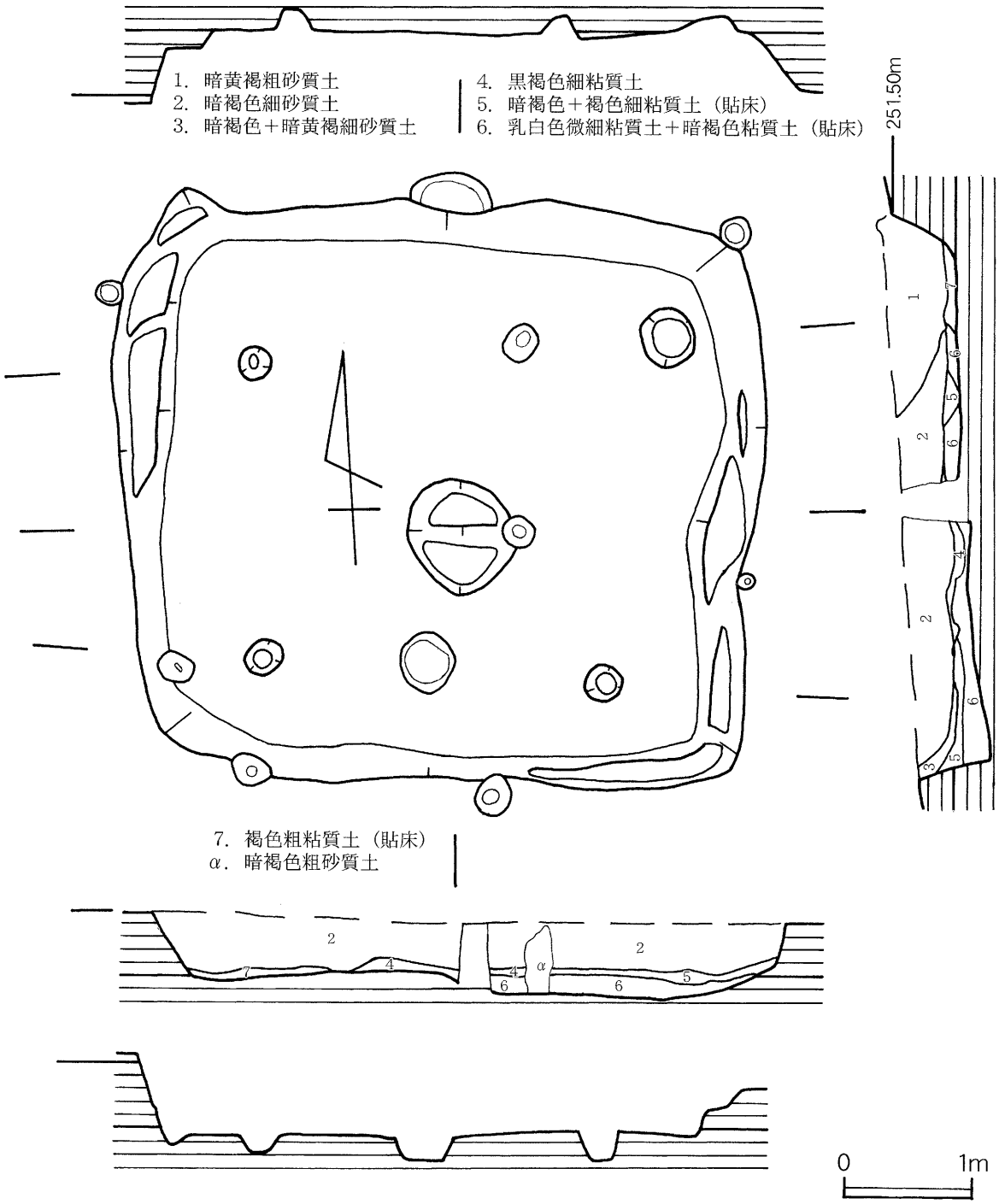
調査区の中央部やや北側で検出された、方形を呈する住居である。規模は、2.27×2.81m、検出面から床面までの深さは20cmを測る。柱穴は２個で、径20～27cm、深さ18～54cmを測る。炉跡や貼床などは検出されなかった。遺物は、土師器の壷の土器片が１点出土したのみである。

ＳＡ－50（第167図）

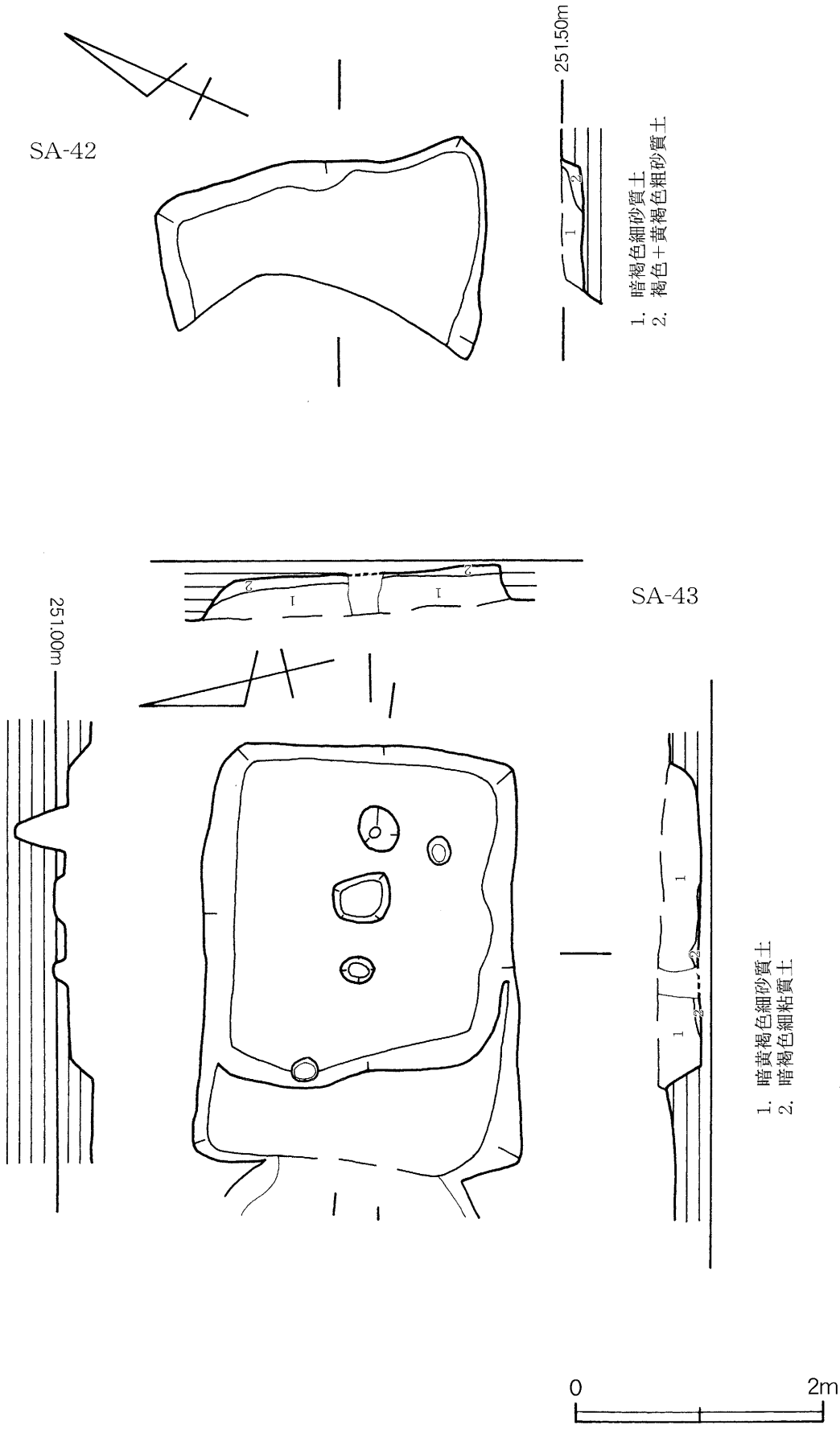
調査区の中央部やや東側で検出された、ＳＡ－46に切られている住居である。住居の大半をＳＡ－46に切られているため、規模などの詳細は不明であるが、検出面から床面までの深さは８cmを測る。柱穴、炉跡、貼床などは検出されなかった。遺物は出土していない。

中世

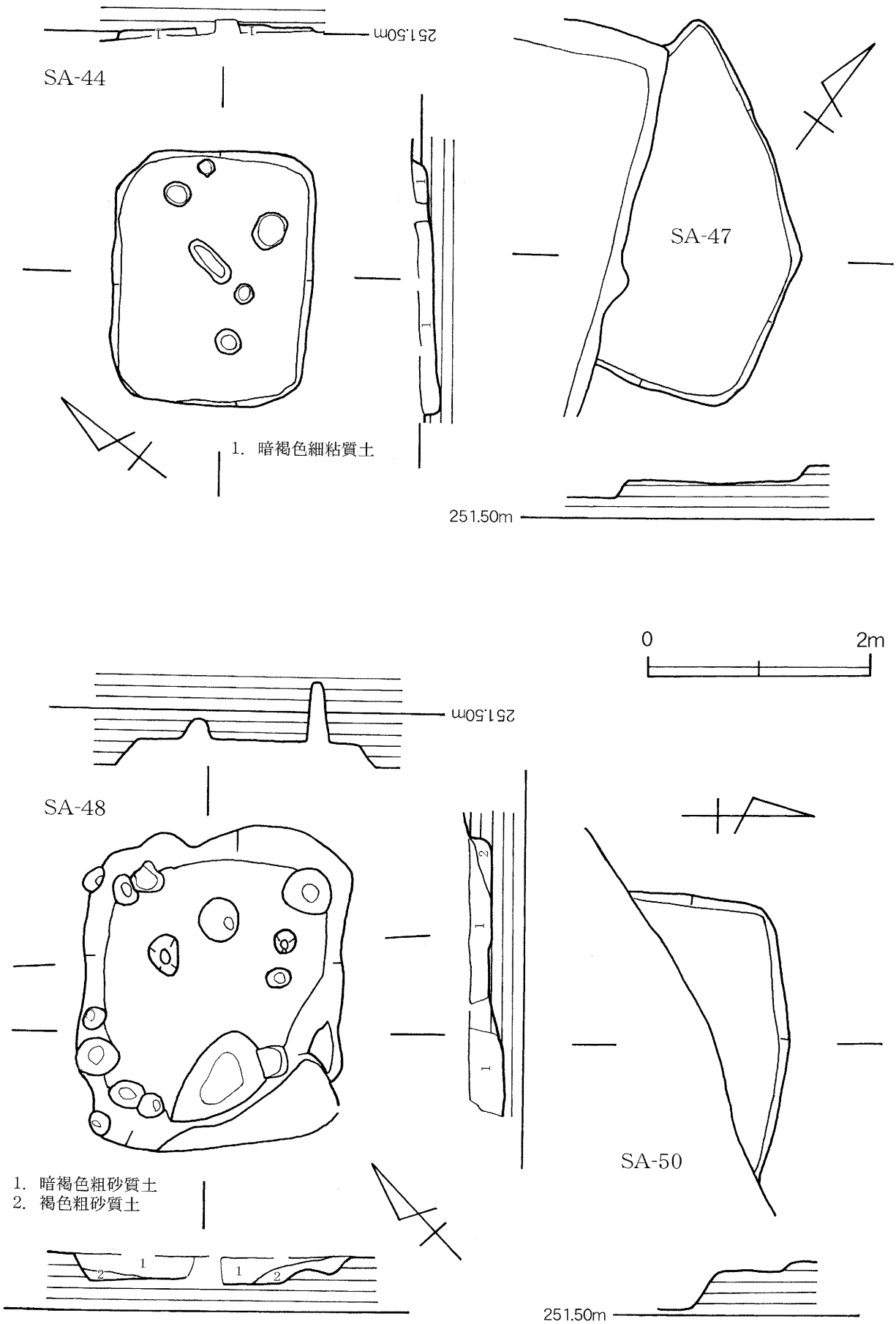
Ⅲｃ層上面で遺構検出を行ったところ、掘立柱建物が24棟、土坑・土壙墓18基、溝状遺構６条が



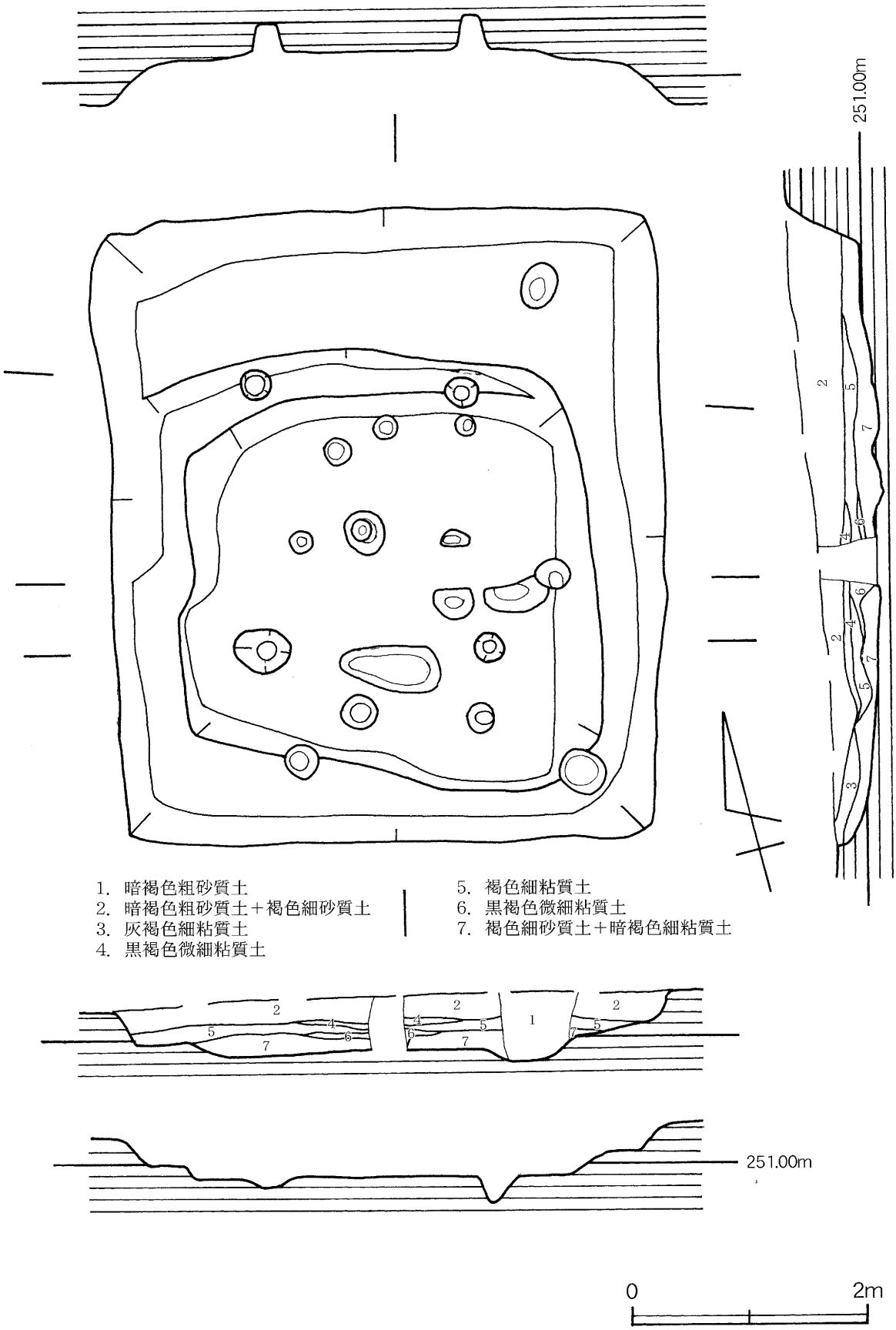
第165図　ＳＡ－41　遺構実測図



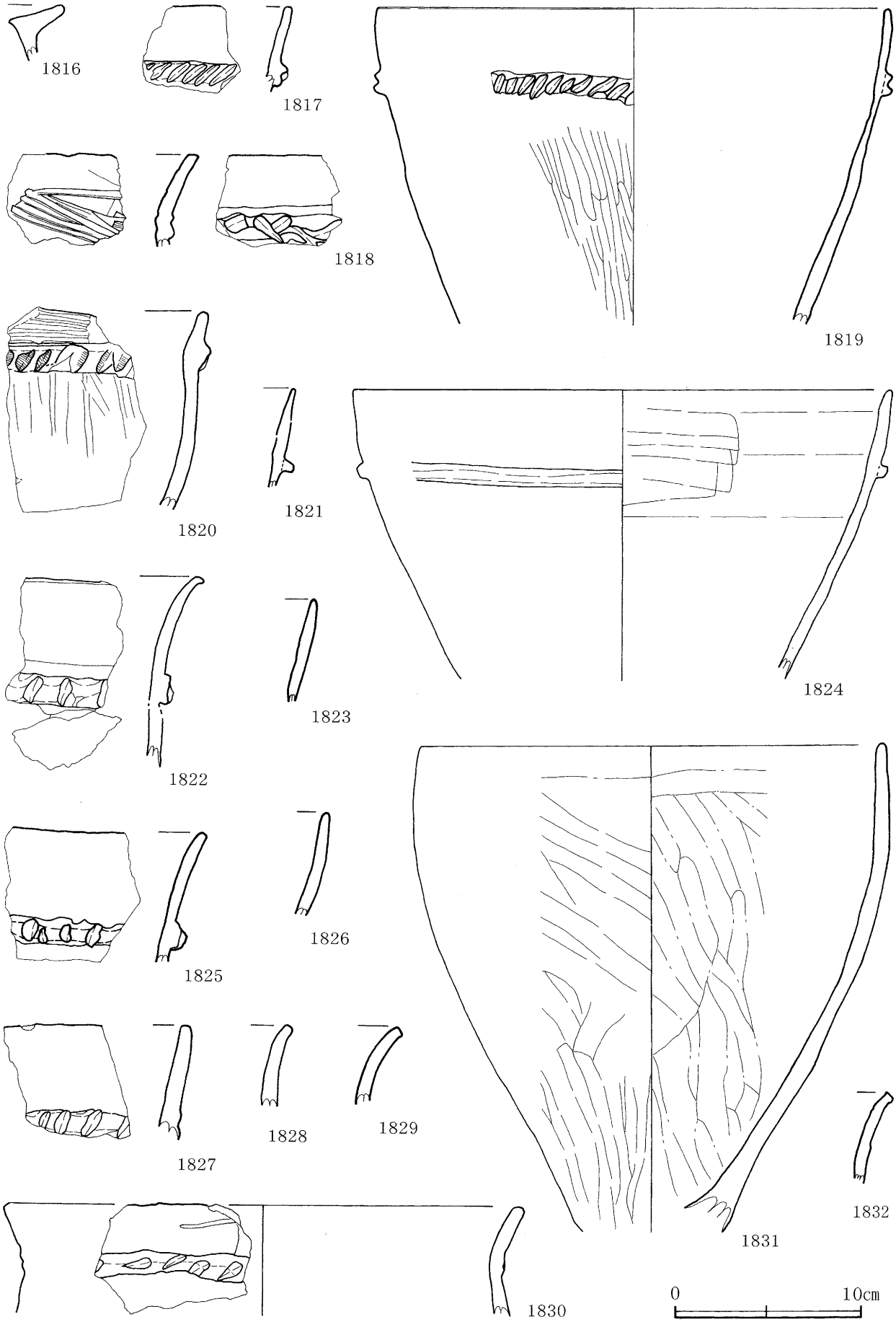
第166図　ＳＡ－42・43　遺構実測図



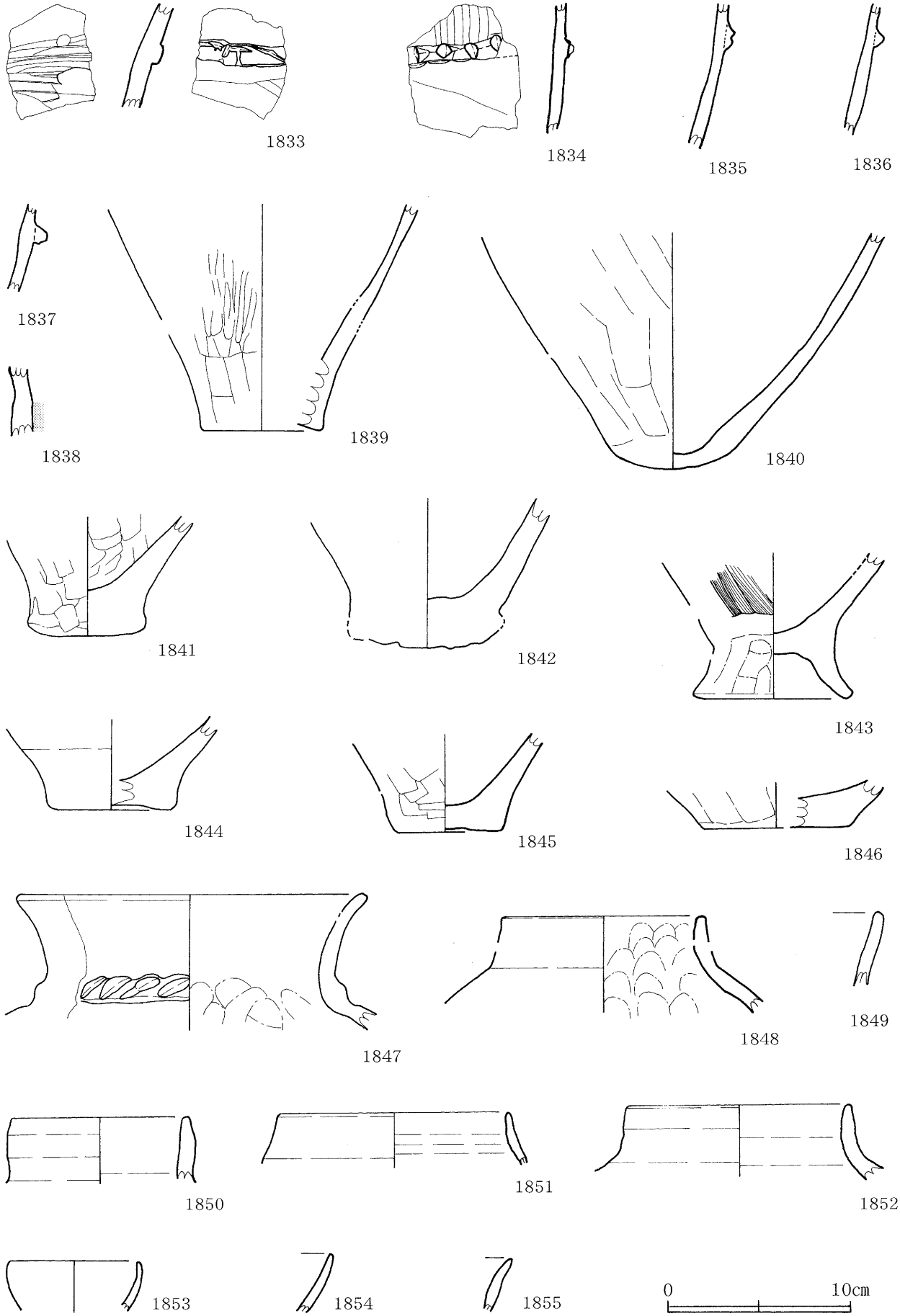
第167図　ＳＡ－44・47・48・50　遺構実測図



第168図　ＳＡ－45　遺構実測図

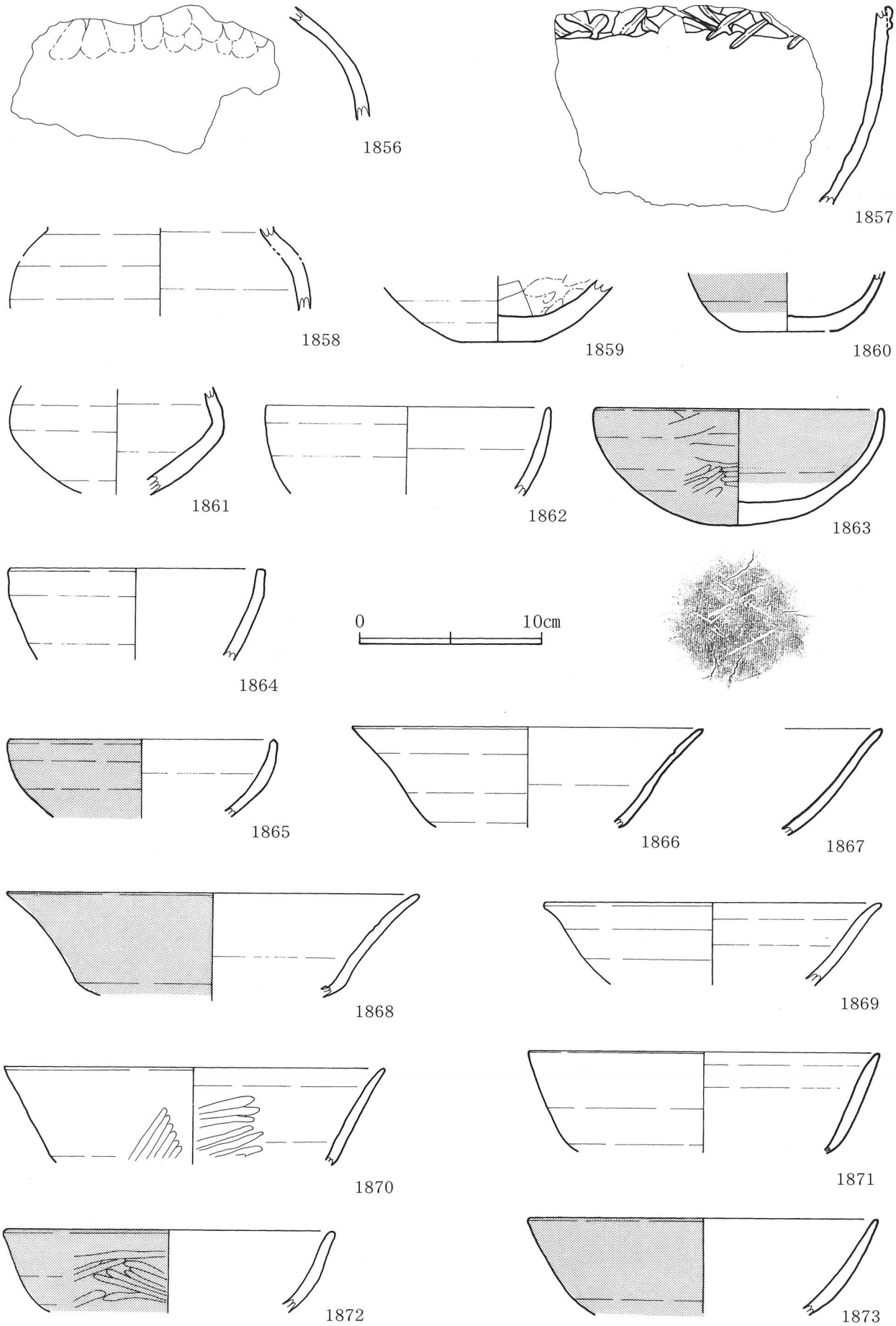


第169図　ＳＡ－41　出土遺物実測図（１）

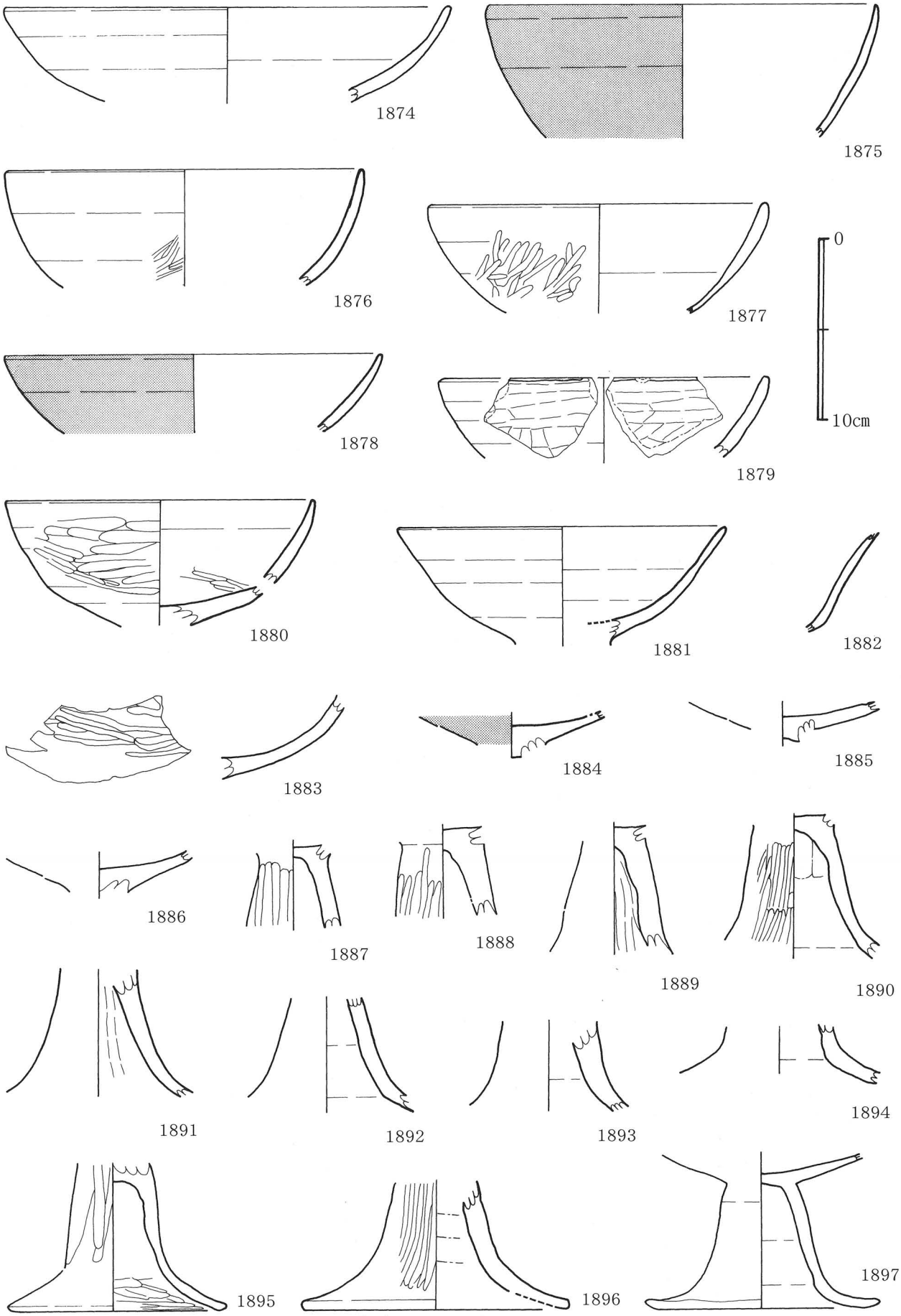


第170図　ＳＡ－41　出土遺物実測図（２）

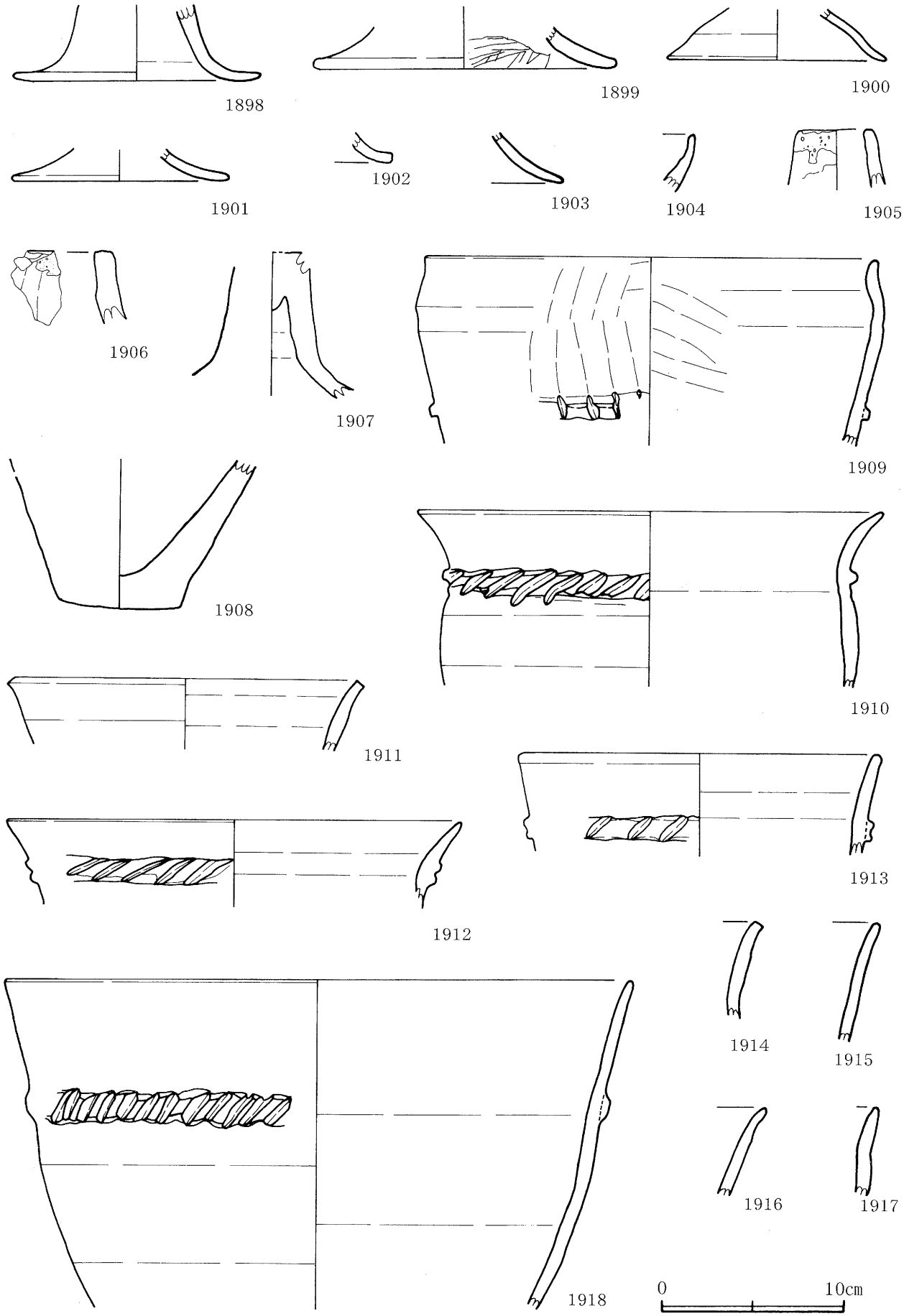
1833～1836・1838～1842・1844～1845・1847～1854:SA-41,1837・1843・1846・1855:SA-41・ベルト内一括



第171図　ＳＡ－41　出土遺物実測図（３）

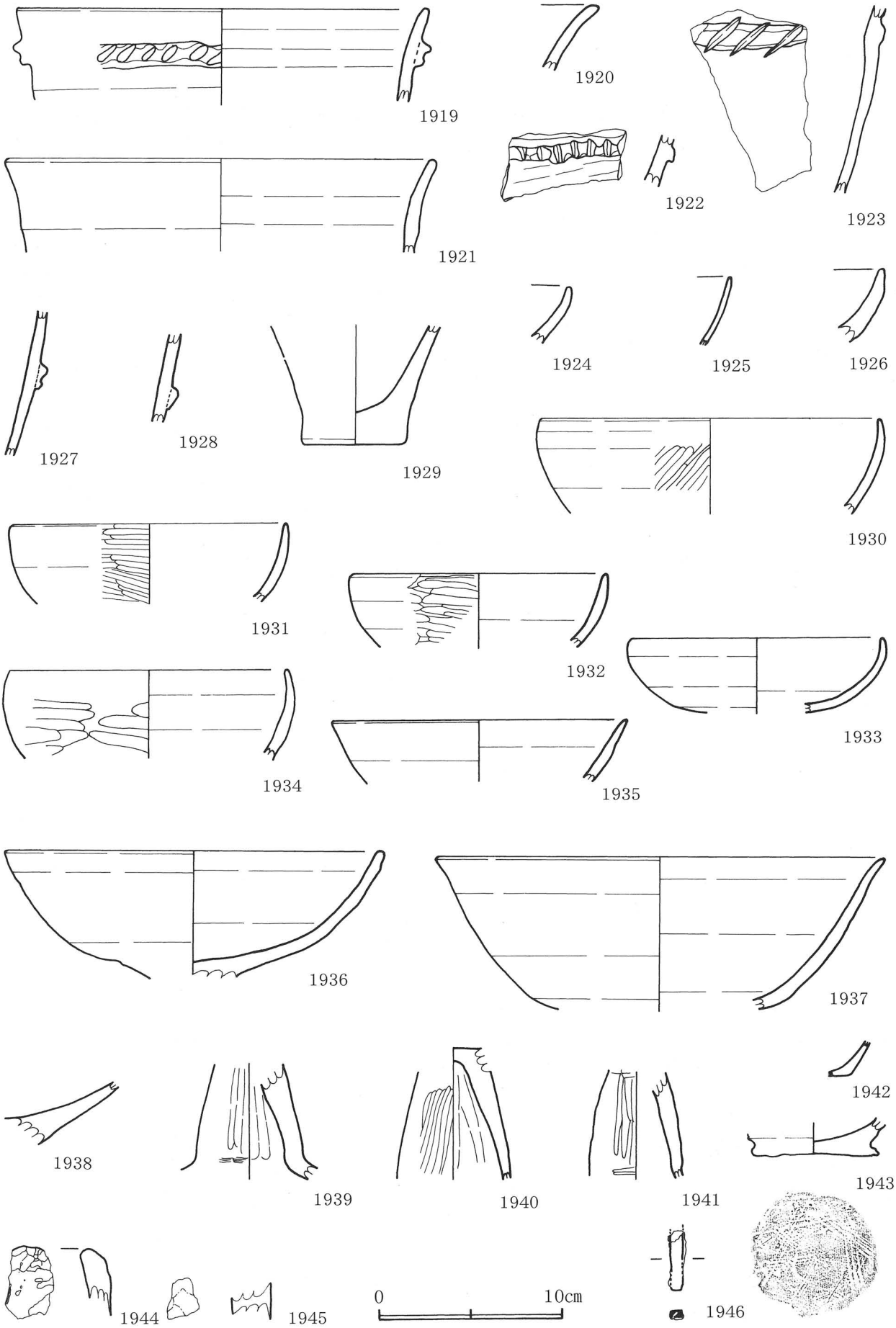


第172図　ＳＡ－41　出土遺物実測図（４）1874～1881・1883・1885～1896:SA-41,1882・1897:SA-41・ベルト内,1884:SA-41・ベルト内一括



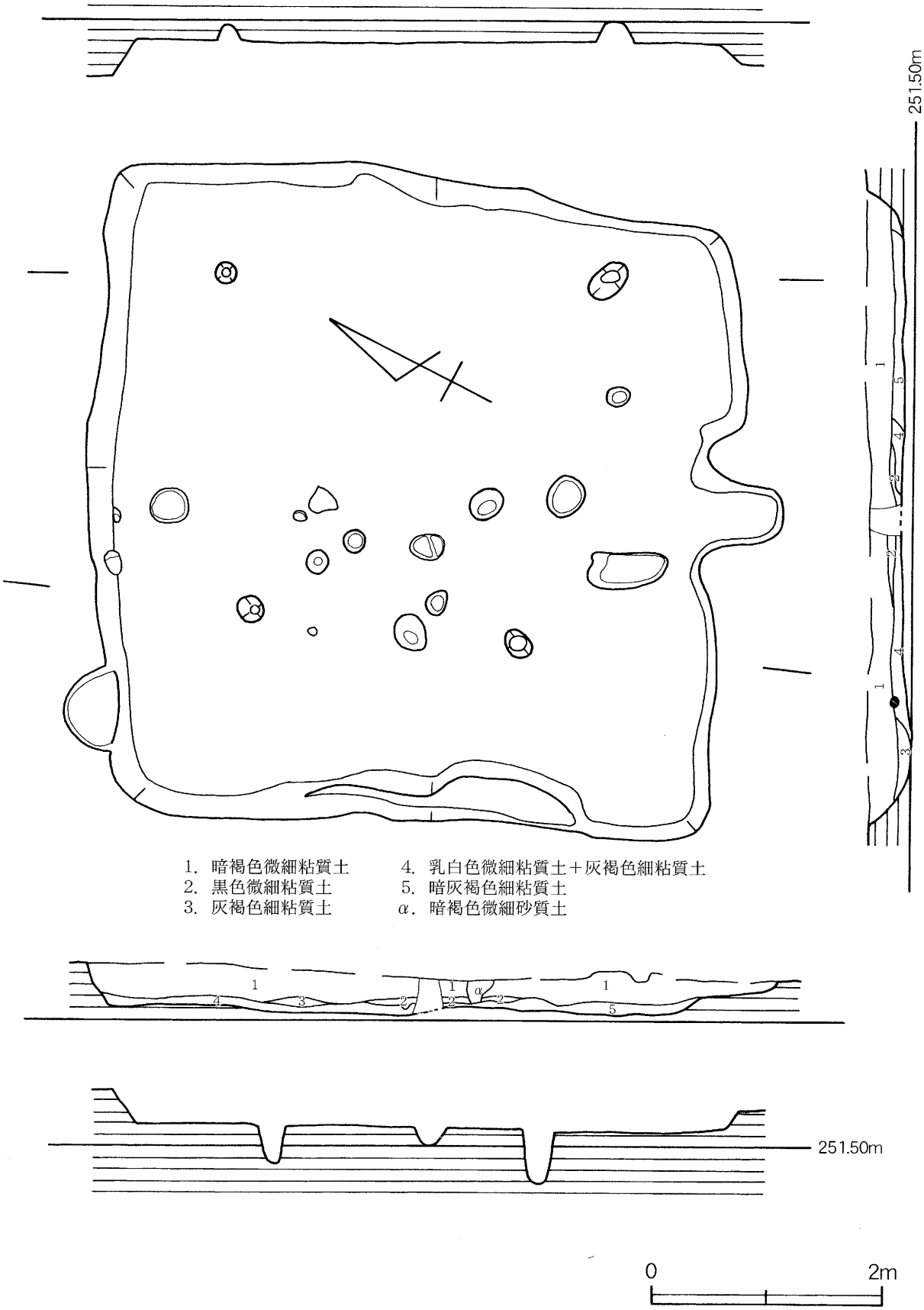
第173図　ＳＡ－41・43・45　出土遺物実測図

1898～1902・1904～1906：SA-41,1903：SA-41・ベルト内,1907～1908：SA-43,
1909～1916・1918：SA-45,1917：SA-45・貼床内

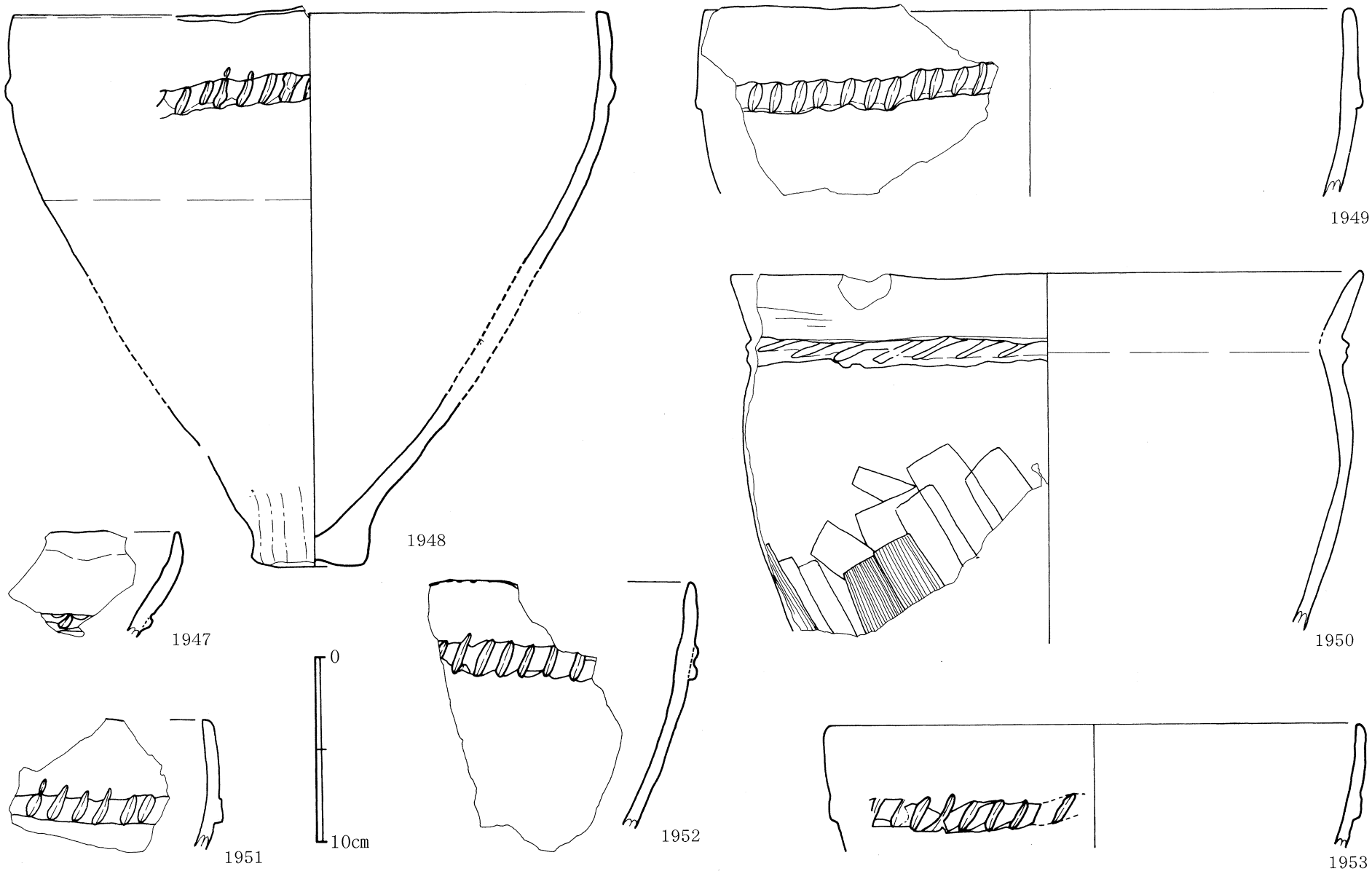


第174図　ＳＡ－45　出土遺物実測図

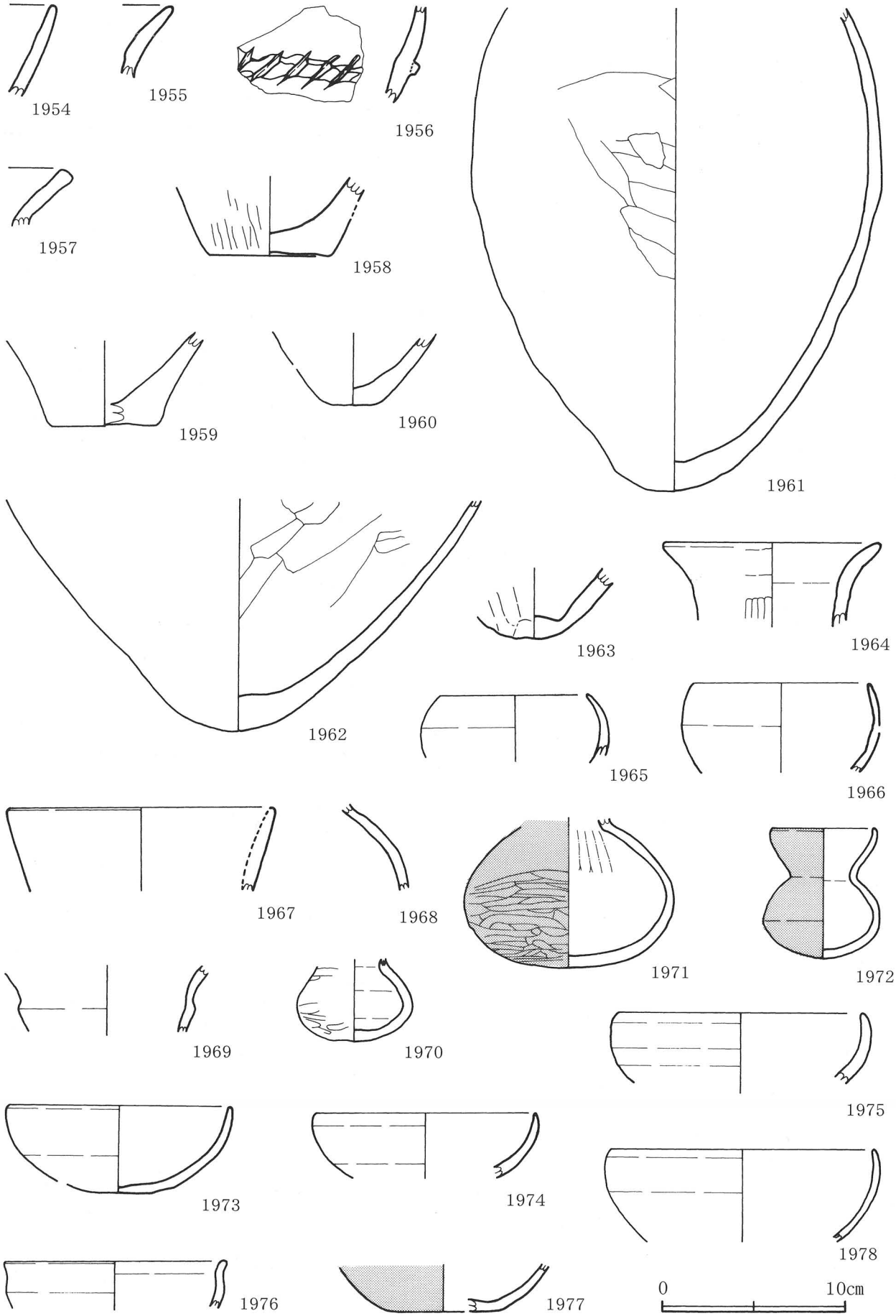
1919～1922・1924～1945：SA-45,1923：SA-45・貼床内,1946：SA-45・ベルト内



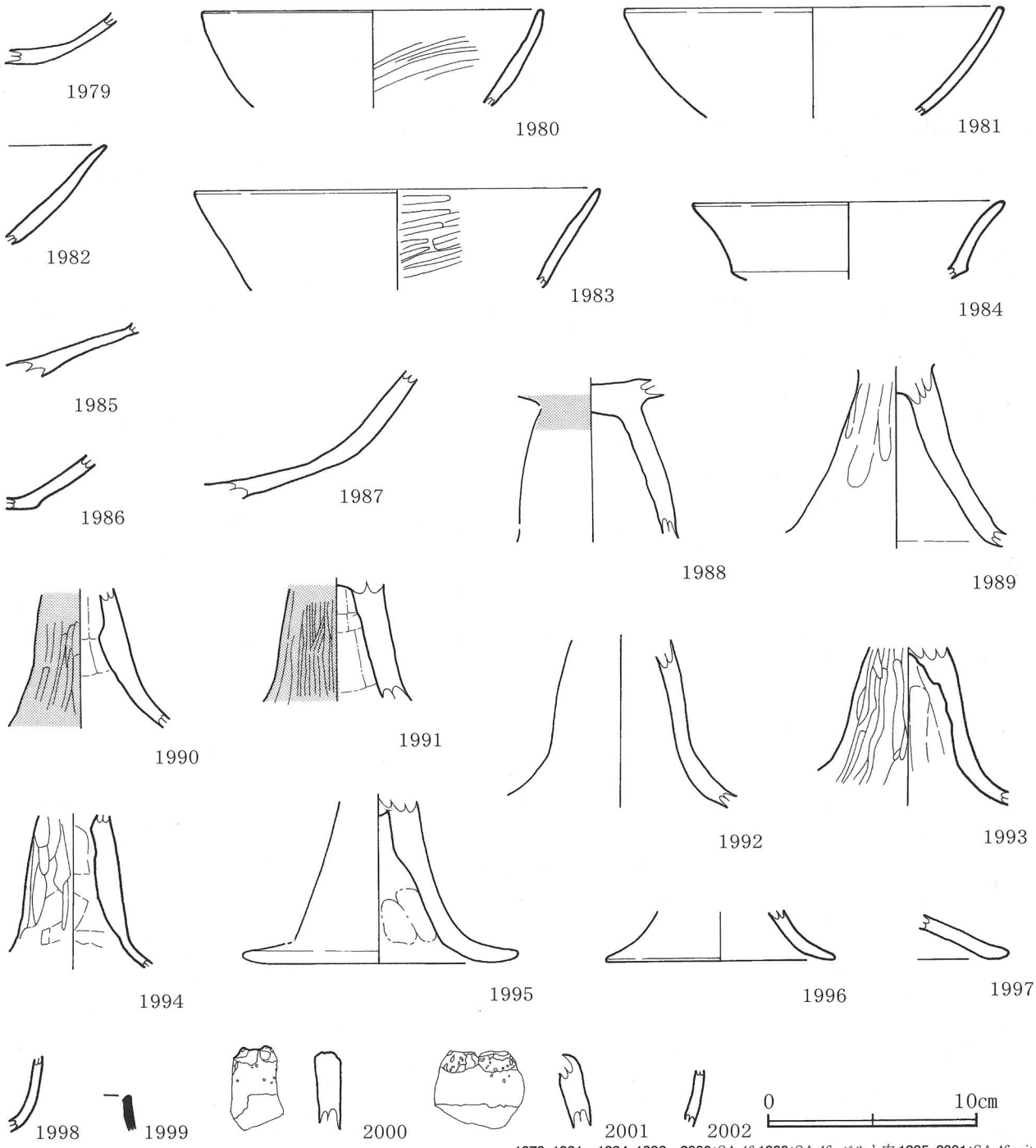
第175図　ＳＡ－46　遺構実測図



第176図　ＳＡ－46　出土遺物実測図（１）



第177図　ＳＡ－46　出土遺物実測図（２）



第178図　ＳＡ－46・48　出土遺物実測図　1979・1981～1994・1996～2000:SA-46,1980:SA-46・ベルト内,1995・2001:SA-46・pit,2002:SA-48

検出された。

ＳＢ－99（第179図）

調査区の西部北側にある、梁行２間3.93～3.96m、桁行３間5.90～5.95mを測る建物である。柱穴の規模は、径18～29cm、深さ14～29cmを測る。主軸方位はＮ１°Ｅである。

ＳＢ－100（第179図）

調査区の西部やや南側にある、梁行２間4.55～4.60m、桁行３間6.60～6.68mを測る建物である。柱穴の規模は、径22～38cm、深さ26～36cmを測る。主軸方位はN89°Ｗである。

ＳＢ－101（第179図）

調査区の西部中央にある、現存で、梁行１間1.93m、桁行３間4.86mを測る建物である。柱穴の規模は、径22～55cm、深さ12～29cmを測る。主軸方位はＮ３°Ｅである。

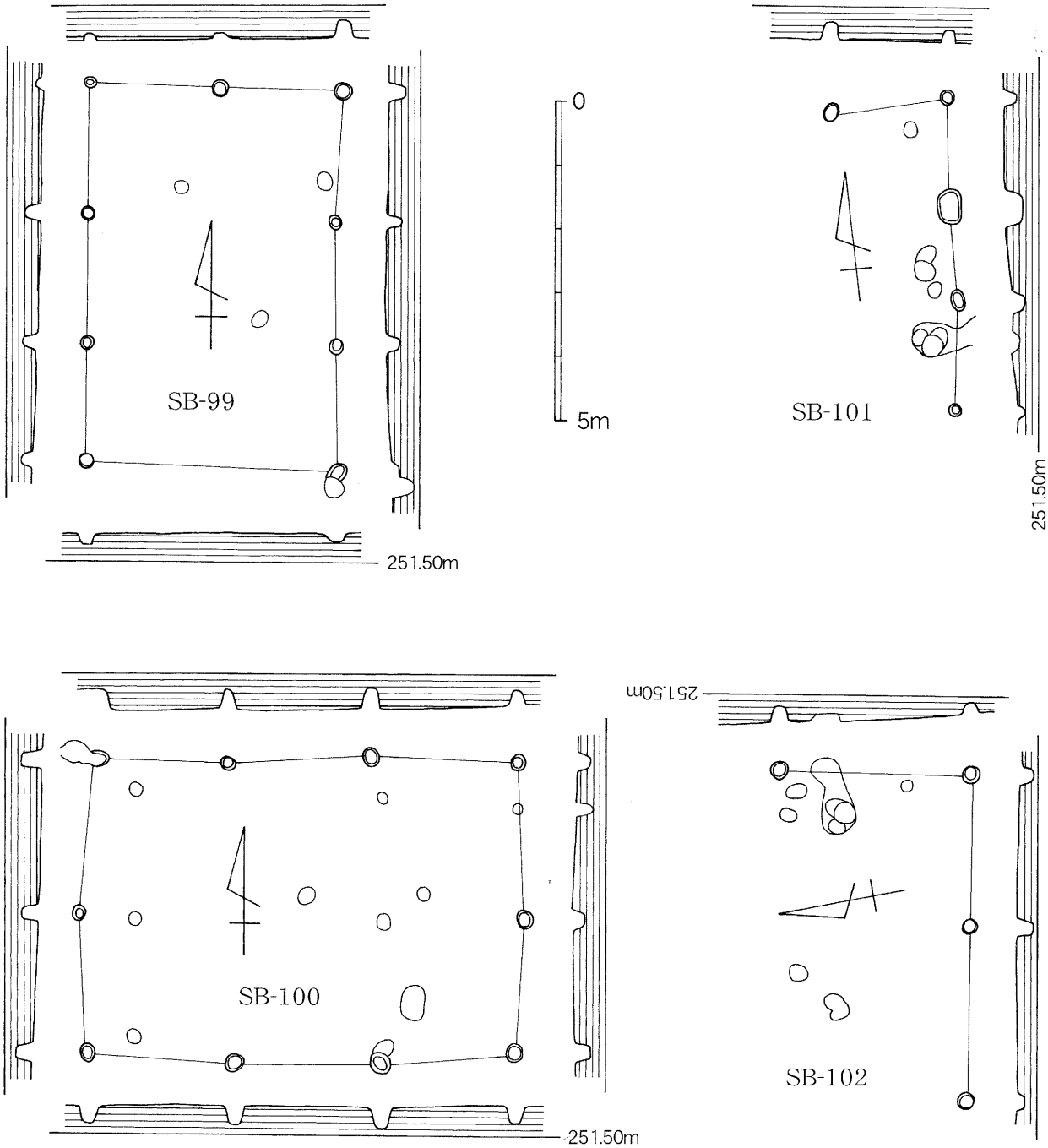
ＳＢ－102（第179図）

調査区の西部中央にある、現存で、梁行２間5.10m、桁行１間3.04mを測る建物である。柱穴の規模は、径24～28cm、深さ13～26cmを測る。主軸方位はＮ11°Ｅである。

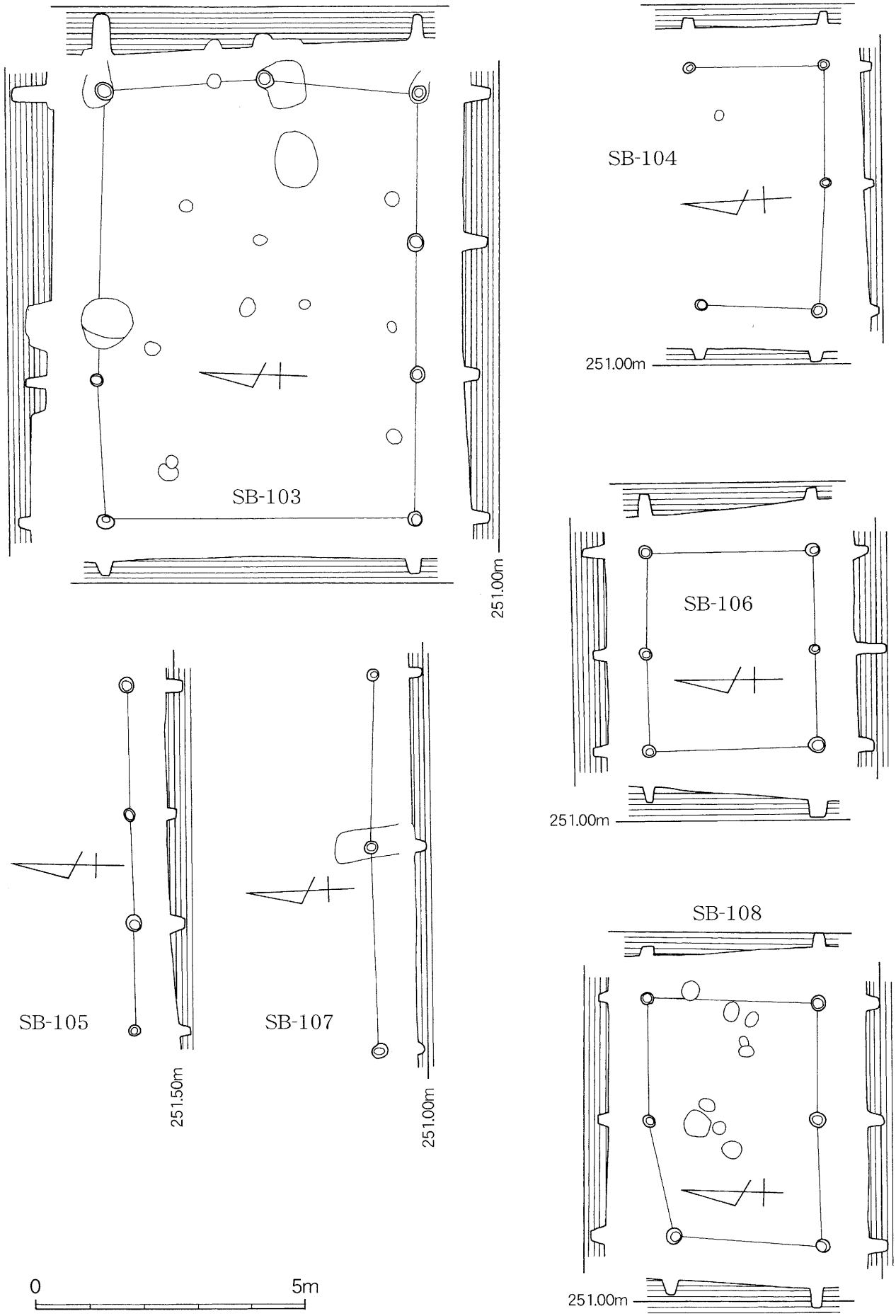
ＳＢ－103（第180図）

調査区の西部やや南側にある、梁行２間5.74～5.84m、桁行３間7.92～8.02mを測る建物である。柱穴の規模は、径27～31cm、深さ25～79cmを測る。主軸方位はＮ89°Ｅである。

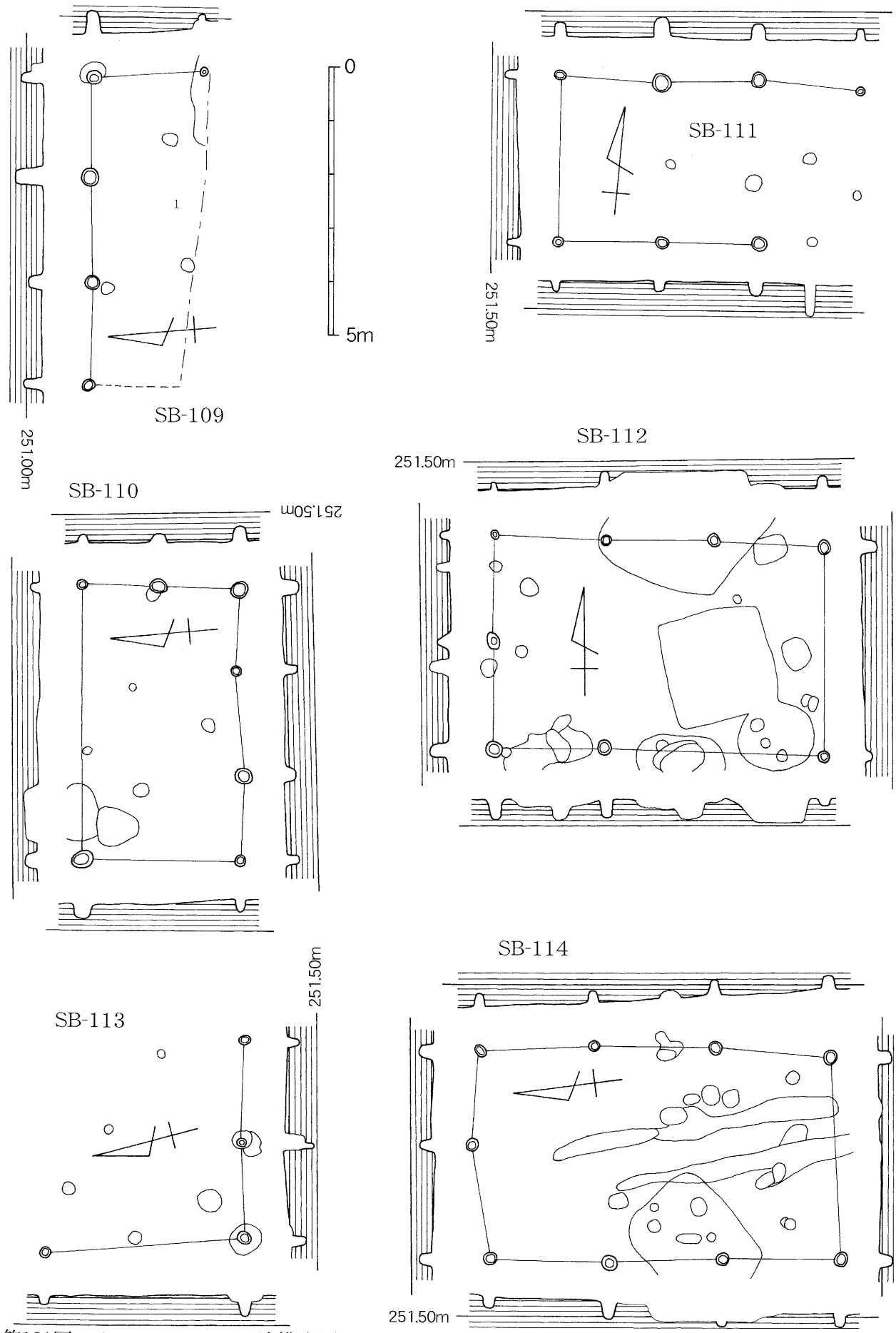
ＳＢ－104（第180図）



第179図　ＳＢ－99～102　遺構実測図



第180図　ＳＢ－103～108　遺構実測図



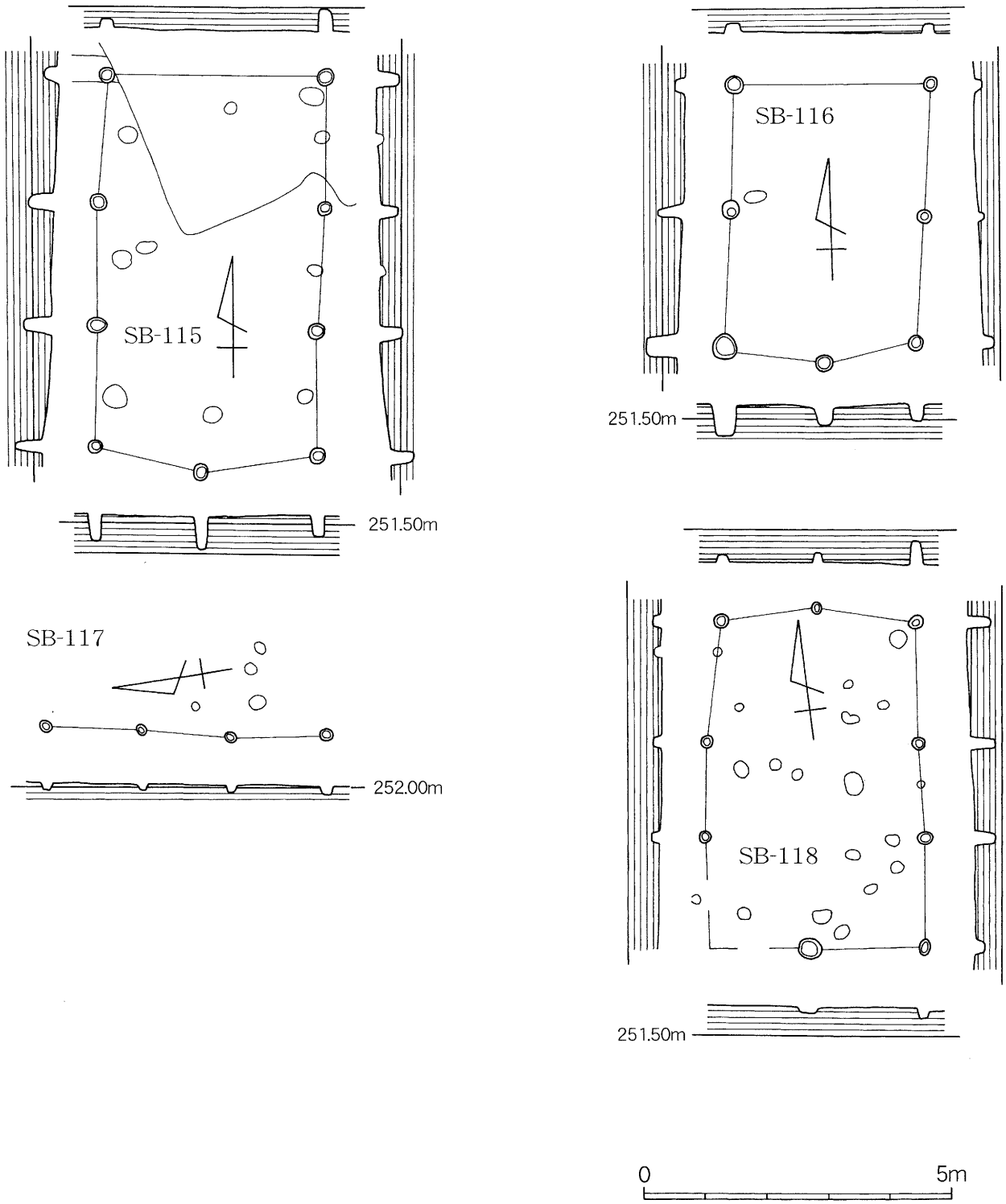
第181図　ＳＢ－109～114　遺構実測図

調査区の西部南側にある、現存で、梁行２間4.59m、桁行１間2.17～2.47mを測る建物である。柱穴の規模は、径24～29cm、深さ20～25cmを測る。主軸方位はＮ５°Ｅである。

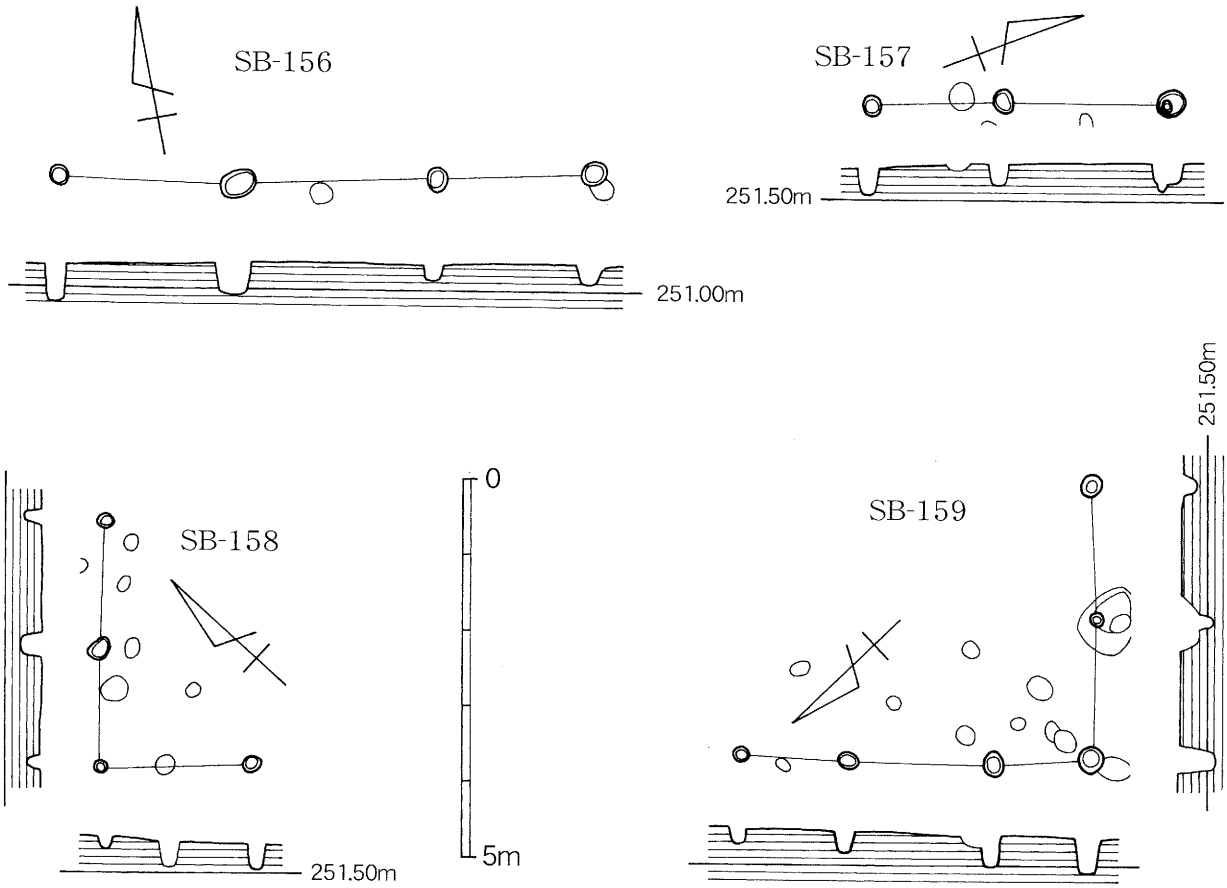
ＳＢ－105（第180図）

調査区の西部南側にある、現存で、３間6.41mを測る建物である。柱穴の規模は、径23～30cm、深さ19～33cmを測る。主軸方位はN88°Ｅである。

ＳＢ－106（第180図）



第182図　ＳＢ－115～118　遺構実測図



第183図　ＳＢ－156～159　遺構実測図

調査区の西部南側にある、梁行１間3.03～3.07m、桁行３間5.42～5.48mを測る建物である。柱穴の規模は、径23～31cm、深さ20～59cmを測る。主軸方位はN89°Ｅである。

ＳＢ－107（第180図）

調査区の西部南端にある、現存で、２間7.02mを測る建物である。柱穴の規模は、径23～28cm、深さ10～28cmを測る。主軸方位はN87°Ｗである。

ＳＢ－108（第180図）

調査区の西部南側にある、梁行１間2.68～3.15m、桁行２間4.46～4.53mを測る建物である。柱穴の規模は、径25～29cm、深さ17～43cmを測る。主軸方位はN88°Ｅである。

ＳＢ－109（第181図）

調査区の西部南端にある、南半分が南壁に入っている建物で、詳細は不明であるが、現存で、梁行１間2.04m、桁行３間5.70mを測る建物である。柱穴の規模は、径20～35cm、深さ25～54cmを測る。主軸方位はN86°Ｗである。

ＳＢ－110（第181図）

調査区の中央やや北部西よりにある、梁行２間2.92～2.95m、桁行３間5.02～5.09mを測る建物である。柱穴の規模は、径18～41cm、深さ18～29cmを測る。主軸方位はN83°Ｗである。

ＳＢ－111（第181図）

調査区の中央やや北よりにある、梁行１間3.10m、桁行３間5.52mを測る建物である。柱穴の規

模は、径20～33cm、深さ20～36cmを測る。主軸方位はN85°Eである。

ＳＢ－112（第181図）

調査区の中央部にある、梁行２間3.89～3.95m、桁行３間6.03～6.06mを測る建物である。柱穴の規模は、径15～30cm、深さ10～40cmを測る。主軸方位はN89°Wである。

ＳＢ－113（第181図）

調査区の中央部にある、現存で、梁行２間3.65m、桁行１間3.72mを測る建物である。柱穴の規模は、径20～23cm、深さ19～57cmを測る。主軸方位はN11°Eである。

ＳＢ－114（第181図）

調査区の中央部南側にある、梁行２間3.74～3.86m、桁行３間6.41～6.43mを測る建物である。柱穴の規模は、径20～29cm、深さ20～35cmを測る。主軸方位はN７°Eである。

ＳＢ－115（第182図）

調査区の中央部東南よりにある、梁行２間3.60～3.66m、桁行３間6.12～6.24mを測る建物である。柱穴の規模は、径22～34cm、深さ22～55cmを測る。主軸方位はN２°Eである。

ＳＢ－116（第182図）

調査区の中央部東南よりにある、梁行２間3.13～3.20m、桁行２間4.24～4.33mを測る建物である。柱穴の規模は、径24～42cm、深さ10～51cmを測る。主軸方位はN３°Eである。

ＳＢ－117（第182図）

調査区の東部北側にある、現存で、３間4.57mを測る建物である。柱穴の規模は、径20～22cm、深さ12～15cmを測る。主軸方位はN11°Eである。

ＳＢ－118（第182図）

調査区の東部北側にある、梁行２間3.15m、桁行5.33mを測る建物である。柱穴の規模は、径22～36cm、深さ11～40cmを測る。主軸方位はN７°Eである。

ＳＢ－156（第183図）

調査区の東部南端にある建物で、南側が南壁に入っているため、詳細は不明であるが、現存で、３間7.05mを測る。柱穴の規模は、径28～47cm、深さ22～49cmを測る。主軸方位はN75°Wである。

ＳＢ－157（第183図）

調査区の西部中央にある、現存で、２間3.87mを測る建物である。柱穴の規模は、径27～40cm、深さ29～42cmを測る。主軸方位はN20°Eである。

ＳＢ－158（第183図）

調査区の西部中央にある、現存で、梁行２間3.27m、桁行１間2.98mを測る建物である。柱穴の規模は、径18～34cm、深さ17～36cmを測る。主軸方位はN46°Eである。

ＳＢ－159（第183図）

調査区の西部中央にある、現存で、梁行２間3.62m、桁行３間4.60mを測る建物である。柱穴の

規模は、径22～37cm、深さ23～47cmを測る。主軸方位はN44°Eである。

ＳＫ－310

調査区の南部西側で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.03m、短径0.62m、検出面から床面までの深さは14cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

ＳＫ－313

調査区の中央部西側で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.76m、短径0.65m、検出面から床面までの深さは13cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

ＳＫ－314

調査区の中央やや西側で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.13m、短径0.91m、検出面から床面までの深さは19cmを測る。遺物は土師器片、黒色土器片が出土した。

ＳＫ－316

調査区の中央、ＳＫ－314の東４ｍで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.48m、短径0.94m、検出面から床面までの深さは20cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

ＳＫ－317

調査区の北部西側で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.1m、短径0.72m、検出面から床面までの深さは17cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

ＳＫ－319

調査区の北部中央、ＳＫ－317の東3.4mで検出された、ＳＫ－320を切っている楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.13m、短径0.84m、検出面から床面までの深さは16cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－320

調査区の北部中央、ＳＫ－319に切られている土坑である。現存で、径0.78m、検出面から床面までの深さは15cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－325

調査区の北部中央やや東側で検出された、円形を呈する土坑である。規模は、径1.33m、検出面から床面までの深さは13cmを測る。遺物は、土師器の高坏が出土した。

ＳＫ－331

調査区の北部、ＳＫ－317の西４ｍで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.1m、短径0.54m、検出面から床面までの深さは13cmを測る。遺物は、土師器の皿が出土した。

ＳＫ－332

調査区の中央部で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.72m、短径0.66m、検出面から床面までの深さは38cmを測る。遺物は出土しなかった。

ＳＫ－354

調査区の北部で検出された、不整形を呈する土坑である。規模は、1.7×1.8m、検出面から床面までの深さは28cmを測る。遺物は、縄文土器片と土師器の甕片、石鏃未製品が出土した。

ＳＫ－358

調査区の北部中央で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.23m、短径0.83m、検出面から床面までの深さは15cmを測る。遺物は縄文土器片、土師器の壷片が出土した。

ＳＫ－359

調査区の東部中央東壁際で検出された、不整形を呈する土坑である。現存で、径1.56m、検出面から床面までの深さは14cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－360

調査区の南部東側南壁際で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.97m、短径0.57m、検出面から床面までの深さは14cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

ＳＫ－361

調査区の南部中央で検出された、不整形を呈する土坑である。規模は、長径1.16m、短径0.42m、検出面から床面までの深さは８cmを測る。遺物は土師器片、鞴の羽口片が出土した。

ＳＫ－362

調査区の南部東側南壁際で検出された、南壁に入っている土坑である。現存で、長径0.93m、検出面から床面までの深さは16cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

ＳＫ－363

調査区の中央で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.42m、短径12.3m、検出面から床面までの深さ23cmを測る。遺物は、土師器の甕片が出土した。

ＳＤ－12

調査区の南部中央で検出された、南北にのびる溝状遺構である。現存で、長さ約10m、幅0.4～0.5m、深さ10～15cmを測る。遺物は土師器片、黒色土器片、輸入陶磁器片が出土した。

ＳＤ－13

調査区の東部で検出された、南北にのびる溝状遺構である。現存で、長さ約15m、深さ10～20cmを測る。遺物は縄文土器片、弥生土器片、土師器片、須恵器片、黒色土器片が出土した。

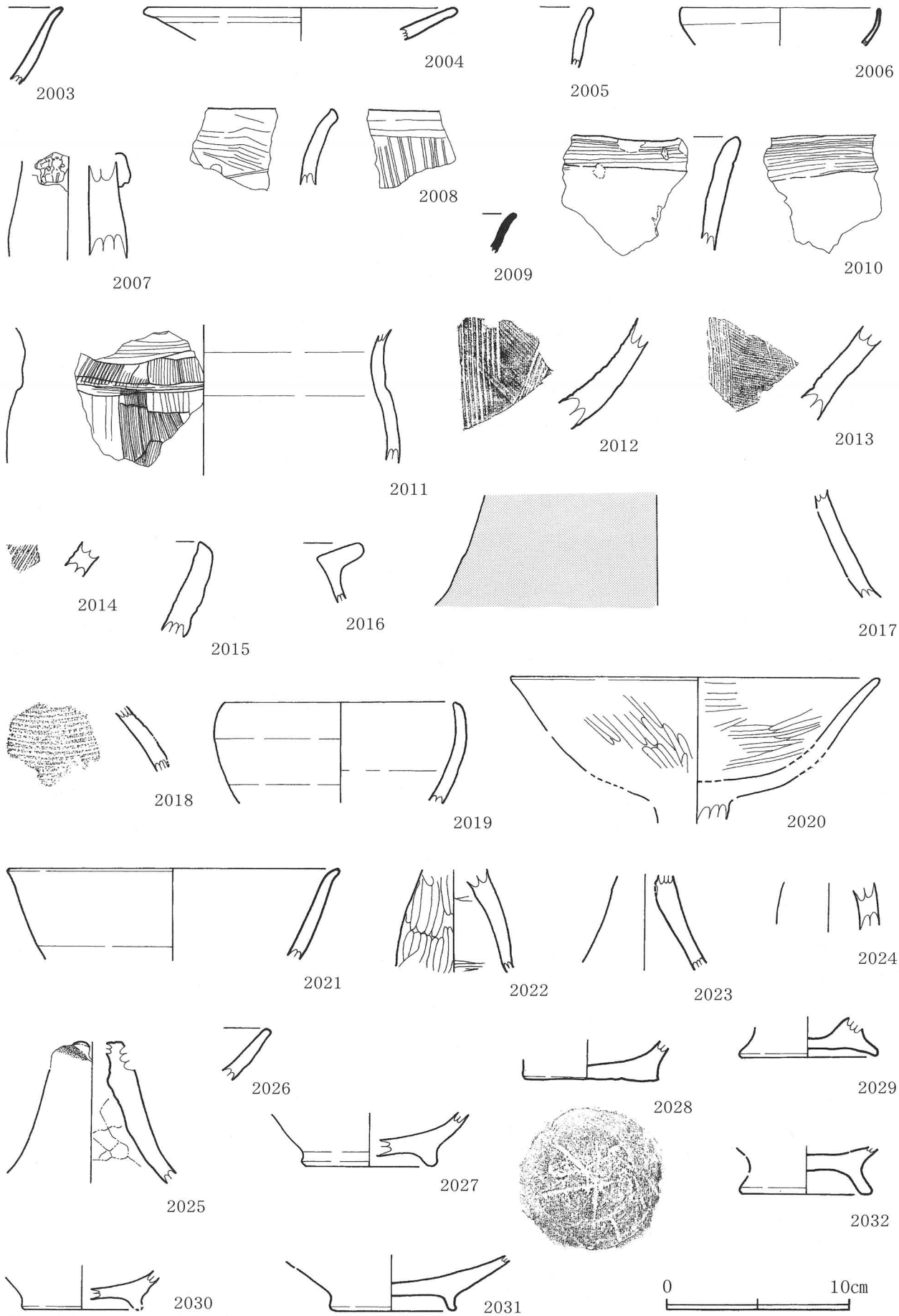
ＳＤ－14

調査区の東部で検出された、南北にのびる溝状遺構で、現存で、長さ約17m、幅1.2～1.4m、深さ30～60cmを測る。遺物は、布痕土器と土師器の甕片と中世の国産陶器の擂鉢が出土した。

ＳＤ－15

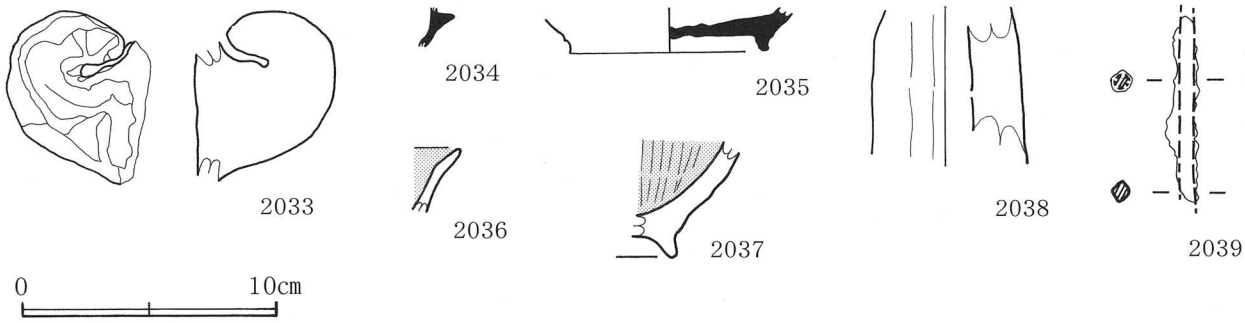
調査区の南部壁に沿って検出された、東西にのびる溝状遺構で、現存で、長さ約８m、深さ10～20cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

ＳＤ－17



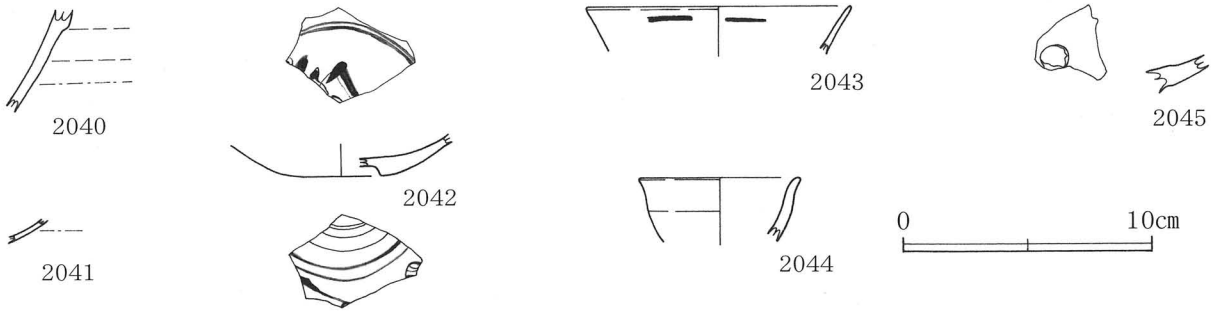
第184図　ＳＫ・Ⅳ区　出土遺物実測図（１）

2003：SK-325,2004：SK-331,2005：SK-354,2006：SK-358,2007：SK-361,2008：SK-363,
2009：SD-13,2010～2015：SD-14,2017～2020・2023・2026：491,2021～2022・2029：Ⅳ層,
2024：134,2025：19,2028：327,2030：128,2031：36,2032：Ⅱ層



第185図　Ⅳ区　出土遺物実測図（２）

2034:491,2038～2039:Ⅳ層



第186図　Ⅳ区　出土遺物実測図（３）

調査区の南部中央、ＳＤ－12の東側で検出された、南北にのびる溝状遺構である。現存で、長さ約５ｍ、幅0.2～0.58ｍ、深さ８～15cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＤ－18

調査区の中央で検出された、東西にのびる溝状遺構である。現存で、長さ約６ｍ、幅0.82～1.21ｍ、深さ12～16cmを測る。遺物は縄文土器片、土師器片が出土した。

調査区の北側に東西に並ぶ深い穴が検出された。貯蔵穴と思われるが定かではない。以下に述べる。

ＳＺ－01

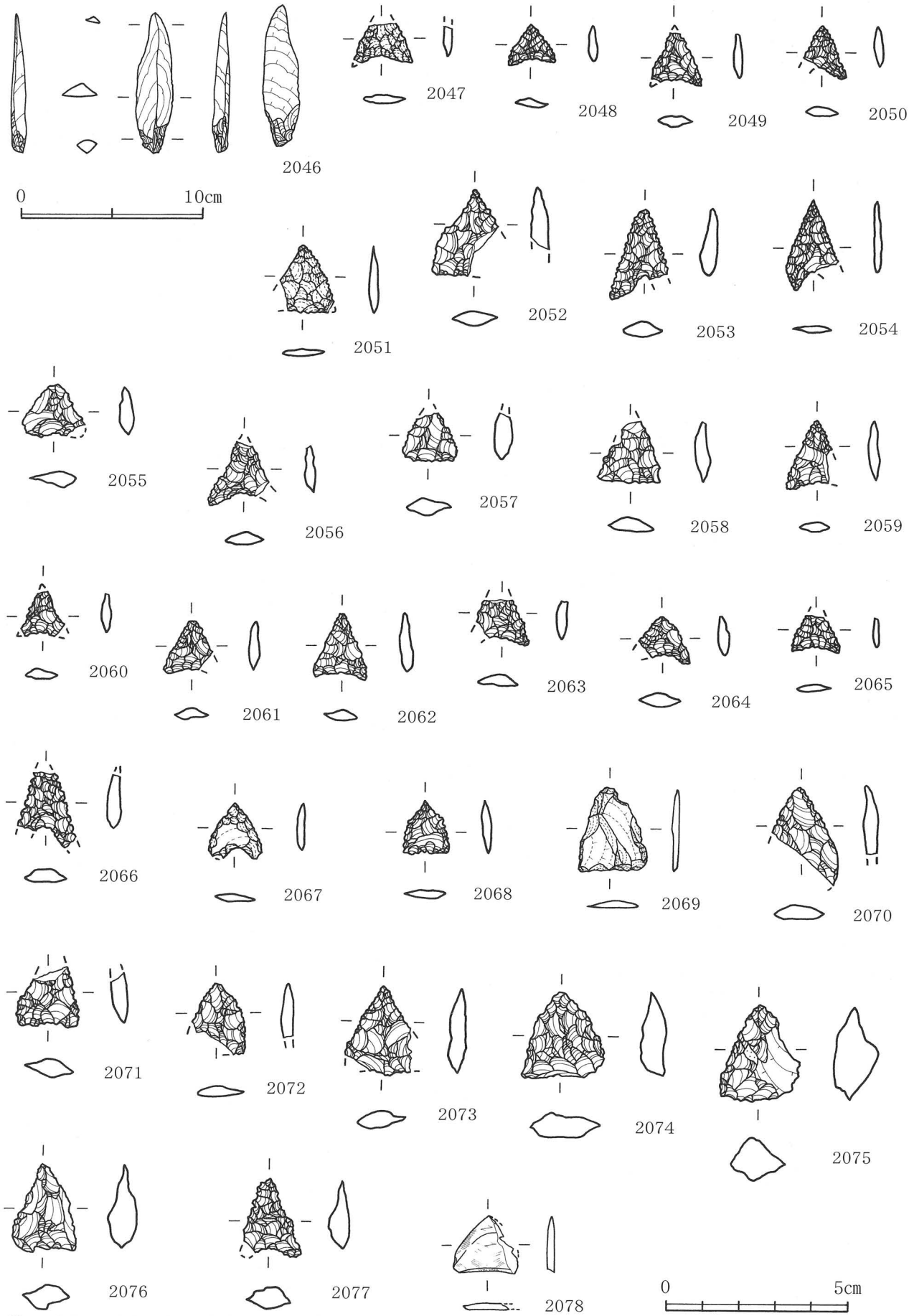
調査区の北部中央で検出され、規模は、１～2.8ｍ、深さ0.9～1.3ｍを測り、不整形を呈する。遺物は縄文土器片、土師器片が出土した。

ＳＺ－02

調査区の北部、ＳＺ－01の東6.5ｍで検出され、規模は1.9～3.1ｍ、深さ0.7～1.3ｍを測り、不整形を呈する。遺物は縄文土器片、土師器片が出土した。

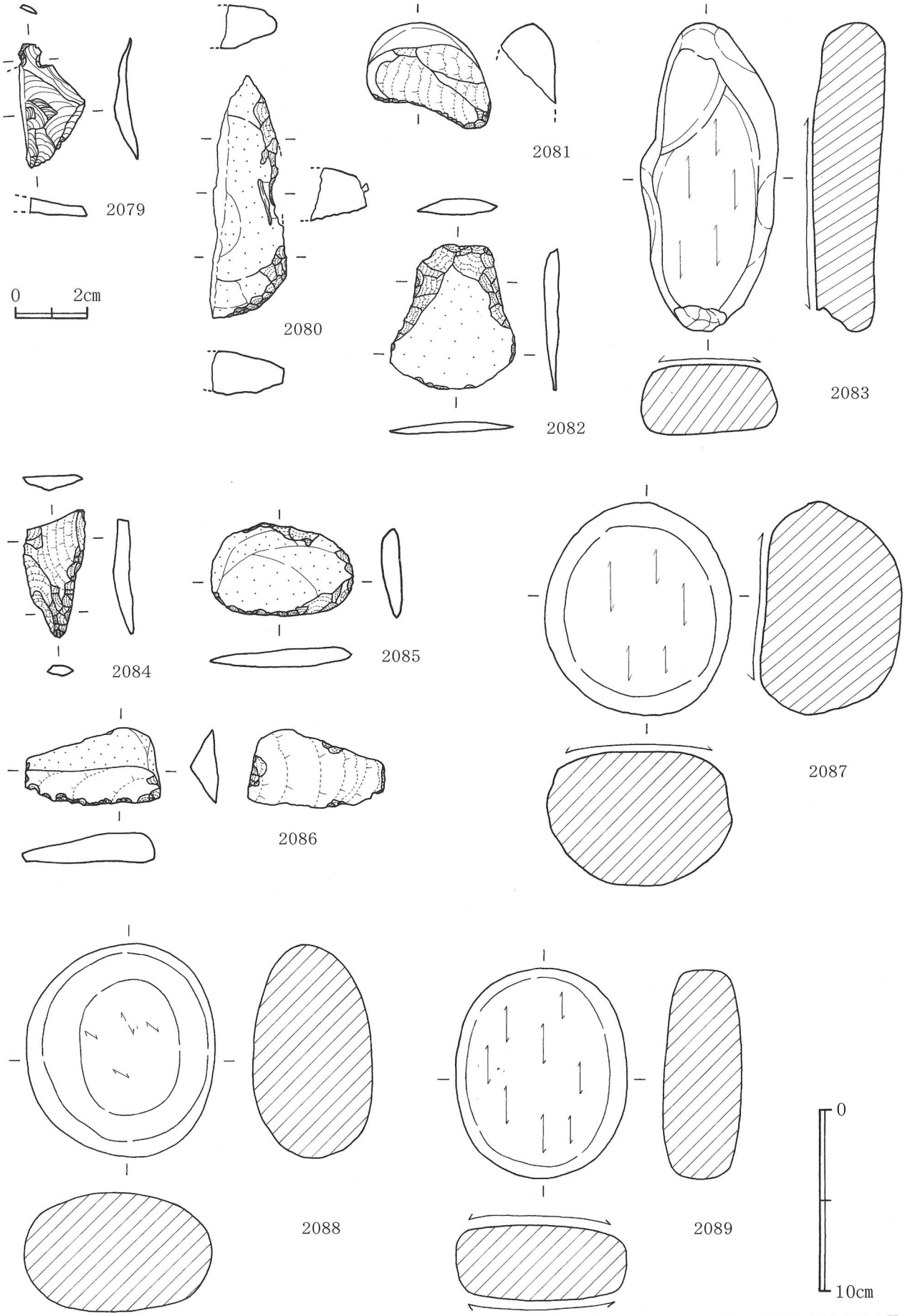
ＳＺ－03

調査区の北部東壁際で検出され、東壁に入っているため規模は不明であるが、深さ2.1～2.5ｍを測り、不整形を呈する。遺物は縄文土器の突帯文土器や弥生土器や土師器が出土した。



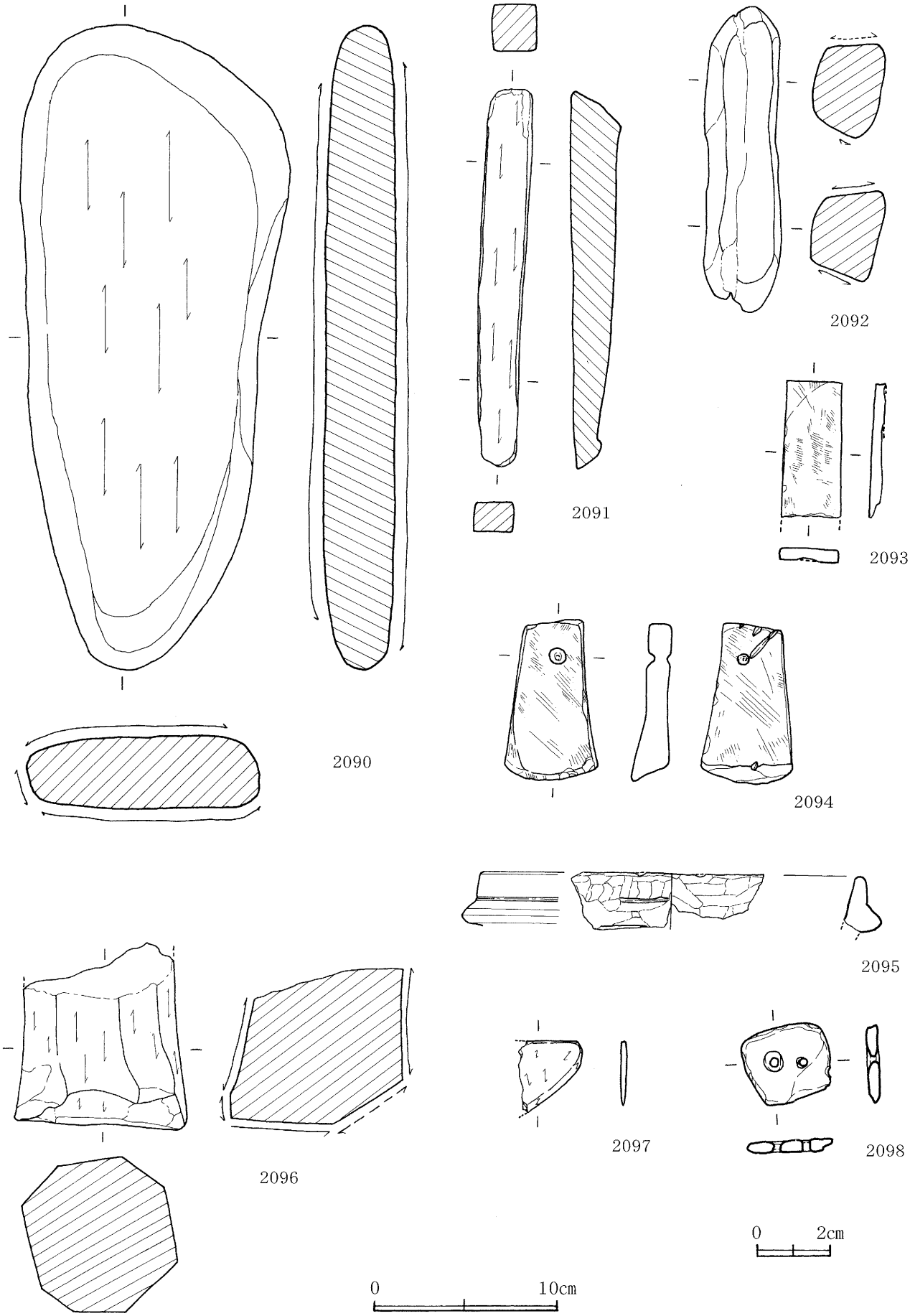
第187図　Ⅳ区　出土遺物実測図（4）

2046～2047・2078：SA-40,2048～2051・2071：SA-46,2052：SA-48,2053：SD-12,
2054～2055・2058～2065・2067～2068・2070・2073～2074・2076：491,2069：SD-14,
2075：SK-354



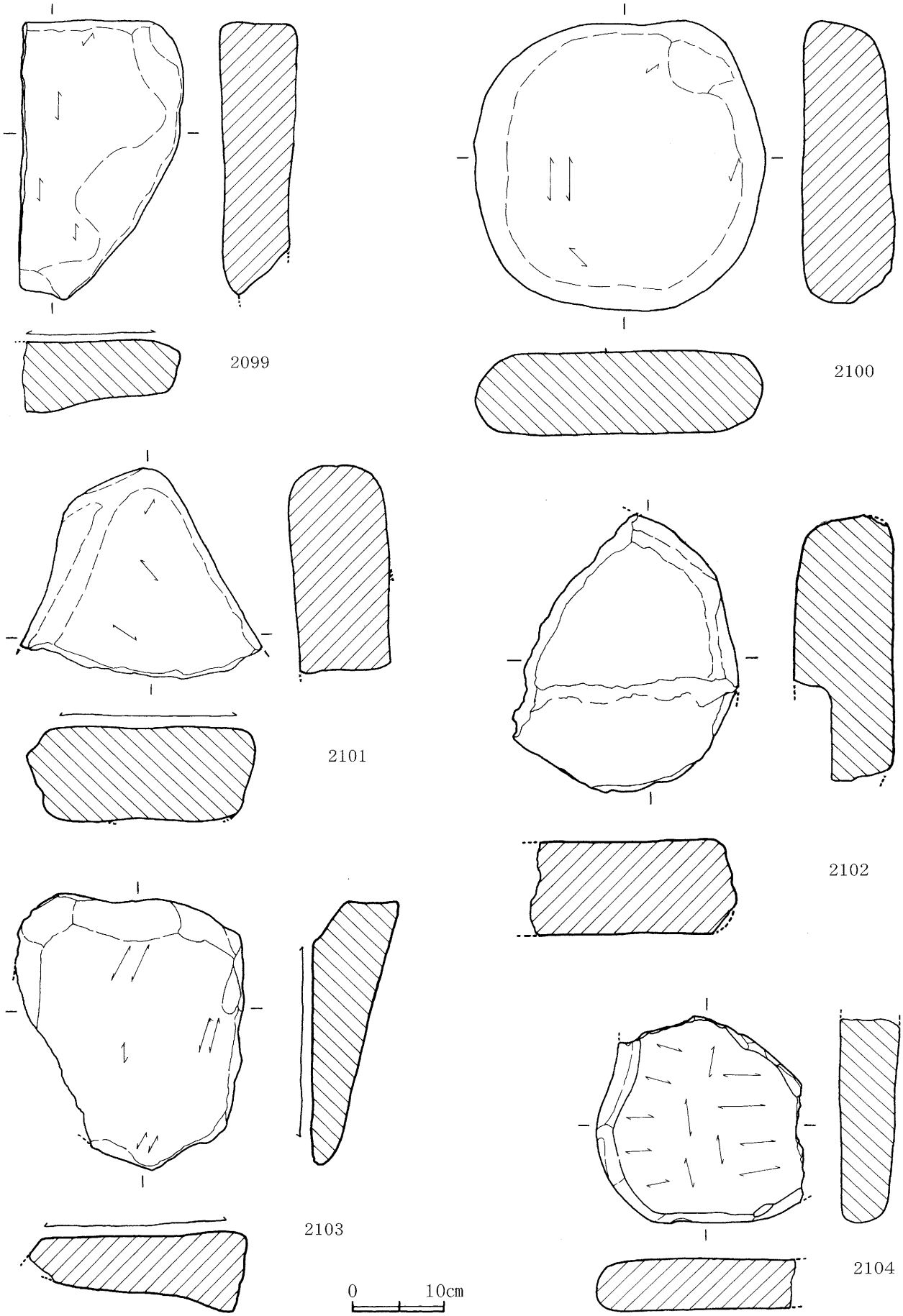
第188図　Ⅳ区　出土遺物実測図（5）

2080・2087：546,2081：SA-45,2082・2084：491,2083：SA-46,2086・2088：Ⅳ層,
2089：SA-40



第189図　Ⅳ区　出土遺物実測図（6）

2090：SA-40,2091・2096：SA-46,2092：SA-41,2094・2098：Ⅳ層,2097：SA-34



第190図　Ⅳ区　出土遺物実測図（7）

2099:SA-43,2100～2102・2104:SA-46,2103:SA-45

出土遺物

Ⅲｃ層上面での遺構検出、Ⅲｃ層掘り下げ、Ⅳ層上面での遺構検出の際、縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・黒色土器・輸入陶磁器、鉄器・石器など数十点の遺物が出土した。

弥生土器は、甕の口縁部が１点出土し、土師器は、高坏の口縁部・脚部、鉢の底部、埦の底部、甑の耳部などの土器片が出土している。須恵器は、坏の口縁部、埦の底部、黒色土器は、鉢の口縁部、埦の底部の土器片が出土している。輸入陶磁器は、白磁の碗・皿、青花の碗・皿が出土している。鉄器は鉄鏃の茎部が出土している。石器は、打製石鏃・打製石鏃未製品、石匙、刃器、磨石、石鍋、滑石製の用途不明石製品が出土している。

第７節　Ｖ区の調査

調査は、重機でⅢｂ層まで剥いで、遺構の検出は、Ⅲｃ層上面とⅣ層上面で行った。その結果、掘立柱建物14棟、土坑・土壙墓９基、溝状遺構５条を検出した。調査区の北壁中央部では、遺構が北壁にかかって検出されたため、その部分を北側に拡張した。

中世

Ⅲｃ層上面で遺構検出を行ったところ、掘立柱建物14棟、土坑・土壙墓９基、溝状遺構５条を検出した。

ＳＢ－119（第192図）

調査区の南部西側にある建物で、南側が、南壁に入っているため、詳細は不明であるが、現存で、梁行２間3.05ｍ、桁行２間4.25ｍを測り、柱穴の規模は、径26～46㎝、深さ12～41㎝を測る。主軸方位はＮ87°Ｗである。

ＳＢ－120（第192図）

調査区の中央部やや西側にある、梁行２間2.64～3.24ｍ、桁行２間4.62～4.74ｍを測る建物である。柱穴の規模は、径30～47㎝、深さ27～61㎝を測る。主軸方位はＮ９°Ｗである。

ＳＢ－121（第192図）

調査区の中央部北側にある、現存で、２間4.35ｍを測る建物である。柱穴の規模は、径29～36㎝、深さ30～49㎝を測る。主軸方位はＮ85°Ｗである。

ＳＢ－122（第192図）

調査区の中央部やや東側にある、梁行２間4.16～4.25ｍ、桁行３間5.43～6.10ｍを測る建物である。柱穴の規模は、径28～35㎝、深さ23～59㎝を測る。主軸方位はＮ85°Ｗである。

ＳＢ－123（第192図）

調査区の中央部東側にある、梁行２間3.86～3.92ｍ、桁行３間5.66～5.80ｍを測る建物である。柱穴の規模は、径22～60㎝、深さ20～58㎝を測る。主軸方位はＮ４°Ｅである。

ＳＢ－124（第192図）

調査区の中央部東側にある、現存で、梁行２間4.05m、桁行２間4.21mを測る建物である。柱穴の規模は、径21～47cm、深さ35～60cmを測る。主軸方位はN87° Wである。

ＳＢ－125（第193図）

調査区の東部北側にある、梁行２間3.76～3.94m、桁行３間6.80～7.04mを測る建物である。柱穴の規模は、径25～46cm、深さ30～59cmを測る。主軸方位はN86° Wである。

ＳＢ－126（第193図）

調査区の東部南側にある建物で、南側が南壁に入っているため、詳細は不明であるが、現存で、２間4.05mを測る。柱穴の規模は、径28～35cm、深さ29～47cmを測る。主軸方位はN16° Eである。

ＳＢ－127（第193図）

調査区の東部南側にある、現存で、梁行２間3.96m、桁行３間6.05mを測る建物である。柱穴の規模は、径24～35cm、深さ33～47cmを測る。主軸方位はN87° Wである。

ＳＢ－128（第193図）

調査区の東部南側にある建物で、南側が南壁に入っているため、詳細は不明であるが、現存で、桁行３間5.28mを測る。柱穴の規模は、径25～33cm、深さ32～49cmを測る。主軸方位はN70° Wである。

ＳＢ－129（第193図）

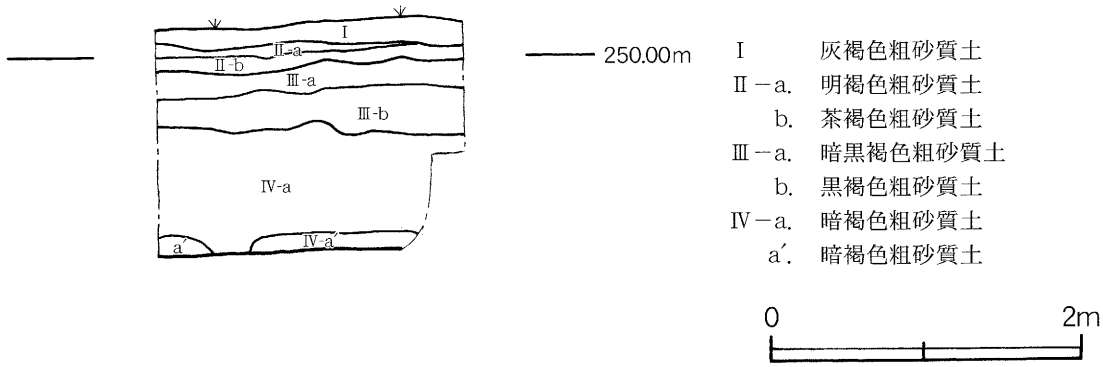
調査区の中央部南側にある建物で、南側が南壁に入っているため、詳細は不明であるが、現存で、２間4.28mを測る。柱穴の規模は、径32～39cm、深さ40～51cmを測る。主軸方位はＮ１° Eである。

ＳＢ－160（第194図）

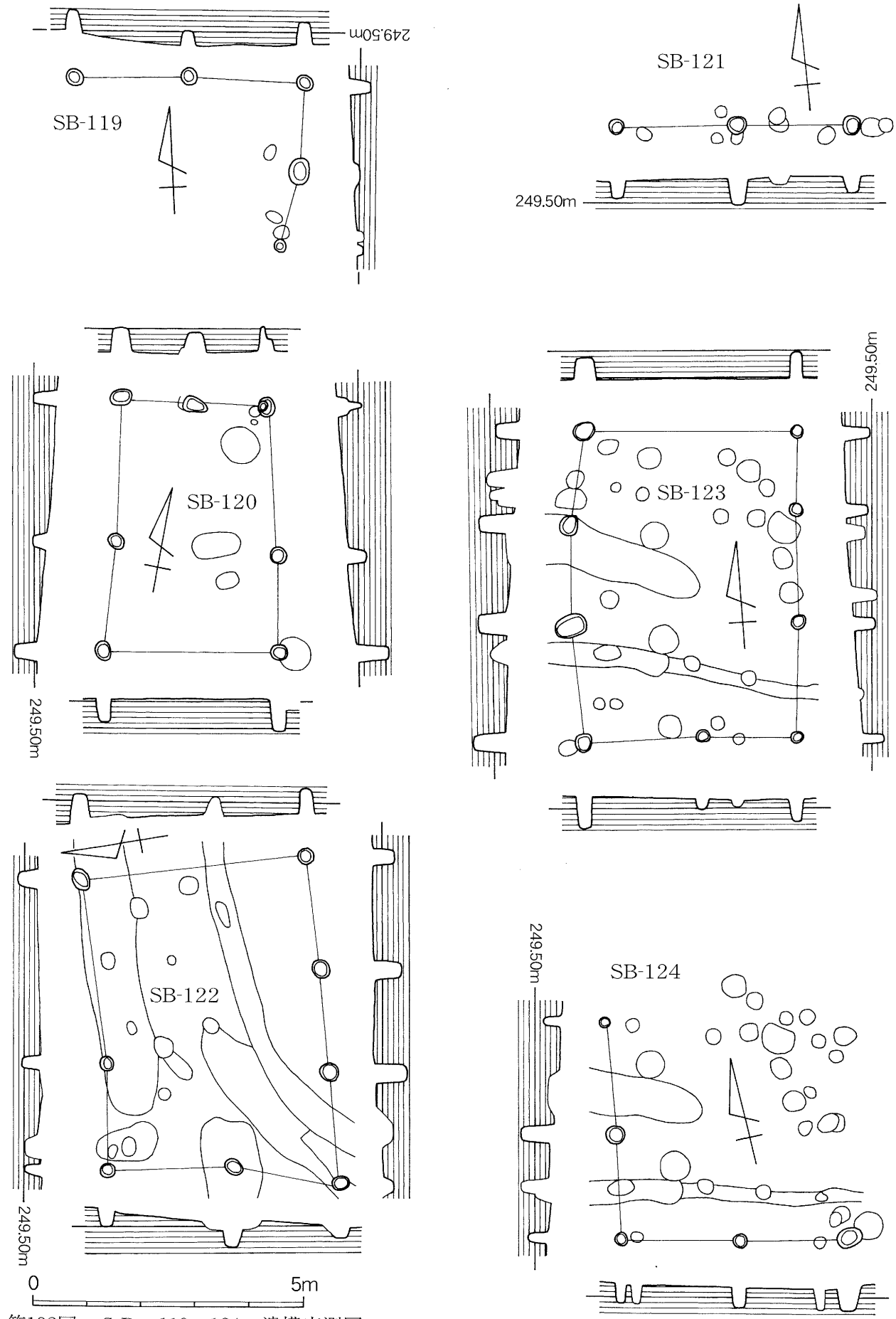
調査区の中央部にある、梁行２間3.83～4.18m、桁行３間6.35～6.86mを測る建物である。柱穴の規模は、径38～68cm、深さ27～58cmを測る。主軸方位はＮ４° Eである。

ＳＢ－161（第194図）

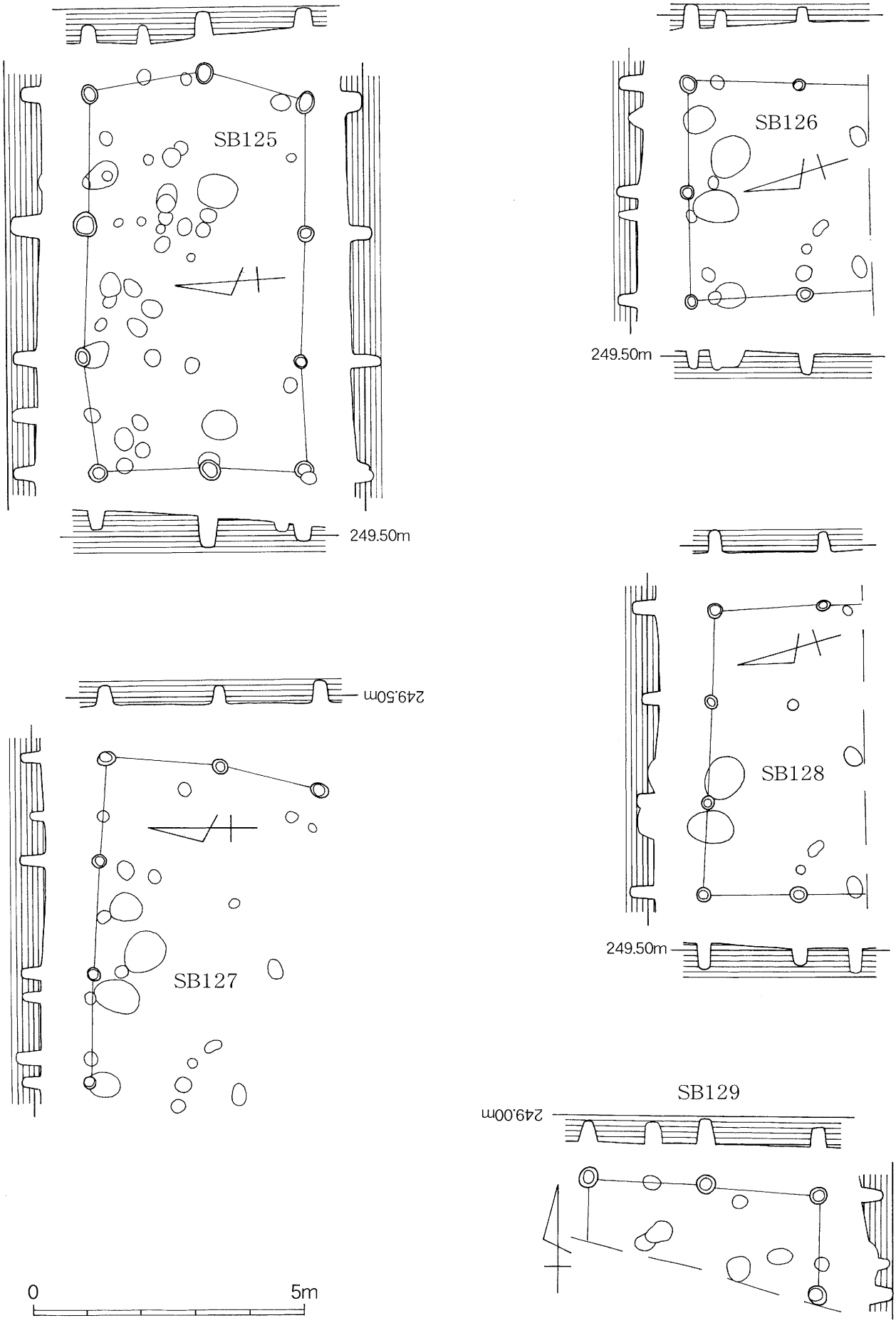
調査区の中央部北側にある、現存で、桁行３間6.62mを測る建物である。柱穴の規模は、径25～45cm、深さ33～39cmを測る。主軸方位はN75° Wである。



第191図　Ｖ区　南壁層序図



第192図　ＳＢ－119～124　遺構実測図



第193図　ＳＢ－125～129　遺構実測図

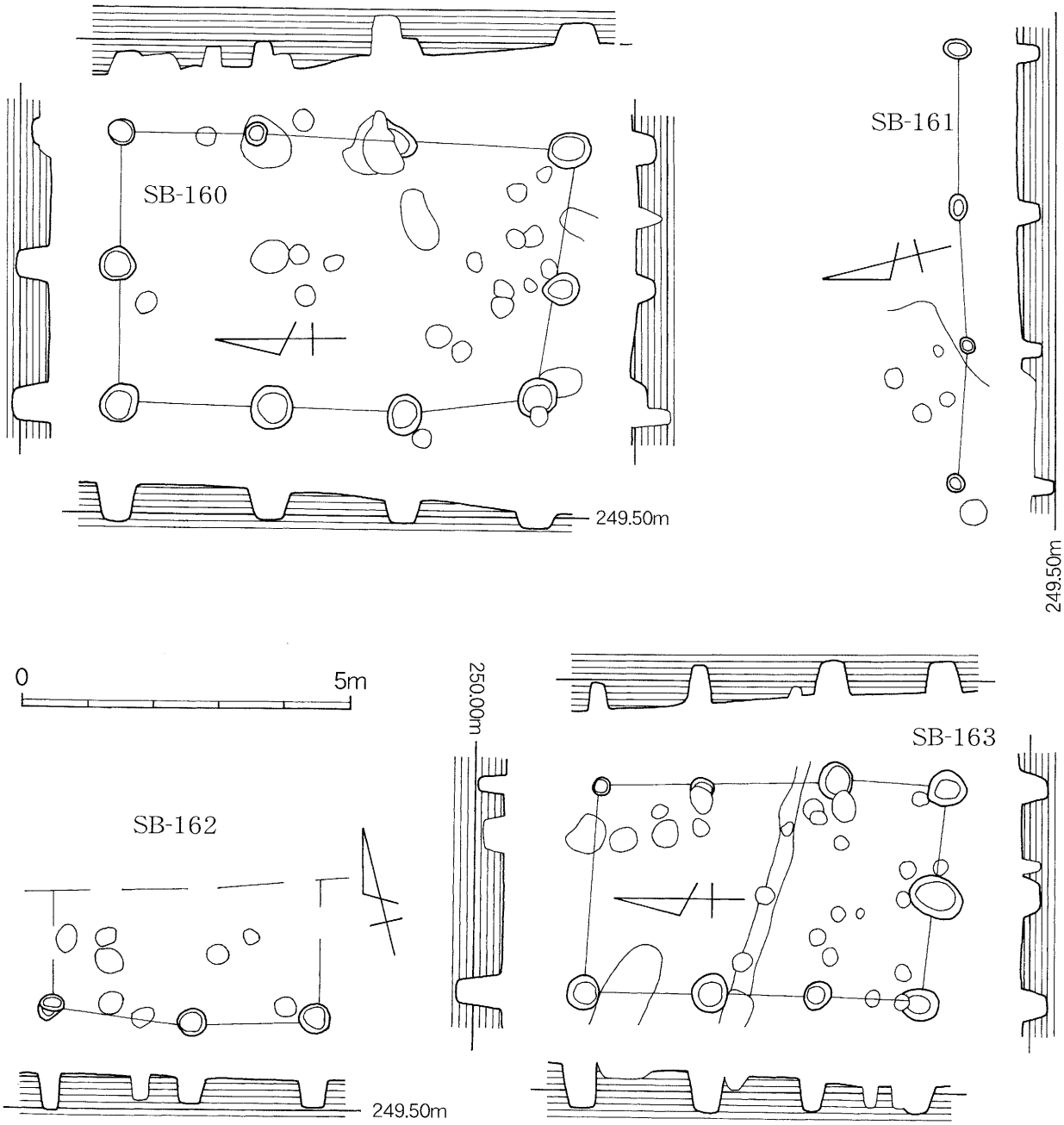
ＳＢ－162（第194図）

調査区の東部北側にある建物で、北側が北壁に入っているため、詳細は不明であるが、現存で、２間4.04ｍを測る。柱穴の規模は、径35～50cm、深さ40～57cmを測る。主軸方位はＮ16°Ｅである。

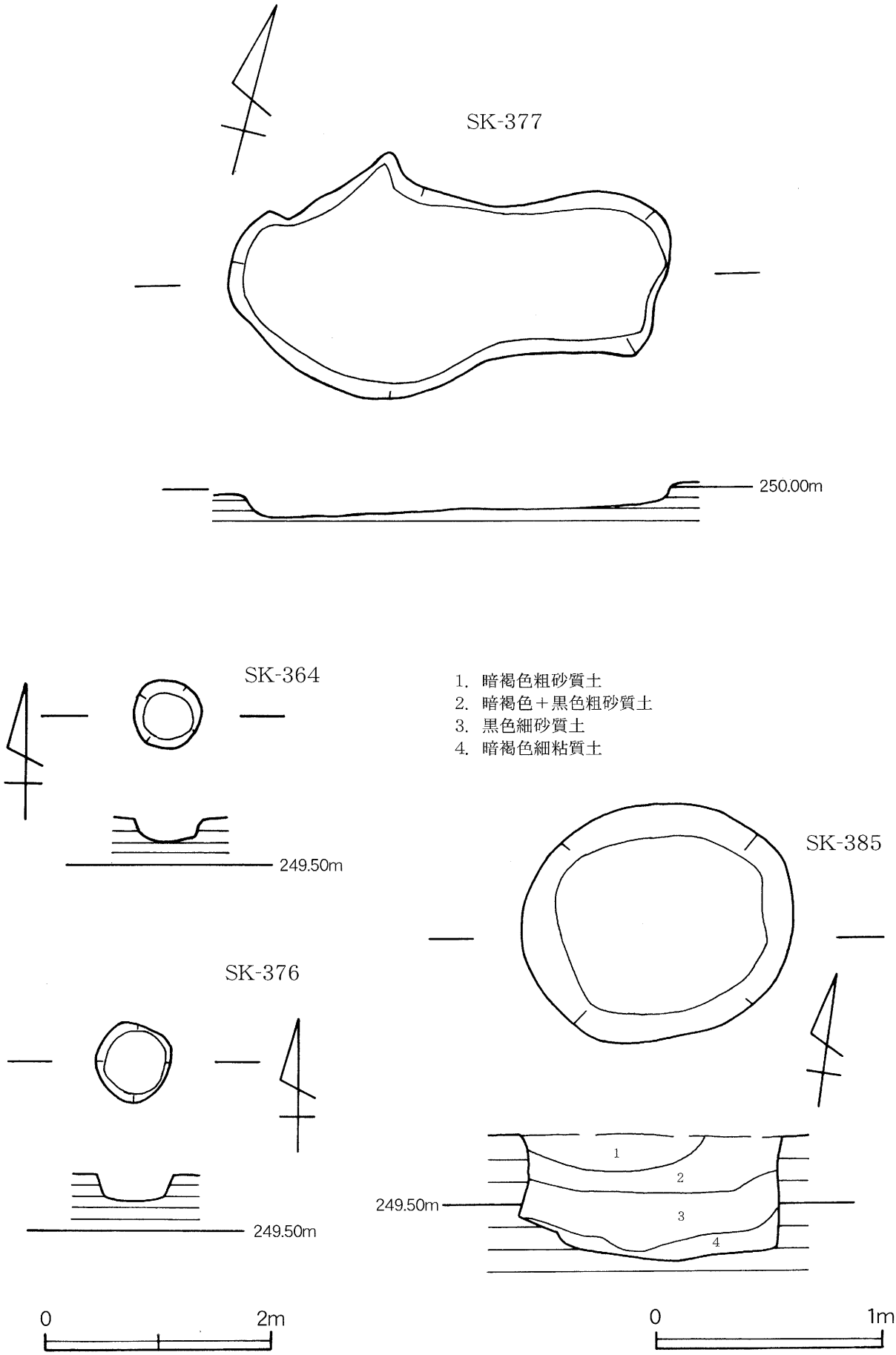
ＳＢ－163（第194図）

調査区の東部にある、梁行２間3.20～3.34ｍ、桁行３間5.12～5.25ｍを測る建物である。柱穴の規模は、径28～82cm、深さ30～68cmを測る。主軸方位はＮ１°Ｅである。

ＳＫ－364（第195図）



第194図　ＳＢ－160～163　遺構実測図



第195図　ＳＫ－364・376・377・385　遺構実測図

調査区の西部中央で検出された、円形を呈する土坑である。径0.60m、検出面から床面までの深さ20cmを測る。遺物は、布痕土器の口縁部片と鞴の羽口片と紡錘車が出土し、時期は10世紀と思われる。

ＳＫ－366

調査区の中央西側、ＳＫ－364の東1.9mで検出された、楕円形を呈する土坑である。長径0.84m、短径0.76m、検出面から床面までの深さは23cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

ＳＫ－369

調査区の中央東側やや北よりで検出された、楕円形を呈する土坑である。長径1.04m、短径0.74m、検出面から床面までの深さは23cmを測る。遺物は縄文土器片、土師器片、青磁の碗が出土した。

ＳＫ－374

調査区の中央、ＳＫ－372の西0.8mで検出された、楕円形を呈する土坑である。長径0.97m、短径0.57m、検出面から床面までの深さは37cmを測る。遺物は土師器片、須恵器片、黒色土器片が出土した。

ＳＫ－375

調査区の西部南壁際で検出された、不整形を呈する土坑である。長径1.18m、短径1.15m、検出面から床面までの深さは39cmを測る。遺物は土師器片、須恵器の甕片が出土した。

ＳＫ－376（第195図）

調査区の南部西側、ＳＫ－375の北0.6mで検出された、円形を呈する土坑である。径0.72m、検出面から床面までの深さは22cmを測る。遺物は土師器片、鉄器が出土した。

ＳＫ－377（第195図）

調査区の北部中央の拡張部で検出された、不整形を呈する土坑である。1.34×3.82m、検出面から床面までの深さは23cmを測る。遺物は縄文土器片、土師器片、須恵器の蓋片が出土した。

ＳＫ－385（第195・196図）

調査区の中央部北側で検出された、楕円形を呈する土坑である。長径1.24m、短径1.04m、検出面から床面までの深さは55cmを測る。遺物は土師器の壷の口縁部、椀の口縁部、黒色土器片が出土した。

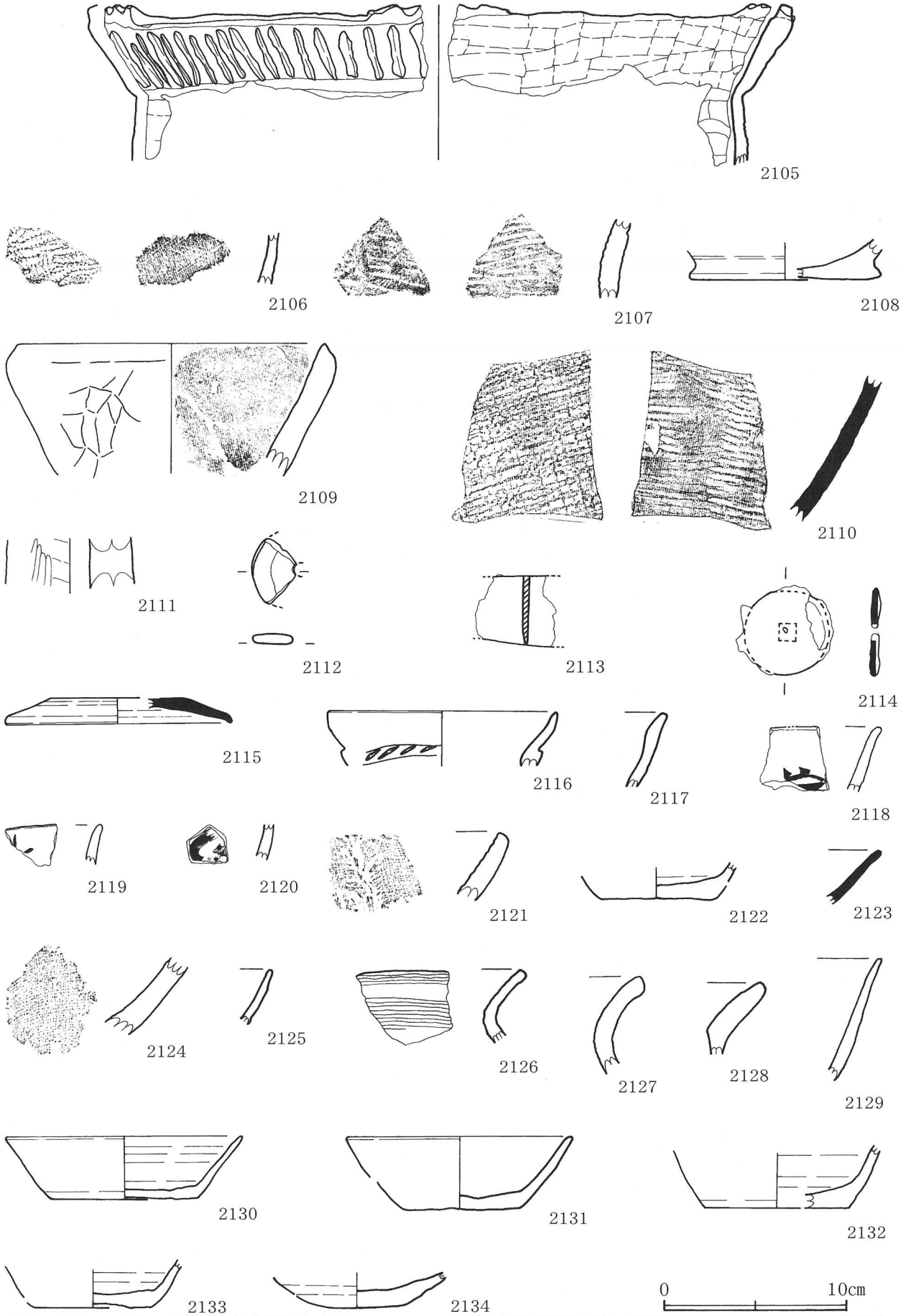
ＳＤ－26

調査区の中央を東から西へとのびて中央部付近で南へ曲がる溝状遺構で、現存で、長さ約16m、幅0.3～0.7m、深さ８～63cmを測る。遺物は少量で土師器の土器片と布痕土器が出土した。

ＳＤ－27

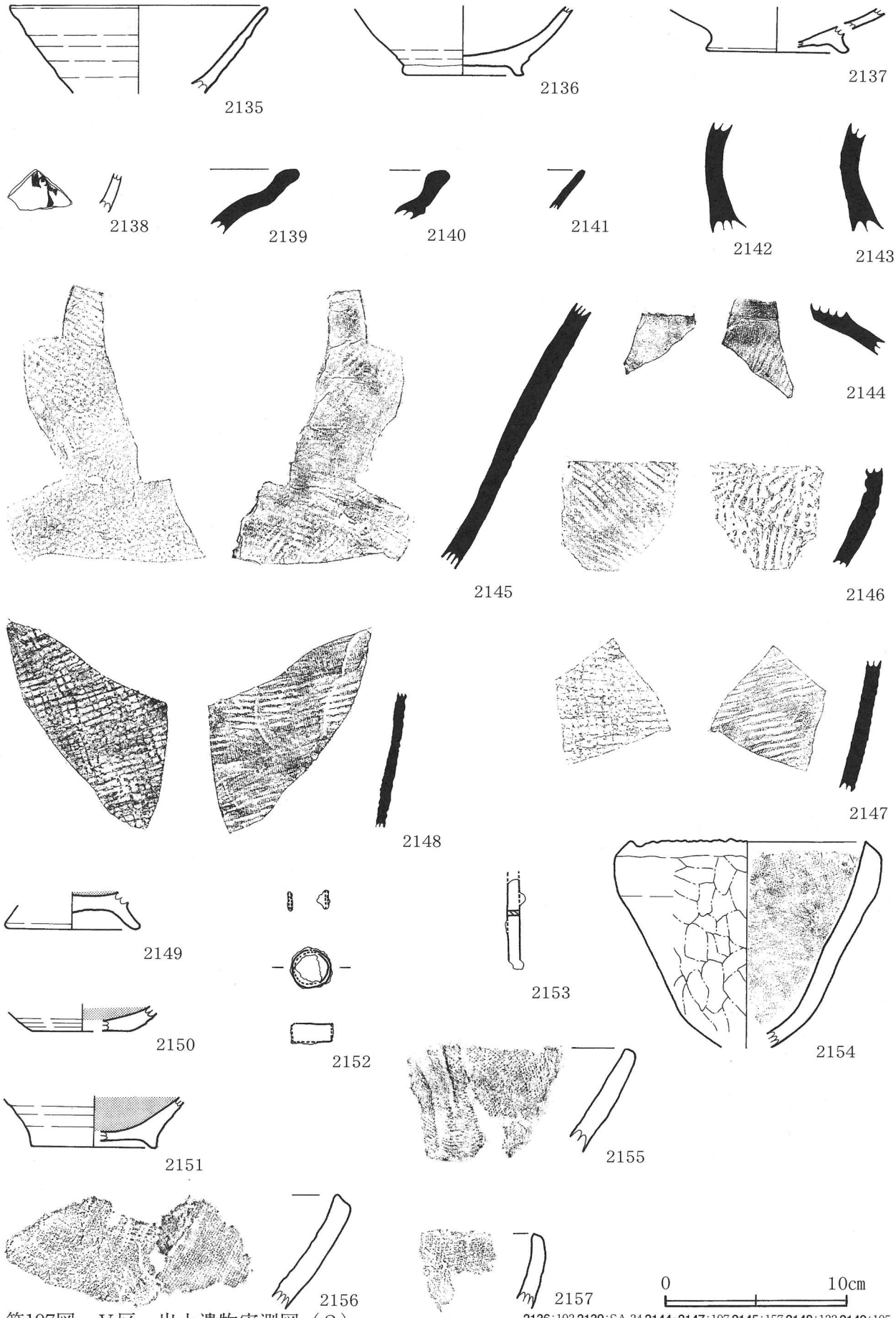
調査区の中央部やや北側にある、東西にのびる溝状遺構で、現存で、長さ約８m、幅0.8～1.2m、深さ10～23cmを測る。遺物は縄文土器片、土師器片、黒色土器片が出土した。

ＳＤ－28



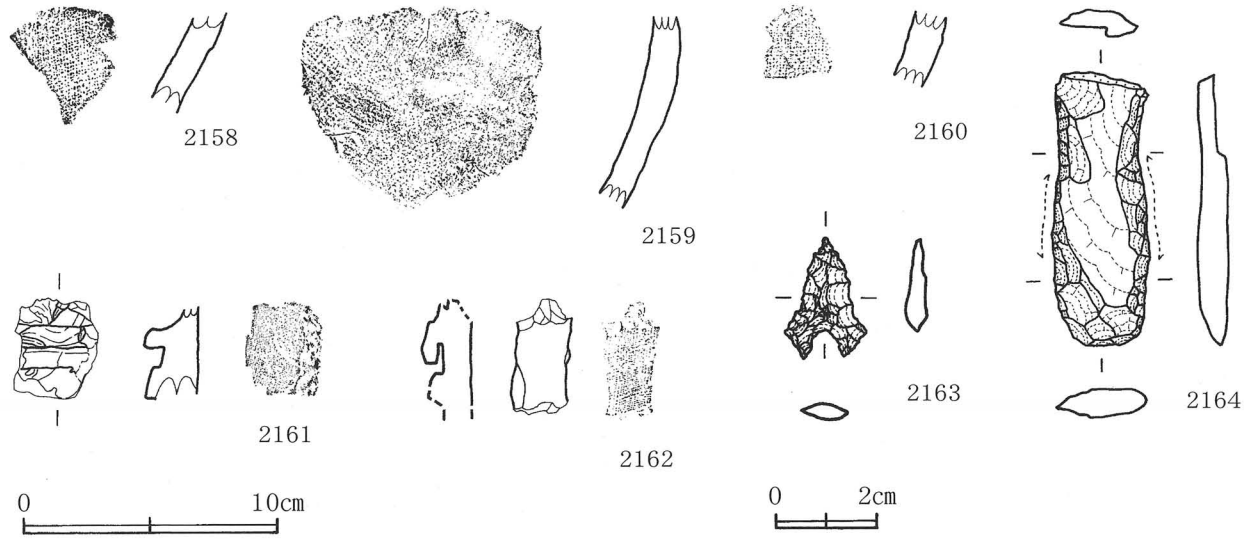
第196図　Ⅴ区　出土遺物実測図（1）

2105：115,**2109**・**2111**～**2112**：SK-364,**2110**：SK-375,**2113**～**2114**：SK-376,
2115：SK-377,**2116**～**2117**：SK-385,**2118**～**2121**：SD-26,**2122**～**2124**：SD-28,
2125：SD-29,**2127**：79,**2131**：226,**2133**：189,**2134**：16

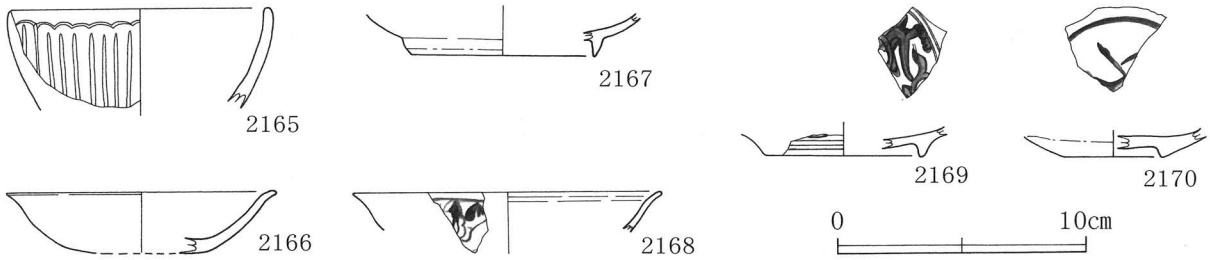


第197図　Ⅴ区　出土遺物実測図（2）

2136：193,2139：SA-34,2144・2147：197,2145：157,2148：133,2149：195,
2152：72,2154・2157：158,2155～2156：160



第198図　Ⅴ区　出土遺物実測図（3）　　2159:193,2162:136



第199図　Ⅴ区　出土遺物実測図（4）　　2165:SK-369,2166:21,2169:35,2170:43

調査区の中央にある、北東から南西にのびる溝状遺構で、現存で、長さ約４ｍ、幅0.4～0.9m、深さ20～46cmを測る。遺物は土師器の坏片、須恵器の埦片、布痕土器が出土した。

ＳＤ－29

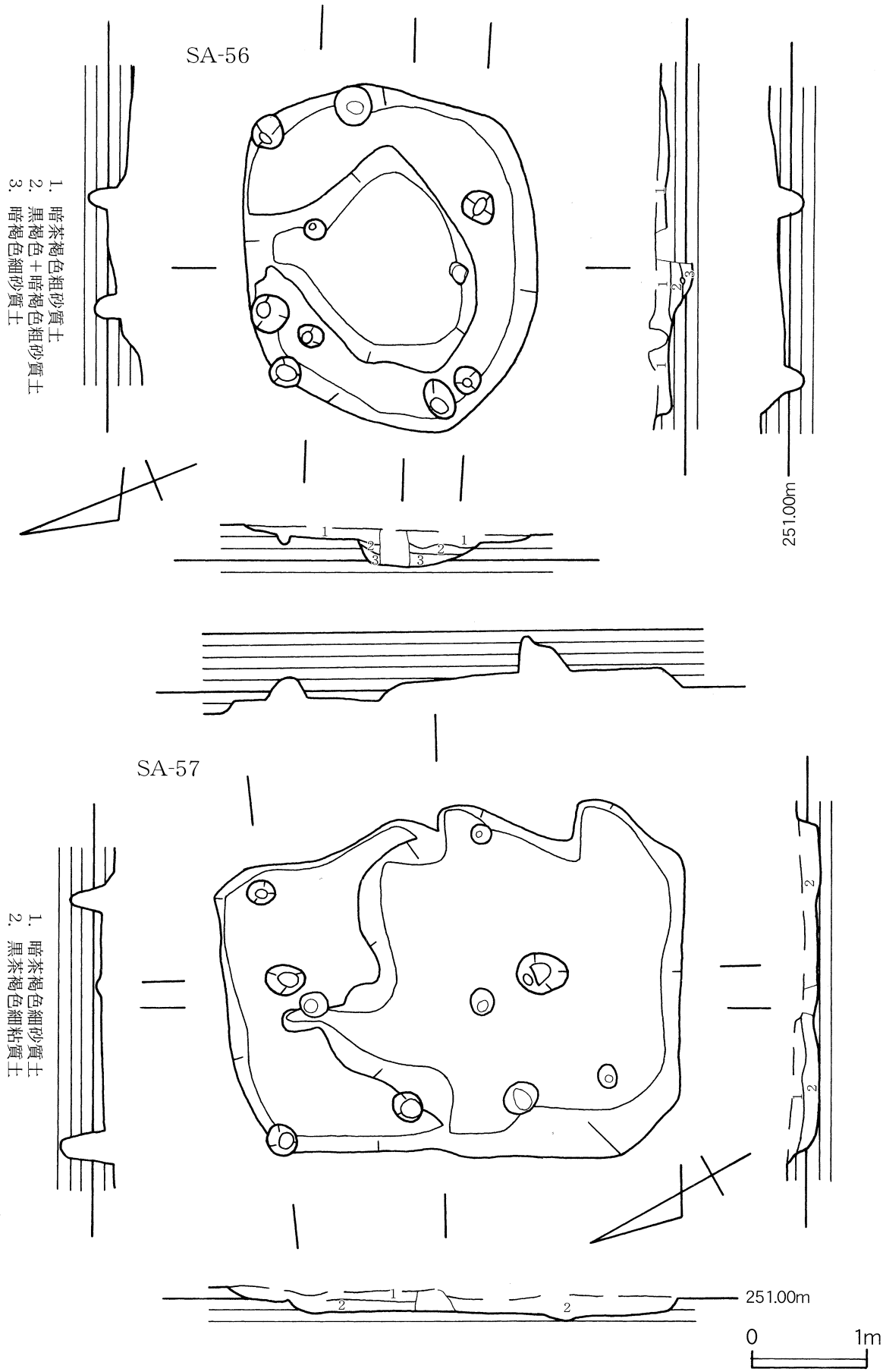
調査区の中央部にある、南北にのびる溝状遺構で、現存で、長さ約８ｍ、幅0.5～0.8m、深さ40～60cmを測る。遺物は少量で、土師器の坏片が出土した。

ＳＤ－30

調査区の南部西側南壁際にある、東西にのびる溝状遺構で、現存で、長さ約７ｍ、幅0.4～0.98m、深さ８～20cmを測る。遺物は出土していない。

出土遺物

Ⅲｃ層上面での遺構検出、同層の掘り下げ、Ⅳ層上面での遺構検出の際に少量であるが、縄文土器・土師器・須恵器・黒色土器・土製品・輸入陶磁器・鉄器・石器が出土した。縄文土器は、中期の土器の口縁部、胴部、底部片が出土した。土師器は、甕の口縁部、鉢、埦などが出土しており、須恵器は、甕の口縁部、頸部、胴部片、黒色土器は、埦、皿の底部片が出土した。土製品は、布痕土器の口縁部が出土した。鉄器は、鉄鏃の茎部と環状遺物が出土した。石器は、打製石鏃と扁平打製石斧が出土しただけである。



第201図　ＳＡ－56・57　遺構実測図

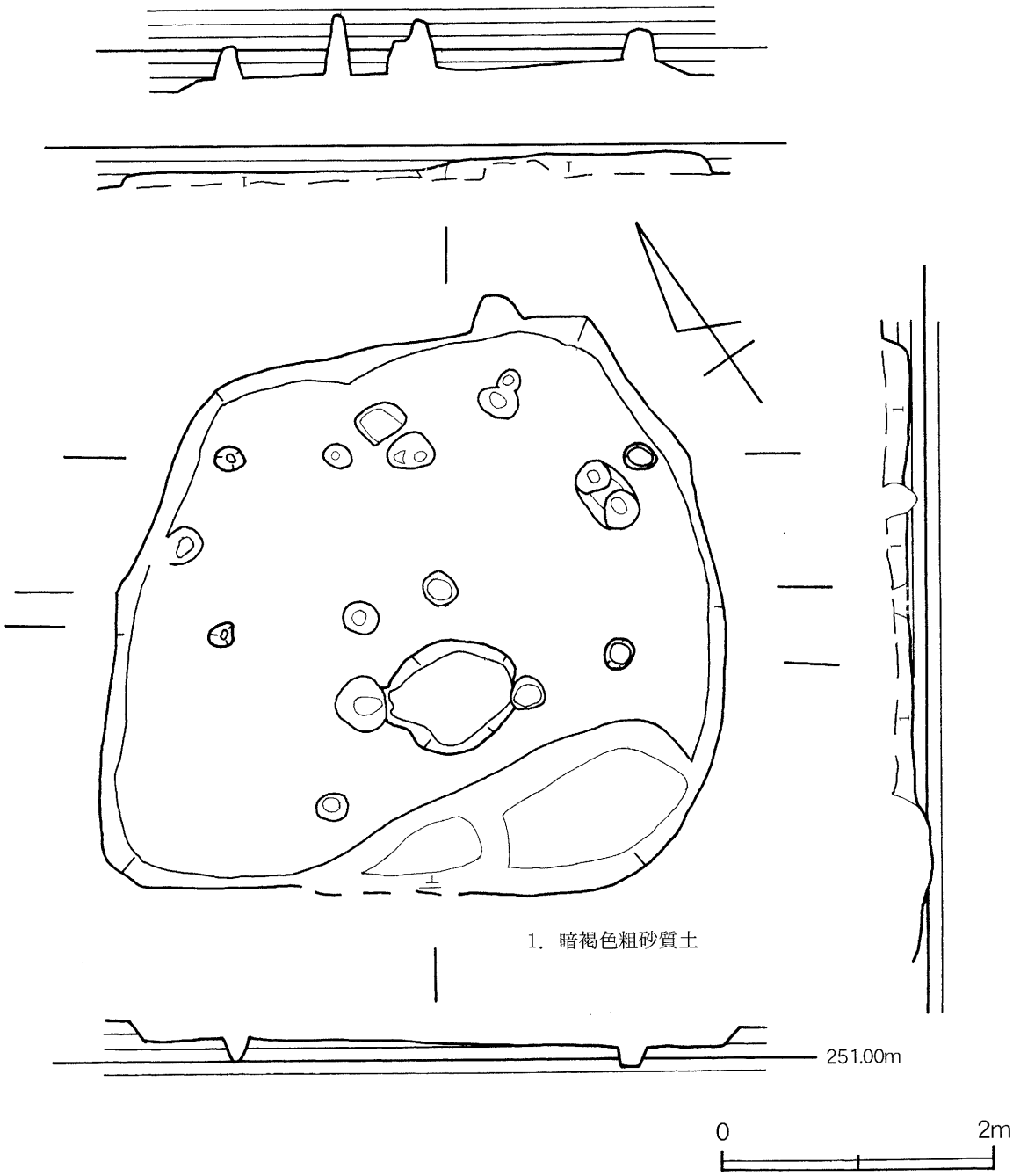
第８節　Ⅵ区の調査

Ⅲｃ層上面とⅣ層上面で遺構検出を行った結果、集石遺構１基、竪穴住居10基、竪穴状遺構２基、掘立柱建物16棟、土坑・土壙墓16基、溝状遺構５条、多数の柱穴を検出した。調査区の北壁中央付近で竪穴住居が、西側で土坑が、北壁にかかって検出されたので、その部分を北側へ拡張した。

縄文時代

Ⅳ層上面で遺構検出を行ったところ、竪穴住居３基、集石遺構１基を検出した。

ＳＡ－56（第201図）



第202図　ＳＡ－58　遺構実測図

調査区の中央部で検出された、不整形を呈する住居である。規模は、長径3.12m、短径2.53mで検出面から床面までの深さは10～25cmを測る。柱穴は４個で、径20～28cm、深さ18～22cmを測る。住居の中央部は約20cm掘りこまれているが、焼土や炭化物などは検出されなかったことから、炉跡ではない。

遺物は少なく、縄文土器片が４点と、石器が磨石と石皿の２点が出土したのみである。

ＳＡ－57（第201図）

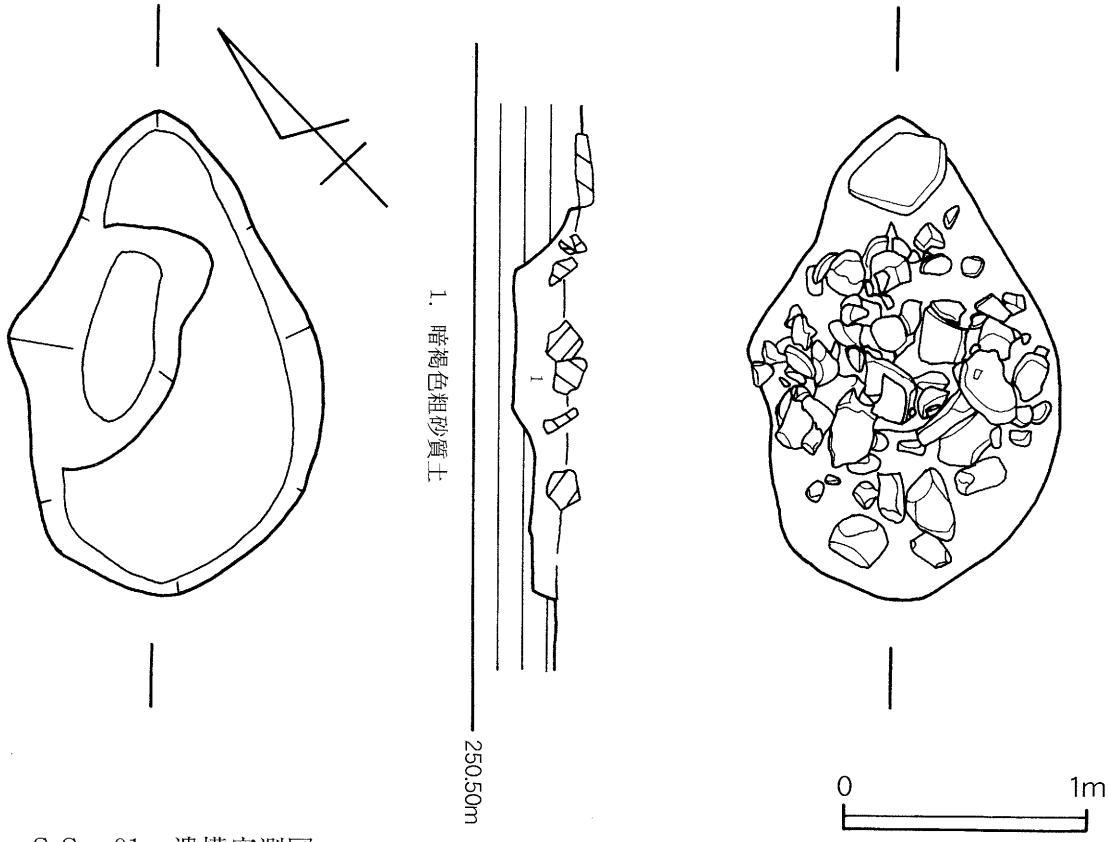
調査区の中央部やや東側で検出された、不整形を呈する住居である。規模は、3.02×3.94mで検出面から床面までの深さは16～22cmを測る。柱穴は２個で、径33～45cm、深さ19～32cmを測る。炉跡は検出されなかった。

遺物は少なく、縄文土器片が５点と、石器が打製石鏃３点と石皿１点が出土したのみである。

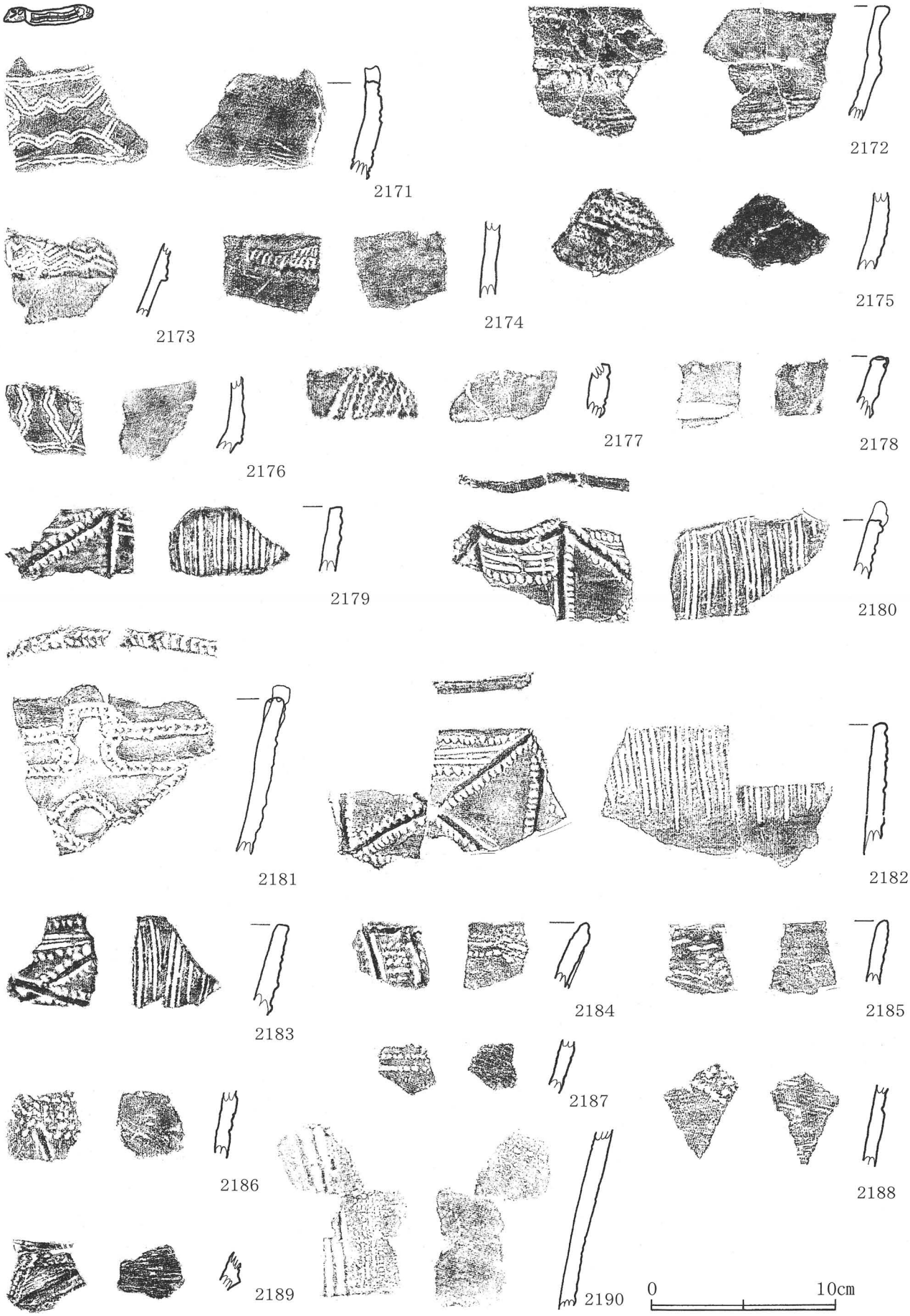
ＳＡ－58（第202図）

調査区の中央部やや西側で検出された、不整形を呈する住居である。規模は、4.10×4.52mで検出面から床面までの深さは９～11cmを測る。柱穴は４個で、径17～22cm、深さ16～22cmを測る。炉跡は検出されなかった。

遺物は少なく、縄文土器片が10点と石器が、打製石鏃４点、磨石１点、台石１点が出土したのみである。

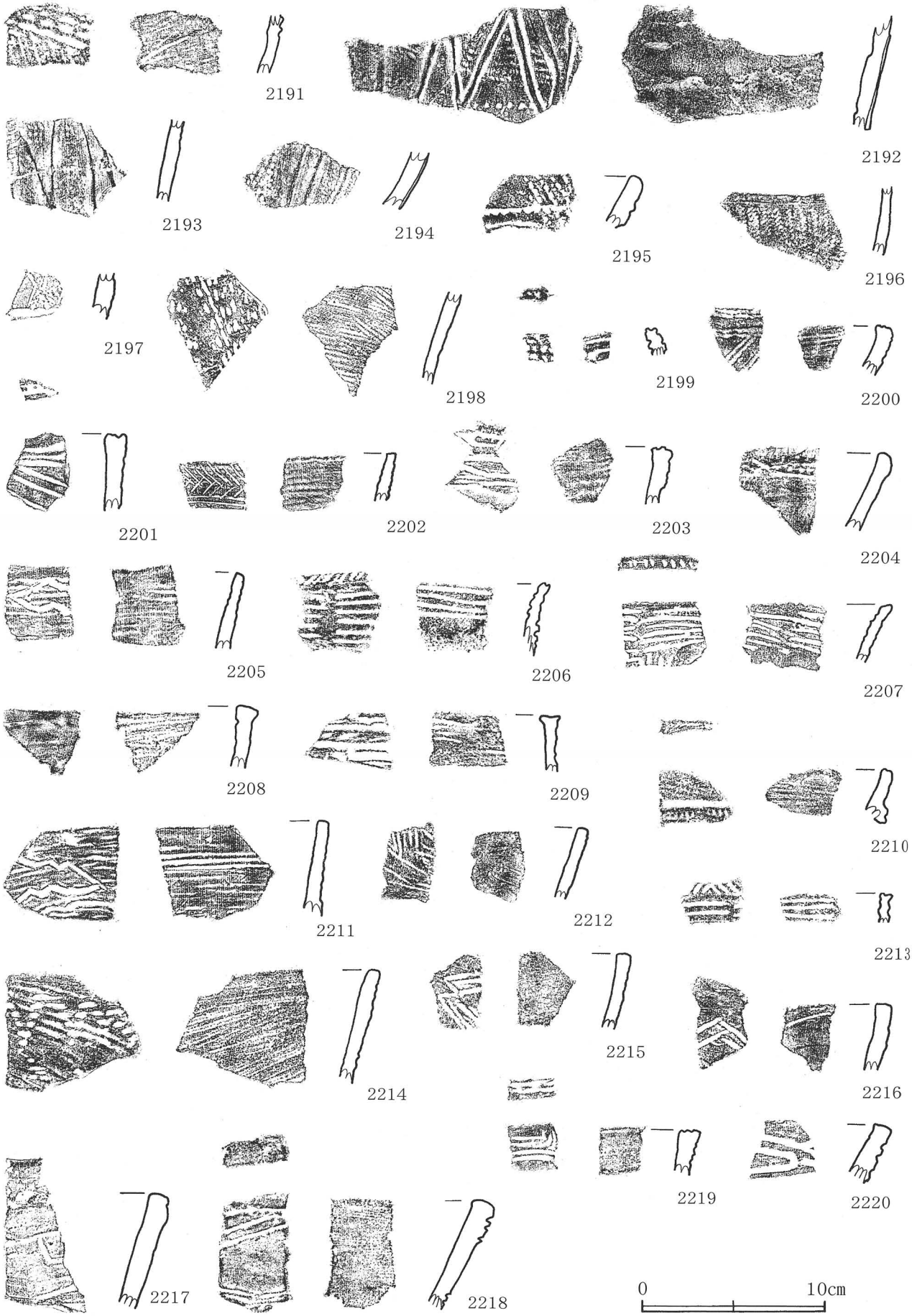


第203図　ＳＳ－01　遺構実測図



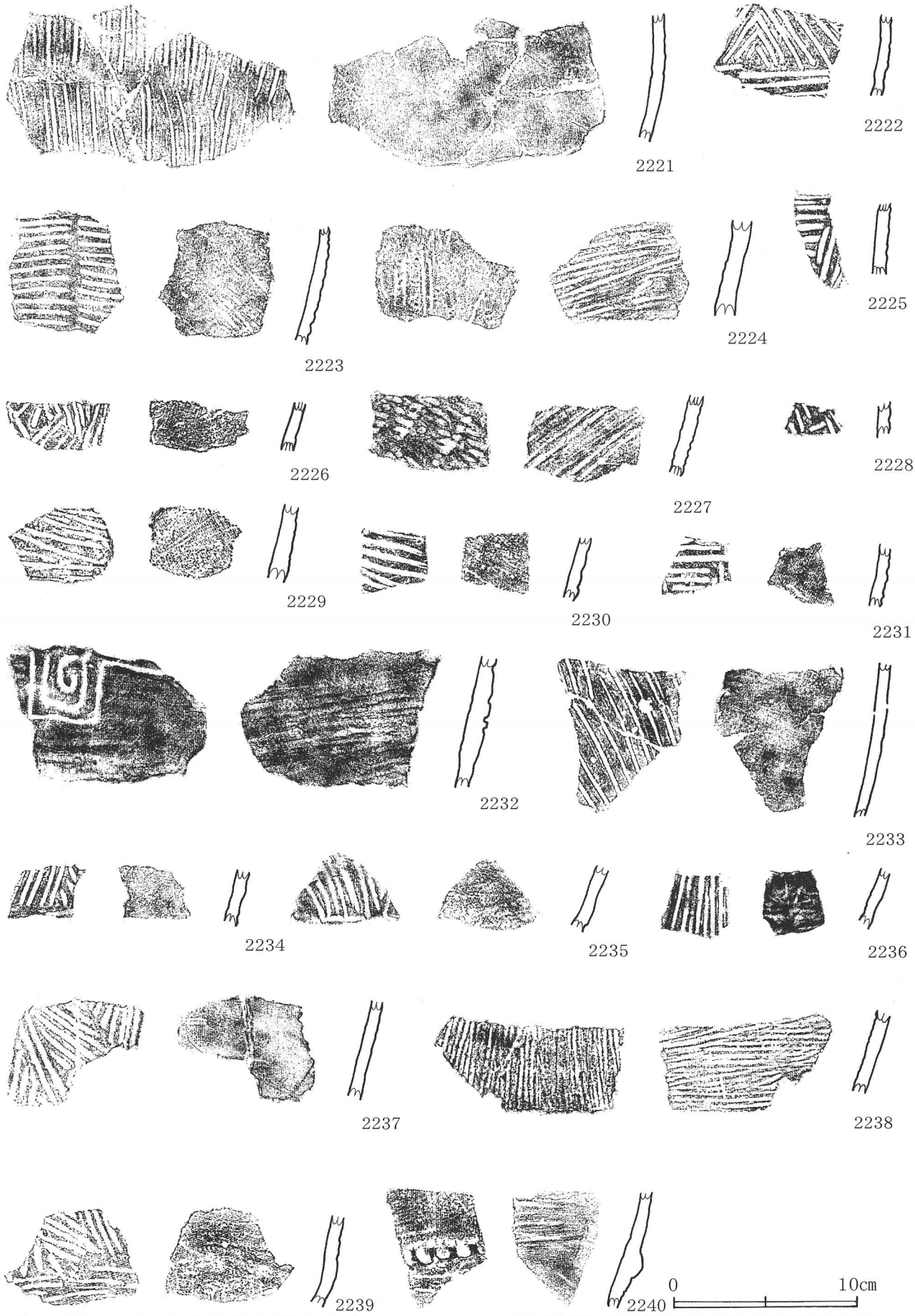
第204図　Ⅵ区　出土遺物実測図（1）

2173:SA-56,2178:SA-39,2182:SA-58



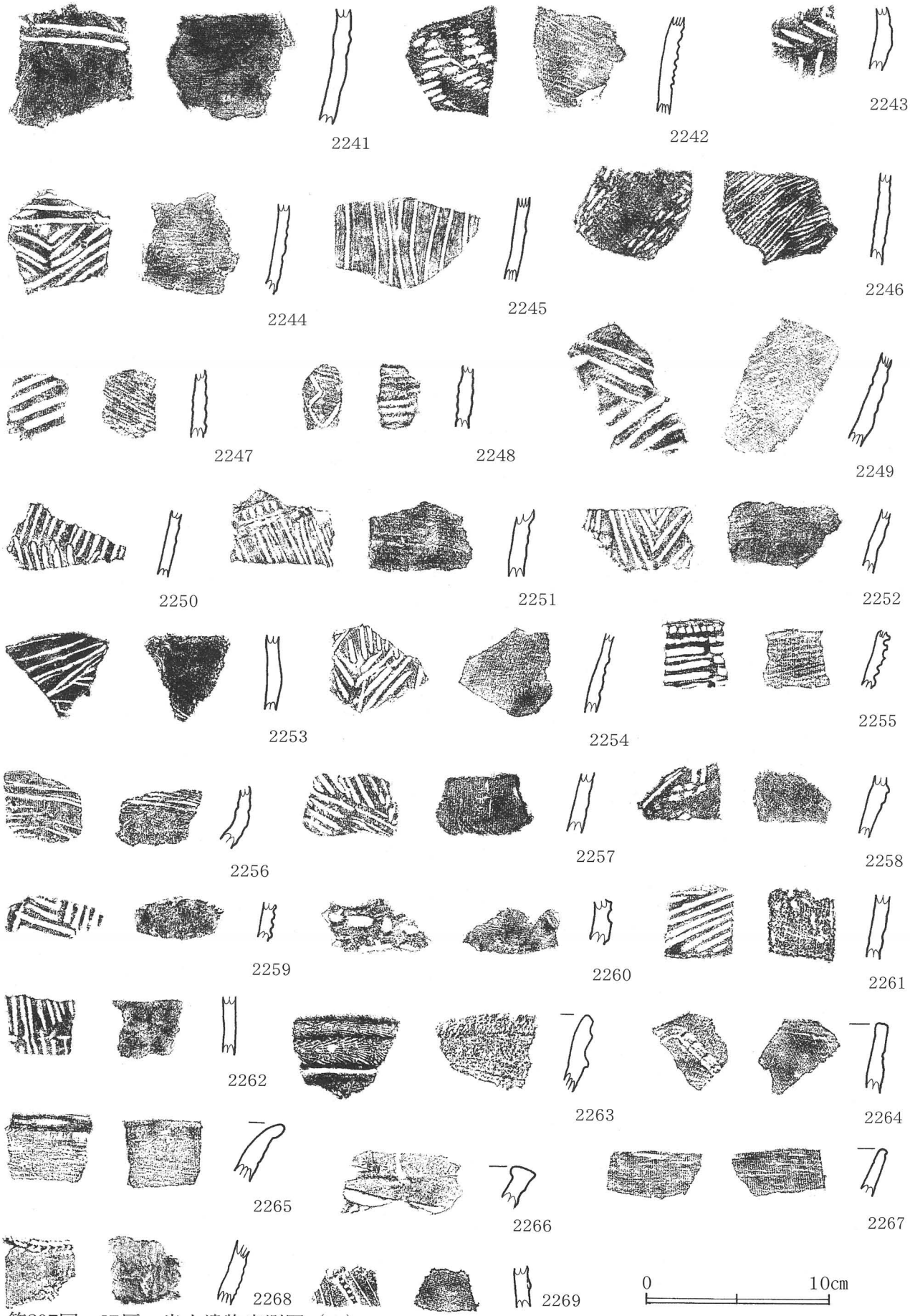
第205図　Ⅵ区　出土遺物実測図（2）

2193:202,**2196**:SA-55,**2203**:SA-58・ベルト内,**2204**:SD-19,**2206・2213**:SA-58,
2214・2217:SA-51,**2215**:SS-02,**2216**:SD-20,**2219**:SK-378



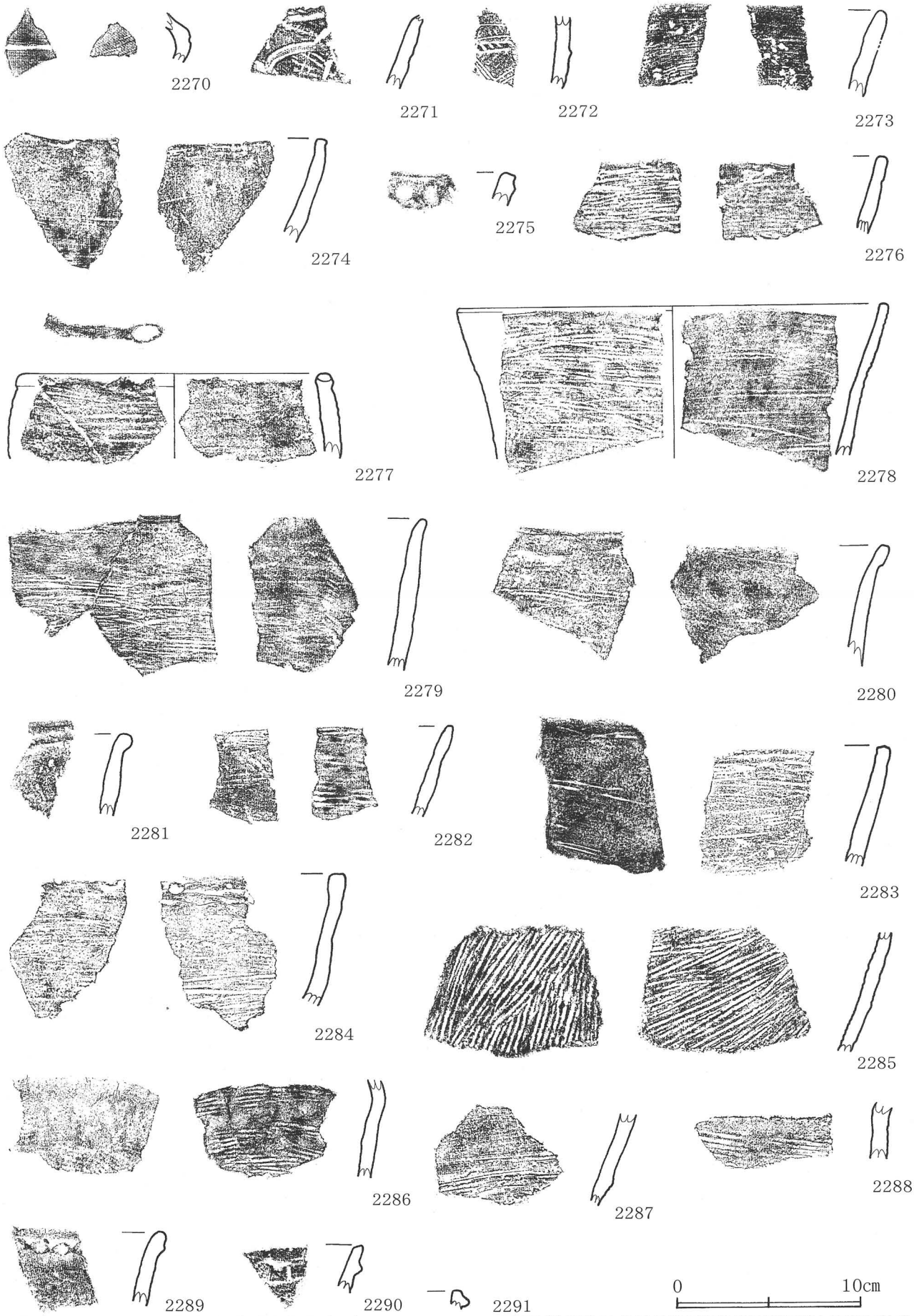
第206図　Ⅵ区　出土遺物実測図（3）

2221：222,**2222～2223**：SK-339,**2224・2229・2236**：SA-39,**2225**：SD-19,
2226：SA-56,**2227**：SK-351,**2228**：SA-49,**2230**：SA-38,**2231**：SA-51・ベルト内,
2234：SA-57



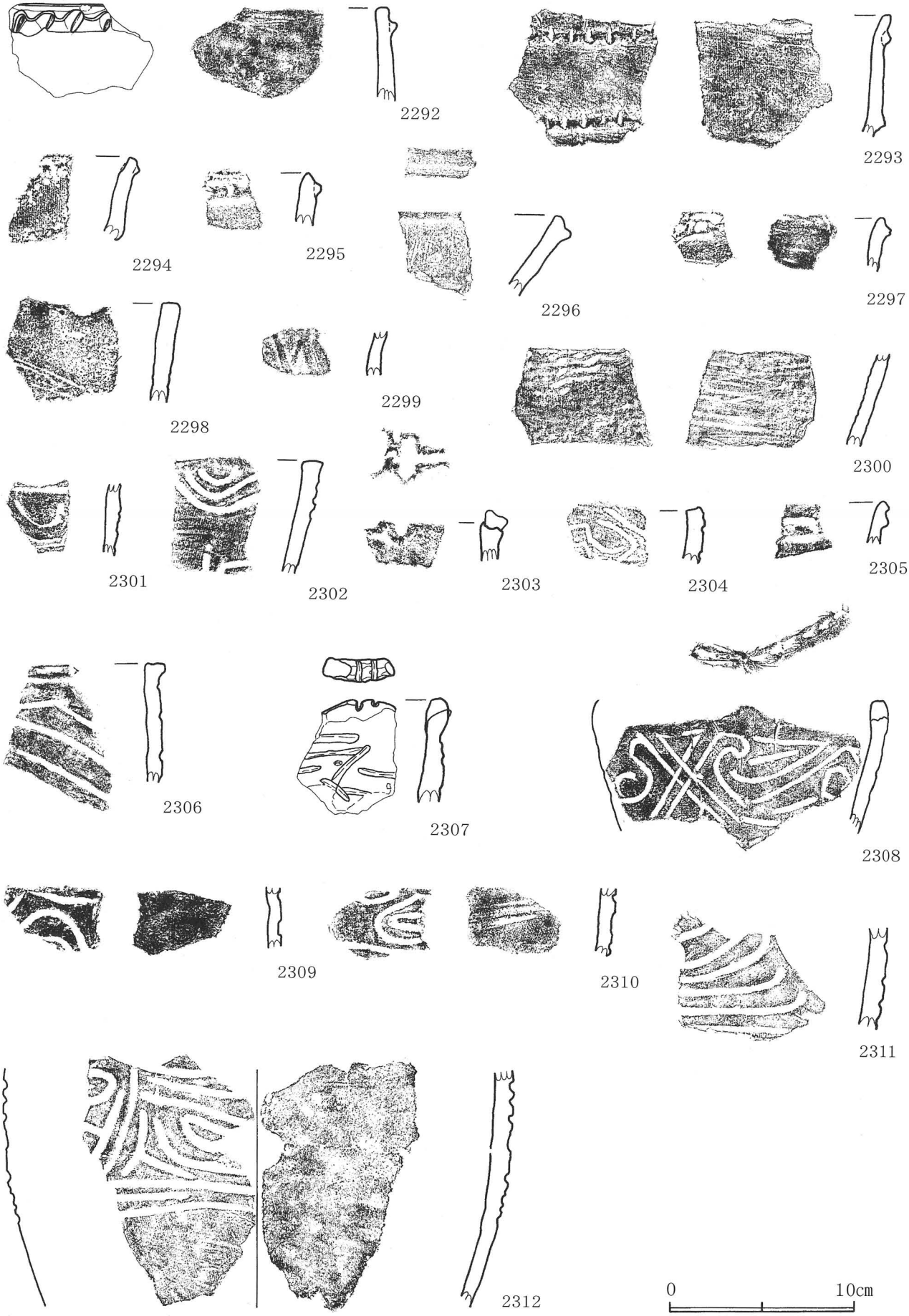
第207図　Ⅵ区　出土遺物実測図（4）

2245：SA-58,2252：167,2253：444,2257：366,2262：SA-49,2269：35



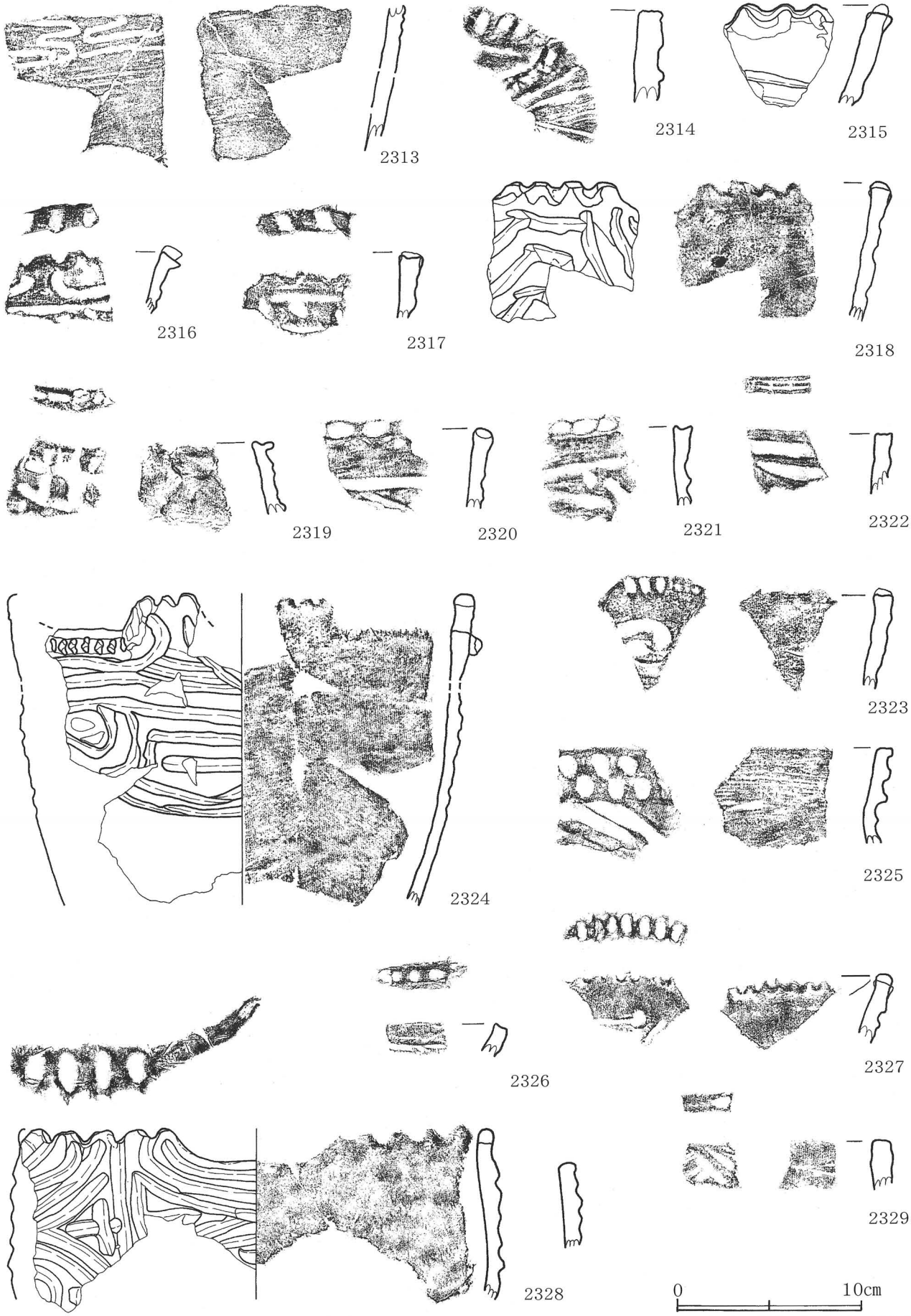
第208図　Ⅵ区　出土遺物実測図（5）

2274：194,**2275**：SA-38,**2277**：SA-58,**2278**：SK-345,**2280**：SA-49,**2281**：SA-39,
2282：SA-49・ベルト内,**2284**：SA-51



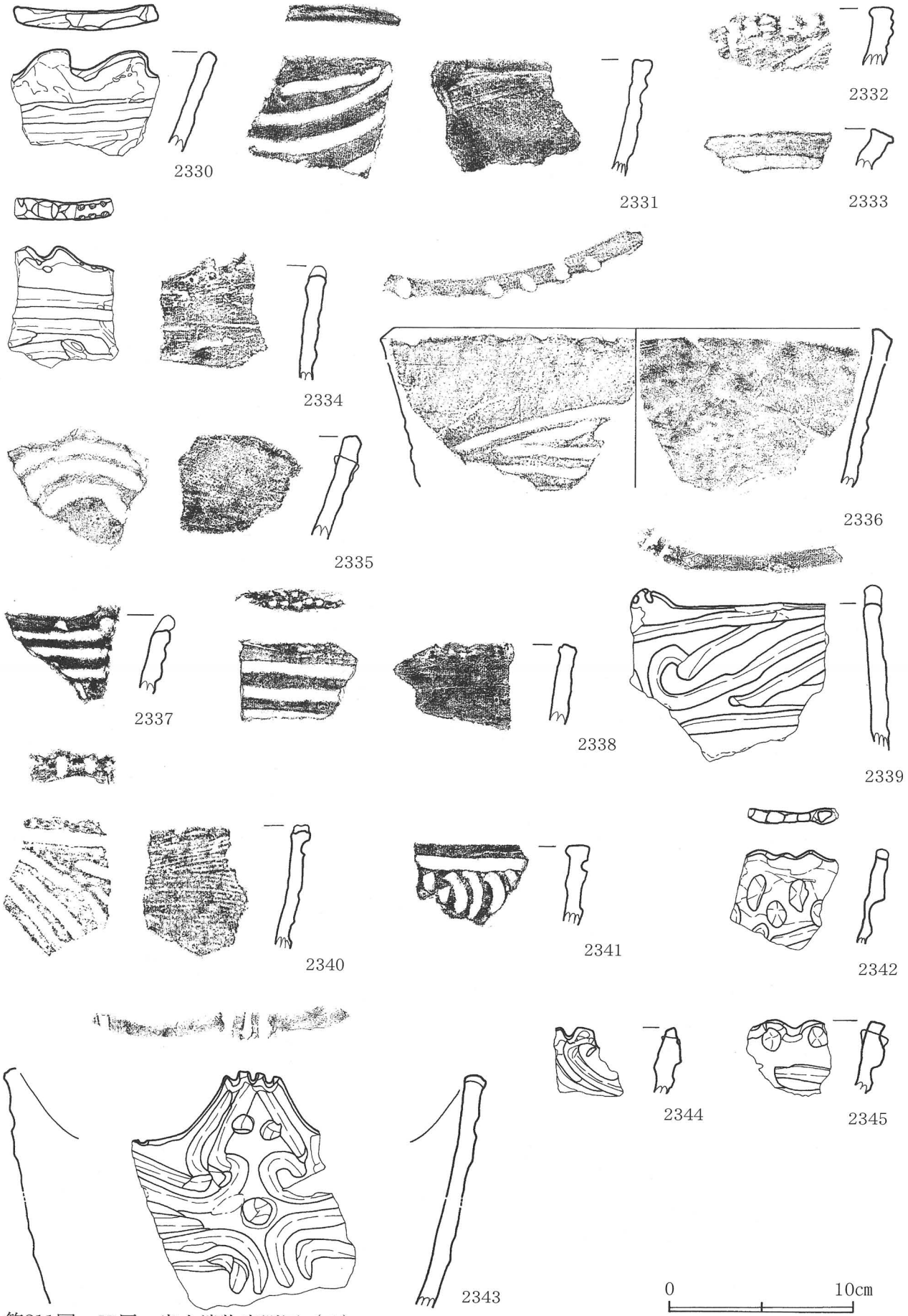
第209図　Ⅵ区　出土遺物実測図（6）

2294：SK-353,2295：SD-16,2297：SA-39,2298：436,2300：66,2308：151



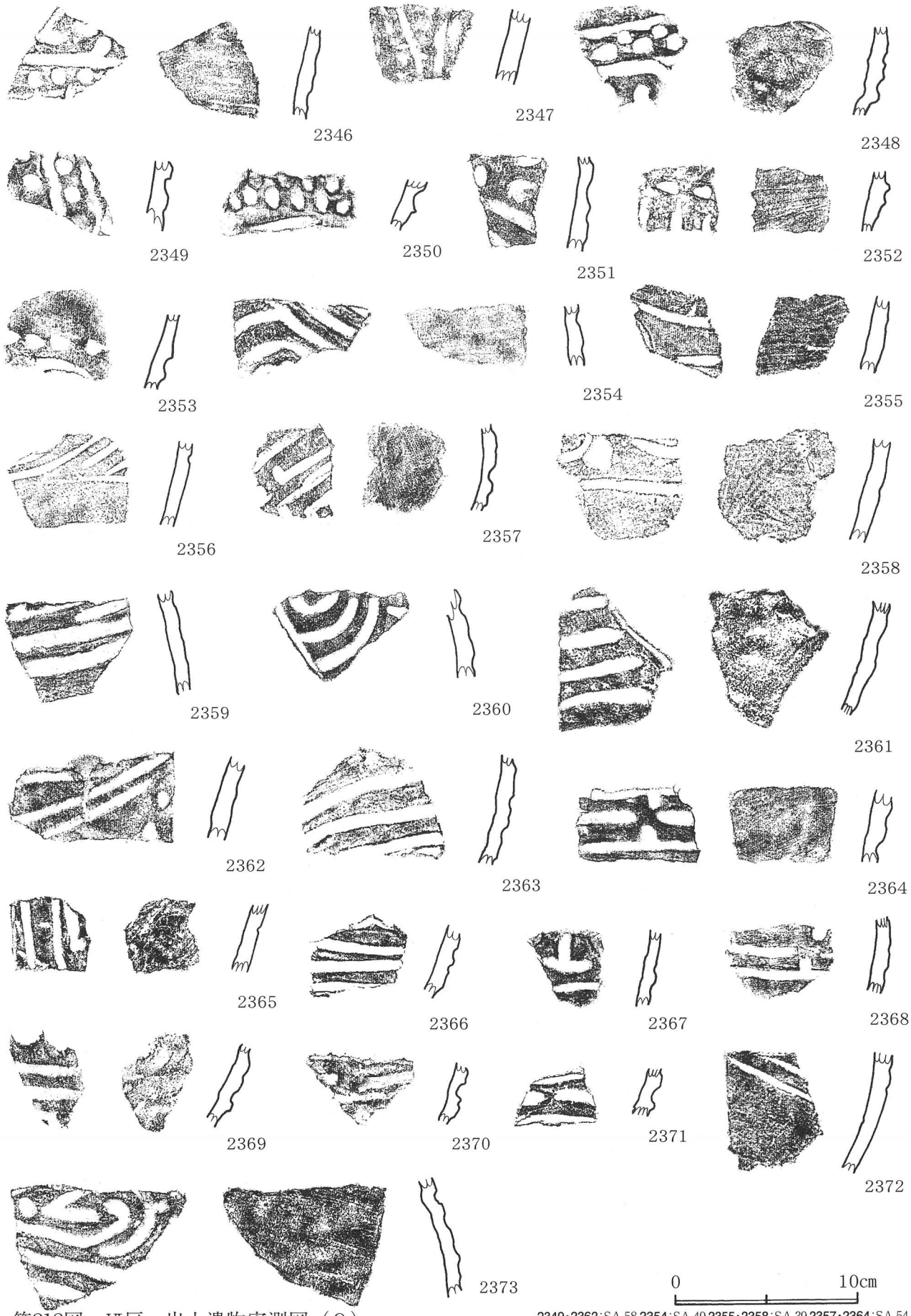
第210図　Ⅵ区　出土遺物実測図（7）

2316:SA-54,**2319**:SA-57,**2322**・**2325**:SA-39,**2323**:SA-51,**2324**:SA-53・ベルト内,
2328:SD-16



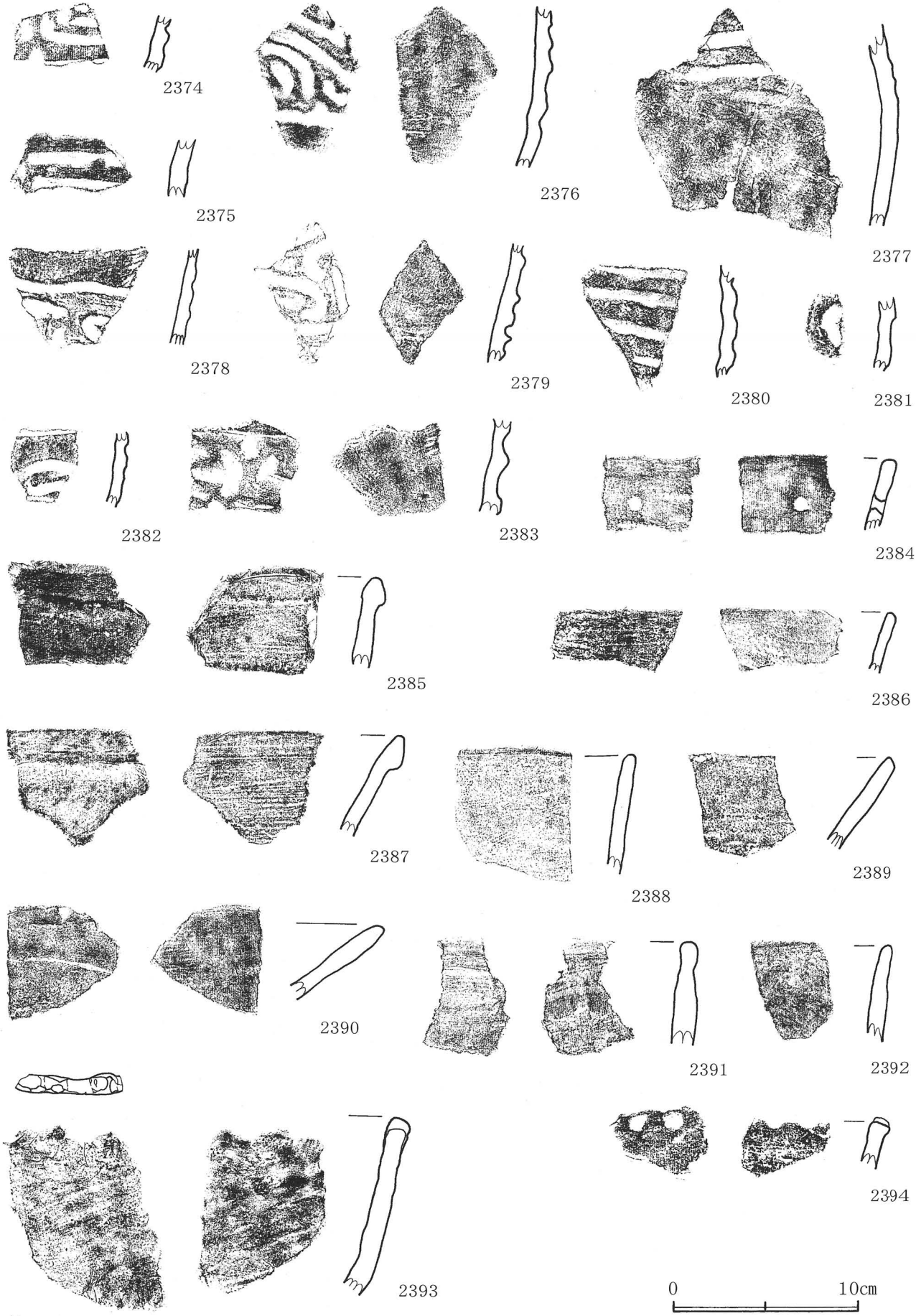
第211図　Ⅵ区　出土遺物実測図（8）

2331：121,2333：Ⅳ層51,2340：SA-51,2341：SA58,2342：SA-39



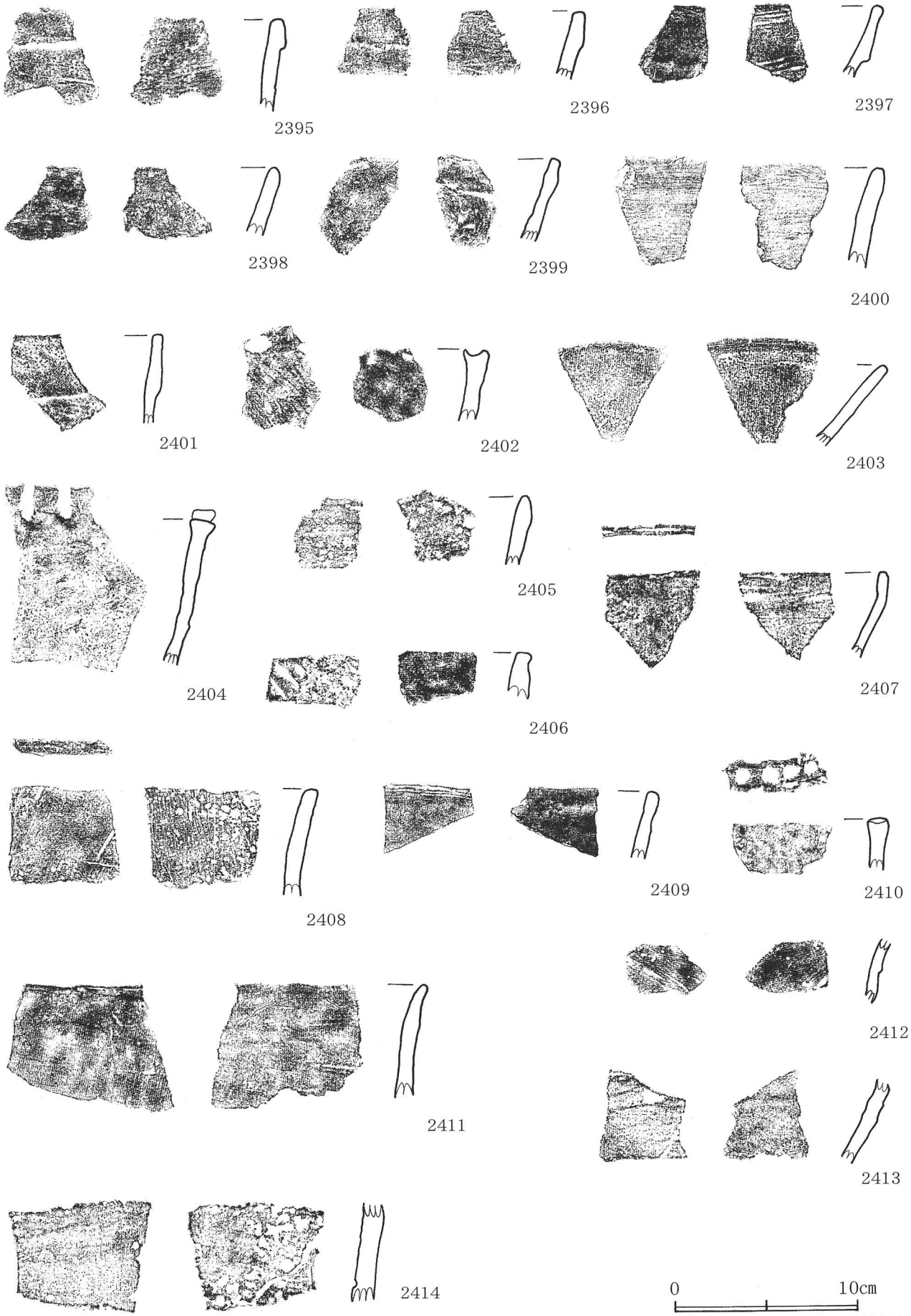
第212図　Ⅵ区　出土遺物実測図（9）

2349・2362：SA-58,**2354**：SA-49,**2355・2358**：SA-39,**2357・2364**：SA-54,
2361：SA-56,**2366**：149,**2367**：SA-51,**2369**：SA-55



第213図　Ⅵ区　出土遺物実測図（10）

2375：SA-53，2376・2378～2379：SA-51，2380：SA-56，2381：SA-39，2383：SA-55，2394：SA-37



第214図　Ⅵ区　出土遺物実測図（11）

2397・2401：SK-379,**2339・2414**：SA-51,**2400**：196,**2403**：SA-39,**2405**：SA-53付近Ⅲ層,
2406：SA-55・ベルト内,**2410**：SA-57,**2411**：SK-342

第215図　Ⅵ区　出土遺物実測図（12）

2418:273,**2419**:141,**2420**:211,**2426**:SA-51,**2430**:445,**2433**:SA-39,
2434:206,**2435**:SK-336,**2436**:SK-353